

深く稀に見る偉材と評すべきであらう。慧眼よく経済界の機微を看破し、行動また敏捷にして疾風の如く、その意志堅固にして頭腦極めて明敏、夙に斯界のナンバーワンと稱されるも、また當然である。

富山市、赤江町

富山特殊鋼株式会社

富山縣重工業界に雄飛する富山特殊鋼株式会社は、昭和拾三年一月二拾五日の創立で、日尙淺いが社長松岡他重役幹部の熱と力とによつて今日の大を來たせるものである。

因に取締役社長松岡松平氏は製鋼界の新人として令名噴々たる人でその他取締役は本縣實業界の重鎮前商工參與官代議士寺島權三氏、富山電鐵副支配人として知られる牧野平五郎氏、村上隆太郎氏、福田健治氏(庶務課長兼任)、長谷川川作氏、野澤達治氏飯田牧作氏等本縣斯界の

錚々たる人物を網羅し不動の社礎をきづいてゐる。

社長 松岡 松平

氏は權七氏の三男として明治三十三年十二月呱呱の聲をあげ、中央大學を卒へて後辯護士となり、昭和三年大東京鐵道株式會社取締役を振り出しに實業界に進出し、現在東亞鑄造所、東亞計器製作所等の重役である。現住所は東京市品川區五反田六一九一で、事務所は麴町區内幸町大阪ビルにある。

静岡、賀茂、安良里村

村會議員 藤井 周平

電話一四番

當家は現主を以て三代を數へ、名望家として聞えてゐる。家業は運送業にして傍ら木炭賣買を行つて盛大なる業況を呈してゐる。

氏は先考彌吉氏の長男にて、明治十八

年四月十日に呱呱の聲をあげた。



稟性剛毅、敏捷、また識見手腕衆に優れた人物で、本

村漁業の發展に盡力すると共に家業たる運送業に淬勵し、衆庶の絶大なる信望をあつめてゐる。

曩に産業組合理事、賀茂郡木炭組合代議員、氏子總代等を勤め、現時は村會議員のほか、養蠶組合長、日本赤十字社正社員等を兼任して産業、自治の發達に多大なる寄與をした。

木炭業に關しては功績顯著なるため、嘗て表彰されたことがある。

家庭には令闈りうさん(五十三歳)との間に四男四女あり、長男善太郎氏は目下家事に従事し、同氏夫人かつさんとの間に令孫三男一女をまうけ、股賑なる日常を送つてゐる。

静岡、賀茂、白濱村

村會議員 藤井 勘吉

當家は村内有數の舊家にして、現主に於て六代の家歴を有し、代々農耕をもつて家業とした。

氏は先代故久藏氏の男として、明治十三年三月六日に呱呱の聲をあげ、のち藤井家の養嗣子となつて、専心を養家の爲に注いだ。

氏は家業に精勵の傍ら、村政に干與して功あり、常に教育の普遍化、農村肥料問題の改革、兒童教育の一元的實行等を主張し、昭和十三年四月村會議員に當選して以來、夙夜寧日なき努力を捧げ、自治政上顯著なる功績をあげて、村民より絶大なる信頼を受けてゐる。

家庭には内助の功高きまつ夫人ありて専ら子女の訓育にあたり、その間に一男一女を恵まれ、頗る圓滿にして、静和な日々を過してゐる。

富山、上新川、福澤村

萬年山 徳林寺



當寺は曹洞宗に屬する名刹にして、太

永七年八月、大淵寺第二世長建大和尚が清水市左右衛門の請願に依つて創建したものである。本寺は、大淵寺にして、七堂伽藍を完備し、殊に本堂、庫裡、觀音堂は當地方切つての壯麗な建築である。

行事は毎年三月十五日の涅槃、七月一日の大祭若、八月十七日の施餓鬼等で當日は近隣の善男善女の參詣者ひきもきらず、非常な賑ひを呈する。

尚ほ、當寺祕藏の觀音は、十一面觀音にして、今を去る千百年の昔、行基菩薩が、一刀三禮の御作と傳へられる。

住職 石黒 奇雲

師は明治三十八年射水郡片口村に生れた。昭和四年十一月

當寺住職になり現在に至つてゐる。博學明識の高僧として地方民の尊崇の念極めて厚い。

富山、上新川、大田村

村會議員 稲田 政太郎



創家以來連綿二百年餘當村唯一の舊家を誇り、代々農を以つて家業としてゐる。

當主は村議或は農會委員として村治に功績ありし先代由之助氏の長子として明治拾八年呱呱の聲を擧げ、嚴父の志を嗣ぎ青年時代より村自治に産業の振興に、大なる貢獻をなしてゐる。嘗ては陪審委員をつと

め、今また村會議員、農會總代、用水委員、衛生委員、信用組合評定委員等として村公共事業に盡瘁し、傍ら米穀調整者委員、オスメット肥料試験委員等に推され、才腕を見せてゐる。

長男良夫君(農學校十三年卒)は新庄町役場技術員として勤務し、二男三女の子福者として頗る圓滿なる家庭を持つてゐる。

静岡、田方、伊東町

伊東温泉 吉住旅館

電話五七番

當吉住旅館は昭和十四年八月三十一日の開店にかかり、本町の中心地から稍々海寄りの地にありて、松川の流れに沿ひ遠く初島に向つて碧海に臨んでゐる。明朗清澄と云はうか或は閑寂幽雅と云はうか、兎にかく俗塵を逃れて安謐なる氣持を樂しむに最も適した旅館である。客室は大小十二室あり、部屋はいづれ

も一戸建の氣分を満喫せしむべく、隣室とは隔絶して、清楚な調度類を配してある。浴槽も頗る美麗で、最大のもは三十五名位を收容し得る。

經營者

岡田喜代子

女史は東京市出身にして、昭和十四年現在の地に來りて當館を經營、未だ開店以來幾何も経てゐないが、堅實なる經營方針によつて江湖の賞讃を博してゐる。

静岡、志太、島田町

社 大井神社

島田驛より約三町、川根街道と東海道の分れる處靜養たる森中に鎮座する大井神社は、御祭神を彌部波能賣神、波瀆夜須比賣神、天照皇大神を祭祀して四時の順應水度の安寧を祈願したものである。創祀は建治二年八月島田町下島の地へ鎮座し、元禄二年現地へ御遷宮あらせられた。

神階は、嘉永七年正一位の勅宣を賜はり、社格は明治八年郷社に列し、四十一年縣社に昇格した。

毎年、十月に行ふ祭典は盛大股賑を極め東海の名物として廣く各地にその名を知られてゐる。

氏は島田全町となし、戸數四千八百戸にして古來より劇然たる區劃と地域を有し、他の村落の配合なく、全町三十餘區に分劃してゐる。氏は敬神愛護の念深く、境内の擴張整備に社殿工作物の建造に多大の留意を寄せてゐる。

社 司

片川 近三

氏は明治三十年四月三日の出生にして本社々司として奉職し、その徳望、手腕ともに卓越し、衆人の讃仰の的となつてゐる。

富山、高岡市木町

市會副議長 中條 一

當家は父祖の代より護謨會社を營み、

静岡、賀茂、田子村

齒科醫師 山本 熊吉

電話三六番

當山本齒科醫院は大正十年の開業にか



かり、爾來二十年本村齒科衛生の向上進展を圖つて、

患者の治療に當り、絶大なる信望を博して今日に至つてゐる。

院長山本熊吉氏は明治三十二年五月十八日の岳降にして、家は累代漁業を營んでゐた。

氏は夙に秀才の名高く日本齒科醫大に進み、孜孜として斯學の研鑽を積み、在校中弱冠にして齒科醫師檢定試験にパスした。

その後現在の地に開業して、銳意努力

すると共に、校醫として、田子尋高小學校及び仁科尋高小學校の兒童口腔衛生思想の發達に盡し、齒刷牙の強制使用を行はしめてその實をあげてゐる。

なほ氏は曩に青年團長の要職に推されて村青年の指導誘掖に盡瘁し、「感謝の生活」を説いて日常を意義あらしむべく努め郡下の模範團長として表彰をうけたことがある。

趣味は弓道、俳句等で、造詣が深い。

静岡、賀茂、下田町

町會議員 長谷川 三作

電話三七番

氏は小松三右衛門氏の三男にて、明治十七年二月十七日、田方郡葦山村中條に誕生し、同四十年長谷川家に迎へられて養嗣子となつた。

氏は葦山高等小學校を卒業後、家業に精勵し、日露戰役に従軍して、輝しき武功をたて、凱旋し、勳八等に叙された。

北原産業組合

組合長 小 關 清 治

高知縣高岡郡越知町

氏もまた明治大學商科を卒業後、家業に従事してゐたが、雄心止み難く更に新事業とし昨年より當市木材商テサカ研磨製砥株式會社を創立し、孜孜としてその發展に努め、數月を出でずして鞏固なる基礎を築きあげ、良好なる成績を収めてゐる。

當市買業界に於ける第一人者で、その卓越せる識見と才腕をもつて知られ、市會議員に推されること二期、現在副議長として市會にその重きをなしてゐる。

氏が常に抱ける抱負主張は當市の近村合併を速に實現し富山灣にのぞむ商業開港市として大陸に對しその發展を計らんとするにあり、氏は今後ともその主張を實行に移し以て當市の將來の發展に盡さんとしてゐる。

夙に自治公共に干與して功勞があり、曩



に消防組部長、區長、藝妓組合長等に就任して、専心

盡瘁して信望を得た。

現在は町會議員の任にあり、就中本町發展策として、温泉引湯問題に關して盡瘁し、その功績顯著なるものがある。

氏は常に讀書を好み、温良にして寛大なる性格は、周囲の好評を博し、町民より慈父の如く敬慕せられてゐる。

令室シツ夫人との間には、五男三女を有し、長男金吾氏はトミ若夫人を迎へ、令孫俊一君がある。

金吾氏は昭和十二年九月日支事變に従軍して赫々たる武勳を樹て、同十四年十一月目出度く歸還した。

父子二代に互り國家の干城として精魂を盡した萬代不滅名譽の家である。

富山、上新川、大山村

金城山 寶壽院

町會議員 大川 義一



承久二年建立されたもので、その後幾多の盛衰を経て今日に及び昭和六年二萬圓を以て改築

されたものである。本堂は勿論附屬建物に至るまで壯麗をきはめ、由緒ある名刹として近縣に知られてゐる。

現住職二十八世堀秀邦氏は明治八年の生れで、高野山大學林を卒業し、神寶寺の住職を勤め、昭和元年當寺の住職となつた。

博識明德の高僧にして、先には推されて、眞言宗富山宗務支所長の任にあり、現在は教化聯盟評議員である。

静岡、田方、伊豆長岡町

町會議員 大川 義一

當家は部落有數の舊家にして、現主を以て五代を數へ、累代農耕を生業としてゐる。

氏は先考徳次郎氏の長男、明治二十七年三月二十日に呱呱の聲をあげた。先考は部落民の融和を圖つて、福利増進に盡し、衆望頗る高きものがあつた。當主も亦その志を繼いで公共精神に厚く、重厚眞摯にして、恭儉仁慈に富む人と爲りを有してゐる。

夙に家業に精勵して家運の隆昌に努力する傍ら、消防副組頭、青年學校指導員等を兼ねて、種々盡瘁するところがあつた。その後衆望を擔ひ町會議員に選ばれ町政の圓滑なる運命を圖つてこれが伸張に獻身的勞を致すと共に、區長代理、郡農會長等の要職にも就いて才腕を揮つてゐる。

家庭には母堂ウタ刀自、令闈トクさんとの間に、四男三女があり、長男一雄君(十九歳)は中賢農民學校を卒業後、尊父を扶けて家事に従事してゐる。

静岡、濱松市龍禪寺町

公認 伊藤式 日本銃器製作所

電話一五五一番

本製作所は昭和十三年二月に創立認可せられ、軍用銃、非軍用銃、伊藤式五連發銃等の製造販賣をなし、品質の優秀なることは既に全国的に定評がある。

その販路もなかなか廣汎に互り、軍隊は勿論、國內の専門學校中等學校、青年學校等のほか、滿洲國移民青年學校、滿洲國青少年義勇隊、朝鮮各學校等に供給販賣してゐるのである。

かく業況旺んな當製作所を經營して、才腕を揮つてゐる人物は、伊藤良作氏にして、明治三十二年十一月三日の岳降である。稟性剛毅果斷、しかも頭腦明晰な

富山、下新川、下立村

五雲山 金龍寺

静岡、濱松市常磐町

中村氷糖株式會社

電話四二五・五九二番



當寺は曹洞宗に屬する名刹にして、松

室天壽に依つて開山、大譽見界深く之に歸依し開基となつた。山門には七堂伽藍を整備し、本堂、庫裡、山門、鐘樓、開山堂、經堂等有る。境内は二千八百坪の廣大な區域を占め、檀家二百七十餘戸を數へる。

師は明治三十八年

住職 館天山

出生。昭和四年駒澤大學を卒へ、同六年當寺住職となり、管内布教師を兼ねる。

青年團にも關係し、村内青年の指導に當り、高德明識の人材として近隣にその名を轟はれてゐる。

當社は大正十三年六月の創立にかかり氷砂糖の製造をその事業となしてゐる。創業以來十七年、未だ歴史は新しいが逐年進展を重ねて、今や資本金五十萬圓を擁し、その年産額も巨大な數字を示してゐる。

主要販路は内地一圓のほか、支那、滿洲等にまで及んでゐる。現任役員としては、取締役社長中村藤吉、常務取締役松島保平、取締役佐藤伊勢松、米谷甚三郎、監査役井上正太郎、中富久吉、松島吉平等の諸氏があり戮力協心、以て非常時局下の國策に副つて社運の伸張に盡瘁してゐる。

重なる株主は、中村藤吉、藤山愛一郎（大日本製糖社長）、中村信、中村社團、松島保平、井上正太郎、佐藤伊勢松、米谷甚三郎、中村良一、中村久吉、竹内しげ、河合政太郎、中村氷糖従業員向上會松島吉平、佐藤好文、松島まさ、夏目節治等の諸氏である。

富山、中新川、南加積村

眼目山 立山寺

本山は建徳元年大徹宗令禪師の創建にかゝり、五百五十餘年の歴史を有する古刹である。曹洞宗に屬し、境内一萬坪の廣きに及び、宏大森嚴なる本堂と庫裡を持つ、寺寶として釋迦牟尼佛像を秘藏し檀家三百餘、近隣の善男善女の参拜が絶えなす。

住 職
大法 桃岳

師は明治十五年の生誕である。高潔・温厚にして仁慈に富める資性は、夙に近隣より人望

を集めて居たが、當寺住職に就任するや、ます／＼その眞價を發揮し、衆庶の師を見ること慈父の如きものがある。



又富山の伽藍諸堂に大修善を加へ且つ禪堂を新築し廓廊を改

造して伽藍守護の遺業を完ふすべく目下奔走中であるが、この涙ぐましく努力は、各方面より絶大なる援助を得、既に本堂は最近宏壯なる新築を見た。

石川、珠洲、寶立村

郷社 加志波良比古神社

當社は加志波良比古命、伊加志穗古命を祭神として明治五年郷社に昇格した由緒ある神社である。

當地方の傳説として毎年四月二十三日の

例祭に降雨を見れば不作、快晴なれば豊作と云はれてゐる。現社司は橋重穂氏にして氏子の信望厚く、敬神尊皇の思想を普及すべく努力してゐる。

社 司
橋 重穂

當家の開祖は藤原保重にして代々神職を勤めたる家柄にて藩政時代に當家を寺小屋に用ひ、地方民



の薫育に貢獻した由緒ある家柄である。

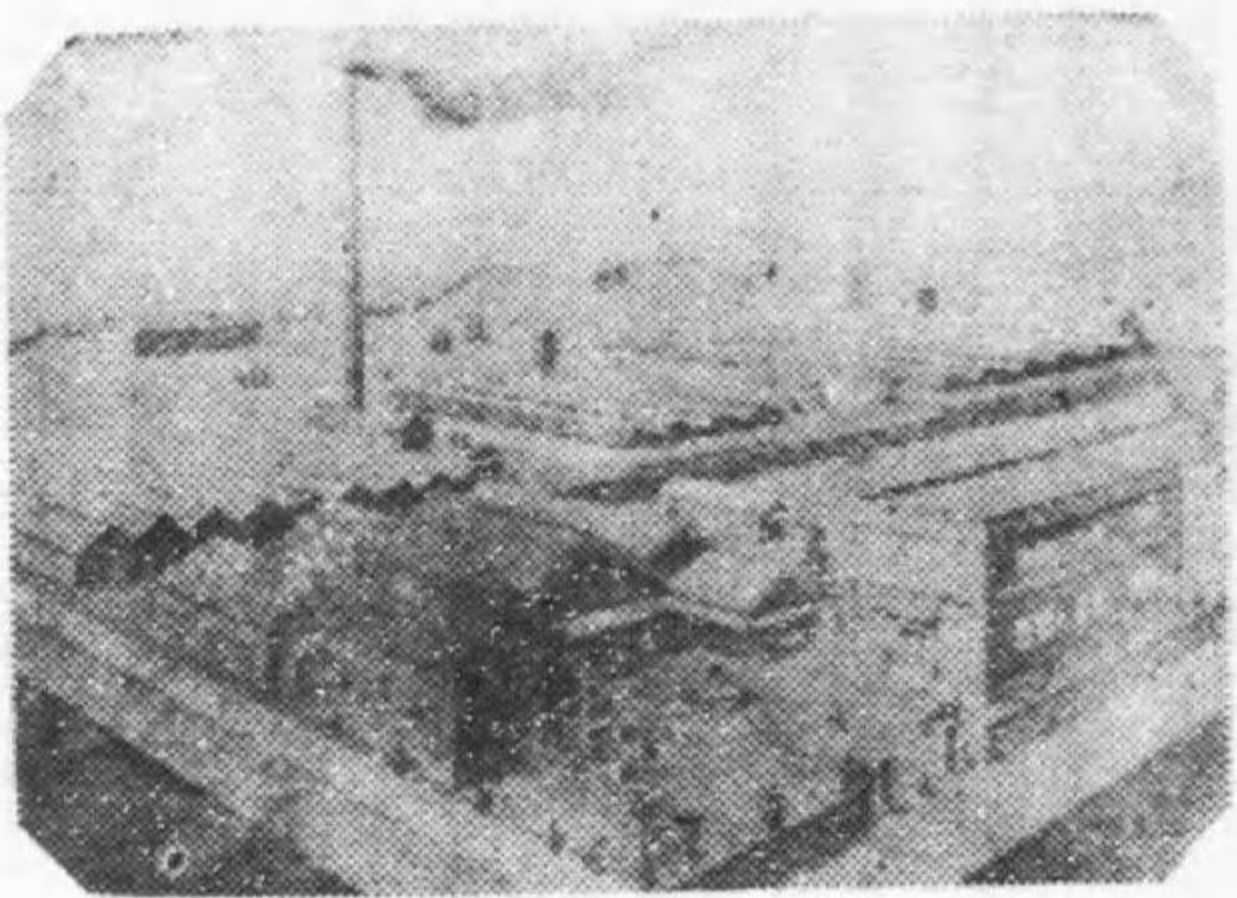
氏は亡重賀氏の三男神職講習に學び、明治四十一年に神職に任命、昭和十二年郷社に昇格と共に社司として當社の隆昌を圖り小木町高倉神社社掌を兼務して居る。永らく郡神職會理事、縣神職會代議員として貢獻するところ多し。家族は夫人フサノさん及び二男五女あり。

り、露々たる家風をなしてゐる。

静岡、濱松市中澤町

東陽興業株式會社

電話六二三・一六六三番



當會社は大正八年六月の創立にかかり漂白整理などを行ふを以て業務としてゐる。

資本 金二〇萬圓を擁し、綿織の出、人組スフ等の浸染

近年の時局に對處して、役員一同益々戮力協心して、圓滑なる業務の遂行を期し、好成績を収めつつある。

創設時代の功勞者に寺田松三郎氏、松山員一氏等あり、寺田氏は現に社長の椅子を占め、松山氏は専務取締役として盡瘁してゐる。他に常務取締役墨貞一、取締役加藤伊久藏、磯部明の諸氏が現任し主なる株主として、墨清太郎、寺田松三郎、墨貞一、墨眞一、瀧てう、松山員一加藤伊久藏、明石爲次、寺田さと、寺田久一、墨金次郎等の諸氏があげられる。

専務取締役

松山 貞一

氏は明治二十年十二月二十六日の出生にして、濱松商業學校出身事業家的の手腕に秀で、本社専務取締役の他に日本ゴム製造株式會社監査役、遠州輸出織物工業組合承久社監事、遠州毛織組合監事等を兼任して縦横に活躍してゐる。

氏はまた愛郷心に富み、資性誠實にて人々の信望が厚い。

富山、東礪波、出町

實相山 眞如院

當山は創立以來連綿として三百有餘年の歴史を有してゐる。釋加如來を御本尊とし在田春龍大和尚の開山にかゝる曹洞宗の名刹である。

高岡市瑞龍寺を本寺とし永安軒足從院海藏寺の末寺を有してゐる。毎年二月十五日には涅槃會、八月十七日には觀音祭を執行し、その當日には近郷近在善男善女の参詣者で大いに賑ふ。

住 職

柴田 令雄



氏は明治二年の誕生にして明治廿六年本山第六代の法燈を受け繼ぎ以來、研學修行に努めると共に又社會公共の

ため盡瘁するところ多く、現在宗會議員たる外出町幼稚園長、東礪波郡各宗佛教會理事、出町司法保護委員等の公名譽職にある。

静岡、賀茂、城東村

村會議員 野澤 安太郎
警防團長



當家は累代漁業を營んで来たが、現在は建築を主業としてゐる。

五日先考繁松氏の長男として誕生。城東小學校を卒業、兵役は、明治四十一年歩兵三十四聯隊に入營し、歩兵上等兵となる。

氏は建築業の傍ら良く村内の自治に貢獻し、當村の發展に盡力してゐる。殊に警防方面の功績は大きく、以前消防組頭

氏は明治二十一年五月十日

として重きをなし現在は警防團長の要職にある。村會議員としては永年重任し、他に國勢調査委員、金保有調査委員等である。

氏は愛郷心に富み、資性誠實にて人々の信望厚く、北川區長としても貢獻してゐる。

信仰は曹洞宗で、家庭には母堂レン刀自益々健在にて、令室キトさんとの間には二男一女あり、長男研一氏は現在父君と共に建築業に精勵してゐる。

静岡、富士、富士根村

警防團長 瀧口 由作
村會議員

電話大宮四五三番

當家は村内屈指の舊家で、先代金作氏より製材業を始め、現主由作氏に至つて大をなし、従業員百名に及び縣下有數の工場にて益々盛業の一路を進んでゐる。

なほ同家は古くより地方自治の功勞者を輩出し、氏は富士郡須津村々長瀧口善

作氏と従弟である。

氏は製材業のほか、バルブ製造業にも關係し、その業界に於ける地位は確乎とし、氏は又夙より村治に干與し、村民に推されて、村會議員、警防團長にあげられ、村政の刷新向上に貢獻してゐる。

また農繁期には出征遺家族の手傳ひをなし、銃後後援の實をあげてゐる。

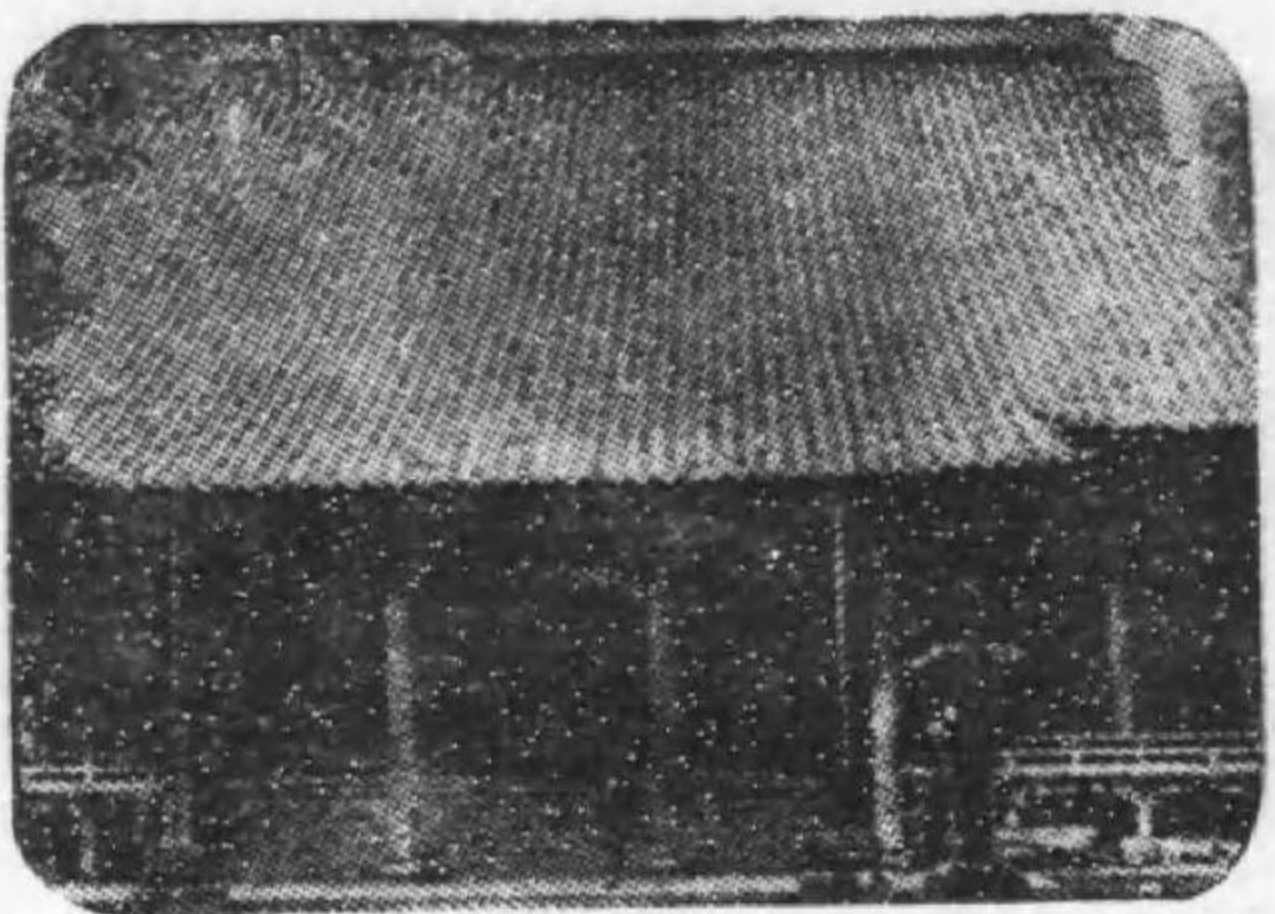
家庭には夫人との間に一男一女あり、長男好幸氏は富士中學校を卒へ、目下嚴父を助けて家業に専心してゐる。

富山、婦負、八尾町

桐野山 聞名寺

當寺は眞宗に屬する名刹にして、天文元年覺如上人の弟子覺澄の開山に依つて建立された。今を去る四百年前のことである。當時は恰度戰國の世で天下麻の如く亂れ人民は塗炭の苦を嘗てゐたため教法忽ち擴まり、善男善女の教へを乞ひて集る者多く、當寺はその濟度をなしたの

である。本堂は明和二年再建され、明治三年の合



本堂
寺の合三年
際破
壞さ
れん
とし
のた
を信
徒が
富山
藩よ
り買

ひ取つて保存したのである。寺寶として聖德太子像を秘藏し、毎年八月五日より九日迄盛大な百祭禮を執り行ふ、檀家は六百五十餘戸有してゐる。

住職

霧野 覺准

氏は明治四十年出生龍谷大字出身の英才である。昭和五年當寺住職となり、その高德明識を語はれ

てゐる。

静岡、小笠、大坂村

金剛山 貞永寺

當寺は釋迦如來を本尊として安置する古刹にして臨濟宗、妙心寺派に屬してゐる。



小笠
抑々、貞永元年
藤原鎌足
公二
十六
世の
的孫
田原
豊前

守貞廣の次男が入道して當地に巡錫した際堂宇伽藍を建立したのに創まり、一時

法運盛んであつたが、その後荒廢し、大永四年四月大本山妙心寺開山興相大師の法孫默宗大和尚によつて再興されたため、師を稱して中興の開山と稱してゐる。

寛永十九年徳川三代將軍家光公より御朱印二十石、山林十餘町歩を賜はつた由緒を有し、寶物としては開山徽號勅書、唐淵明の軸等が保存されてゐる。

住職

小澤 眞淨

師は愛知縣の産にして、明治九年一月の出生である。

佛法を極めること深く、安心立命の境地にあつて衆生濟度に盡瘁してゐる。

明治二十四年當山二十六世住職となつた。曩に宗會議員二期、宗務所長一期半を勤め、現時方面委員、司法保護委員等を兼任し社會公共のことにも寄與貢獻してゐる。

富山、上新川、上瀧町

瀧脇山 大川寺

當寺は、もと眞言宗に屬してゐたが、應永二年(五百五十年昔)、二十五世住職觀海阿闍梨に至り曹洞宗に改宗し觀海の名を月江と改めた。故に月江和尚を以て開基とし、永く法燈榮へ現在に至つてゐる。

二十六世翁淳和尚の代火災に罹り、堂塔伽藍悉く烏有に歸せしも、後復興して現在に至つた。尙布峯の純金製の藥師如来像は當寺に遷座奉安されてゐる。本寺は定山寺にして、末寺として正光寺、西光寺、瑞光寺等を持つ。檀家は二百五十戸に及ぶ。

住職 水上玄定



師は明治二十年生れ名古屋の圓通寺に於て修業し、青龍寺前名寺の住職を歴任し、大正十二年當寺住職となつた

仁慈高德の名僧として近隣に聞え、又教區長、免囚保護事業協會理事として社會事業にも盡瘁し十一名の弟子を修業せしめてゐる。

静岡、志太、東益津村

東益津村役場

當村は那の東南部に位し、農耕に適してゐる。焼津町へは十丁にしてバスのある。中里、石脇下、岡當目、濱當目、高崎吉津、花澤、小濱、野秋、關方、策午、方ノ上、阪本等の十三部落より成つてゐる。

村内には寺院多く、また、名勝として大崩は東海道用宗驛に下車し、安部長田村石部より至る約十町間を云ひ、その絶景を謳はれてゐる。

現村長は鹽澤支助氏にして、助役は塚田廣治氏であり、氏は温厚にして誠實、村政に貢献する所が多い。

村長 鹽澤 與助

氏は昭和八年助役に就任、一期間盡瘁し、昭和十二年二月村長の重責を擔ひ、村會議員、産業組合長、村農會長等を兼任して、村政發展に多大の功績をあげ、豊富なる識見と力量は村民の敬仰の的となり、令名噴々たるものがある。

静岡、賀茂、白濱村

醫師 松本 重治



當松本醫院は大正十一年の開業にかかり、爾來二十年近く地方民の保健衛生の向上を計つて來つたもので、内科、外科その他一般診療をなし、太陽燈、赤外線等の設備もある。

電話 五番

り、また入院施設も完備してゐる。

院長松本重治氏は明治二十五年七月十七日の誕生にして、大正七年東京帝大醫學部を卒業した俊才である。その後東京市青山の日赤病院外科醫として勤務し、幾多の研究を積み、更に長野縣諏訪郡平野村、平野製糸會社の經營にかかる病院に招聘されて同院副院長として二ヶ年勤務した。

而して大正十一年本村々醫に聘せられるに至り、茲に前記醫院を開業して今日に及んでゐる。氏の臨床的經驗は頗る豊富、名刀圭家として衆望をあつめてゐる。傍ら村醫、校醫、郡醫師會理事、縣醫師會役員等を兼ね多方面に活躍してゐる。

富山、西礪波、南谷村

村會議員 會長 本多 鐵二

當家の祖は渡邊賴光の末裔と謂はれ、九百餘年の連綿たる家系を有する舊家で

ある。

先代孫作氏は當村の發展に貢献多かつた人で、



今なほ村民の追慕を受けてゐる。

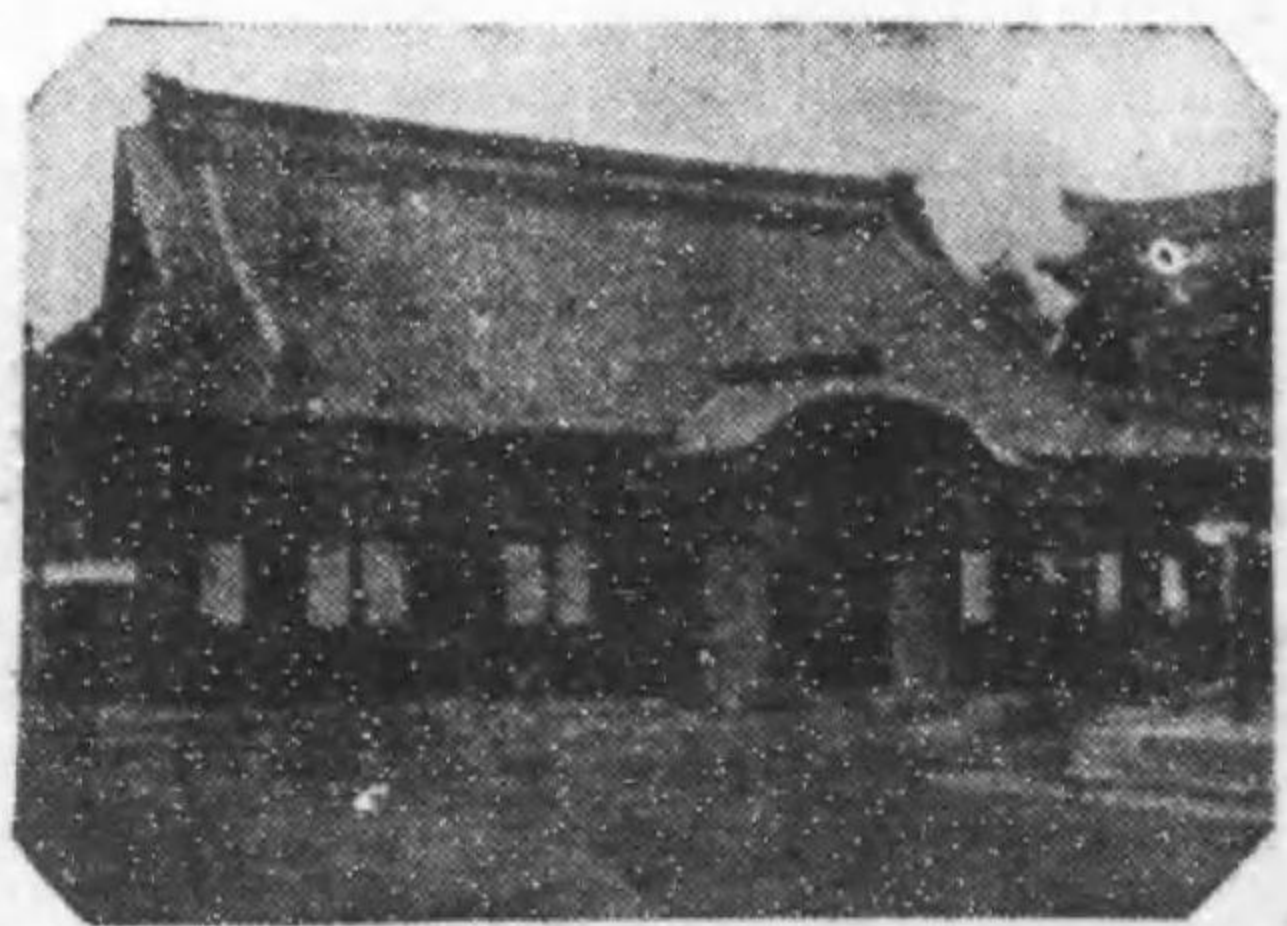
その男として明治二十四年に生れ、嘗ては軍人分會長として、今また村會議員、村農會長、養蠶實行組合長等として村政に當り盡瘁するところ頗る多い。資性温厚にして、直情徑行、洽く村民の尊敬を受けてゐる。家庭は靜穩で、長男榮藏君は尊父を扶けて家業に精勵、次男は滿洲國で、三男は福井縣でそれ／＼活躍中である。

富山、高岡市關町

高岡山 瑞龍寺

當寺は曹洞宗の古刹として、縣下有數

の佛寺である。廣山恕陽和尚を以て開山とし、三百年に餘る法燈榮えて現在末寺には眞如院、長朔寺、松林寺、長興寺、延曆寺、信光寺、東漸院、法性庵、神占庵、

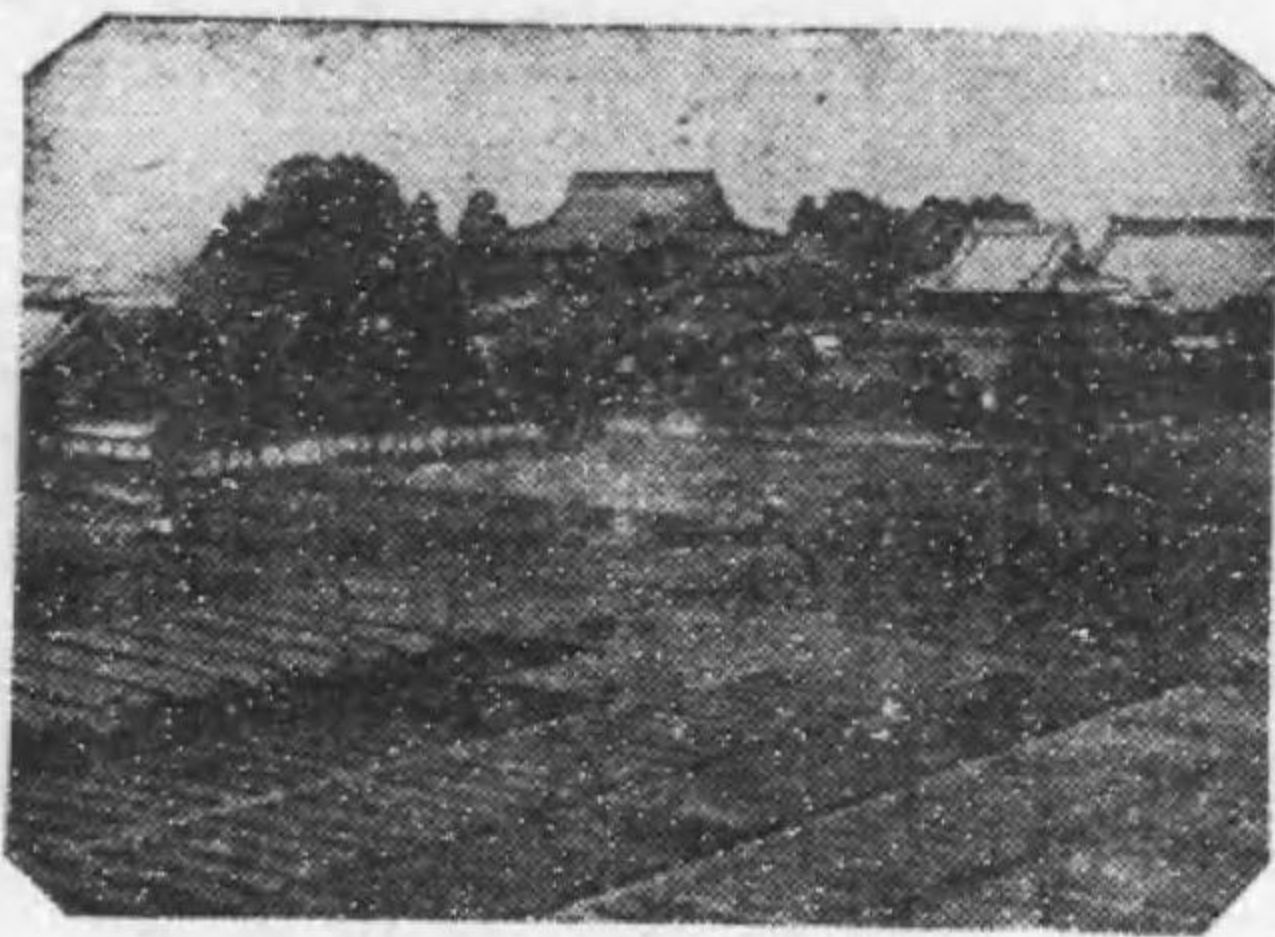


林洞庵等あり寺寶として陽成天皇の御宸翰一幅佛殿

法堂何れも今日國寶に指定されてゐる。そのほか、信長、秀吉の手翰、雲舟、探幽等の觀音像等を祕藏してゐる。毎年例祭を執行し、その當日には近郷近在善男女の參詣者で大いに賑ふ。

住 職
四津谷道雲

師は明治三十四年に誕生、高岡中學を経て駒澤大學に學び優秀なる成績をもつて卒業。嘗て東漸院



全 景

眞光寺等の住職たり。大正十年當寺に轉じて現在に至

つてゐる。
なほ、師は宗會議員、特選議員、方面委員聯合會副會長等の要職の任にあり、地方民の教化に寧日なき活動を續けてゐる。

静岡、田方、中狩野村

産業組合長 **仲原 惣作**

當家は代々農業を営む舊家である。



先代徳藏氏は篤農家として知られ村會議員區長、學務委員、氏子總代、檀徒總代等を歴任した自治功勞者である。

氏はその長男として、明治三十一年四月十六日に出生し、私立狩野學舎出身にして、のち家業に精勵し、夙に村民の信頼する厚く消防部長、青年團長等に推擧され、好評噴々たるものがあり、現在は産業組合長、村會議員、各委員等の要職を兼ねて、村政の發展に、産業の開發に獻身的努力を捧げてゐる。

氏は温厚篤實にして、言語明瞭、逢ふ人毎に好感を興へて衆庶の信望を一身にあつめてゐる。
家庭には尊父徳藏氏、母堂ちよ刀自の兩親健在し、せいじ夫人との間に一女あき子さんがある。

静岡、田方、錦田村

副團長 **小針 愛太郎**



當家は徳川開府時代より四百年位を経過してゐる、村内屈指の舊家である代々農業をもつて生業としてゐたが、中期より請負業を副業に營むに至つた。

先代六三郎氏は夙に村政に干與し、村會議員、區長、學務委員等に歴任し、多大なる功績をあげ、現在なほ豊饒として

保護者會理事を勤め村の元老として重きをなしてゐる。

氏はその長男として、明治三十年二月二十六日に呱呱の聲をあげた。長じて近衛歩兵第三聯隊に入隊し、歩兵上等兵に進級し、除隊に當り特に下士適任證の他御下賜金一封を賜はつた。

歸村後在郷軍人分會理事、同副分會長同幹事青年團支部長、同理事等を歴任しそれ／＼寄與した。

現在は區長、警防團副團長、保護者會幹事、在郷軍人分會顧問、方面委員、甘藷補助検査委員等を兼職して、村自治産業の發展に盡瘁してゐる。氏は在郷軍人分會及び青年團に盡せる功績により、それ／＼表彰せられた。

氏は殊に蔬菜の栽培に主力を注ぎ、販賣配給を圓滑ならしめる爲め努力し、また道路の改修を行つて運輸を便にする等村内のこれ等重要問題を達成せんと鋭意努力を致してゐる。

氏の趣味は讀書、園藝等である。

石川、羽咋、志雄町

軍人分會長 **前多 永二**



々農をもつて家業としてゐる。

氏は五人兄弟の長男として明治三十六年三月廿六日に呱呱の聲を擧げた。

資性温厚にして圓滿なる人格は村民の信頼を一身にあつめかつては村會議員として功績頗る多大であつた。今事變の勃發するに當り勇躍應召し、赫々の戦果勳功を樹て、凱旋し、推されて軍人分會長の要職に就いた。

氏の熱情は克く團員を奮起せしめ一團一心の結束も堅く出征家族の慰問援助に勤勞奉仕の淨財の獻金等に盡瘁し、更に

紀元二千六百年事業として、忠靈塔建設を計畫し目下大活動中なり。

家族は老父母健在氏を長男とし四人の弟あり克く美しき兄弟愛に満つる模範家庭である。

静岡、濱松市東伊場町

天理教濱松分教會

當分教會は明治二十五年六月に創建せられたもので、山名大教會中第二位に位する。創立に關しては渡邊喜作氏の犠牲的努力に依ること大にして、氏は熱心に布教に従事して今日の教勢を廣めたのである。現在は渡邊熊一、渡邊國從の兩氏が教道の普及、信徒の擴充に努めてをり今や東京府静岡縣山形縣下に多數の信徒を擁してゐる。

現主宰者渡邊熊一氏は明治十四年十一月二十四日の生れ權中教正として信者の間に絶大なる信望あり、また渡邊國從氏は明治四十年六月四日の誕生にして、權

少講議の資格を有してゐる。

静岡、濱松市大蒲町

紫蘇巻元祖 六軒京本舗

電話三三九七番



濱松特産、六軒京紫蘇巻の元祖として

天下にその名を馳せられたるは、本舗は鈴木花商店と

ひ、自園の特殊栽培法により幾多改良を加へられて採取された紫蘇の葉を以て獨

特の調味配合による味噌をつつみ、これを小串に刺して油焼したる所謂紫蘇巻を製造販賣してゐる。

その風味の佳良なると共に榮養價の豊富なることは既に周知の事實で、かかる紫蘇巻を原料として、當店七十有餘年の經驗と最も完備せる操作のもとに吟製せる紫蘇巻が、絶對他の追従を許さざる逸品であることは蓋し當然であらう。また品質の改善に日夜精進して、保存期間の如きも、夏季二十日と稱されてゐる。

今や需要益々擴がり、内地一帯は云ふに及ばず、遠く朝鮮、台灣、滿洲方面に販路を有してゐる。各地博覽會に於いて名譽賞、一等賞等を獲得したこと數次にのぼり、濱松松菱百貨店を初め、東京、大阪、京都ほか大都市一般百貨店、食料品店等にて販賣されてゐる。

經營者 鈴木 小花

當店の經營に女子の身を以て碎勵し、よく業績の向上を圖

りつつある女史は、鈴木鶴仙畫伯の令閨である。同氏は茲に述べるまでもなく、日本畫壇に確固不動の地位を占める人である。

富山、東礪波、出町

北陸綿業株式會社

電話出町局四二番

當社は現常務取締役佐藤豊太郎氏の個人經營であつたが、大正七年十月、資本金八萬圓を以て株式會社に改組し、爾來二十有二年餘を経過し、社長小野田氏、常務取締役佐藤氏始め従業員の協力により年産額多拾萬圓を生産する一大會社となつてゐる。關東州及び滿洲に支店、出張所を設置し、近き將來滿洲地方に一般貿易業をなすべく着々準備中である。

大正十三年東久通宮殿下の事業御視察の光榮に浴し、その製品の優勢なることは斯界に定評がある。尙當社發展の功勞者として現常務取締役

役佐藤豊太郎氏の努力に負ふ所實に多大にして高潔なる人格者として且つ一面手腕家として内外より尊敬されてゐる。氏は又當社の姉妹會社、出町麻織物株式會社の監査役として盡力されてゐる。

當社の首脳部は次の通りである。

取締役社長小野田全郎、常務取締役佐藤豊太郎、取締役稻垣小太郎、同小野田清太郎、監査役瀨尾正雄、同佐藤順吉。

静岡、濱松市田町

電話二二三三番

氏は明治十六年四月十日、もと濱名郡蒲村神立に呱呱の聲をあげた。

幼時より頭腦明晰にして中等學校卒業後、織物業界に雄飛すべく志を立て、遂に苦節力闘が報いられ、昭和六年綿布商輸出部を創立したのである。爾來、實踐躬行の精進を続け今日の鞏固なる基礎を築くに至つたのである。

今日は國策の線に沿うて輸出を中止し内地向雜綿を取扱つてゐる。

氏は稟性剛毅果斷、また眞摯謹直なる風格を有し、自ら實務の第一線に立つてゐる努力家である。

業務繁忙なるにも拘らず、遠州織物商業組合副理事、龍西整理株式會社役員等を兼ねて力を致してゐる。

富山、上新川、月岡村

月岡山 圓城院

當寺は眞言宗に屬する北陸布教の名刹にして、その開山は今を去る三百年前なり。維新の際廢寺となりしも現在は復興し壯麗なる本堂、庫裡、稻荷堂を構へ、境内千坪内外に及ぶ、八月十四日の施餓鬼、十月十日の四萬六千日には近隣の善男善女の參詣で非常な賑ひを呈する。

住職 柴山 秀道

師は明治九年呱呱の聲をあげた。東洋大學に學び明治四十

年當寺住職となる。博學明德の高僧として村民に敬慕され又郡免囚保護事業支部長、山洋救護委員、方面委員、司法官察司として社會事業に盡瘁するところ大である。



伊平村は引佐郡の北部、奥山二里の山中にある。古は井平と書き、井伊家の支族が領してゐた。濱松鐵道金指驛より約一里、バスの便がある。

静岡、引佐、伊平村

伊平村 役場

産業は、農、蠶絲、林業、畜産等で農業のうち主なるものは、米、麥、大豆、小豆、粟、キビ、甘藷、又果樹は密柑生柿等の栽培が盛んで、製茶も相當の生産高をあげてゐる。

村 長
勲 八 等
宮田 匡一

宮田村長は永年収入役、助役等を勤め當村の自治の爲め獻身的な努力を續け、村民の尊敬の的の人である昭和十三年村長に就任以來寢食を忘れて村内各方面の首腦として奮闘してゐる。非常時局に面し當村の今後の向上は氏の手腕に期して待つべきもの益々多い。

助 役
青木賢太郎

宮田村長を補佐して圓滿なる村政施行に盡す青木助役は、永年當村役場書記として格勤精勵し、後推されて収入役となり、遂に昭和十三年助役に就任した温厚篤實なる人である。

静岡、安倍、南葉科村

農 會 長 **立川彦左衛門**

當家は同村に於ける屈指の篤農家で、歴代當地方の産業自治のために盡した。氏は徳次郎氏の男で、嚴父もまた村政に

參與し當村發展に功勞あつた人である。現在、齡古稀を過ぎるも、なほ矍鑠たる元氣で當村の元老として重きをなしてゐる。

氏はまた農會長として農民の指導に當り、新智識を注入し、能率増進を計り、農産物はために年々非常な好成绩を収めてゐる。

産業組合には創立當時より引續き理事の要職にあり、組合發展に盡瘁する一方警防團では分團長の地位にあつて寧日なき活動を續けてゐる。

嘗ては村會議員、収入役、消防組副組頭等の公職にあり、永年村政村治に貢献し、全村より長敬を受けてゐる。

静岡、安倍、美和村

美 和 信 用 販 賣 組 合

當組合の特徴は教育部のあることで、これに依て、組合員の組合精神涵養に努め、更に健全なる國民精神の昂揚を計ら



事務所及購買部

の生 活は 皆當 部と 切つ ても 切れ ぬ關 係に あり 販賣 部は 民の 生産 する 竹箒、 蒟蒻、 筍の子、 製茶、 乾菓 等で、 又、 利用部 は 精白米、 肥料の 配合等 である。 また 本村は、 製綿業 行は れ、 利用部 が 該事業 を 利する こと 甚だ 非常 である。

組合長理事は松永五一郎氏事務理事は二名制で、安本茂作氏及平田平作氏である。

組合長理事

松永五一郎

氏は事務理事時代より組合のため盡瘁し、今日の隆盛を招きたる功勞者で、村會議員、方面委員、學務委員の公職にあり、なほ郵便局長である。

また、前縣議選には中立として出馬し見事榮冠を贏ち得たる村内隨一の有力者である。

石川、羽咋、志雄町

志雄町 青年團長

昔農佐左衛門

電話志雄町二四番

昔農家は農を以て家業とする素封家である。

先代作左衛門氏は精勵格勤の篤農家として、農事改良に貢獻するところ大であつたが、惜しくも早世された。

當主作左衛門氏は先考の長男として大



正五年呱 聲をあげ た。幼く して英才 を誦はれ 羽咋中學

出身である。

昭和十三年應召、國家の干城たるの重責を果し、目出度く凱旋した。

氏は専心農に勵み、農産物の改良、增收を期して種々計畫し、その合理的方法は着々と成果を擧げてゐる。

若くして温厚篤實、責任感強き氏は、町内青年の輿望を擔つて青年團長に推された。

又木炭製造の指導に當り、優秀な成績を示しつゝあるは、氏の最も徳とするところである。

家庭にあつては極めて圓滿夫人との間に一子をあげ、大家の若主人としてその家計を採配してゐる。

石川、金澤市下淺野町

アルミ箔 製造販賣

釜村 權太郎



アルミ箔 製造に着 眼し、創 業したと ころ意外 の反響を

非常時局下錫箔使用の困難により氏はアルミ箔製造に着眼し、創業したところ意外の反響を呼び、需要は日に増し、激増し今ではアルミ箔専門に製造販賣するやうになり、この後塵を受けて轉業して來る者も多くなつた。アルミ箔の使用物は、現在のところ宗教的方面、殊に佛事關係に多いが將來は、なほ他の方面にも販路を開拓する意氣込で進んで居り、最近に至り、滿洲國へ進出し、業界今後の發展策をこの方面に求むべく努力してゐる。アルミ箔にも種々の種類があるが、いづれも支那向として將來有望なもので、事變地の治

安が定まると共に、同方面の需要は増大するものと思料され、この方面に早くも手を着けた氏の炯眼には、感服のほかない。しかもアルミ箔製造と不可分關係にある折紙製造機に特殊装置をなし能率的に優秀品を製造するやうな新發明をなしたことは、業者の等しく感謝するところだ、大正七年以來斯業に携つて來た釜村氏の得意や思ふべきである。今次歐洲戰爭勃發後、輸入品減少し國産品の海外進出に絶好の機會を得て、氏は愈々努力奮闘をつづけてゐる。

静岡、濱松市鹽町

大林商店主 大林 稔

電話四六一・三四九五番

氏は先代莊治郎氏の次男として、明治三十三年三月二十五日に呱呱の聲をあげた。幼少の時愛知縣豊橋より現地に轉住し、氏は弱冠にして家業を繼承したのである。

爾來、晝は空場、鶏卵等を買蒐め、朝夕は新聞の配達をなすなど文字通り刻苦奮闘して、家業を扶け、令妹等を女學校に通學せしめた。かくの如き辛酸を嘗めつつ、再製原料問屋業を創業した。



刻苦奮闘して、家業を扶け、令妹等を女學校に通學せしめた。かくの如き辛酸を嘗めつつ、再製原料問屋業を創業した。

その後も自ら率先して業務に精勵、今や個人經營としては一流の大工場を統轄するに至つた。

なほ氏は曩に、市會議員三期を勤め、現時日本屑綿布商業組合聯合會理事、静岡縣屑綿糸布商業組合理事、電動機商組合長その他數十組合理事のほか、静岡縣資源回收聯盟副會長、静岡縣再製原料問屋商業組合副會長、遠州殘糸出糸商業組合長、遠州紐類工業組合理事等の際しい顯職を兼ねて、夙夜力を致してゐる。

静岡、濱松市坂屋町

外山織物合名會社

電話四三五番

本社は外山吉十郎、平野多藏等の努力によつて組織設立されたもので織物販賣を業務としてゐる。

創立以來、役員及び株主諸氏の盡力により、業績頗る目覚しきものあり、今や四十五萬圓の大資本を擁するに至つてゐる。而も販路は全國一圓に互り、業界に於ける信用は絶大である。

歴代社長は外山吉十郎、平野多藏、平野眞一の諸氏であり、現任役員に代表社員、平野眞一、總務部長外山好一、營業部長平野榮一、會計部長外山秀平、支配人小木松市等の諸氏がゐて社運の發展に力を致してゐる。

なほ株主の重なるものに、平野眞一、外山好一、平野榮一、外山秀平の諸氏がある。

石川、羽咋、末森村

元村長 西澤 丈助



氏郎治政男長

西澤家は代々當村に居をなし、農及び植林を以て家業とし、村内屈指の舊家である。

亡祖父久助氏は篤農家として、早くより自治公共のことに關與し、區長として功績顯著なるものがある。

先考丈助氏は海運界に活躍した。當主丈助氏は先代の長男として明治十年呱呱をあげた。人と爲り濃厚篤實、かの日露戰役には海軍豫備兵として應召召動をたて凱旋した。

氏は又家業の傍ら村民に推されて各種公名譽職に就任した。特に村會議員在任

中耕地整理委員長として、耕地整理に於ける功績は特筆すべきものがある。

家庭には夫人との間に長男政次郎氏あり、目下中支蕪湖にて、居留民會長の要職にある。夫人ツヨノさんは國防婦人會副會長として活躍してゐる。

静岡、濱松市寺島町

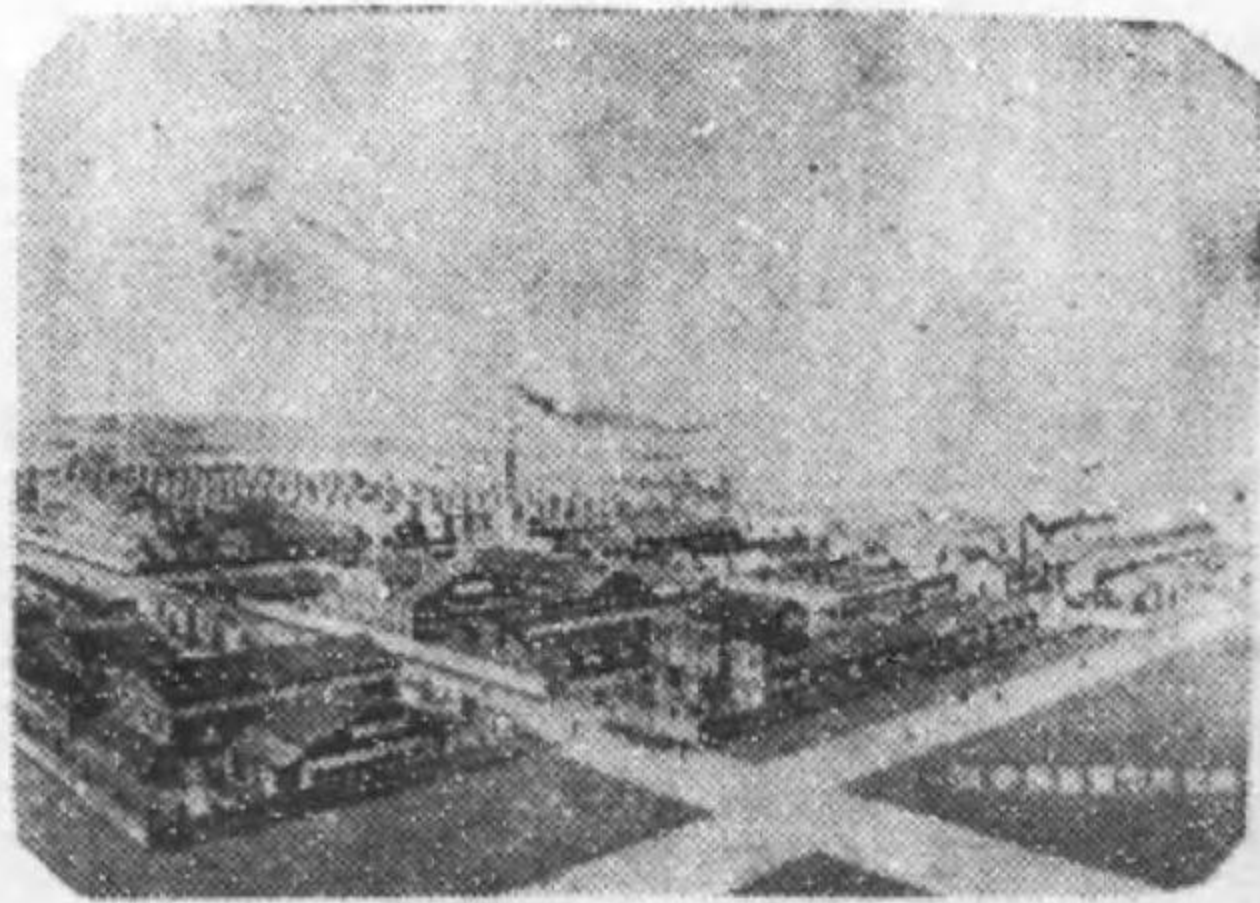
合名會社 河合樂器製作所

電話代表七五三番

當製作所は昭和二年八月の創立にかかり、資本金五〇萬圓を擁する合名會社組織である。

創立以來なほ日は浅いが、ピアノ、オルガン、ハーモニカ等の樂器を多量に生産し、その形態の優美、品質の優良なるを以て、河合の名は天下の好評を得てゐる。

製品は重に内地、朝鮮、台灣等に賣捌くほか、滿洲、外國にまで出荷されてゐる。



景 全

於ける同社の販賣機關であり、隆々たる業況を示してゐる。

現社長河合小市氏は斯業界にその名を喧傳された逸材で、當社創立の功勞者でもある。株主として、また代表社員として業務一切の統轄總攬をなして敏腕を揮ひ業界にその重きをなして縦横無盡の活躍をなすと共に、その人望をますます高めてゐる。

東京市京橋區河合樂器販賣所は東都に

石川、羽咋、邑知町
農事實行
組合長 早川 源五郎
町會議員



先代源五郎氏は篤農家として知ら

れ、他方早くより自治公共方面にも活動し町政の向上、産業の發達に貢獻するところ大であつたが、不幸にして早逝された。

當主源五郎氏は先考の長男とし出生、家業に専心する傍ら、福水農事實行組合長、及同理事、町會議員、産業組合監事傳染病豫防組會議員等に擧げられ、町政の刷新向上産業進展に著しき貢獻をなした。

氏は右の他に嘗て北邑知在郷軍人分會

長、區長、北邑知村助役等の任にあつて村政上、在郷軍人指導に業績をのこしてゐる。

尙氏の家庭は夫人との間に令息、令嬢七名をあげ、長男源祐氏は現在滿洲國新京にあつて、電信隊軍曹として活躍中である。

静岡、安倍、大川村

大川村 役場

當村は安倍郡の西北部に位する山村である。

明治二十二年三月、日向村外八ヶ村、(坂ノ上、枳澤、諸子澤、湯島、崩野、八草、檜尾、大間)を合併して大川村と改稱し、今日に至つてゐる。

本村の産業は材木(杉)、木炭、茶、椎茸、蒟蒻、山葵、蕨等にして、米、麥は僅少にして他地方より移入されてゐる。警防團は、元消防組を改組したものであり、七分團に分け、消防設備は完備し

てゐる。

軍人分會は八班より組織され、銃後の任務を全うし、男女青年團は農村發展に各々貢獻してゐる。

學校は尋常小學校、高等併置二校の他分教場一校がある。青年學校は一校にして専任教員一名、指導員五名を置く。

現村長は中村宇吉氏で、助役は小澤登代氏、農會長佐藤直作氏、警防團長三竹正治氏、分會長佐藤藤次郎氏、青年團長佐藤新平氏、産業組長前川龜之助氏である。

村 長

中村 宇吉

氏は、明治二十五年本村坂口に呱呱の聲をあげた、夙に人情家として知られ、村會議員その他の公名譽職を歴任し、信望頗る厚く村長の重責を擔ひ、本村中心人物として、活躍してゐる。

助 役

小澤 登代

當家は、大字湯の島の舊庄屋を代々勤め、十數代を経た家

柄である。祖父は、村會議員を數期に互り勤め、また收入役として精勵した人であり、先代榮太郎氏は村會議員、區長、氏子總代等公名譽職を兼ねて活躍した、自治功勞者である。

氏は助役二期目にして村會議員を兼ね村政發展に盡瘁し、三代續いて村治功勞者として令名が高い。

静岡、小笠、倉真村

華嶽山 世樂院

本院は觀世音菩薩を本尊として安置し曹洞宗に屬する名利である。

建治二年三月、即ち今より遡る約六百六十餘年前、慈性明惠師の開基にかかり明應六年松浦兵庫頭を中興の開基とし、更に降つて寛永年間に至り、再び朝倉筑後守を中興開基と稱してゐる。

天文元年二月、長福寺五世心源盛智和尚が請ぜられて當院を興し、法門の隆昌を見るに至つたが、寛永元年回祿の災に

罹り、堂宇及び寶物、古記録等を灰燼に歸した。

その後再び再建され、舊幕時代には黒印十三石を賜はるなどの由緒を有し、爾來運綿として三十二世の法燈を相繼ぐに至つてゐる。

長福寺を本寺となし、末寺に貴崇院、長源庵、東昌院、正光寺その他がある。

七月十四日の施餓鬼を初め、春秋二季に佛教會、九月に講習會等を開催し、また託兒所、人事相談所を開く。

住 職

若山 運法

師は愛知縣名古屋市の出身にして、昭和八年三月當寺三十二世の法燈を繼いだ。



を學んだ達識である。(寫眞は大森氏)

愛知縣立第三中學校を卒業して、駒澤大學に佛敎哲學

副 住 職

大森 正雄

師は掛川中學校を出て、昭和八年駒澤大學を卒業し、永平寺に於いて永年修練を積んだ。現に方面委員、振興委員等を兼任して減私奉公の至誠を盡してゐる。

高知、長岡、田井村

田井村 役場

當村は郡の西北隅に位し、高知縣廳を離れること十四里餘の地點に在る。

村の中央を東西に分けて地藏寺川が流れてゐる。又南は中之川岸の山岳を負ふた高原地で、頗る植林に適してゐる。

産業は主として農業、林業、養蠶業で、米、麥、蕨、木材、木炭等を主要物産とする。

更に近時、村の中央を中西に貫通する縣道沿線に稍々人家密集し、商業發展の傾向を示してゐる。

當村の功勞者たる和田理悟郎氏は、四期村長に推され、村政に貢獻すること二十年、その徳を頌して記念碑が建てられ永く村民欽仰の表徴となつてゐる。現村長和田義誠氏、更に氏を輔けて助役に澤田守行氏、收入役に高橋壽喜氏等が村治諸般の要務に盡力してゐる。而して昭和十四年四月自治制發布五十年記念に當り、縣知事より表彰を受けた。

村長

和田 義誠 氏は減私奉公を以て唯一の信条となし、至誠謹直の人格者として村民の信望頗る厚い。

石川、能美、鳥越村

元鳥越村長 故北村 音麿

翁は慶應元年五月十七日の出生、鳥越村書記、同助役、同村長等に歴任し、なほその間區長、村會議員、用水議員、水利組合長、煙草耕作組合長等の要職に就



故 音麿 氏 實業方面にも活躍した。

氏が在生中耕地整理に盡した功績は大きい。殊に

家庭には未亡人夏子さん、長男英麿氏



長男 英麿 氏 孫七人あり、

長男英麿氏は、鶴來煙草組合聯合會幹事災害耕地整理組合長、農會評議員、石川縣方面委員を兼ね、將來を囑望されてゐる。

尙令孫拓氏(英麿氏長男)は鳥越村青年團長として活躍してゐる。

静岡、志太、東川根村

東川根村 信用販賣組合

當組合は昭和十三年八月の創立にかかり、現在組合員数は四六四名にして、出賣口數一、〇〇〇口である。

購買品の主なるものは米、肥料にして雜貨は地下足袋、軍手、鹽漬、買上綿、メリヤス等の配給品を取扱つてゐる。

販賣品は椎茸、蒟蒻、木炭等にして、その他は創業以來日なほ淺きにもかかはらず着々として事業は擴張され前途愈々洋々である。

組合長は目下缺員にして、専務理事小長谷良繼氏、主任書記は和田長三郎氏である。和田氏は組合創立以來盡力し、眞摯着實なる人として知られてゐる。理事は田畑幸作、芹澤實吾郎、坂本藤吉、山本孫一、和田岩吉、監事は山下歌吉、井澤行平、栗田瀬一郎の諸氏がそれぞれ現任してゐる。

専務理事

小長谷良繼 氏は明治十九年の誕生にして、曩に區長として精勵し、現在村會議員を兼任して、身邊繁忙を極め村産業の進展に盡瘁し組合の基礎建設に努力してゐる。

石川、羽咋、栗ノ保村

警防團長 堀田 成功

堀田家は、農を家業とする村内有數の舊家である。



先代 堀田 太郎氏は當地方産業界の恩人として、今も尙ほその遺徳を敬仰されてゐる。

現主成功氏はその長男として明治三十年一月十二日呱聲をあげた。人ととなり温厚篤實、清廉潔白、家にありては農産物

の改良、増收に専念し、出ては軍人分會長、青年指導員に推され、前者は十年、後者は七年在任、在郷軍人、青年の思想善導に、健全なる風潮の徹底に顯著なる功績をあげ、現在は警防團長、方面委員村會議員の要職にあり村治村政に盡瘁してゐる。

家庭には、夫人みつゑさんとの間に二男一女あり、長男、長女共に在學中である。

静岡、富士、富士根村

村會議員 井出 文作

當家は、代々農耕を業とする舊家である。先代



故儀作氏は村會議員として自治に寄與貢獻した人である。

氏はその息として明治二十四年十一月出生、第一次歐洲大戰に際しては、青島攻略に勇戰奮闘して、勳八等を賜はつた勇士である。

氏は一方、温厚篤實、郷關に歸りては農村の發展、農民の福利増進に意を用ふること極めて深く、曩には、消防組役員區長代理、在郷軍人分會班長としてよくその重責を果し、現在は村會議員として村治に獻身し衆望を一身に集めてゐる。

家庭には母堂、令夫人及び長男英夫君と二女がある。圓滿なる家風をなし、近隣の模範となつてゐる。

静岡、富士、大淵村

村會議員 小出 清

電話吉原二七四番

小出家の始祖は鳥居城譜代の藩士で、輝しき系統を誇る名門である。

氏は今泉村の廣瀬徳平氏の次男にして明治八年十一月一日の出生、長じて小出

家に入つたものである。郷校を卒へて、



東京早稲
田大學理
工科に學
び、技術
家として
優れたる

才能を研磨して、昭和六年優秀なる成績
で卒業するや、東京市近藤土木合資會社
に勤務して益々技術を彫琢し、現在は歸
郷して富士郡傳法村運輸合資會社代表社
員、及び小出商會社代表社員の要職に
就いてゐる。資性明朗闊達な上、技術家
としての緻密な頭腦をもつて、專業界に
新人として期待されてゐる。先代惣平氏
も今泉村にあつて請負業を營み、多大な
る業績を擧げてゐる。斯く父子揃つて技
術界に活躍する稀に見る家庭として周知
せられてゐる。
氏は又村會議員として村政に參與し村
民に期待されてゐる。
家庭には、嚴父及び母堂きよさん今な

は健在にて、夫人和子さんとの間には一
男一女あり、明朗にして健全なる家庭を
營み、村内の模範的家庭である。

静岡、富士、大淵村

村會議員 井出 廣作

井出家はもと大宮町に農を家業として



わたが、
先々代よ
り大淵村
の開墾に
従事する
ため、當

地に移り住んだ。實に當村開拓の始祖と
いふべきで、廣作氏にて家系五百年を數
ふる舊家である。
氏は先代故淺吉氏の長男として、明治
二十七年二月十日呱呱をあげた。大宮町
の郷校を卒へ、家業に専心する一方、衆
望を擔つて、村會議員に當選して村治に
與り、また警防團分團長、借地組合委員、

區長、産業組合部長、國勢調査員等の要
職に歴任し、村政の向上刷新、村民の福
利増進に、日夜寢食を忘れて努力してゐ
る。

尙氏の園藝に於ける造詣は素人の域を
脱したものと定評がある。稟性濃厚
篤實にして、穩健中庸なる思想の人物で
ある。
家庭には夫人うらさんとの間に二女あ
り、圓かなる團樂をなしてゐる。

静岡、富士、原田村

村會議員 荻野 金作

當家の祖先是甲州武田の臣下にして、



當村に移
り住みて
より、十
一代の家
系を傳へ
る村内屈
指の舊家である。代々當地に於て石工の

業に従つてゐた。

先代卯之吉氏は石工として、その技優
れ、名工として謳はれてゐた。

氏は先考の長男として明治二十六年十
一月十六日の出生、郷校を卒へてより、
村役場に入り、收入役として村政の樞機
にをり、恪勤重大なる責任を果した。

濃厚篤實、清廉潔白なる氏は、村民の
衆望を擔ふて村會議員、常設委員、出納
検査委員、内山入會議員、浮島村石水内
組合會議議員等々幾多の公、名譽職に擧
げられ、減私奉公の精神をもつて、至誠
よくその重責を果しつつあり、かつて自
治功勞者として當局より表彰された。
氏はこれら繁忙なる公職の外、原田製
紙工場役員として、專業界にも活躍して
ゐる。

家庭には、嚴父卯之吉氏(七十四歳)、
母堂きよさん(七十一歳)共に高齡にて健
在し、令閨さわさんとの間に長男章氏あ
り、目下甲府歩兵第四十九聯隊に入隊し
て中支方面の戦線に活躍中である。

石川、羽咋、邑知町

若部村 信用販賣
購買利用 組合

電話飯山局八番

本組合は、大正六年九月十八日、時の
若部村々長山本平太郎氏の盡力により、
設立された。

創設當初は幾多難關に遭遇したが、役
員及び組合員打つて一丸となり、よくこ
の窮境の打開に努め、今や縣下有數の優
良組合として各方面の絶賛を博してゐ
る。

現組合役員は、組合長山本雄平氏、專
務理事淺野茂昭氏、理事盛田朝吉、澤田
宇吉、堺勇次郎、島田治作、辻角米作、
平野政美、上田源三郎の七氏、幹事楠島
吉、濱田良藏、天野外男、畑中榮松、岩
城長吉、若本徳次郎、河島平次郎、三浦
周次の諸氏が任じ、減私的奉公に依つて
益々當組合の眞價を發揮させ、全組合員
より厚き信頼を受けてゐる。

組合長

山本 雄平

當家は、村内有數
の素封家である。

先代平太郎氏は若
部産業組合創立委員長として當組合を創
設又若部
村長とし
て功勞が
あつた。



當主雄
平氏は先

考の長男として明治四十三年四月二十日
呱呱をあげた人となり濃厚篤實、羽咋中
學出身なり。今事變には陸軍歩兵中尉と
して勇躍出征、拔群の功績を立て最近歸
還した。

静岡、富士、富士根村

區 青年團長 上杉 榮太郎

上杉家は代々耕耘を家業としてゐる。
先代は農の傍ら、公共事業に干與し、
地方自治に對する功績は、村民の記憶に

未だ新たである。

氏は先考の男として、明治十二年六月



四日、呱
聲をあげ
た。静岡
縣師範學
校出身の
英才であ
る。

資性濃厚、篤實慈愛深き人格と、造詣深き學殖とを以て、兒童訓育に當ること二十九年、その間校長として郡内小學校に多大なる功績を挙げ、縣下育英界の耆宿としてその名を知られてゐる。

氏はまた早くより公共の事に深き關心を有ち教育界を退いて後、清廉潔白なる人格は村民に深く敬慕され、衆望を擔うて村長に推舉せられ、また村會議員に重選され、或は産業組合理事、村農會長、警防團分團長等の要職を歴任した。その間奉公の誠を致し、村政の刷新向上、村民の福利増進に顯著なる功績を現はしたのである。

家庭には夫人くにさんとの間に、四子あり。長男は目下富山縣魚津高等女學校教諭として奉職中。次男は工業大學を卒業、陸軍中尉として岡山陸軍兵器廠に勤務中である。

静岡、富士、富丘村

元縣會議員 篠原 代三郎

當家は代々農耕をもつて家業とする。



村内屈指の素封家として知られてゐる。

先代故善三郎氏は早くより村治に干與し、村會議員、或は村長、その他の要職に就き、また祖父以前數代に亙りて名主等の公職にあつて、地方自治に稀に見る功勞のあつた家柄である。

當主代三郎氏は先考善三郎氏の長男と

して明治元年五月十日に呱聲をあげた。

幼くして俊秀の譽れ高く、當代の噴學田邊直先生の塾に漢學を修めた。資性濃厚篤實、清廉潔白、しかも家殖深きため、村民の敬仰、信頼を一身に聚め、推されて助役、または村長に擧げられること三期、總て縣會議員として縣政界に出でてその人ありと知られ、遂に縣參事會員の椅子を占めた、地方政界の重鎮である。

抑々明治四十年頃の當村の村政は素亂の極に達し、納税等も滞納多く、村治振はざる事甚しかつた。然るに同四十三年篠原代三郎氏村政革新の使命を擔うて村長に就任するや、衆庶の期待に背かず、夙夜精勵恪勤、事に當つて曲を許さず秋霜烈日、剛毅果斷、よく積年の弊弊の迹を斷ち、明朗な村政確立の難業を完遂した。而して今、富丘村の今日の繁榮は、氏の己を捨てた奉公の至誠に依るものとして、氏に對する村民の感謝、敬仰の念は極めて深く、永く後代にその名を傳へられるであらう。

氏は現在日本赤十字社正社員として餘生を濟生事業に捧げてゐる。

静岡、田方、萑山村

村會議員 三枝 勘三郎



當家は代々耕転をもつて家業とした家柄にして當地方に著聞する舊家である。

現主勘

三郎氏は明治九年五月五日に先代故長平氏の長男として、呱々の聲をあげた。郷校卒業以來、父君を扶けて家業に従事し、人格圓滿なる篤農家として村民から敬仰され、區長、組合評定員、檀徒總代、氏子總代等に就任して、幾多の業績を遺した。

現在は村民に推されて村會議員に當選して、眞摯なる努力と熱心なる研究をも

つて村業の附託に應へ、その濃厚篤實の人格と明敏なる才腕は、全村民の信頼を益々深めてゐる。

敬神の念篤き氏は、現郷社の昇格運動に努力し、又昭和十五年五月より産業組合理事となり村産業開發に大いに盡力して、益々農村經濟の圓滿向上に寧日なき努力を捧げてゐる。

富山市東三番町

製藥原料 卸 商 笹山 林藏

當家は明治二十六年内外藥品株式會社を創設、後、笹山家個人經營となし、今やその製造販賣は、越中製藥界に雄飛してゐる。

當家の營業種目は、當地方主要製藥會社に製藥原料納入、自家工場の製藥、及び賣藥行商人監督等である。

當家の長男順藏氏は富山藥學專門學校出身、次男梅治氏は早稻田大學商科出身兄弟協力して家業に勵んでゐる。

静岡、濱松市新町

遠州織物商業組合

電話二九六三番

昭和七年の商業組合法制定と共に、當地小巾織物關係業者は一般同業組合より分離して、斯業の發展助成のため本組合を設立するに至つたもので、時に同年十二月二十八日であつた。これが創立に盡瘁した人々は、鈴木初藏、平野多藏の諸氏であり、平野眞一氏が理事長に就任した。

爾來、組合役員及び組合員の戮力協心によつて、漸次發展を重ね、遂に昭和十四年遠州輸出織物商業組合及び静岡縣東部織物商業組合を合併して今日に及んでゐる。

理事長以下の現任役員は、副理事長鈴木基弘、常務理事河合靜一、山口一郎、中村久平、小池正、理事山本新治郎、稻垣嘉一、鈴木作次郎、今村幸太郎、後藤

孝一郎、山田芳藏、金井源太郎監事池田
鉦之助、山田一郎等の諸氏である。

組合長

平野 眞一

氏は先考多藏氏の
長男として明治二十
六年一月十二日の出

生にして沼津商業學校の出身である。



現時公
職關係で
は、市會
議員、商
工會議所
議員、遠

州織物商業組合理事長、縣綿織物卸商業
組合聯合會理事等を兼任し、衆望頗る多
きものがある。

なほ、外山織物合名會社社長、遠州整
理株式會社取締役會長、張重整理株式會
社取締役、日本特免織物元配給株式會社
取締役等の重職に就いて、業界にも敏腕
家として知られてゐる。

家庭には令夫人との間仇儼睦しく圓樂
を極めてゐる。

静岡、濱松市中澤町

日本製器株式會社

當會社は明治三十年十月十二日、山葉
寅楠、天野千代丸の兩氏により發起創立
されたもので、實に今日まで四十四年の
輝かしき歴史を有する。

樂器及びベニヤ板家具、木工品等の製
造販賣を以て業務とし、資本金は八百七
十五萬圓に達してゐる。

その製品は品質の堅牢優美、低廉をも
つて、江湖になり、遠くヨーロッパ、ア
メリカまで輸出されてゐる。

尚濱濱市に分工場、東京、大阪、福岡
大連に支店が設置されてゐる。

歴代社長に山葉寅楠、天野千代丸。川
上嘉市の諸氏があり、現任役員は藤原
は、社長川上嘉市、常務取締役吉田季三
林慶吉、取締役中村圓一郎、中村條吉、
力原四郎、中島又三、監査役小竹祿之助
山葉良雄等の諸氏である。

静岡、濱名、積志村

積志村信用販賣組合

電話代表一三番

當組合は、最初有限責任積志村信用購
買販賣組合として設立せしも後、同信購
販生産組合となり、しばらくして生産部
を廢し、利用部を新設し保證責任となつ
た。

當組合は産業組合界の大先輩品川彌次
郎、平田東助の兩氏が現組合長の岳父當
時積志銀行頭取高林維兵衛氏を訪問して
農村産業組合の必要なる所以を説き、當
銀行内に創設したものである。

創立よりの功勞者は高林維兵衛氏、山
本謙治氏にして歴代組合長を勤め、現在
は高林兵衛氏である。尚役員は小野文、
高林玉平、本間齊、鈴木宗十郎、小杉開
次、小杉久左衛門。

監事は内山昇、村木謙一、久米徳太郎、
森貞枝の諸氏である。

組合長

高林 兵衛

氏は明治二十六年
生れ、自治公共のた
めに盡瘁し、産業組

合長、中遠部會長、静岡縣縣聯理事、遠
州醫療組合長等の要職に在つて東奔西走
晝夜をわかつた村産業の發展に盡す活躍
ぶりは、知る人をしていたく感激せしめ
村民の信望を一身にあつめてゐる。

専務理事

小野 文

氏は明治三十五年
の誕生。名古屋銀行
濱松支店員にして、

昭和十年産業組合専務理事に就任、爾來
組合長を輔佐して、組合の發展に獻身的
努力をなしてゐる。

主事主任

白井 最

氏は明治三十二年
の生れにして、引佐
那東濱名村の出身、

當村農會技術員として、昭和十年に奉職
し、昭和十三年より組合主任として當村
組合に貢獻するところ多く村内に重きを
なしてゐる。

役員一致組合の進展に盡力してゐる。

静岡、田方、伊東町

天城診療所

電話四六八番

當診療所は昭和三年十一月、醫學士佐
藤清一氏によつて開設されたもので、爾
來經營のよろしきと、施術の確實なるを
もつて患家の信望を博し、隆々たる業況
を見せてゐる。

内科、物理療法科を専門とし、各科の
設備はよく整備してゐる。

診療所長

佐藤 清一

氏は宮城縣加美郡
色麻村の出身にして
尊父清之氏の男とし

て、明治二十九年二月二十五日に岳降し
た。



先代は
目下田方
郡小室村
川奈にあ
つて商業

を養ひ、嬰孺として健在してゐる。

當主は東北帝大醫學部を卒業してのち
東京帝大眞鍋内科教室に於いて、更に研
鑽を重ね、昭和三年本町に開業した。

資性重厚篤實、溫容なる風格の持主で
ある。家業繁忙の傍ら、學校醫、伊東町
醫師會理事、日本赤十字社特別社員等を
兼任し、兒童體位の向上に、また衛生思
想の普及徹底に、種々盡瘁して寄與貢獻
してゐる。

趣味として俳句、大弓等をよくし、家
宗は曹洞宗である。

家庭には令閨元さんとの間仇儼睦しく
一男二女を恵まれてゐる。

石川、羽咋、北莊村

元縣會議員 谷光源造

谷光家は農及び林業を以て家業とする
舊家である。

先代五助氏は山林事業に多大の功績を
遺し、村長、郡會議員に擧げられた。

當主源造氏は先考の長男として明治八年



年呱呱をあげた。人となり温厚篤實政治的手腕に優れ

縣會議員、郡會議員、縣會副議長、同參事會員の重責を擔ひ、植林に依る寶達川の洪水防止、大海川の灌漑工事、羽咋中學及び羽咋女學校の創設、志雄五ヶ村の合併、縣道の設置、郡道の擴張等は特に注目すべき業績である。

氏は現在石川縣武德會評議員、司法保護委員の任に在り、北莊、中莊、未森、柏崎、四ヶ村合併により、町制を施行すべく奔走中である。

氏の功績は嘗て大日本山林會長より褒賞を授與された。又昭和八年縣知事より林業功勞者として表彰された。趣味としては讀書を好んでゐる。

静岡、濱松市砂山町

旭日氷糖株式會社

電話二七一・八一五番

我國氷砂糖製造業界に斷然頭角をぬきんで、麗大なる生産額を有すると共にその製品、殊にクリスタル特許製品の優秀なることを以て江湖の絶讃を博しつつある旭日氷糖株式會社は、大正十三年六月十九日、資本金五拾五萬圓を以て創立されたもので、初代社長堀内勝次郎氏をはじめ歴代社長重役等の手腕により今や社運頗る旺んにして、門市大黒町には分工場を設置し、逐年増大する需要に應へてゐる。

現社長は堀内誠策氏、常務取締役堀内嘉一氏があり、その他取締役田中尙房監査役堀内國作、堀内莊三等の諸氏が現重役として活動してゐる。

また株主の重なるものに、堀内勝次郎堀内誠策、堀内嘉一等の諸氏がある。

静岡、賀茂、松崎町

警防副團長 芝田 惣太郎



居り、代々農を以つて業とし傍ら木炭製造業をも營んでゐる。

先代彌惣左衛門氏は多年區長代理、區協議會員等を務めて功勞あり、八十歳の高齡今なほ矍鑠たる元氣である。

惣太郎氏は、彌惣左衛門氏の長男にして、明治二十六年十一月十三日の生誕である。

氏は夙に公共事業に深く心を致し、曩には松崎町消防組部長、軍人會評議員に歴任し、その功績は町民にいたく感謝され、いま又推されて松崎町警防副團長、並びに區協議會員の重職にある。

氏は温厚眞摯なる人格者で、その職責に任ずること厚く、曩に加茂郡聯合分會より氏が表彰を受けたのも宜なるかなである。家庭には嚴父彌惣左衛門氏を始め、ひよふ夫人の間に二女あり、極めて圓滿である。

石川、金澤市穴水町

鐵工業 松川 長吉



當主 長吉 氏

の人で故松川長右衛門氏の長男である。

先代は骨董及佛具商を営んでゐた。

氏は父を喪つてから奮勵努力し令弟嘉吉氏と相協力し、大正二年鐵工業に着手松川式鐵製力織機を製作販賣し、大正六



長男 長俊 氏

松川式織機の研究改良は日に進み、

専賣特許や實用新案登録を得たるもの十數種に上り、特に織物高級化の機運に添ふべく、氏は常に新發明に努力し斯界の權威として近縣に知られてゐる。當製作所のあらゆる製作品共通の特徴は高速廻轉と堅牢の二點である。

長男長俊氏は金澤高等工業機械科出身、次男長吉氏及び三男吉郎氏は、いづれも金澤市立工業學校機械科に學び、目下、兄弟三人協力して多數従業員と共に戰時下機械工業の一翼を背負つてゐる。

静岡、賀茂、中川村

西 法 寺

當寺は臨濟宗建長寺派に屬してゐる。承久年間執政源賴繼公より供養料として地所若干を寄進された。要堂權和尚は當寺中興の祖にして、東山建仁寺に住せし實覺眞空禪師雪村の法子で、鎌倉五山壽福寺に住し、更に貞治年間當寺を中興し至徳三年十一月寂滅した。爾來法統連綿として今日に至つてゐる。

當寺は歸一寺の末寺であつて、寺實には要堂權和尚の遺像がある。

住 職

勲 八 等

千 田 宗 俊

師は愛知縣丹羽郡扶桑村の人、明治十二年故甚三郎氏の長男として生れた。由

來千田家は累代醫業に携り、先考甚三郎氏は眼科醫として當地方の名醫だつた。師は京都花園妙心寺中學校に學び、日露役の起るや出征し、その歸々たる武勳

により勳八等白色桐葉章を下賜された。

師は温

厚な人格者にして

園芸、読

書を趣味

とし、夫

人せんさんとの間には二男一女あり、平和な家風をなしてゐる。



静岡、賀茂、岩科村

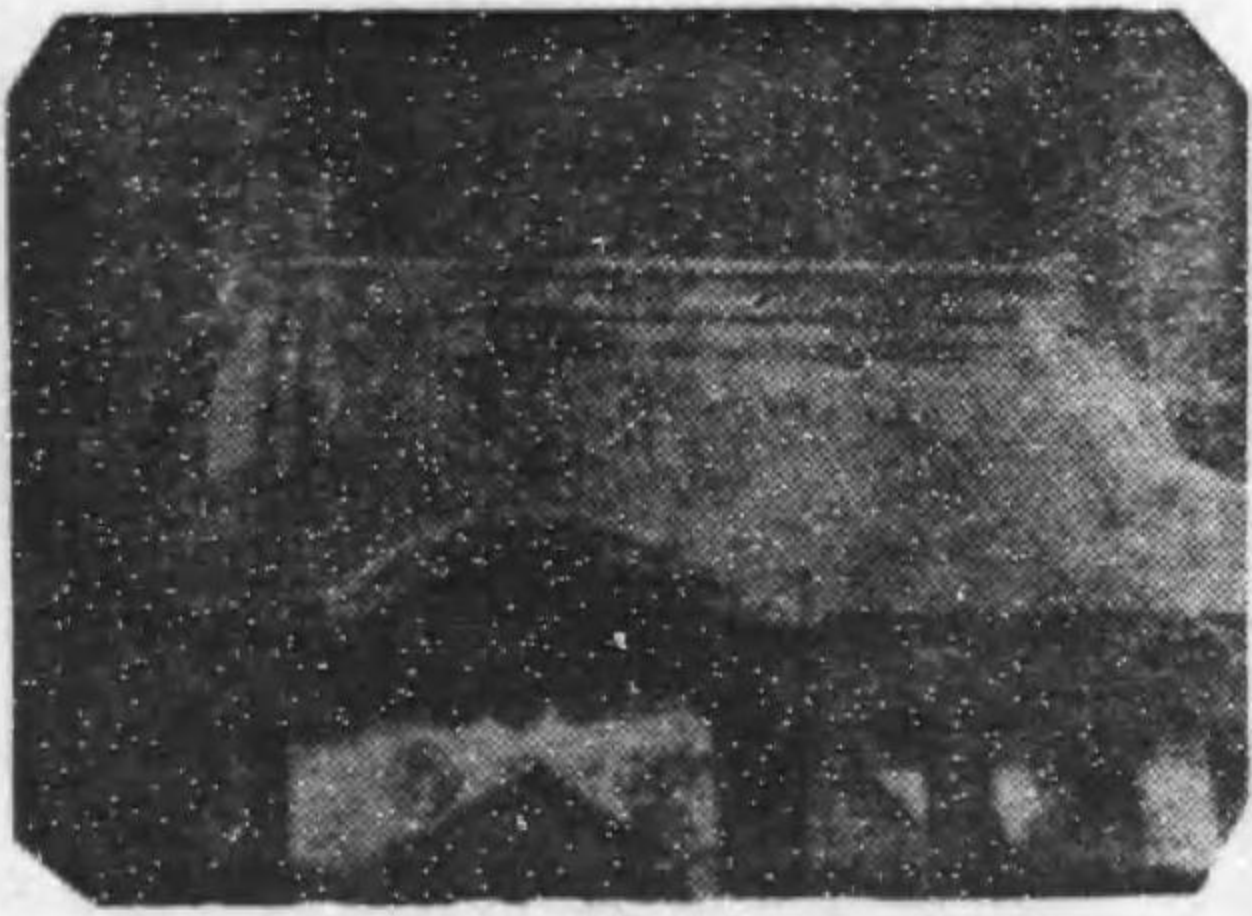
岩科山 天然寺

當寺は淨土宗に屬し、増上寺の末寺で開基開山は巖信雲譽上人公文にして、應仁二年十月に開創し、岩科山天養院天然寺と號した。文明九年徳川公御入國の砌り、御差置として高拾參石を賜はる。その後八世嘆譽師の代に三代將軍家光公より御朱印を賜り、代々家茂公に至る迄受領す。延寶四年八月の洪水にて、堂宇悉く流失せしも、寶永六年に至つて再建し

今日に至つてゐる。

行事として月三回の事變關係祈願會、念佛講月一回、施餓鬼會、十夜會等があり、農繁期には各寺院と共同して託兒所

を開設し或は方面委員、婦人會と合の合、同託、鉢、祈願、慰靈、家族



本堂

訪問、講演。又は方面委員其他と連絡をとり、困窮家庭の調査等。當寺の社會的活動は、枚舉にいとまがない。

住職

秋山 光然

師は俊嶺師の長男にして、明治三十一年駿東郡靜浦村馬込釣月寺に生れ、十九才にして得度し、昭和二年先

住職笠井 靈吟師の後、當寺

の法燈を 二十四世



繼いた。師は夙に東京府立園藝學校を卒業し、臨濟宗大學、大正大學に於いて佛道の修業研鑽する所あつた。その人格と學徳は、あまねく村民の歸依渴仰してゐる所である。家庭には伯母ヨシ刀自夫人ヘルさん長女見子さんがゐる。

静岡、賀茂、南崎村

鈴木 平治

鈴木家は當村切つての素封家としてあ

まねく知られて居り、累代に互つて農を業とし、

傍ら漁業

をも營ん

でゐる。

氏は明治

三十五年



一月二十日の生れで、先代善六氏の養子となる。善六氏は、夙に村の自治に與つて、長津呂區長、漁業組合理事、氏子總代等を歴任し、名望高く、現在尙八十に近い高齡を保つて矍鑠としてゐる。

平治氏は産業の振興發達に深く留意する所あり、先に長津呂漁業組合理事となり、以來専心組合の發展に盡し、現在同組合長に推舉されてゐる。尙長津呂區長として自治のために盡瘁しつゝある。

温厚にして、明敏、達識の手腕家として組合員の期待厚く、讀書を趣味とし、臨濟宗に歸依してゐる。家庭には養父母共に健在し、夫人とく江さんとの間に二人の息子さんがあり、その圓滿なること

近隣に聞えてゐる。

静岡、賀茂、田子村

磯 清 助

田子村に於いて舊家として名ある磯家は、先祖

代々農耕

をもつて

家業とし

た。



氏は仁

科村野畑故佐野新吉氏の次男として、明治二十一年八月五日に出生、七歳の時磯家の養子となつた。

氏は家業に精勵する傍ら、推されて農會長、消防組部長、青年會副會長、國勢調査員、出荷組會長等、各方面の重職を兼ねた。

現在では村會議員、區長、農産信用組合理事、日本赤十字社正社員等の公名譽職にあり村内の信望頗る高い。

氏は釣魚に趣味を有し、また家宗の臨濟宗に歸依が厚い。

家庭は養父母共に健在し、夫人との間に三男五女あり、更に令孫を加へて洵に賑かである。

富山、東礪波、福野村

加越鐵道株式會社

電話福野七七五番

同社は大正元年創立、現在の軌道は石動、青島間全線二十キロであるが福野驛安居寺間の會社バスをも經營、頃來の縣下重工業勃興に伴ひ、社業は著しく向上軌道擴充乃至はバス路線開拓の必要を痛感されてゐる。

沿線の風光は又絶佳、遙けき空に峭立する山、その頂きに映ゆる千古の雪、越路の四季の眺めは魅惑と敬虔の錯綜である。特に石動附近には國寶建造物として著名な護國八幡宮を初め名所舊蹟が甚だ多い。

同社重役陣は常務取締役有川哲四郎、同上田行丸、取締役貫榮、同新啓、同綿貫佐民、同六角宇太郎、同小原喜三郎、取締役技師長佐藤長太郎。監査役上笠安次、同今井正之助の諸氏である。

静岡、濱名、南庄内村

南庄内村役場

南庄内村は、濱名湖に突出せる村にして、西南部及び東部は丘陵にして、畑及山林をなし、中央部は平地にして水田となつてゐる。

明治二十二年縣令により、元和田村、庄内山村、協和村の地區を以て一村となし、地勢南に在るを以て南庄内村と定められた。

濱松、奥山間の鐵道追分驛へ約二里半にしてバスの便がある。本村は農業を主とし、工産、蠶絲、水産等はこれに次いで旺んでゐる。

村長 徳田五一郎

氏は明治十五年十月二十四日の出生、大正八年村長に推され、村政發展に多大の貢獻をなし、大正十三年には縣會議員に當選、地方政界に活躍社會公共のために盡瘁し令名を馳せた。

昭和十年三月再度村長に推舉され、村農會長、郡町村長會副會長、鷲津紡績株式會社取締役、徳田正油株式會社社長、館山寺ホテル株式會社社長、ヤマ五製紙株式會社長等要職を兼任してその才腕を謳はれてゐる。

静岡、賀茂、稻梓村

箕作郵便局

當局は明治十六年十二月の開局にて、三等郵便局である。

現在局長は戸崎惣右衛門氏で、創局以來の功勞者は、祖考戸崎惣右衛門氏である。



現主惣右衛門氏は先代故惣右衛門氏の養嗣子にして、日露戰役に従軍し、功勞に依り勳八等瑞寶章を授與され、昭和十一年八月勳七等に昇叙された。稟性温厚にして敏活、村民の信頼厚く當局第三代目の局長に就任した。三十年勤続して地方通信事務に盡した功により遞信省より表彰された。

現局長代理は戸崎惣司、伊澤彰の兩氏である。

局長 七等 勳 七等 戸崎惣右衛門 當家は現主にて十代にして、代々農をもつて業となし、代々戸長、村長、村會議員、區長、國勢調査員、農會長等に就任して、村治に功績を遺した家柄である。

家族は高齢にて今なほ健在の母堂とく刀自及び夫人との間に三男三女あり、和氣霽々としてゐる。因に長男惣次氏は、陸軍歩兵中尉である。

富山、東礪波、北野村

勳八等 長谷川 久吉

長谷川家は當村に於ける舊家に於て、



久吉氏は長谷川家の養嗣子である。氏は輜重兵伍長として、日露の役に従軍し、奉天旅順に轉戰赫々の武勳により勳八等を賜つてゐる。

在郷軍人分會長、産業組合理事、村會議員、村長、郡會議員等を務めたる村内の長老で、南礪農業倉庫創設以來理事を

務め現在に至つてゐる。其の間に於ける功績としては、小學校の増築講堂の設置貯水池の新設等がある。

長男一造氏及び次男武夫氏共に村内の要職にあり、愈々繁榮を極めてゐる。

静岡、周智、園田村

園田村信用販賣組合

電話山梨六四番

昭和二年有限責任谷中信用組合が解散し、各區長主盟者となり當組合の設立を見たのである。

鈴木鼎三氏が初代組合長理事を勤め、朝比奈淺吉、北島初太郎、森田和吉の諸氏が順次に組合長となり、現在は寺田誠勝氏である。事業は年と共に繁榮し貯金もまた良好で組合員の時局認識の徹底をよく物語つてゐる。

組合長 寺田 誠勝

氏は明治十八年四月生れで當年五十六歳。温厚篤實にして

人望頗る厚い。

設立當時から區長として盡力し、其後理事專務理事を勤め、昭和十五年二月より組合長として今日に至つた。

その外村會議員、方面委員、學務委員等を兼ねて公共自治に盡してゐる。

專務理事 武藏島 繁

氏は明治三十五年十月に呱呱の聲を擧げ當年三十九歳の壯年正に新進氣鋭の士である。村役場收入役たること八ヶ年の永きに及び、その經歷手腕を買はれて本年專務理事に推舉された。

その他の理事は新貝清一郎、田中準次郎、鈴木純、岩瀬角太郎、飯田豊三郎の諸氏。監事は谷口、鈴木、朝比奈、平野建部、柴本の諸氏である。

富山、東礪波、般若村

村會議員 八田 義正

氏は明治二十二年二月同村の舊家八田

家の男として呱呱の聲を擧げた。先考篤三氏の跡をつぎ土木建築業に身を投じ現在斯界に覇をとらふ佐藤組組長として活躍してゐる。

温顔の内に烈々たる熱情を秘め、佐藤組運営に當つても「土木事業は社會公共の仕事であるから奉公といふ事が第一義である營利は第二義的のものだ」と。如何なる難工事たりとも進んで引受けると云つた仁俠的事業家である。

現に村會議員として、村自治の徹底、産業の發達に寢食を忘れて盡瘁、幾多の功績を擧げてゐる。即ち當地方唯一の合同用水路工事の如き他の業者が容易に觸手しなかつたものを引受け豫算を問題外として工事を起しこれが完遂を見た。

富山、東礪波、南山見村

村會議員 高倉 佐一郎

氏は明治十一年九月佐平氏の長男として呱呱の聲を擧げた。少年の頃より才氣

活潑、何をなすにも人後にある事を潔としなかつた。長じて先代の後を継ぎ農事に精勵し、篤農家として、郷黨の敬慕をうけ、曩に村長の榮職にあり、又村會議員として六期、部落自治の發展農業生産の増收等に寢食を忘れて盡力、輝かしき幾多の功績を遺し高齡いま尙壯者を凌ぎ村治村政の爲に盡してゐる。

縣當局に於ても之等の功を認め、さきに自治制度五十週年記念をトし表彰状を呈した。

氏は又敬神崇祖の念厚く眞宗を信仰。家庭には夫人との間に六女あり恵まれた子福者でもある。

静岡、志太、岡部町

岡部町 信用販賣 組合 購買利用 組合

當町には、早くより組合が組織されしも解散となり、昭和三年有限責任岡部町信用組合が組織され、そのうち保證責任岡部町信販購買組合に組織變更した。

組合長は大野定次郎氏にして、理事は中山義作、池田晋一郎、木ノ内嘉平治、近藤小七、黒石覺雄、萩原源一郎、村木藤一の諸氏にして、監事は渡邊萬作、内野九二三、仁科信一、齋藤達次、小長谷鐵一、近藤彌一郎、永田健次郎の七氏である。

組合長 大野定次郎

當家は地主として近郷に鳴る家柄である。

氏は明治三十年の出生、収入役、助役町會議員等に歴任して、町政發展に貢獻し、町民の信頼厚く昭和十四年六月組合長の重任を擔ふた。

専務理事 渡邊 房吉

氏は明治二十一年九月の誕生にして、役場に奉職すること十五ヶ年の久しきに亘り、昭和十四年十一月専務理事に推され村産業の發展に盡瘁してゐる。また、氏は海軍一等兵曹である。かかる氏の努力は村民にいたく感謝されてゐる。

静岡、濱名、積志村

電話三一三番

遠江緋染株式會社

當社は、創立以來漸次業況隆盛に赴き現在に至る。時局下原絲の配給統制に依る困難なる條件の下に社内一致協力、染業報國の志を固くして努力しつゝある。

特綿絲の藍染作業に多忙を極め、そのほか、藍染綿布、緋部割染部、硫化緋黒部並びに捺染の小緋、人絹壺糊等を取扱ふ。社長小杉慶次郎氏は、既に他界せられ、現在木俣虎一氏が支配人として社務を統べてゐる。現在の役員は次の諸氏である。

取締役社長小杉慶次郎氏、取締役袴田仙吉氏、村木宗太郎氏、久米徳太郎氏、奥野鐵平氏、監査役高林茂吉氏、久米京次郎氏、袴田喜代次氏。なほ、主なる株主は小杉慶次郎、森林斗、袴田喜代次、奥野鐵平、小杉英一郎の諸氏である。

支配人木俣虎一氏は明治十九年七月二十一日出生、現在濱名郡北濱村貴布禰八七に住み、當社の進展に盡瘁してゐる。因に氏は海軍一等主計兵曹にして勳七等を賜はつてゐる。

富山、西礪波、西野尻村

勳八等 沼田 勇次郎

代々農業を營み來つた家で、氏は高齡で、いまなほ矍鑠として村内に重きを成してゐる。

壯年時代日露戦争の際に、從軍して赫々たる武功を樹て、名譽の戦傷により勳八等を賜つてゐる。

現在、軍友會役員であり、現下非常時下にあつて、軍友會の爲めに奔走してゐる。

氏は又、津澤町産業組合長を務め、日夕多忙なる身である。なほ長男平吉氏は當村役場にあつて書記を勤めてゐる。

静岡、田方、小寶村

勳七等 伊代野菊二郎

當家は村内に於ける舊家にして、代々



農業を營み、今日に至つてゐる。

先考清吉氏は村會議員、區長、その他、村の公名譽職に歴任して、村政發展に貢獻するところ多大であつた。

氏はその長男として、明治七年九月十八日に誕生し、陸軍歩兵として兵役に服務し、日露戦役に参加して、その功に依り軍曹に昇進し、勳七等青色銅葉章を賜はつた。

氏は、農業に精勵する傍ら、牛乳營業を開始し、觀光ホテルの用途を受けてゐる。

氏はまた夙に村會議員、區長、氏子總代、農會副會長、學務委員、國勢調査員等を歴任して寄與貢獻した。

現在は區會議員、軍事援護相談所等に關係して、社會公共のために盡瘁し、衆望頗る厚い。

曩に消防組より功勞章を、また村自治功勞章を授與された。

令閨やす夫人との間には子供に恵まれず、養嗣子明雄氏があり、騎兵伍長である。

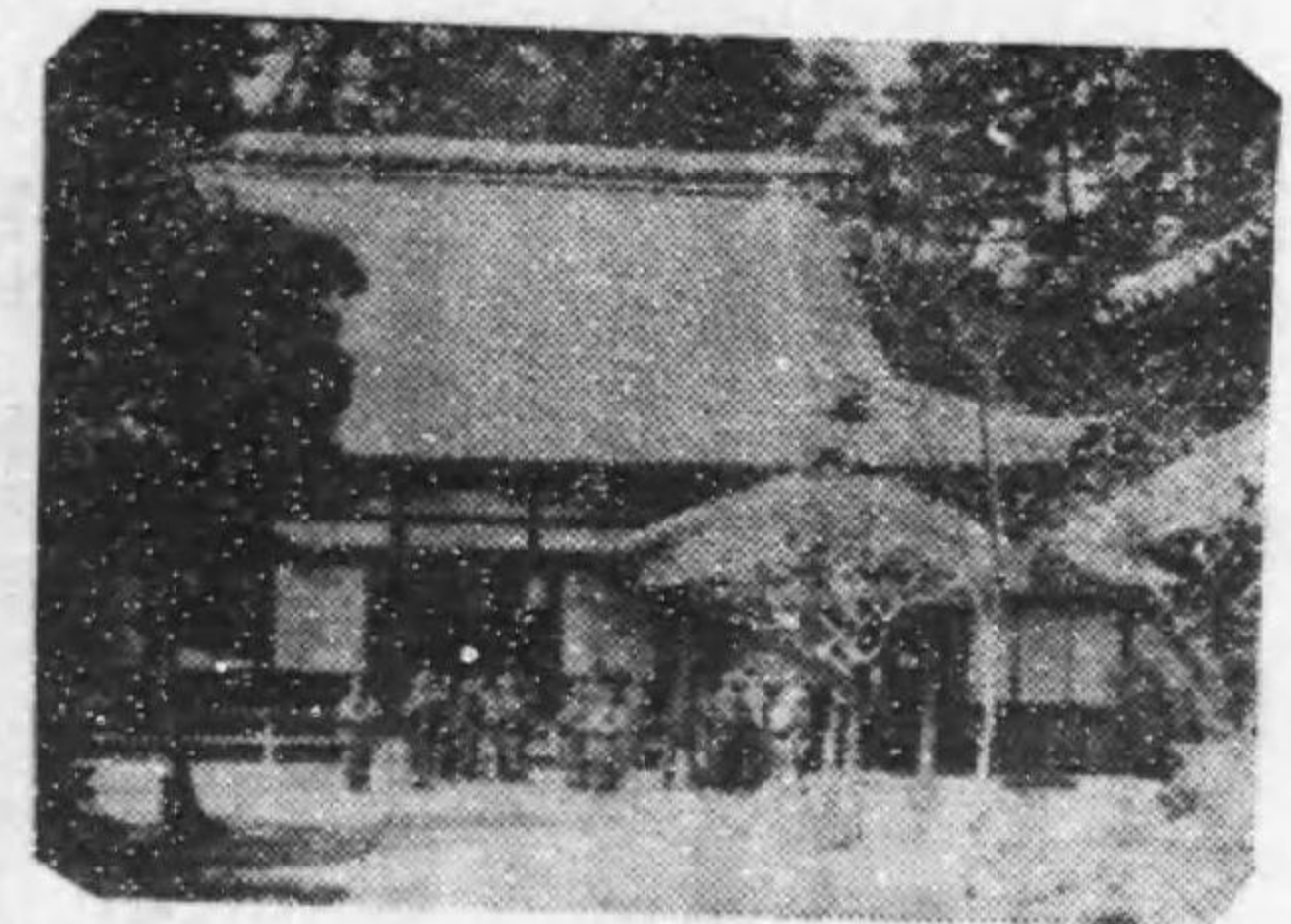
静岡、濱名、新居町

東湖山 龍谷寺

當寺は臨濟宗妙心寺派に屬する寺院にして、釋迦如來を本尊とする。

貞和元年、氣賀之庄石川氏の開基にして、開山は石峯和尚とされてゐる。

三世にして中絶し、永正元年雲谷和尚これを産海村に興し、のち廢絶したことがあるも寛文五年、萬中和和尚復た荒井驛に



本堂

至つた。行事は正月十三日、般若日、三月十五日、四月八日

再興したが寛永の海嘯に隣と共に没し、翌年江間和尚現地に再造し、十世譯翁和尚に至り、始めて中興の礎を全うするに



師は方面委員、妙心寺派宗會議員、司法保護委員、社會事業委員等の公職に推されて、地方村民のために寧日なき努力をつとめてゐる。

富山、西礪波、西野尻村

村會議員 吉野 吉太郎

吉野家の姓はその昔、加賀前田公より賜つたと謂はれる由緒ある家で、先代より製材業を營んでゐる。



氏は海軍々籍を有し、第一次歐州大戰

時にはシベリヤに出動して武勳あり、勳八等を賜うてゐる。青年團々長、在郷軍人分會役員等を経て現在は警防團警護部長、村會議員、職業連絡員等を務めてゐる。

なほ小學校の併合を唱へ、電話線の架設産業道路の改修を叫び農村經濟の向上を圖つてゐる。

忠靈塔の建設は氏の功勞によるものである。夫人との間には二男二女がある。

富山、西礪波、西野尻村

醫師 島田 一朗

氏は礪波中學校を卒業し、更に金澤醫學專門學校に學び、當村に於いて開業すること既に廿一ヶ年に及んでゐる。

開業以來村民の信望厚く本院の外には戸村、高波村に出張所を置いて、仁術報國に盡してゐる。なほ西礪波郡醫師會理事、學校醫會理事、林校々醫、林村々醫



等の公職にあつて、臨床的手腕に、名聲を得てゐる。氏は又研究心強く學校醫として兒童の衛生にあたり好評を博してゐる。傍ら、警防團長、方面委員を兼ね、種々の功績を遺してゐる。温厚明朗活快なる人格者で蘭の栽培等の趣味を有する。

静岡、志太、大津村

大津信用販賣組合

本組合は大正十一年の創立にかゝり、當初より四種事業兼營にして、組合の設備愈々充實し、順調なる發達を遂げて今日に及んでゐる。購買事業は主として肥料、飼料、米穀雜貨等であり、販賣事業は米、茶、柑橘、木炭が大部分を占め、

その他小麦、茶種、菊、鶏卵等を統制的に販賣してゐる。利用部に於ては穀摺機三臺を備へ、もつて村内製産を著増せしめ併せて精米麥及び肥料の粉碎のため共同作業場を設置してゐる。殊に本組合は昭和十二年より小豚畜産事業を行ひ、種豚二十六頭、小豚の産出年三百餘頭にして村内飼育者の自給自足を行ふのほか、畜牛、製茶、醬油醸造等の事業も併行されてゐる。

更に、教育機關として、産業組合青年聯盟が組織され、組合精神の達成に盡力し、また事變發生以來は、勸捐利用の奉仕、年一回以上の家族慰安會を開催し、慰問通信、慰問品贈與をなす等見るべきものがある。

組合長

伊藤 儀一

氏は明治十六年の出生、小學校長として永年教育界に盡瘁せしが、昭和六年組合長に就任し、村會議員、區長等を兼職して村政産業の發展に努力を捧げてゐる。

専務理事

氏は明治三十年の誕生にして、組合創立當初より専務理事

の重責を擔ひ、村會議員、警防團長、村農會副會長等の公名譽職を兼任して幾多の功績をあげ、村民の尊敬を一身にあつてゐる。

静岡、濱名、中ノ町村

村越 製材所

電話七六番

村越製材所は大正十一年頃村越文吉、村越直平の兩氏に依つて設立された。

昭和五年に至り、村越敬次氏も加はり現在は三人共同事業にして、當初は小規模なりしが、よく一致協力次第に擴張して、現在は當地方屈指の製材所となり内容充實して、信頼愈々高まり隆盛を極めてゐる。

製材の一般販路は東京、大阪方面に多く、その他各方面の需要に應じてゐる。

濱松市馬込町に村製函所を新設し、村越直平氏が營業主となり、順調なる發展をつけてゐる。

經營者

氏は當製材所當初より經營の勞をとり他二氏と一致協力、

今日の礎石を築いた努力家である。資性闊達にして、自己の本分に忠實、その事業はよく機宜を得て、殊に最近は繁忙を極め、新業界に於ける氏の手腕は愈々冴え今後の發展を期待されてゐる。

富山、西礪波、西野尻村

村會議員 古瀬 豊治



氏は尊父仁三郎氏と共に農事に勵んでゐる。軍籍に在りかのシペリヤ出兵の際に従軍

々たる武勳を樹てた勇士であつた。

現在村會議員の要職にあつて、村政に盡瘁する傍ら郡農會の後援により蕪細工品組合を設立し、組合長を兼ね産業の發展を企り更に古瀬製繩所を經營して附近一帯の需要に應じてゐる。

明朗豁達なる人で、農業道路林業道路を開設し、更に産業道路の完備に奔走してゐる。

夫人との間に子女四名がある。

静岡、小笠、朝比奈村

普巖山 閑田院

當院は延命地藏菩薩を本尊とする曹洞宗の禪刹で、松堂高清和尚及び玉山金燈和尚の開山であり、市野惣太夫の家より出た、白榮舜清居士が開基である。松堂和尚の開創は明應五年頃にして、のち土御門天皇の御宇であるといふ。爾來幾度の變遷を見たが、慶安六年二月二十四日、徳川家光より朱印をうけて當院の基礎

に定まつた。宗安寺を本寺とし、普光庵官長寺等の末寺がある。

境内は本堂、庫裡、開山堂、境外にも地藏堂等があり、行事としては、開山忌が十月二十日に、施餓鬼が七月十四日、一月一日で、吉祥講は毎年五月に行ふ。

住 職

谷口 照瑞

師は明治二十年六月十五日の生れ、明治四十五年以來當院十九世の住職として法燈を繼ぎ現在に及んだ。



師は會つて天徳寺、可睡齋、大洞院等で修業をつんだ。

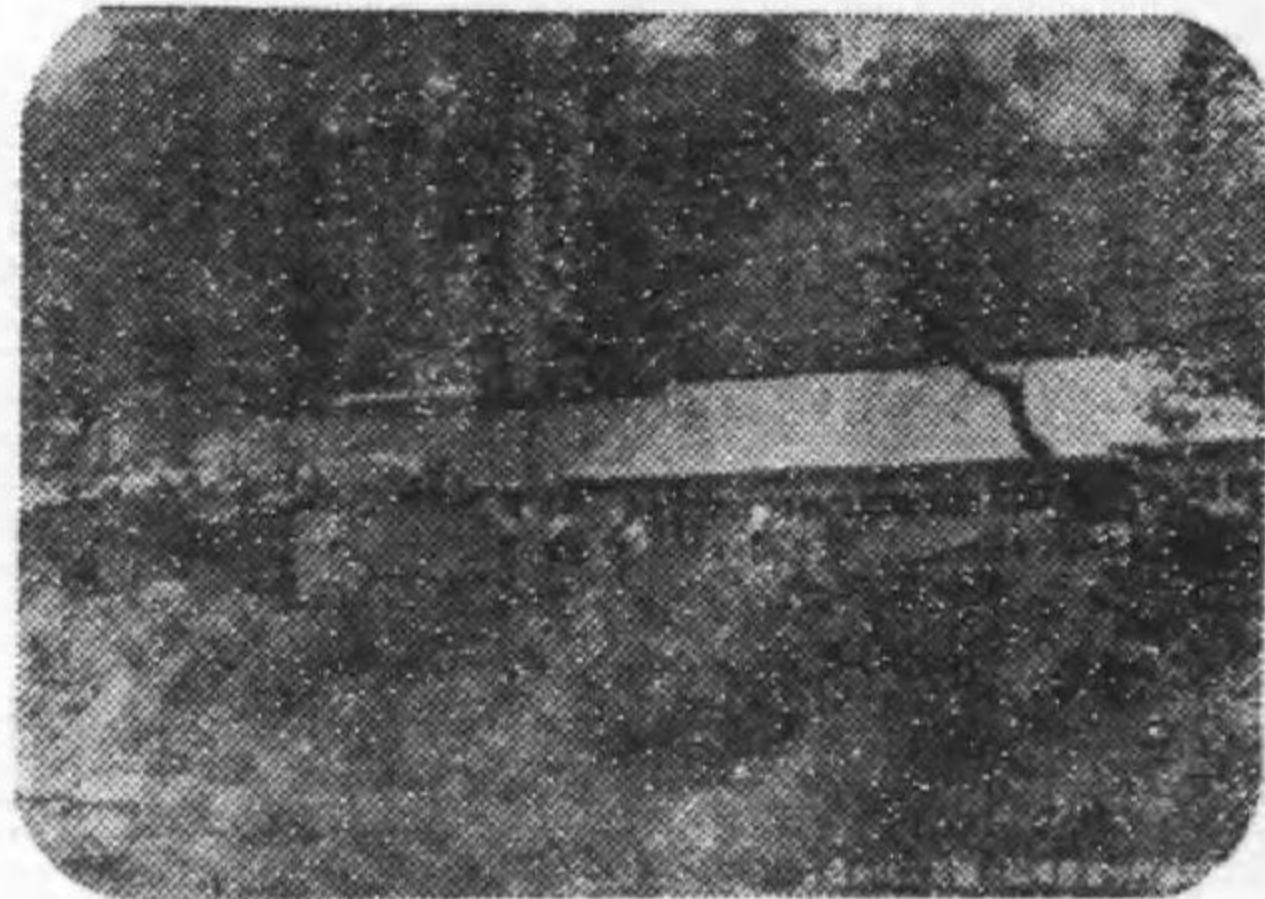
昭和十三年七月より教區長となり、また、佛教會理事を兼任し、佛教界に盡瘁してゐる。

そのほか、方面委員等に任じ、社會公共に盡瘁するところも少くない。

静岡、志太、瀬戸谷村

中里 信用購買組合

當組合は大正二年三月六日に有限責任中里信購買組合として創立し、昭和三年



製絲工場全景

利用部を置き昭和八年三月十八日保任に變更現在に至

つたものである。

組合長は片山省三郎氏にして、理事は下田惣一郎、永井伊之吉、上山萬吉、片

山省三郎、黒山清太郎、伊井綱一、岡村英吉、遠藤亨、渡邊島吉の諸氏。

監事下田良基、下田香一、片山満太郎青木惣平の諸氏にして、相談役は下田良基、黒山清一郎の二氏である。

書記瀬戸銀六氏は昭和四年より書記として精勵し、資性濃厚勤勉なる人として知られてゐる。

組合長 片山省三郎

氏は明治二十八年の生れにして、曩に組合長、村會議員として活躍せしが、再び組合長の要職を負ひ農家福祉の増大に豊富なる體験と識見をもつて執掌し、村民の信頼を贏ち得てゐる。

静岡、沼津市

株式会社 沼津魚市場

電話三五〇・七六五番

當市場は昭和七年十一月の創立で、魚類の依託販賣を行ひ、資本金百五十萬圓

の株式會社である。
魚類の集散は全国各地に互り、その類
また莫大である。

主唱發起人として功勞のあつたのは故
渡邊眞平氏、故山口平吉氏等で、現任は
社長増田彌平氏その下に庶務主任天野眞
氏外三十五名の事務員がゐる。

事務取締役眞野銀次郎氏、常務取締役
後藤角藏氏。

取締役に土屋藤市、鈴木善助、岩崎
清次、山本庄八、平田徳次郎、山内勇次
の六氏が在任中である。

監査役には鈴木萬吉、鈴木喜與三、杉
山豊作、大熊安之助、佐藤政吉の五氏が
その任に當つてゐる。

社長

氏は明治八年七月
八日先考彌平氏の次
男として生れた。

當家は沼津市の舊家で累代鮮魚問屋を
營み來り、當主は五代目である。

家庭は令閨ノブさんとの間に、四男二
女あり、長男良太郎氏と若夫人ユキさん

との間には令孫二人あり、賑かな團樂ぶ
りである。

富山、西礪波、石堤村

村會議員 **前野 良太郎**

當家は、土樫の家臣前野庄九郎の末孫
にして、數百年來の舊家と傳へられてゐ
る。亡父八三氏は大正七年當時村長を勤
め、又戸長役場の頃附近十六ヶ村の戸長
等を務めた名望家である。

氏はその男にして夙に父の志を繼ぎ、
村會議員として、村政にあたり傍ら、産
業組合理事を兼ねてゐる。

また淺井神社氏子總代及び長福寺檀家
總代をも務め、郷社淺井神社の縣社昇格
に功勞あり、産業組合の設置にも多大の
貢獻をなした。

氏は圓滿明かなる紳士にして、文筆に
秀で若山牧水に師事して歌道に通じ時に
折に感懷を筆にしてゐる優雅な趣味の持
主である。

富山、西礪波、廣瀬館村

警防團長 **常本 庄治**

電話五七〇二番

氏は金澤聯隊に入營し、シベリヤに出
征したる武勳の勇士である。

現在廣瀬館警防團長であるが、本村警
防團は、消火班、防護班の二班に分れて
ゐる。氏は永年の間消防班組頭及び在郷
軍人分會長の公名譽職を兼ね、幾多の功
績を残してゐる。

大正十三年消防組合が公設されるに至
るや、自動三輪ポンプ、手押ポンプ等の
購入に奔走し、警防團員の統制に就き偉
才を發揮した手腕家で、縣知事の認むる
所となり表彰されたことがある。

現在、警防團長の傍ら、村會議員とし
て村政に參與し、一意奉公の誠を致して
ゐる。

みよ子夫人も亦、國防婦人會理事とし
て共に銃後の奉仕に努めてゐる。

石川、羽咋、裨造村

村會議員 **大島 豊作**



當家は、近縣切つての舊家で由緒正し
き家系を
傳へ、又
篤農家の
聞え高き
家柄であ
る。先代

善吉氏は村民の人望厚く、推されて區長
或は村議の榮職に就き、村治發達に貢獻
し、今尙村民の記憶に新らしきものがあ
る。
氏はその長男として、明治二十五年誕
生、長じて嚴父の志を繼承して産業の發
達に心を致し、人格は夙に村民の信望を
集め、村議を始め畜産組合代議員等各種
公名譽職を歴任し、功勞頗る大である。
殊に有畜農業の如きは、率先して研究
改良に盡瘁し、斯界の第一人者として縣

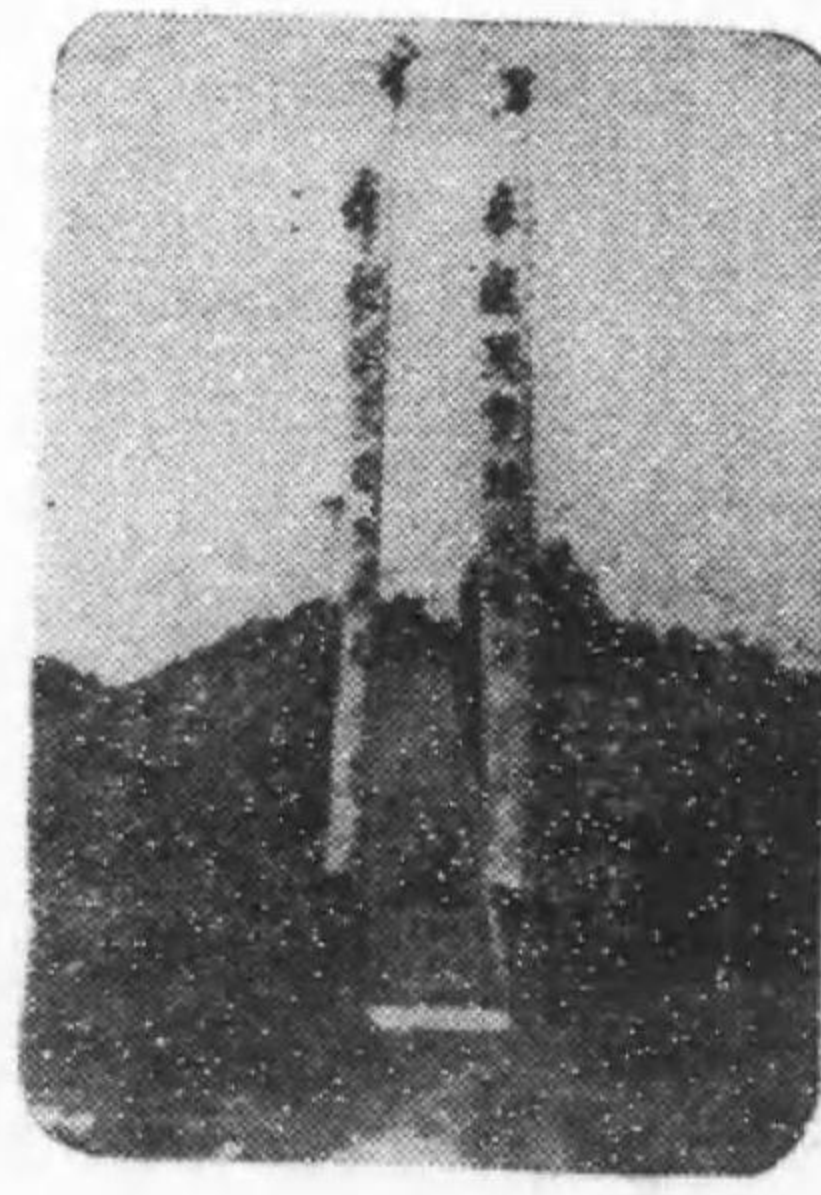
下に普く知られてゐる。

また氏は品種改良、繁殖法等に發見多
く、縣當局より表彰されるの榮を得た。

静岡、周智、園田村

龍溪山 雲林寺

當寺は園田村字中川にあり、虚空藏大
菩薩を本尊とする曹洞宗の禪刹である。
恕仲天開大和尚を開山とし、開基は英佐
(參 道)



義俊大禪定門、應永十六年の草創で大洞
六門の一としてその名を附近に知られて

住職

師は三十八世、明
治三十八年生れ、歷
年三十六歳の壯年で
ある。



越後大
榮寺、可
睡齋等に
於て修業
をつみ、
昭和六年
當寺住職となつた。佛教會の理事をつと
め頗る人望をあつてゐる。

富山、西礪波、國吉村

村會議員 **小神 七之助**

村内に於ける舊家にして、代々農を營
む傍ら養蠶を副業とす。亡七之助氏は村
自治に功勞のあつた人。
當主七之助氏また先代の志を繼ぎ夙に

産業の伸張を計るを以て先決問題なりと



長 善三 氏
道路の
改修、
役場の
新築、
図書館

の充實等の問題をひつさげて當村の繁榮を圖つた。その間村議とし活躍し傍ら、國吉村養蠶組合副組合長、頭川農事實行組合長、産業組合監事を兼務してゐる。最近には國旗掲揚塔の建設を唱へる等常に村治に意を用ひ、自治制發布五十周年には、自治功勞者として縣より表彰された。

静岡、周智、森町

町會議員 佐藤 權次

電話森七五番

遠州森の石松で知られた森町にある當家は山十と稱し、三十數年前より材木業

を經營してゐる。



當町の中
堅として
頗る人望
を集め、
現に町會
議員に推
舉されて

氏は明治十五年八月に生れ、町政に參劃し傍ら材木業に於ても重きをなし、天龍材木同業組合太田川支部長、天龍材木商組合評議員、静岡材木商組合聯合會評議員等を兼任してゐる。同家材木業の經營は古くその堅實なる營業振は近縣に知られてゐる。

静岡、駿東、足柄村

農會長 鈴木 重治

當家は代々農耕を營み、村内有數の舊家で、當主重治氏はその二十五代目にあたる。嚴父倉藏氏は、村會議員、區長代理等

を歴任した名望家であり、また、篤農家



としても
知られて
ゐる。
重治氏
は明治三
十一年十

月十五日、先代倉藏氏の長男として生れた。夙に信望あり、村會議員、農業保險組合長、警防團分團長、區長等を歴任し、現在は村農會長として農業の發展に盡瘁し、養蠶實行組合長、造林委員、村會議員、産青聯顧問として、地方自治に、或は産業に大重の活躍を續けてゐる。氏は園藝、讀書を趣味とする、温厚明朗の紳士である。宗旨は曹洞宗である。家庭には嚴父倉藏氏、母堂かつ刀自今なほ健在であり、令闈りんさんとの仲も琴瑟相和し、養女みゑ子さんは目下、松田高等女學校に在學中の才媛である。

高知市南與力町

門田 作治 商店

電話四四〇番



と多角事
業經營に
奮勵し、
就中原料
難深刻な
るバルブ

製紙原料、マニラロープ原料並に鑛業と多角事業經營に奮勵し、就中原料難深刻なるバルブ業界に需給の圓滑化を圖るべく國策の線に副ひつゝ利害を超越して盡瘁しつゝある門田作治氏は明治十八年長岡郡長岡村に出生、長ずるに及んで神戸サミニール商館に勤めたが昭和元年同商館の閉鎖に依り退社した。其の後、氏は文字通り波瀾重疊の人生航路を乗切つて來たのである。

即ち高知市に於ける遠洋漁業、高岡郡下に於ける鑛業、或はニュージーランド麻

の栽培等に、幾度かの浮沈の境にあり遂に今日の成功をみたのである。

因に同店のマニラロープ原料生産部門は天草米津の九州工場四國多度津工場等各地にあり、又鑛業部門は高岡郡下にマングン鑛山を經營してゐる。

静岡、駿東、原里村

村會議員 長田 竹次郎



當家は、慶安年間より連綿として續いた、當村切つての舊家であり、代々農耕をもつて生業

として來た。

先考甚四郎氏は、公共の精神に篤く、組長、衛生組長等を兼任して名望のあつた人である。當主はその長男として明治十四年十一

月十五日に生れた。夙に聰明穎悟、長ずるに及び人望をあつめ區長、産業組合監事、氏子總代、消防部長、更に、衛生組長、農會長、養蠶組合長、青年團長等を兼任して三面六臂の活躍をつづけ、又村會議員として村政に協力し、村内の重要人物となつてゐる。

氏は、有畜農業殊に、養豚を奨勵し堆肥による肥料の自給自足を提唱し、又青年團長として青少年の指導にあたり、あらゆる指導機關を動員し、有爲なる人材を育成するため、懸命の努力をつとめてゐる。又養蠶組合長として養蠶を奨勵し、當區は村内隨一の收穫をあげてゐる。家庭には令室けいさんとの間に二男四女あり、人も羨む圓滿さである。

静岡、駿東、原町

町會議員 蘆川 喜一

當蘆川家は原町屈指の舊家にして、ま

た篤農をもつて知られてゐる。



先考村
次郎氏は
生前に、
町會議員
常設委員
等の公、

名譽職を勤めて自治にいたく獻身するところがあり、今なほ町民から慕はれてゐる。

氏はその長男として明治十七年十一月に生れた。家業に精勵せしも壯年にいたり分家、建築木材商を獨立經營して今日の財をなすに至つた。資性温厚にして圓滿、曩に區長、統計調査委員に村民の信望をあつめ、更に町會議員に推舉せられ町政に干與する他、學務委員、産業組合監事として活躍してゐる。

氏は旅行、書畫、園藝、義太夫等を趣味とし、家宗は曹洞宗である。

家庭にはきよう夫人との間に、長男太郎氏、同令室たか子さんあり圓滿なる家庭を営んでゐる。

庭を営んでゐる。

高知、吾川、伊野

製紙業 深見 猪久治

當町近郷で深見家と云へば當地方製紙業功勞の家として、誰知らぬ者もない程である。



に盡瘁し、技術の研究、業界の伸展に資して來た家柄である。

即ち

現主

深見

猪久

治氏

に至

るま

で四

代に

互り

新業

往昔は天産物豊富なる當地方では製紙業の如きは全くかへり見られなかつたが深見家の祖先の撓まざる努力に依り當地方今日の隆盛を招來したものである。氏は明治十二年生れ日本紙業の前身たる土佐紙工場に勤務する事十七ヶ年、工場長にまで榮進したが後、同社より現在經營の工場を譲り受け獨立し今日を築いた立志傳中の人である。氏は町會議員として自治に貢獻多く、趣味は觀劇、謠曲、角力。家庭には三男四女がある。

静岡、駿東、小泉村

農會長 鳥澤 三平

當家は代々篤農家として知られ、村内屈指の古き家柄である。先代由太郎氏は生前村會議員、區長、學務委員等を歴任した名望家であつた。氏はその長男として明治十九年六月十五日の誕生である。

夙に人望あり、消防部長、區長、在郷



軍人分會
副會長、
助役、收
入役等を
歴任して
村政自治

に貢獻した。現在は農會長、學務委員、其の他の公、名譽職を兼任して大いに産業上その他に活躍してゐる。

殊に氏は、自給肥料の實施、家畜飼養及び雑林の整理等の問題を研究、これが實行を叫んでゐる。釣、讀書、園藝を趣味とする温厚篤實の人格者で、村民の信望極めて厚い。宗旨は淨土宗。

家庭には母堂、夫人、長女の平和な暮しである。

高知、吾川、伊野

上田商店
取締役社長 北添 春喜

本縣製紙並に製網業界に君臨してゐる

株式會社上田商店、取締役社長北添春喜

氏は地方財界の大立物、同商店の外にも株式會社土佐製網所を初め、合資會社丸大商店、合資會社土佐紙商會等の實權を牛耳て、三面六臂の活躍を續けてゐる。

氏は資性寛仁大度にして、才腕ある實業家として知られ、事を成すに當つては沈黙考一度意を決するや斷乎として如何なる確害をも排して進む行動派でもある。

氏は又幾多の公職にもあり、絶倫の精力を注いで地方産業の伸張に、地方自治の發達に盡瘁し、枚舉に遑ない程の功績を残してゐる。

尙株式會社上田商店は氏が直接に間接に參劃する多くの事業の中核をなすもので常務取締役今村一正、同上田重八、同上田升吉、監査役大隅馬吉、同上田富五郎氏等の重役陣の下に、伊野町本社、名古屋支店の營業システム、伊野、井口、國分の三工場を生産部門に有し一意生産擴充に邁進してゐる。

静岡、駿東、原町

原尋常高等小學校

電話三四番

當校は、明治十九年七月廿二日私立學舎を合併し、袖師小學校とし、同二十年七月原尋常小學校と改稱、更に同二十六年原尋常高等小學校と改稱し現在に及んでゐる。

當校の功勞者は、庄司松太郎、庄司一雄、旭初雄の諸氏であり、現任の職員は校長青木與三郎氏ほか三十二名である。かくしてその教育方針としては聖旨を率體し、殊に體育に主力を注ぎ衛生施設の完備と相俟つて縣下優良校と稱されてゐる。

校長

從七位

青木與三郎

當家は、武田信玄の末裔で、先代岳父卯之吉氏は七十三歳の高齡にあるも矍鑠として壯者を凌ぐの意氣あり、會つて町

會議員、商工會議員、産業組合理事等の



要職につ
いて、そ
の功績を
遺し、現
在は金屬
工業に従

事してゐる。

氏は明治二十四年三月七日の誕生、山形師範學校を卒業、縣下育英界のため獻身奉公し、昭和十二年その功績顯著なるをもつて従七位を授與せられ、資性濃厚篤實、庶民の信頼極めて厚く、讀書旅行に興味を有し、宗旨は禪宗である。

家庭は令閨たかさん長女伸さん婚養子義男氏あり、同氏は目下静岡師範專攻科在學中である。

静岡、濱名、白須賀町

龍谷山 藏法寺

當山は地藏菩薩を本尊とする曹洞宗の



本堂

つた。
本寺は、可睡濟にして、末寺には松香寺、西光寺、安樂寺、靈法寺、龍守寺、慶雲寺、京福寺、長松寺、本覺寺、重平堂、庚申堂等がある。

名刹である。

開創は、七百年以前開基は混山靈頓和尚にして、開山は琢翁宗眠和尚である。古くは徳川家の御休所となり、御朱印

寶物としては長くも 有栖川宮家より

賜りたる御扁額が秘藏されてゐる。また附近には著名なる潮見觀音がある。

現住職は井上正隆師である。

住職

井上 正隆 師は愛知縣の出身にして明治三十二年三月二十五日呱呱を



日本大學宗教科を卒業、佛道に研鑽を積み當寺十九

世の住職となつた。爾來布教に努力を續けると共に、司法保護委員、方面委員等の要職を兼任して、ますます寺運の發展につとめ、年齢四十二歳なれど深く信心に徹し、碩學高僧の善知識として地方民の信望を一身に聚め、師の説教に接せんと遠く杖を引く善男女が多いといふ。

静岡、濱名、和木村

天龍木材株式會社

東海道一を誇る當會社は明治四十年四月十九日資本金二十五萬圓を以て創立、



會社全景

年の製材總額は實に三十二萬石以上に達すると云ふ盛況を示してゐる。原木は内地材、殊に天龍材を主とし、米材沿海洲

今や名古屋、東京、市、東北、市の三箇所に支社を設け、一ヶ

材を加へ近時臺灣檜材にも及び、新たに羅東工場を設ける等、益々製産能力を増してゐる。

現在資本金百五十萬、社員六十名を數へ、使用人一千名に達し、その飛躍は業界の注視の的となつてゐる。

取締役社長は鈴木信一氏、専務取締役は稻勝清三郎氏、常務取締役鈴木寛剛、瀧口彦四郎、飯田清の諸氏。取締役は大庭與市氏、監査役は大崎源一郎、河合佐十、中西新作の三氏で、また、營業部長には伊藤眞一氏が就任し、一致協力、社運の伸展に努力してゐる。

静岡、濱名、和地村

和地郵便局

當局は昭和二年、初代局長牧田猪和太郎氏及び村内有志により三等郵便局として開局された。局長始め、局員一同の努力に依り日増に業務多忙を極め、良好なる成績をあげてゐる、殊に郵便貯金の如

きは近村郵便局中の第一位であり、監督官廳より表彰及び多數の感謝狀を授與された。

開局當初の功勞者牧田猪和太郎氏は、その功績により監督官廳より榮譽ある表彰を受けた。

氏はまた日露戰役に從軍し、數々の武功を樹て、勳八等に叙せられた老勇士である。

局長 今田 鶴吉

氏は明治二十八年の生れ、代々農をもつて業とせしも、昭和十二年九月より今日の遞信事業に轉業す。

濃厚篤實局務に精勵してゐる。

夫人との間に一女あり、圓滿なる團樂をなしてゐる。

局長代理 牧田 和泉

氏は、大正元年の出生、前局長牧田猪和太郎氏の長男であ

昭和十二年尊父他界と同時に、その後



心を誠意當局の發展に盡瘁してゐる。

石川、金澤市殿町

市會副議長 前川 吉榮

電話一〇二二番

氏は先考榮太郎氏の長男として明治三十五年三月十八日生れた。幼にして穎悟俊敏の聞えあり、早稲田大學政經學部を優秀の成績を以て卒業し、昭和二年見事に高文試験をパスし、學友羨望の的となつてゐた。曩に市會議員候補として出馬するや、見事高點を以て當選し、在任已に三期に及び、その間當市に寄せた功勞は偉大であつた。



在り、他産業組合理事をも兼ね、眞に寧日なき活躍をして居る。又曩に、滿洲國を視察し、以

て當村の農事經營の改善に銳意力を盡した。因に實父虎松氏は先に村會議員に推され、現在は名區長の評ある自治功勞者である。家庭には夫人との間に子女十名の子福者、長男は同村收入役、二男は海軍々人三男は金澤縣立商業の職員、四男は關東軍に在り、夫々將來を囑望されてゐる。

石川、鳳至、諸岡村

村會議員 角谷 嘉一郎

電話黒島 六番

角谷家は代々水産を業とする舊家で、氏は現區長虎松氏の長男として明治二十七年に生れた。資性温厚篤實寛仁廉直の大器、而も風格重厚で愛郷心に富む。先には學務委員として育英に寄與し、小学校講堂建築の如き全く氏の力に依るものである。現に村會議員として二期其任に

靜岡、小笠、佐倉村

信用販賣組合 佐倉村

電話三〇番

本組合は大正十年四月農村經濟の振興を圖るべく創立され、當初は有限責任佐

倉村信用販賣購買生産組合と稱した。

その後大正十三年生産の呼稱を廢して利用となし、昭和八年保證責任に改められた。

本組合は事業成績優秀なるため、大正十年三月縣知事から獎勵金を交附されたことがある。

現任役員は組合長理事清水操一、事務理事小川春太郎。

理事水野信一郎、水野彦治郎、水野匡鴨川晋一、山本信。

監事増田勝平、今村茂平、増田文六の諸氏である。

組合長 清水 操一

氏は明治二十三年の出生にして、俊敏の氣性に富む人物である。

昭和六年本組合長に推され、爾來組合の進展に盡力し、傍ら、郡聯合分會長、村會議員、村農會長、方面委員、郵便局長等の公職に携はつて、寄與貢獻してゐる。

靜岡、濱名、入野村

金龍山 陽報寺

當寺は釋迦如來を本尊とする臨濟宗妙心寺派の寺院にして、開山は勉盲助和尚にかかる由緒ある古刹である。

境内には本堂、庫裡、觀音堂、威徳天堂、外、門内門、地藏堂等、葺を並べて聳立してゐる。また、年中行事として八月十二日に施餓鬼を行ふ。

現住職は鹽谷月扁氏にして、副住職は今井正邦氏である。

靜岡、濱名、南庄内村

藤谷山 宿蘆寺

當寺は、釋迦如來を御本尊し、曹洞宗に屬する古刹である。



文正元年濱松普濟寺の命

天慶春和尚の開山であり、また、開基は佐田城主堀江下野守にして、城主大澤家の菩提所であつた。寶物として、秘藏されてゐるものは袈裟大澤公所持の槍等である。

住職 鹽谷 月扁

師は明治十五年十月の生れにして、永らく東京牛込の月



桂寺に修業し、明治四十年當寺住職となつた博學明識

本寺は普濟寺にして、末寺は法幢院、石雲寺、大幸寺、廣福寺、大岩寺、正太寺、無量寺でその他四ヶ寺がある。境内は約三町歩にして檀家は現在約五百戸



本堂
行事及び餘に
は十月十日
に開山忌
を行ひ、
特殊行事

法寺に十五年間住職として在職し、昭和十四年四月當寺住職となり、夙に高僧の譽高く、村民から普く信頼されて居る。

田源一郎氏、佐野七藏氏、谷野榮太郎氏が擧げられる。現在理事九名、監事三名からなつて居り、現組合長は谷野榮太郎氏にして、現役員と協力一致村民の福利増進を計つてゐる。

大久保 信用購買 販賣利用 組合

電話入野四一番

當組合は大正五年五月二十三日有限責任大久保信用組合として創立したものであるが、逐年業務の擴充を見るに及び、昭和八年保證責任大久保信用購買販賣利用組合に變更され、現在は四種事業兼營である。販賣の主なるものは鶏卵、大麥、小麥米等である。

組合長 谷野榮太郎

氏は明治七年十一月生れにして、永年役場に奉職し、助役として村民の信望頗る高かつた。尙村會議員、區長等に推輓され多大の貢績を遺してゐる。

現在組合長たるの他、學務委員、方面委員大久保報徳社長等を兼任して手腕を揮つてゐる。

石川、鳳至、本郷村

元村長 大江 正友

大江家の始祖は、戰國時代の武將に發すると傳へられる舊家で、氏は嘗て本縣農業技師として活躍した人で、先考辰三郎氏に望まれて、その家督を相續した。

としては初靈祭がある。

住職 小原 良碩

師は、明治三十二年に呱呱の聲をあげた。大正十一年駒澤大學を卒業、のち三河國八名郡八名村正



先には二期に互りて村長の樞職に在り、縦横

の才腕を振ひ、産業の發展に村勢の隆興に匪勉是努め、其治績顯著なるものがあつた、現在推されて村會議員(三期)、農會長(二期)の任にあり。當村再興の恩人として各方面より尊敬慕されてゐる。又氏は敬神崇祖の念篤く、氏子總代に擧げられ、他眞宗に深く歸依し、其菩提寺の檀徒總代となつて居る。

静岡、濱名、新所村

新所村 役場

本村は濱名郡の西部に位し、新所、岡崎、梅田の三區に分れ、南部は平坦にして、北部は丘陵である。

中央に縣道鷲津二川線あり、鷲津驛へ約二里、バスの便ありて交通は便利である。

當村の名勝は女河八幡宮、天神山の老松、藤次山、城山、嵩山等である。

現在村長菅沼周藏氏、助役田中藤三氏収入役は忠内幸平氏である。

村長 菅沼 周藏

氏は明治九年二月十日の生れ、區長として、二十年勤続し耕地整理組合長として、昭和三年より同十二年まで、活躍、昭和十四年十二月九日村長に推輓され、村治に貢獻するところ頗る多大にして、村内の重鎮として豊富な經驗に基きます。手腕を揮つてゐる。



に職を率じ各地に歴任して功績が多かつた。歸村後、

衆望を得て、推されて漁業組合長、學務委員、養蠶實行組合理事兼同副組合長、産業組合理事、區長等の幾多樞職に在り水産に農業に養蠶に將又家畜の奨励に渾身の才幹を發揮して、銳意その改善に奮闘努力の結果、衰退せる昔日の居村を今日の隆昌を見るに至らしめ、各方面より慈父の如く長仰敬慕されて居る。家庭には男女五名あり、長男は入營中である。

石川、鳳至、諸岡村

漁業組合長 岩田 文太郎

岩田家は代々農業、水産業に惠念せる舊家で、氏は先考熊太郎氏の長男として

静岡、濱名、知波田村

信用販賣 購買利用 組合 知波田村

當組合は大年十四年四月二十二日有限責任組合として、村長藤井安三郎、収入役折浦源三、區長代表石田安一郎三氏の主唱により設立した。後昭和八年四種事業兼營、保證責任組織と變更す。

また、本組合の特色として産業組合青年聯盟少年隊がある。尋常科第四學年以上の有志男女學童を以て組織し、學校職員並に、組合職員が指導監督に當つてゐる。隊長一名、部長六名、組長若干名より成り、産業組合精神の普及徹底に關する活動、村勢全般に對する基本調査、組合事業に對する勤勞率仕等をその目的としてゐる。

現組合長は、石田安一郎氏にして、村長、養蠶實行組合長の要職を兼ね、當村産業の進展に一身を捧げ、人望頗る厚く自治公共の功勞者である。

専務理事
杉浦 源三

氏は明治三十五年の生れにして、収入役として精勵するところがあつたが、組合創立當時主唱者と

なり、以來専務の重責を擔つて現在に至つてゐる。その他西遠部會の産青聯の幹事長を兼ね、非常時局下農村經濟を双肩に負ひ、少壯よりその職責を全うして、顯著なる功績をあげてゐる。

静岡、濱名、知波田村

豊立山 妙安寺

當寺の開基開山は日導上人にして、顯本法華宗に屬し、本尊は久遠實成釋迦牟尼佛を安置してある。

應仁二年本寺妙立寺六世日典師が信徒の願ひに依り小知波村へ釋迦堂を建立したのが當寺の起因であり、天正年間の末に至りて、現在の地に移轉したものである。

本堂、庫裡、山門、藥師堂、位牌堂等の堂宇が立ち並び、輪奐の美を極めてゐる。行事は舊二月二十八日の開山忌、四月八日釋尊會、七月十五日盆、十月十二日

の御會式、十一月二十八日鬼子母神、毎月十二日、二十八日は月例會がある。現住職は明德の譽れ高き塚越通曉師である。

住職

塚越 通曉



師は明治十二年四月十七日群馬縣に生れた。始め千葉縣最二代の住職となり同郡新所村妙經寺の住職を兼務して

現在に及んでゐる。曩には日曜學校を開始して思想の善導に貢獻するところがあつた。また、師は宗會議員としても、地方佛教界に令名を馳せてゐる。家庭には、内助の功多き令閨との間はいとも睦まじく、近隣も羨む圓樂をなしてゐる。尙趣味は讀書を好んでゐる。

石川、鳳至、黒島村

助 役 藤谷 喜三次



として令名ある素封家で、又桑栽培家として知られて居る。氏は先考喜太郎氏の長男として明治二十八年十月二十七日に生れ、年少すでに俊英を以て知られて居た。福井縣立小濱水産學校を優秀の成績にて卒業、樺太廳水産課に奉職十數年、其の間水産業の改善に寄與されたもの屈指に餘りあり。後歸村され、昭和十二年推されて助役の樞職を執掌し、村治に拮据勉勵する傍ら産業組合幹事として努力し、其の業績に見るべきものがある。氏は資性温厚篤實で、しかも敬神崇祖の念に富み、

曩に二千六百年記念事業として、村社若宮神社の昇格を計り、鋭意其の實現に腐心して居る。尙同家の宗旨は眞宗で、罕に見る信心家である。家庭には母堂、夫人、令息二人あり和氣藹々近隣に羨望されてゐる。

富山、婦負、細入村

不怠山 上行寺



當山は法華宗の古刹である。もと、新川郡蘆生村に四世日成氏が建立したのであるが、その後天文元年に至り、婦負郡檜原村の法雲寺に移轉した。

從つて、現在の檜原村上行寺は初め法雲寺と稱し、眞言宗の寺であつた。天文二年、昌山重忠の菩提を弔ふに至

り、日宗寺とも呼んでゐたが、その後不怠山上行寺と改稱したものである。寺には、重忠公の遺物、日連上人の眞筆、涅槃像等が藏され、三月十五日に涅槃會四月二日祠堂大法會、十一月十三日に御會式等の行事を行ふ。

住職

荒井 全曉

師は富山住職として令名高くその高德博識は洽く近隣に聞えてゐる。宗界に於ても重きをなし、現に宗會議員を三期に互りつとめてゐる。

静岡、濱名、吉野村

吉野 郵便局

當局は大正十五年十二月、時の村長たりし北村傳三郎氏によつて開局せられたものである。現在三等普通無集配郵便局にして、貯金、爲替事務、電信電話事務をそれぞれ取扱つてゐる。局長は、初代局長北村傳三郎氏にして

現局長秋葉定雄氏は二代目である。

局長

秋葉 定雄

てゐる。

當家は代々篤農をもつて開えてゐた現在には通信事業に轉じてゐる。



氏は先代竹三郎氏の男として明治三十二年の出生、夙に篤農家として知られてゐる。濃厚篤實にして、村民の信望極めて厚く、村會議員に當選すること三期、村政自治に貢献する事大である。嘗て用水議員、國勢調査員、土地賃貸借委員として活躍した。家宗は眞宗を信奉し宗教的信念極めて篤く、二男一女を恵まれ、霽々とした家庭である。

産業組合理事等の要職を歴任し、現に學務委員、産業組合理事に重任してゐる。資性濃厚、二代目局長として、その重責を果してゐるのである。家庭は一男、四女に恵まれ和樂のまどいをなしてゐる。

富山、東礪波、太田村

村會議員 佐伯 他人郎

同が努力してゐる。

曩に松崎町青年團長、西伊豆支部長等に在つて



青少年の訓育に盡瘁し、いま又、警防副部長として、事變下の警防任務を全うしてゐる。

氏の趣味はスポーツ、釣、撞球等である。

信仰は臨濟宗にて、家庭は母堂とくさん健在、令室ゆい子さんと長女叔巳さんがゐる。

富山、東礪波、北野村

元村長 勳八等 宮本 利一郎

氏は當村切つての素封家として、近郷近在に知られた先代和平氏の長男として生れた。

氏は明治二十年八月二十五日の出生、夙に篤農家として知られてゐる。

濃厚篤實にして、村民の信望極めて厚く、村會議員に當選すること三期、村政自治に貢献する事大である。嘗て用水議員、國勢調査員、土地賃貸借委員として活躍した。

家宗は眞宗を信奉し宗教的信念極めて篤く、二男一女を恵まれ、霽々とした家庭である。

静岡、賀茂、松崎町

豊崎旅館

電話七〇番

當旅館は大正二年に創業された。十一室の客室を有し、收容人員三十名閑靜な趣きに満ち、娛樂機關等も完備してゐる。

營業方針としては、あくまで顧客本位にて懇切なる奉仕振りを示し、静岡縣東京逓信局、静岡聯隊區司令部等の各方面に勇戦拔群の功を樹て、勳八等に叙せられた。

明治廿七八年戦役に従軍し、旅順奉天方面に勇戦拔群の功を樹て、勳八等に叙せられた。資性濃厚早くより村治、産業の振興等に寄與し、村會議員として推輓せらるゝやよくその任を果した。

就中、産業組合設立なるや理事の任につき組合員の融和組合の伸展に努め、又耕地整理を提唱しその改良にあたり、或は又有畜農業を奨励する等枚擧に遑がない。

今や人望いよ／＼高まり助役を経て村長の榮職にあり誠心よく村民の期待に答へてゐる。

尙高齡にもかゝらず學務委員、方面委員等の任につき矍鑠として活動してゐる。

富山市鍛冶町

齒科 佐渡 喜一郎

電話富山三五二番

面の指定旅館にて、著名士の宿泊多い。



當旅館の全景

先代吉太郎氏の時、當旅館の經營を創めたもので、先代は松

館主 豊崎 雄吉

崎町旅館組合長の榮職を務めた人である。

氏は吉太郎氏の長男として明治三十七年九月二十二日に生れ、東京築地に在る工手學校電氣科を卒業した。以後父君吉太氏の遺業に精勵し今日に至つてゐる。頃來温泉を開設すべく氏を始め町民一

當醫院は創業廿五年に及び市内隨一の技術と信用がある。

氏は縣下中新川郡の出身、少年時代笈を負つて上京し具さに齒科醫術を修學、研鑽數年にして遂に資格を獲得、錦を飾つて郷關に歸つた苦學力行の人である。大正五年永年の苦闘は遂に實を結び當市に開業の運びに至つたもので爾來氏の優秀なる診療に患者の殺倒をみてゐる。現富山市齒科醫師會々長、市立清水小學校々醫等に推されてゐる。

静岡、賀茂、下田町

浦賀屋旅館

電話下田一九番

下田町は伊豆南岸の良港で、唐人お吉の哀話は餘りにも有名であり、觀光の地として聞えてゐる。

當旅館は明治三十九年の開業である。經營方針は専ら堅實を旨として十一の客室を有し、五十人の旅客を收容するに足

る。

名勝舊蹟としては、源為朝の庶子為宗の建立と云はれる海善寺、日米條約、下田條約、議定の時使用された了仙寺、日露條約締結の地たる長樂寺、又鶴島は町の南端にあり、北條氏築城の古跡で、公園になつてゐる。

交通には東京灣汽船により東京大島下田の汽船便があり、東海自動車全線は各地に至る便がある。

館主

中村忠兵衛

氏は下田町廣岡町中村筆助の四男にして、明治二十八年の出生である。現在業務多忙の傍ら下田復興委員、在郷軍人副會長、消防組員、下田旅館組合長等の要職に推されて、よく地方自治に貢献し、當町の發展に盡力してゐる。

氏は愛郷心に富み、資性誠實にて人々の信望極めて厚きものがある。家庭にはテル夫人との間に、二男一女があり、圓滿を極めてゐる。

静岡、賀茂、中川村

警防團長 藤井 桂



當家は中川村有数の舊家にして、累代農を本業とし、傍ら精米業を営み、既に九代を経てゐる。

祖父清次郎氏は、夙に地方自治に干與し、村會議員、區長及び消防組頭等を務め、當村切つての名望家であつた。

氏は明治三十一年四月十四日に先考久作氏の次男として呱呱の聲をあげた。

夙に自治及び産業方面に力を致し、嘗て中川村信用販賣購買利用組合の理事として活躍した。現に警防團長として、純後の國民の本分を果してゐる。趣味は釣、盆栽等にて、又、臨濟宗の

信仰に深く菩提心に富んでゐる。

家庭には、嚴父久作氏六十七歳にて尙ほ壯健を誇り、令室るい子さんとの間に二男三女がある。

富山、射水、小杉町

縣會議員 老田 伊三郎



電話小松町五番

先代伊三郎氏は永らく町長として幾多の功績を残した人である。當主は大正十五年家督を相続し同時に襲名したもので、先代よりの

吳服太物商を止め、農業を以て主業として現在悠々自適の生活を送つてゐる。氏は助役、町長の公職を経て現在、縣會議員に推され、地下水道の建設、道路の新設及び改修等に奔走し、小杉町外五

ヶ村の併合問題・港灣計畫・山場誘致等は氏の懸案である。

以上を以て氏が如何に町の發展の爲に盡瘁してゐるかを窺ふに足る。夫人も亦愛國婦人會々長たりしことあり、目下なほ國防婦人會幹部として活躍してゐる。一男四女あり圓滿な代表的家庭として町内の美望の的である。

静岡、賀茂、稻生澤村

蓮合寺温泉

掛塚屋旅館

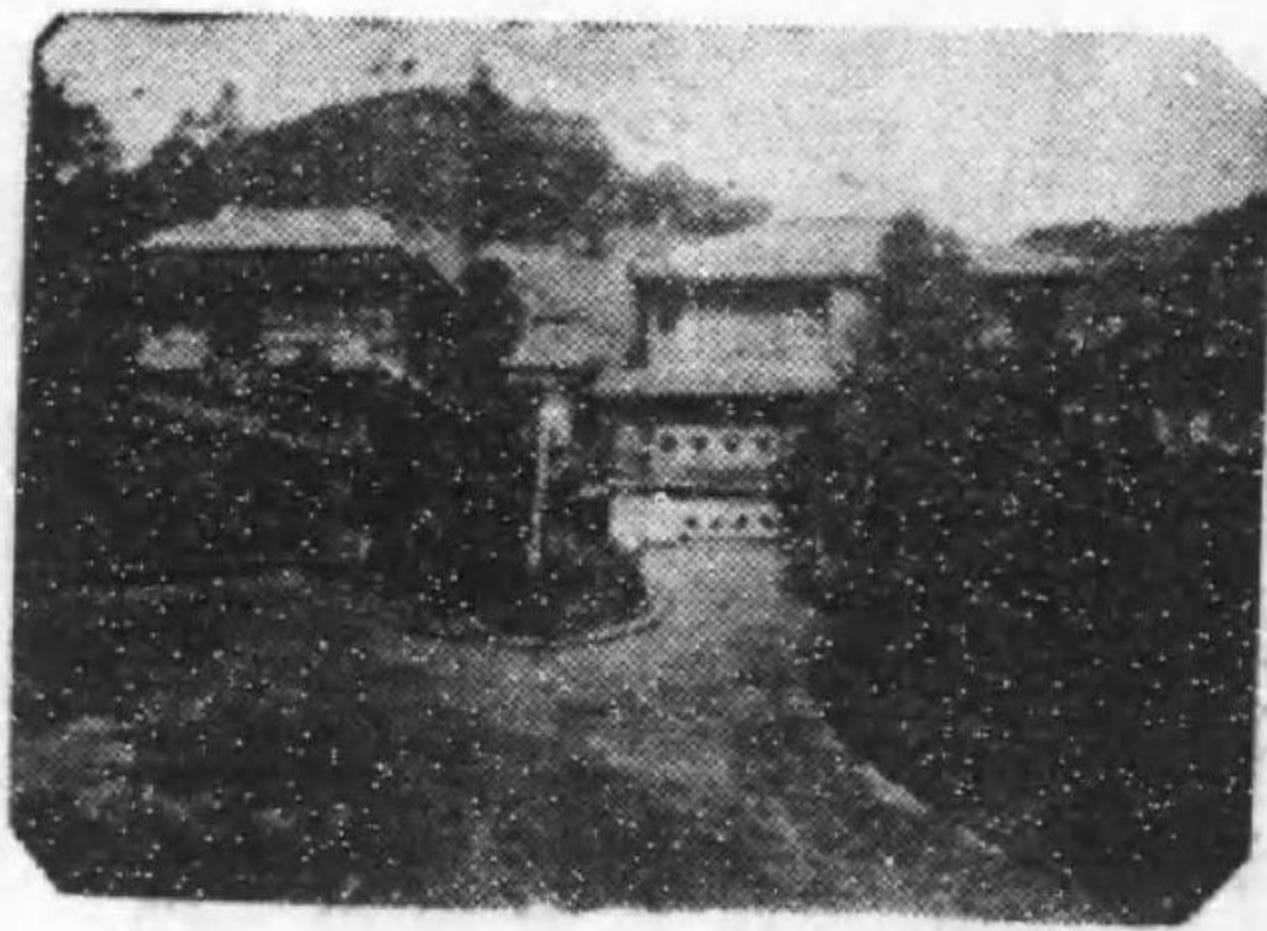
電話一三四番

當温泉旅館は創業二百年前といはれてゐる。

蓮合寺温泉は下田より約一里、修善寺驛より南十二里半の所にあつて、今より一千二百餘年前に高僧行基の發見にかか

る由緒の深い温泉である。客室十五、其の收容人員五十餘人であり、浴場は元より諸調度、娛樂機關等完備し、ツーリスト・ビュロー及び東京遞

信局、静岡縣廳、東京市電共済組合の指定旅



館あり附近有名勝風景に富んでゐる事は周知のとこ

經營者

山梨 伊助 氏は當村中田權次郎氏の四男として明治二十七年十月十日

に生れ後、山梨家に養子となる。養父伴藏氏は益々壯健を誇り、現在村會議員學務委員等に歴任して自治に功勞が多い。

氏も亦、區長、消防組頭、國勢調査委員等を勤



め、當村の發展に盡してゐる。家庭は

令夫人コウ子さんとの間に、三男二女あり、長男康一君は豆陽中學校在學中である。

静岡、賀茂、下田町

下田温泉ホテル

電話一七八・八番

當ホテルは、昭和十一年七月に開業され、其の近代的設備を南伊豆に誇つてゐる。

大小の浴室八箇、噴湧量は豊富である客室三十五室、大廣間、應接間、娛樂機關等あらゆる點に互り完備してゐる。ツーリスト・ビュロー及び鐵道省指

定にて、宮家御滞在の、光榮に浴してゐる。



下の田町、黒船の代名、所蹟十ヶ所、算へ、

附近又温泉を以て鳴る。

經營者 飯沼 一郎

氏は明治四十三年六月十一日生れ、早稲田大學に學んだ。氏の一家は信仰心極めて厚く、平和にして圓滿な家庭である。而して笑聲の絶ゆる事なく、常に和氣の霽々たるものがあり、美まれてゐる。



昭和十二年四月、支配人となり、爾來營々として伸展に努め現在の隆盛を築きあげた。

富山、水見、窪村 村會議員 西川太郎兵衛

氏は明治十六年一月、同村の篤農家故太郎兵衛氏の長男として呱呱の聲を挙げた。先代も村會議員として自治に功勞多かつた人である。

當主は日露戰役の勇士で勳八等に叙せられてゐる。

尊父没後家督を繼ぎ益々家業に精勵する傍、村會議員、警防副團長、耕地整理組合長、産業組合幹事等の公職にあり自治産業の發達に貢獻多く、就中耕地整理には文字通り寢食を忘れて盡瘁したので

静岡、駿東、須山村 須山村役場

當村は御殿場の西北に位し、富士登山口の一つである。東海道線裾野驛へは約三里、御殿場町へはバスの便がある。

産業は農産を主として畜産、林産、工業がこれに次いでゐる。目下養蠶及植林事業に改良、研究を加へ逐年、産額を増してゐる。

村長 渡邊 政藏

當家は須山村屈指の舊家にして、また篤農家として知られてゐる。

當主は明治十八年七月十五日、故眞田淺次郎氏の二男として生れ、須山家の養嗣子となつた人で資性濃厚篤實、村民の信望を集め、嘗ては村會議員、學務委員收入役、助役等の要職にあつた。現に推されて村長の重任にあり、大いに村政のために盡瘁しつゝある。氏はまた、銃後奉公會長、村農會長、産業組合長、村會議員として寧日なき活躍を續けてゐる。

富山、永見、上庄村

自治功勞者 東庄次郎

元來當家は村内屈指の舊家にして家長は代々「庄次郎」を襲名、家督を相續する慣例である。現主庄次郎氏は篤農家として知られた。先代庄次郎氏の長男として明治十三年呱呱の聲を挙げた。名譽助役村會議員、學務委員、産業組合理事等を歴任し村自治のために寢食を忘れて奔走することゝに廿年に及んでゐる。資性濃厚篤實、常に溫顔に微笑をたし

へ、人に接するに殷懃である。かつて郡教育會より自治功勞者として表彰をうけ銀盃一組を授與された。

趣味は讀書、西本願寺に歸依して厚く家庭には夫人との間に永見郡加納小學校に主席訓導として奉職する長男あり。愛孫等にも恵まれ一家喜々として圓滿である。

静岡、駿東、原町

醫師 旭 初雄

電話三一三番

氏は、明治三十一年十二月十九日の生れ、東京醫學專門學校を卒業後、昭和四年より當町に醫師を開業した。

曩に澤病院の副院長として、實際臨床の體驗を積んだ。今や、その博大なる學識と、優秀なる技倆を發揮し、世人の信望をあつめ、患者の評判もすこぶる高い。氏は現在警防團本部長として銃後治安

静岡、駿東、高根村

高根村 須走村 組合村役場

高根村は、御殿場町と須走村の間にあり、一帯に富士の森林で、山岳地帯である。御殿場驛へ約一里半、バスの便が通じてゐる。

須走村は、富士登山で有名な須走口のあるところで、須走は砂走りの意味である。富士山爆發のとき爛沙飛灰の降下殊に多く、寶永四年の爆發のときの如き須走の村里災害は最も大であつた。今も地底丈餘の下に當時埋没の家屋を探索する事が出来る。組合村役場は塚原にある。

兩村住民の大部分は農耕に従事してゐる。

組合長

土屋 賢三

土屋家は高根村屈指の舊家で、代々農に従ひ、素封家として知られてゐる。

先代秀雄氏は、村長及び助役等を歴任し、稀れに見る令望の人で、今なほ、健在で村人の敬仰を集めてゐる。

富山、氷見、余川村

産業組合長 金田 昇治

當主はその長男として、明治二十二年二月一日に生れた。御殿場實業學校に教諭として教育界に盡瘁した。後助役を経て、村長に就任し、現在更に銃後奉公會長、沼津駿東郡養蠶業組合高根支部長、産業組合理事、郡養蠶代議員、日赤終身社員を兼任し大重の活躍をなしてゐる。

當家は代々農を業とする舊家で、先代金次郎氏は縣會議員、村長、村會議員等を歴任し、當地方に於ける自治功勞者として知られた人である。

印野村役場

静岡、駿東、印野村

本村は駿東郡の北部、富士山の東麓に位してゐる。

村内は印野、堀金場上、揚中、揚下、萩原の六字に區劃され整然たる自治制度によつてゐる。

名所として御胎内印野公園等がある。大日堂は印野の南端にあり、大日如来、及子育不動尊を安置してゐる。

村長

當勝間田家は印野村内切つての舊家で代々農耕に従ひ、素

助役

勝又 曙作

氏は明治十八年十月二十五日横山浦治郎氏の二男として生

封家としても知られてゐる。

兵吉氏の長男として氏は明治十九年一



月二日に生れ、菰山中學校の出身である。

村長として既に五期を閲し、駿東郡町村長會長村産業組合長、農會長、銃後奉公會長、静岡縣農地調整指導員、沼津市畜産組合副組合長等を兼任してゐる。

助役

岩瀬市太郎

氏は故常五郎氏の長男として明治十八年六月十三日に生れた。村會議員、収入役、消防組頭を歴任したが、目下助役として村長を輔佐任を完うしてゐる。

静岡、駿東、靜浦村

靜浦村役場

富山、下新川、大家庄村

龍尾山 天香寺

本寺は藥師如來を本尊とする曹洞宗の

當村は駿東郡の最南端に位し、風光頗る明媚の土地である。民家は白砂青松の間に點綴し、志下、馬込、獅子濱、江浦多比、口野の六區に別れてゐる。

本村は元の江の浦で近海の漁船碇泊場であつた。現在に於ても住民は主に漁業並びに海産物の製造にあつてゐる。

南部では柑橘、北部では蔬菜、早生栽培も亦重要な生業となつてゐる。

村内には村社八、無格社五の外、楞嚴院、龍雲寺、本能寺其他幾多の神社佛閣があり村人尊崇の的となつてゐる。

海岸には志下、馬込、獅子濱、江浦、口野の各海水浴場があり、又多比の千疊岩の如き奇勝もある。

當村は沼津と菰山との間にバスの便がある。現村長は増田由藏氏である。

古刹にして、その草創は遠く弘安元年鐘倉建長寺十二代の祖徳紹和尚の開基になるのである。その後漸次衰退せしも、永正元年の頃美州の龍恭寺明琳和尚再興し享祿年間總寧寺十七代愍微和尚再び復興せしめて現在に至つてゐる。

住職

菅田 徳平



師は二十五代の法燈を繼ぎ、大正四年當寺住職と成るや、

専心を佛事に捧げその眞摯誠實なる態度は全體徒より厚き信望を得、三期に互つて教區長の要職を兼ね佛敎會に多大の貢獻を致した。昭和十三年以來、第一宗務支所長を兼任し現在に及んでゐる。

徳望高く、當地方切つての名僧として近隣尊敬の的となつてゐる。

静岡、駿東、庄濱村

蓬萊山 祥雲寺

當寺の御本尊は釋迦如來で宗派は臨濟宗に屬してゐる。

抑々當寺の起源は遠く人皇五十四代仁明天皇の御宇に遡り、後世兵燹に會ひ焼失し、その後、人皇百十一代 後西天皇の御宇に至り提瑞和尚が殿堂を再建して寺號を祥雲寺と改め今日に及んでゐる。

住職

佐久間伯州

師は明治十九年七月三十日愛知縣丹羽郡扶桑村に生れた人
妙心寺中學校を卒業、のち鎌倉建長寺派道場にて約三ヶ年修業し、明治四十三年静岡縣靜浦村照江寺住職となり、昭和五年に當寺の住職となつたのである。
高邁なる人格者で近隣の尊崇の的とな

つてゐる。推されて同村司法保護委員となり少年少女の不良思想の感化に専念し寧日なく活動してゐる。
家庭には前大仁高女教諭のよし子夫人(五十歳)との間に二女あり、それぞれ勉學に勤んでゐる。

富山、西礪波、西野尻村

村會議員 安川 伊作



先代伊平治氏は町村制の實施後村議として自治に功勞あり、當家は舊家名門の譽が高い。

伊作氏はその長男として明治十二年の出生、日露戰役には乃木第三軍に従ひ、軍曹として奮戰勳七等功七級を賜はつてゐる。
大正の初期村長を務め貢獻多く、また

村議たること八回に及び郡内の長老として村民の長敬を受けてゐる。
西野尻小學校の建設に功あり、學務委員を兼ね、また道路の改修擴張等を指導する等、公共のため寧日なき活動をつけてゐる。
一子、伊八郎氏は中學校を卒業し、家業に精勵してゐる。

静岡、駿東、須山村

須山村 信用購買 組合

縣下の模範組合として知られる當組合は、大正九年八月の創立に係はり、初代理事長渡邊春吉氏の主唱によるものである。歴代理事長は二代菅沼甚作氏、次いで土屋市太郎氏、土屋淺治氏、現在は村長渡邊政藏氏が兼任してゐる。
専務理事は横山利枝氏、他の理事は杉山武衛、中村重作、土屋淺治、土屋庄平、菅沼甚作、土屋富作、野田夏雄の諸氏、監事は杵間茂三郎、土屋嘉呂久、渡邊吉

三郎氏等である。

理事 長

渡邊 政藏

氏は當村村長として手腕力量ある人材で當組合長を兼ねながら村民の福利増進に寢食を忘れて盡瘁してゐる。

専務 理事

横山 利枝

村長として多忙なる渡邊理事長を輔佐して専ら組合の諸事を統べ組合發展に多大なる貢獻をしつゝある。

氏はまた村會議員として永らく村會に重きをなし人格圓滿なる人として全村の信望頗る厚い。

静岡、濱松市佐藤町

遠江 染色工 開進社

當組合は昭和七年五月二十八日に認可され、濱松市濱名郡をその區域としてゐる。
當組合の特色としては利用工場の設備

あり、また染料共同購入、検査實施等は我國最初の設備である。

非常時局にあつて織物界の不振を如何にして突破すべきやに業者の苦慮する時日本絲染晒工聯の原料共同購入に即應し採算の一助を計り、政府の指示に従ひ、愈一致團結業務に精勵、以て業者の福利増進のため努力邁進すべく共に戒め、相勵ましてゐる。

主唱發起人としての功勞者は齋藤徳次郎、町田俊太郎の二氏で齋藤氏は現理事長である。

専務理事は伊東柴三郎氏で、他の理事は飯田榮隆、淺倉善之助、久米京次郎、菅沼佐五郎、山下淺平、高橋捨次郎、袴田仙吉、石田清の諸氏、監事は佐野隆、森脇宗重、小田豊の三氏である。

高知市棧橋通り

高知木工工業組合



縣下で加工されるものは極めて小數であつたため、こゝに本組合の設立を見たのである。

即ち共同作業場を設置し、材料の共同

購入及び共同加工を行ひ、和衷協同を以て製作技術の向上に専念する等、他の組合に見られざる美風を持つてゐる。昭和十五年四月五日に朝香宮鳩彦王殿下には親しく本組合に御臨遊ばされ、組合員一同その光榮に感泣したのであつた。尙本組合の幹部には岡部理事長を輔けて理事堀内一馬、同有充経喜、監事山崎正夫同竹垣與吉の諸氏がある。

高知市蓮池町

國産和紙商 利岡 恭平

利岡家は代々「恭平」を襲名する、氏は



明治三十四年父恭平の長男として呱呱の聲をあげ、幼名を榮次と云つたが、後襲名したのである。

夙に國産和紙販賣界に志を立て、市内の有名な紙商たる内田紙商店に入り格闘を認められて和紙部主任に起用された。斯くて大正十五年獨立し現在の商店を開業、氏の血の滲むやうな刻苦精勵は之から始り、遂に今日の成功を見たのである。

静岡、安倍、清澤村

村會議員 尾崎 鑛作

當家は當村久能に於て本村第一の商店たる荒物商を經營してゐる。

當主鑛作は明治三十一年の生れで、夙に村政自治に參與し、永年區長を勤めた後、村會議員となり、圓滿な村政施行に參畫し、なほ信用組合理事、警防團分團長、家屋税調査委員、納税組合理事等の要職を兼ね、また氏子總代、檀徒總代等に

推され、村民の信望頗る厚い。人となり謹嚴寡黙、温厚篤實の人である。

静岡、安倍、清澤村

村會議員 小村 由忠

氏は明治二十六年先代美之助氏の長男として生れた。嚴父は永年村會議員として村のため貢献した人である。

氏もまた村會議員に推され、村會にあつては常に村民の福利増進を計り圓滿なる村政施行に盡力し、大いに人望を高めてゐる。

その他學務委員、軍友會班長等の公職にあり、寢食を忘れて公共のために働きたりまた氏子總代や檀徒總代として近隣のたゞ指導的な勤めを盡してゐる。

静岡、安倍、南藁科村

南藁科村役場

當村は安倍郡の最南端に位し、産業は米、麥、茶、繭、檜松、杉、木炭、柑橘茸等が重なるもので、現農會長立川彦右衛門の寧日なき努力と相俟て、農業は逐年良好な成績をあげてゐる。

南藁科信用購買販賣利用組合は村役場内に事務所を有し村長が組合長を兼ねてゐる。昭和十二年望月村長の主唱によつて成つたもので理事は立川彦右衛門、吉住義兵、牧野昌司、大橋兼松、小林周吉大村一郎、森廣松氏等である。

村長 望月堅太郎

氏は明治二十二年の生れで、産業組長長警防團長等の要職を兼ね、村政村治のため他を顧みず貢献するところ甚大、人格また高邁で全村民の信任頗る厚い人である。

静岡、賀茂、南崎村

南崎村 信用購買 販賣利用 組合

電話南中四番

當組合は昭和三年十一月の設立にかか

り、同九年三月四種兼營に改組され、幾多の經濟界の動搖を克服して、今日に至つてゐる。

歴代組合長として、山本吉之助、鈴木民太郎の兩氏及び現組合長は久保田恭氏理事は山本吉之助、大瀬主事、山本信一長津呂主事、熊澤免司の諸氏である。

組合長 久保田 恭

當家は世々農をもつて業とした舊家である。父祖以來村治の要衝にあたり功績を遺してゐる。

恭氏は明治十二年十二月十九日、先考定治氏の次男として生れ、豆陽中學校を卒へるや家業に精勵し、夙に村民の信賴厚く、推されて郡會議員、區長、及び村役場に入りて書記、収入役、助役、村長等の公名譽職を歴任して、自治公共の顯著なる功績をあげた。

現在では村内元老として重きをなした産業組合理事、村會議員、負債整理組合理事、學務委員、日本赤十字社終身社員等にして、現下統後農村のために努力邁進し

てゐる。

令閨ギン夫人との間に四男五女あり、一家秀才揃ひとして、近隣に知られてゐる。

静岡、濱名、新所村

新所村 信用購買 販賣利用 組合

當組合は昭和二年十二月、有限責任として設立され、後保證責任に改組されたもので、現在優秀なる組合員により各部共に良好なる成績を収め、その基礎は年と共に確く、縣下稀に見る模範組合である。幹事長は西川友吉氏、副幹事長は土屋磯吉氏である。

組合長 中村 吾作

氏は明治十一年の生れにして、專賣局官吏として、永年精勵、勳八等に叙せられた。

前村長時代には新所原驛の新設、濱名湖岸の埋立事業等をなし、その功績多く

産業組合は創立以来の功勞者で、なほ養鶏組合長、産業組合西遠部副會長等を兼任して、村産業の發展に犠牲的努力を捧げてゐる。

高知市潮新町

鑛業家 荻 猶 次



氏は長岡郡岡豊村小籠の出身、夙に鑛業界に身を投じ具さに辛酸を嘗め今日の如き成功を遂

げた人である。

即ち明治卅八年、日露戦役後創業、當時は恰も我が經濟界の滔々たる資本主義の上昇期で、氏はその流に乗り八面六臂の才腕を揮ひ、銳意斯業に専心したのであつた。
かくして氏は次第に業界に頭角を現は

すに至つたのである。大正年間に於ける不況時代に著名な鑛業家が相次いで破産没落したなかに、氏はよく種々の困難を克服して遂に今日の如き牢固たる基礎を築いたのであつた。

今や氏は押しも押されぬ高知鑛業界の雄としたその才腕を謳はれてゐる。

静岡、駿東、片濱村

村會議員 土屋 大藏



土屋家は、代々篤農家として知られた舊家である。氏は慶應元年十月十七日生れで資性濃厚篤實人格識見共に卓絶し、而かも任侠に富み、部落の爲めには獻身的な努力を些しも惜まない、誠に名實共なる長老である。この爲め前には推され區長となり、

静岡、駿東、高根村

村會議員 鈴木 正平

鈴木家は代々篤農の聞えある舊家で、氏は由五郎氏の男として明治二十九年に生れた。

幼時より頭腦明晰にして、その性質の温良さは、村民の慈愛を一身に集め、御殿場實業學校を卒業後家業に従事して居たが興望に依り村會議員に擧げられ、

で農會幹事、産業組合理事、軍人分會長、青年團長、區長等に擧げられて其功勞顯著なるものがある。

氏は又、農業經營に就て造詣深く、農事試験場、農民道場の開設等を計畫する外、肥料配給、農産物の増産等に専念し、洽く村民の敬仰の的となつて居る。

因に氏の尊父由五郎氏も嘗て區長として令名があつた人である。

静岡、富士、大宮町

區長 前島 留造

電話大宮四二〇番



前島氏は當町第十一區長として、區民の公益の爲めに昭和十二年五月以來寧日なき有様である。即ち衛生設備の改善に、道路の改修

に、或は五社詣でを發起し、又出征軍人の武運長久を祈ると共に、出征遺家族の慰問の事に當つて獻身的な努力をなし、近隣より慈父の如き信頼と畏敬を受けてゐる。

氏はまた納税組長として盡瘁し、當町自治に貢獻多く、氏を區長に戴きて當第十一區は完全なる自治制が施かれ、當町の模範區となつてゐる。

富山、西礪波、西野尻村

山本 政治

氏は先考菊松氏の長男として明治卅三年子撫川の上流、水清き二の瀧に呱呱の聲をあげた。

夙に自治産業に心を致し區長に就任後は家業に勵む傍ら、區内の行政に饑食を忘れ、或は道路の改修を唱へ、又は芋麻の栽培に努める等篤實力行の士として令

名高い。

温厚至誠の人で近隣の信頼また厚く、家庭にあつては千代夫人と共に母堂への孝養を怠らず長男實氏は模範青年團員として木炭の生産に努め、眞に圓滿な一家である。

静岡、田方、伊東町

伊東温泉プール

電話伊東一三・三三五番



井原 爲吉 氏
業である。資本金六萬圓、専務は木内買

氏である。プールは長さ二五メートル、幅八メートル、深さ一・五メートルで四時満々と温泉が湛へられ、嚴寒の候といへども悠

★と水泳の練習が出来る。
水槽は一日五回汲替へられ、入場料は十銭、子供は半額で、一年約十萬人の客を集めてゐる。

設備として六十餘疊の大廣間、温泉風呂付の離座敷、ラヂオ、ピンポン、大湯瀧等あり、ジャパン・ツウリスト・ピエローの指定旅館となつてゐる。

静岡、田方、伊東町

伊東温泉 大坂屋旅館

電話五三三番

風光明媚を以て閑える伊東温泉の草創時代に新設された大坂屋旅館は温泉場の中央に位し、而も近代的設備を完備して客室は凡て壁仕切りとなつてをり、また各室毎に室内電話も設けて顧客の便益を遺憾なく圖つてゐる。

浴泉は明朗な大理石張りで、湯量頗る豊富、家族風呂、貸切風呂等のほか、三百餘年來傳はる『薬湯』があつて、その名

を考聞されてゐる。

經營者

野田 一枝

氏は先考惣兵衛氏の長男として明治二十六年十一月三日に

呱聲をあげた。

氏は家業に盡瘁する傍ら、町會議員、區會議員、伊東町温泉旅館組合副組合長、温泉組合長等を兼任した。

當主は沼津中學校を卒業後、嚴父の志を繼いで公共のために力を盡し、町役場収入役を勤めて町民の厚き信望をあつめてゐた。

現在は専ら旅館經營に精進し、また朝日製氷冷蔵株式會社に干與して、地方實業界に重きをなしてゐる。

家庭には母堂げん刀自健在し、令閨せつさんとの間に二男二女あり、嫡男宗造氏は目下商科大学に在學中である。

氏は明治二十九年一月三日同村喜太郎



長男 氏
の長男として呱聲をあげた嚴父は

村内切つての篤農家、農村經濟の更生に身を以つて當り郷黨の信望を一身にあつめた人、氏も又嚴父の遺訓を守つて農業に精勵する陰徳の人である。

現在氏は推されて村議となり、地方自治産業の發展助長に寢食を忘れて盡瘁しその眞摯な態度は氏を知るものをして襟を正しめずには置かないといふ。

尙長男信行君は今年二十四歳青年飛行士で、目下陸の荒鷲としての猛訓練を受けてゐる。

静岡、田方、伊豆長岡町

町會議員 杉山 貢

富山、東礪波、太田村

村會議員 井上 庄太郎

當家は代々農を以て業となし、祖先は



庄屋、名主等を勤めた、古い家柄である。先代重

樹氏は夙に自治に干與し、助役を數期に互つて勤績し、人望頗る厚く、遂に町長の要職に推舉せられ、町政の刷新に才腕を揮ひ、多大なる業績を遺した人材であつた。

氏はその長男として、明治二十三年三月十五日呱聲をあげた。韭山中學校を卒業し、大正二年慶應義塾大學理財科を卒業した。

曩には町會議員、消防組頭、町長等の重職を歴任して、温泉道路開發、水道の新設、昭和五年伊豆震災の折は町長として、復興に獻身的努力を捧げ、その筋より三組銀盃を拜受、また道路開發の功勞により金杯を受領するの榮譽に浴した。

現在は鑛泉株式會社重役として、温泉開發事業に盡瘁する傍ら、町會議員、常設委員、産業組合理事、日本赤十字社特別社員等に列し、豊富なる經驗と高邁なる識見及び堅實なる手腕とは自から町民の信賴を博し、町一流人物として重きをなしてゐる。

尙閑あれば園藝、スポーツ等を趣味としてゐる。

家族は尊父重樹氏(七十二歳)、母堂貞子さん(五十六歳)共に健在し、直夫人との間に長女君代さんあり、東京工業大學出身の泉三氏を養嗣子として迎へ、令孫明子さんを恵まれ、多幸な家庭である。

静岡、駿東、片濱村

村會議員 渡邊 嘉一

渡邊家は代々農を業とする素封家で、氏は先考清三郎氏の二男で明治三十二年三月生れ、令兄が早逝されたので、弱冠にして家督を相續した。

縣立沼津中學校に學び、後ち奉天中學



先代清三郎氏に轉校し優秀の成績を以て卒業した。現

在、村會議員として二期活躍されて居る外、推されて今澤農事實行組合理事、産業組合代議員、今澤水利組合理事等の要職にあり、以て非常時局の村政に産業の發展に非常なる努力を盡して居る。

石川、鳳至、諸岡村

村會議員 表 良

表家は當村草創の舊家と傳へられ、當主を以て十有數代を算し、素封家であつて、又篤農家、養蠶家としても令名がある。當主は先考勝三郎氏の次男として明

治十九年に生れ、縣立金澤工業学校に學び、早くより公共に關與し、村會議員、學務委員、氏子總代、壇家總代、其他名譽職に擧げられて功績があり、しかも資性温厚篤實で責任感強く村内の輿望を一身に聚めて居る。曩に二千六百年記念事業として、殖林道路改修を計畫せられ、着々工を竣め、其事蹟また見るべきものがある。

家庭圓滿、夫人との間に令息令嬢三名あり。

石川、珠洲、若山村

村會議員 西田 正行

先代一雄氏は永らく同村長、郡會議員及び村會議員等に任じ、自治功勞者であつた。氏はこの先代一雄氏の長男で、明治二十九年生れ、夙に縣立農學校を卒へ村農會の技術員として活動し、其の英才を稱されたが、總て郡農會産業技手に果進し、初代軍友會長に推され、踵で村會

議員に推舉され、専心郷軍の指導誘掖、



村政の改革、産業の改善等に盡力したが、就中同村が

昭和八年經濟更正指定村になり、又同十三年特別補助成村に撰定されたのは氏の力に依ると云はれ、特に馬の産地として發展せるも之又氏の功に依ると稱されて居る。

静岡、周智、森町

森町 信用販賣 購買利用 組合

電話森一三〇番

當組合は比較的新しく昭和四年三月野尻仁平氏、藤江勝太郎氏外十七名の先覺者達の多大なる努力によつて設立されたるもので後保證責任組織となり着實な發展を遂げてきた。



役員

全組合員事變下統後の貯蓄政策にはよく協力の實をあげ貯金總額は貸付額をはるかに凌ぎ優秀なる成績をみせてゐる。また購買販賣共に順調にして事業の進捗を振りを示してゐる。

振りを示してゐる

役員

組合長 野尻仁平氏

理事 平氏

本組合設立

以來勤めて居り、創業時代の苦難を共にし、なほ組合のため、同町のため産業發展に寢食を忘れて努力中である。その他の理事は村松久吉氏、藤江金兵衛氏、平野清藏氏、野口喜平氏、大石源太郎氏、

内藤松三郎氏、中村芳平氏、龜澤藤吉氏等で、監事は鈴木勘平氏、野尻亮三氏、久保田光氏、白畑市平氏、増田寅八氏、白幡富平氏、鈴木徳太郎氏、安西金平氏、村松吉太郎氏の九氏で夫々地方産業振興のため協心一致して盡力されてゐる。

富山、東礪波、般若村

青年團長 貝淵 豊政

氏は明治四十四年五月村内の篤農家大八郎氏長男として出生した。嚴父は現在村會議員の公職にあり地方自治産業の伸張改善に努めてゐる。此の父親の膝下にあつて獨特の教育をうけた。氏は意志強固霸氣に満ち、反面人情頗る厚い青年である。

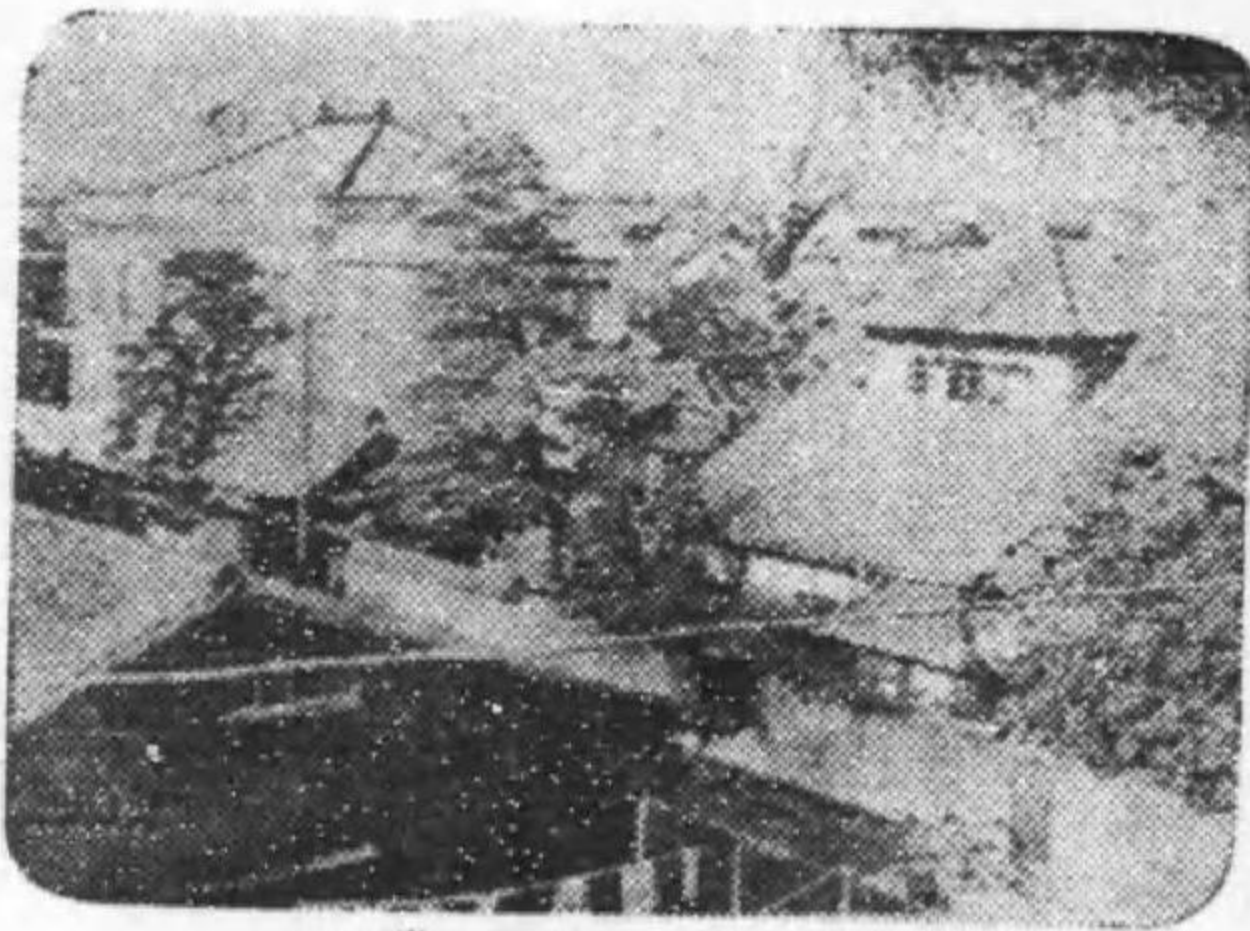
推されて青年團長の地位にあり、郷黨青年の指導訓練に心を砕いてゐる。同青年團は副團長に龜谷貞一氏あり團員一致協力、村内公共のために盡し、或は出征遺家族の保護に、出征將士の慰問に銃後

の固めを完し模範青年團として知られてゐる。なほ同團では二千六百年記念事業として各神社招魂社に樹木を寄贈した。

静岡、濱松市魚町

普報山 善正寺

當寺は眞宗大谷派の名刹で今より約七



本堂

同上人は、當郡永上郡鶴見の産にして

百年 前貞 永元 年九 月仙 信房 上人 の開 基に 係は るも ので ある

同所に於てひたすら佛道に精進し一寺を創建したものが當寺で大正二年に至り善正寺と稱し、大正十三年近代的な石材による寺院を新築した。

住職 鶴見 有一

師は京都大谷大學を卒業し、僅に二十四歳で當寺住職となつた。



人格高邁、超世脱俗、近隣より師長と仰がれ、その

静岡、賀茂、仁科村

仁科濱漁業同組合

電話一八番

本組合は明治三十六年二月、仁科濱漁業組合として創立した。後、組合の擴張

と組合員の増加に伴ひ、保証責任仁科濱漁業協同組合と組織變更した。事業計畫方針としては、一般漁業法による蕃殖保護、増殖施設等である。

本組合設立の主唱發起人功勞者は初代理事長、故稻葉武助氏にして其の後の理事長は、故稻葉武重、故藤井勝太郎、故須田善太郎、故鈴木福太郎、鈴木儀助、鈴木徹及び現組合長藤井幸三の諸氏である。

現任理事は、須田源藏、鈴木儀助、鈴木幸一、堤基平の諸氏。

監事は、藤野厚二郎、鈴木林次郎の二氏、職員は齋藤卓爾氏等である。

組合長
勲八等
藤井 幸三

先考勝五郎氏は夙に漁業組合長として、産業の興隆發展に力を盡せる功勞者である。

氏はその男として、明治十七年一月に出生、かの日露の戦役に武勳を樹て、勳

八等及び一時賜金を賜つた勇士である。



組合長として氏の抱負見識はその熱心と相俟つて、

静岡、濱名、北庄内村

庄内出 農産加工場

當工場は昭和十年、トマトケチャップ等の農産加工工場として大内民次郎氏の手によつて創立され、組合長に新村竹二郎氏、工場長に早川直吉氏が就任してゐる。

創立以來日なほ淺きに工場その他の設備は全く充實し、他にその比を見ない。

また製品の優秀、當工場の今日の隆盛には氏の卓越せる經營方針によるものでなほ此他氏は愛知縣西春日井郡農産加工

場、釜石市大内魚類加工場、八戸市鐘詰加工場、青森縣三戸町大内鐘詰加工場等を経営し、それ／＼盛況の一路を進んでゐる。



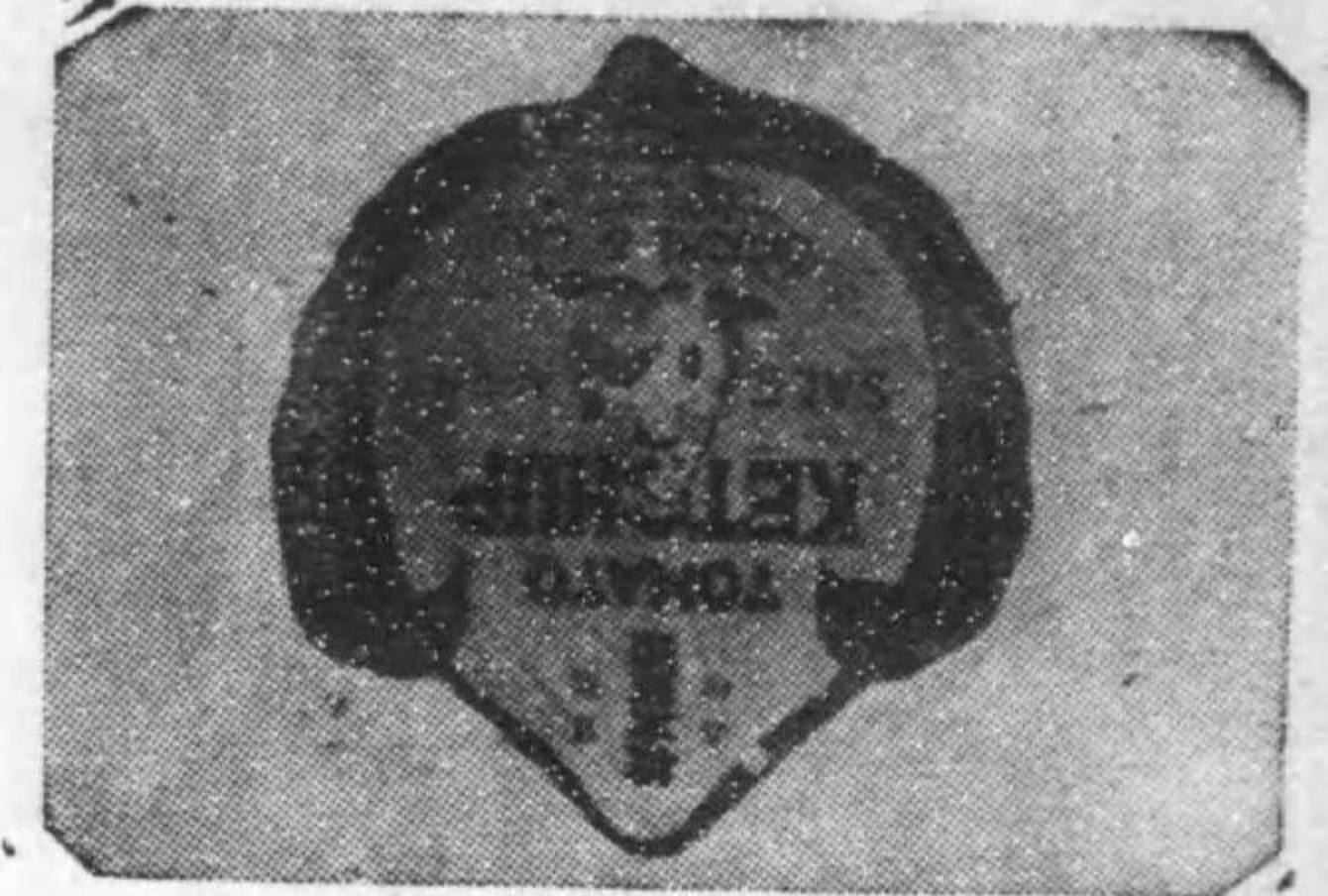
農産加工場の一部

大内氏は本年六十餘歳に於てもかゝる壯者なほ

を凌ぐ元氣をもつて事業發展に盡瘁してゐる。

工場長
早川 直吉

氏は明治二十九年の誕生にして、大正九年より大内氏の工



トマトケチャップの商標

れである。

石川、金澤市青草町
市會議員 岡島 久作

電話五九三四番

岡島家は市民の臺所賄の本元青草町の大青果問屋で、氏は先代勝二郎氏の長男

場に入り格勳精勵、工場長として、その

功勞大なるものがあつた。氏の人格は齊しく従業員から敬仰さ

として、明治二十七年五月三日生れた。



幼少より聰明秀才の稱があり、若冠先考の家業を繼承

し、精勵今日の盛大をなしたのである。資性圓滿篤實勤勉で識見あり、而も實際的手腕は市民の信望を博し推されて市會議員となり、已に三期に及んで居る。此外都市計畫委員或は石川縣狩獵會幹事長等にも擧げられ、市政の善處市民の福祉増進に懸命の努力を拂ひ、大方より尊敬と信頼の的となつて居る。氏は敬神崇祖の念篤く又、眞宗に深く歸依して居る。家庭は夫人との間に五男四女の子福者で常に圓滿で模範家庭とされて居る。

静岡、富士、吉原町

町會議員 筑井 朝次郎

氏は吉原町に合併以前の島田村出身者にして若くして工業界に入り具さに實社會の辛酸を嘗



めつゝ孜々として今日を樂いて來た人で眞に意志の人といふ言葉に依つて言ひ盡される。

島田村合併に際しても見えざる幾多の功績を遺したが合併後は吉原町會議員として町政に参畫してゐる。氏は工業都市體制施行を目指して躍進する同町の工業地區草分けたる清朝機械會社、常務取締役の位置にあり、事實上では代表者の貫祿を示し、その温顔の裡にある熱烈な事業精神は會社全體の長敬の的である。

氏は又富士郡鐵工組合副理事長の位置にあつて、全業界から慈父の如くに慕はれてゐる。

静岡、富士、北山村

青年團長 天野 多一

當家は現主多一氏に於て十五六代を數

へる舊家である。

先代榮

藏氏は精

勵勤勉、

篤農家の



名の高かつた人である。氏はその長男として明治二十九年四月二十日出生、静岡縣教員養成所を卒へるや北山、田子浦、浮久山の各校に教鞭を執り、濃厚篤實、周到温健なる氏の人格は、多數の學童に深い感銘を與へ、教育界に大きな足跡を残した。

現在は育英界を退き、銃後青少年の指導教化に、または産業の開發進展に努力してゐる。即ち青年團長、日本赤十字社正社員、養蠶實行組長、郡青年團理事

煙草組合理事、煙草耕作組長、縣度量衡指導員等の公名譽職にあり、滅私奉公の至誠を捧げて夙夜奔走してゐる。

氏は常に長き詔書の聖旨を奉體して、青年指導に當り、ために村内青年の思想極めて良好である、一方氏の提唱に依り出征遺家族に對する勤勞奉仕、座談會、修養講習會等を行ひ、着々その實績を擧げてゐる。

なほ家庭には嚴父榮藏氏(八十歳)、母堂チヨウさん(七十歳)共に高齢にて健在し、夫人よし子さんとの間には、長男彪君ほか三女があり、和氣霽々の家庭である。

石川、珠洲、三崎村

村會議員 前野澤 久

前野澤家は代々農漁を營み、傍ら自治産業に貢獻せる名家で、先代永太郎氏は區長其他の公名譽職にあり、功績顯著なものがあつた。氏は永太郎氏の長男とし

て明治二十七年九月十七日生れ、常に産業の發達改善に志し、青年時代已に幾多の功勞があつた。後、輿望を荷つて漁業組合理事に推され二期務め、更に區長一期を努めたる外學務委員をも兼ね、現在は珠洲製絲理事、村會議員、農事實行改良組長、養蠶實行組長等の要職にあり、特に農事實行改良組合の如きは氏の犠牲的創立にかゝるもので洽く感謝の的となつて居る。

家庭は夫人との間に四男一女あり、其圓滿振りは羨望されて居る。

静岡、富士、北山村

村會議員 遠藤 徳太郎

當家は現主徳太郎氏が明治四十二年本家より分家して一家を創立した。本家は農を家業とし、村内屈指の舊家である。

氏は先代萬吉氏の次男として、明治二十二年四月十六日、富士郡土井出村猪之頭に呱呱をあげた。

分家後氏は雜貨商を營み、刻苦精勵、三十三年の苦闘の實は結び、現在は村内切つての素封家である。

氏はまた農業經營にも従つてゐる。

氏は清廉潔白、衆望を擔ふて村會議員に選出せられ、早くより村治に干與し、地方自治に對する功績顯著なるものがある。

即ち曩には、村會議員、社會振興委員、國勢調査員の公職にあり、よくその重責を果し、今また、村會議員、方面委員、日本赤十字社正社員、小作調停委員として非常時局下の村政刷新向上、村民の福利増進に、寧日なき有様である。

なほ家庭には、夫人ぬいさんとの間に二男三女あり、極めて圓滿なる家庭をなしてゐる。

静岡、富士、大湖村

前村長 勳 八等 渡邊 武次郎

氏は明治十二年四月一日、漆畑健藏氏

の次男として出生、のち渡邊家に迎へら



れて、養子となつた。當家は代々農を營み、當主武次郎氏に至る五百年の永い家歴を有する村

内屈指の舊家である。岳父作平氏は、村長、村會議員、その他各委員等の要職を歴任して、自治政の功勞に依り、三つ組菊花章の木杯を下賜された。

氏は菲山中學校を卒へて、日露戰爭に従軍し、勳八等を賜つた。家にありては家業に精進、出でては村長、村會議員、各種委員、産業組合理事、組合事務等の要職に推されて自治産業に盡力した。なほ現在は高齢にもかゝらず、金錢債務調停委員としての重責を果しつゝある。

家庭には令閨さわさんとの間に五男二女あり、長男勝太郎氏は農科大學專門部出身の俊才にして、現在家業に精勵の傍

ら、警防團分團長、産業組合理事の公職にあつて、岳父の名を恥しめず、二弟豊三郎氏、英吾氏は共に今事變に軍功を樹てし譽の家である。

石川、珠洲、木郎村

村會議員 加藤 鐵郎

加藤家は代々酒造業を營む舊家、氏は隣村實立村の舊家山崎家に明治四十年に生れ、十年前當家の養嗣子となつた。資性頗る剛膽、而かも實行力に富み、已に二十三歳にして消防組頭の榮職に在り、克く村民を説き能登半島にて最初にガソリンポンプを購入せしめる等、その決斷力を洽く賞された程である。後ち推されて村會議員となり、警防團顧問をも兼ね一意専心自治の發展に力を致して居る。年齒未だ三十四、前途春秋に富める身で村民の氏に期待する所大である。因に氏の實兄は能和銀行支店長として敏腕を揮ひ、且つ幾多公名譽職をも兼ねて令名あ

り。實父も亦郡會議員其他の公名譽職にあり、自治産業に貢献して居る。

静岡、富士、原田村

區 長 川口 秀作

當家は代々農耕を営む村内有數の舊家である。



先考宇三郎氏の代に至りて、土木請負業を創め、大いなる業績を残し、同氏は亦、公共事業にも盡瘁するところ多大であつた。

秀作氏はその長男として、明治七年一月に呱呱の聲をあげた。人と爲り濃厚篤實、製紙界に多年活躍、原田製紙工場、富士製紙工場、三島製紙工場等に勤務して、業界に大なる足跡を残してゐる。現在は獨力にて、川口折テープ工場を

經營し、營々たる努力は遂にその實を結び、その前途は洋々たるものあり、業界の注目を集めてゐる。

氏は又、曩には村會議員に推舉されること四期、その他、學務委員等、村政の刷新向上、村民の福利増進に寄與するところ大なるものがあつた。

現在なほ區長、米穀調査委員、其他の公名譽職に在り、村民を率ゐて、よくその重責を果しつゝある。

家庭には夫人よねさん、四男二女あり長男一雄氏は濱松高等工業學校を卒業した。新進技術家で、現在は殿父と共に工場を經營してゐる。

静岡、富士、原田村

區 長 澁谷 新六

澁谷家は、父祖累代篤農家として知られ、土木請負業を兼ねてゐる。その家系は三百年を數へる、村内有數の舊家である。

先々代甲平氏は村政に關與し、原田、



三ツ澤兩村合併に功績あり先代龜吉氏は篤農家として

知られた。

當主新六氏は先考龜吉氏の男として、明治三十四年五月呱呱をあげた。氏は沼津中學校を卒へるや育英界に身を投じ、二十餘年間、濃厚篤實、慈愛深き人格を以て、兒童訓育に献身し、その業績は大なるものがあつた。

教育界を退くや氏は、推されて區長、産業組合監事、青年團團長等の公職に歴任し、多端なる職時下村政刷新向上に、或は村民の福利増進に盡力してゐる。

家庭には母堂いわさん及び夫人しず子さんとの間に一男五女をあげ、圓滿なる家風をなし、常に笑聲の絶ゆる間なく近隣より羨まれてゐる。

石川、珠洲、若山村

村會議員 谷内 清一

谷内家は舊幕時代には、庄屋を勤めた舊家であるが、今より四代前に分家して農を業とし、更に祖父条次郎氏の代より製材業を創め今日に至つたもので、先代才市郎氏は俊才の聞えあり、已に十年前に製材所を新築し、卒先して木炭瓦斯發動機を据付け、製材の増産を圖る等林業界に貢献する處があつた。

氏は才市郎氏の長男で、年齒未だ三十三歳、春秋に富み資性濃厚篤實で衆望がある。

夙に推されて村會議員となり、鋭意村治と産業發展に盡力されて居るが、就中農事實行組合創立の如きは全く氏の力に依るもので、多額の私財を投じ、自家用トラツク迄之れに提供して居り、村民敬仰の的となつて居る。

而して家庭は圓滿を極めてゐる。

静岡、富士、今泉村

静岡縣立製紙工業試験場

當試験場は業者多年に互る待望によつて設立せるもので、同試験場の今後の成果には多くの期待がかけられ、従つて試

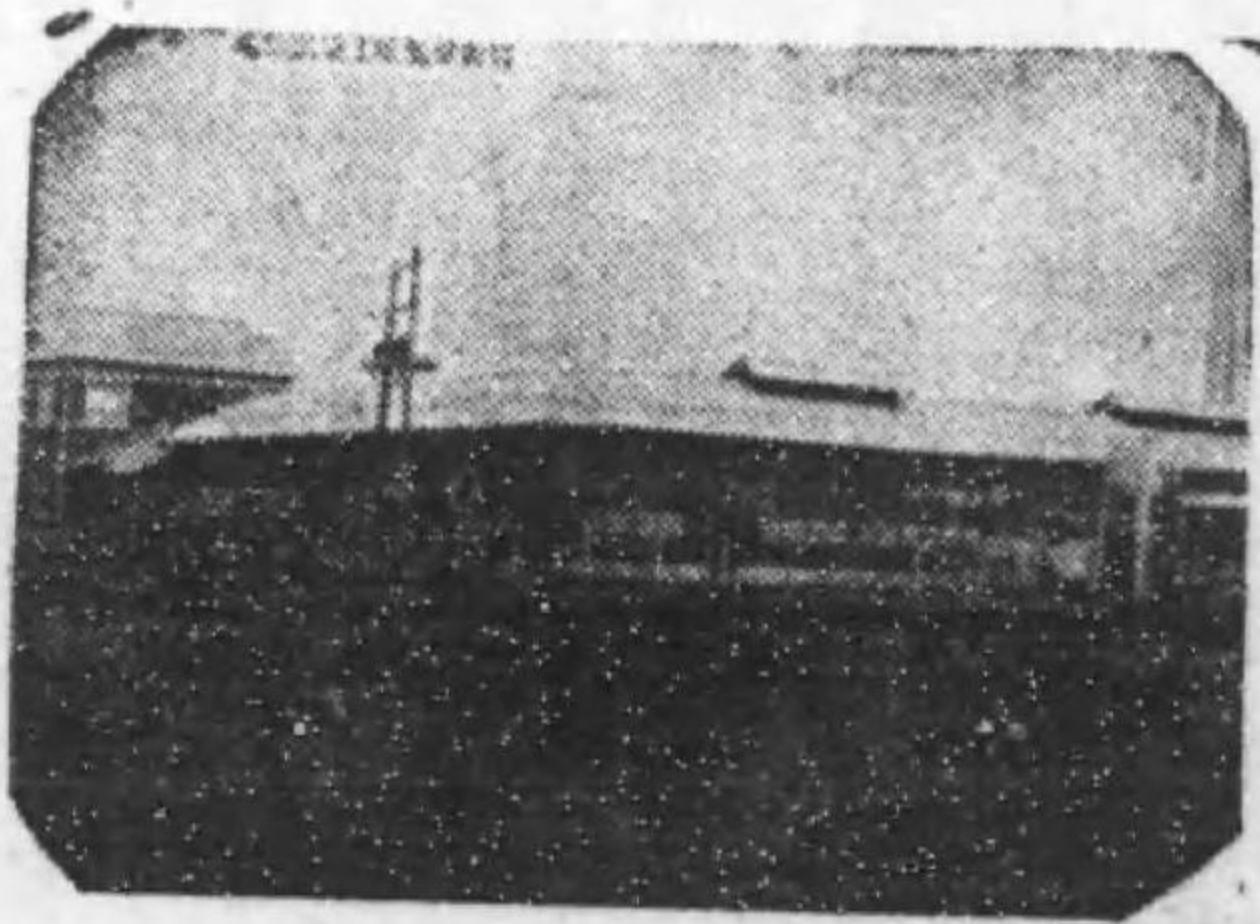
(正 面)



驗場長としての山崎金太郎は今や衆望環視の中に立つてゐるわけである。

氏は庵原郡蒲原町に生れ、大正十二年横濱高等工業學校應用化學科を卒業の俊才にして香川縣商工課勤務を振出しとし

て、静岡縣廳に轉任同縣工業試験所製紙課に勤務せしも退所後現在の試験場設立と同時に場長の地位につく、氏は資性濃厚、質實にして、衆人の信望厚く、幾多



の公名譽職を兼ね多忙な日を送るも一面の趣味の人又非

常に家庭的で、その圓滿な團圓振り衆望の的である。長女惠美子さんは富士高女の三年に在學中にて、氏と共に庭球を樂しむと云ふ。

とまれ、完備せる試験場として岐阜、

埼玉兩縣と、比肩せる當静岡試験場の場
長として、氏の地位名望、手腕は、郷人
の均しく認める處、業界の寄與に於ても
今後が期待されてゐる。

静岡、富士、上井出村

上井出尋常高等小學校

電話上井出局三番

本校の歴史は古く明治七年五月公立麗
岳舎として創立されたが、其後同十四年
四月村立小學麗岳舎に改稱、同十九年五
月麗學舎なる名稱を削除し、村立尋常小
學校と改稱し、同二十二年には村立上井
出尋常小學校と改めたが大正九年高等科
を併置し、現在の校名となつたもので、
其後兒童の増加に伴ひ校舎の増築をなし
逐年内外の整備充實を行ひ、以つて今日
に及んだのである。

校運將に隆々として榮え、今や同校は
縣下有數の模範校として目されるに至つ
た。

校 長

而して現校長高木
筆氏は大正六年三月
静岡師範卒業、須津

校、傳法校を経て同校校長に就任したも
ので、爾來學校經營、兒童の訓育に、或
は村内青年子女の指導にて粉骨碎身して
ゐる人格高潔、眞に人の師表たるべき典
型的教育家である。

「吾人は小學校に關する法規の指示に
依り國家並びに時代の要求し又地方郷土
の特相に鑑み、兒童本然の發達を指導し
善良有爲なる日本國民としての基礎的發
展的陶冶の目的を完遂すべく何物をも捧
げ盡して惜しまないのである」
氏は烈々火の如き熱辯を以つて斯く語
るのである。

石川、珠洲、西海村

村會議員 山崎 仁作

山崎家は當主より廻ること四代に創ま
り、代々農を業として居る。先代松太郎

氏は人格識見共に秀で、村會議員、區長
其他公名譽職を歴任せる自治功勞者であ
る。

氏は此名望家の長男として明治三十年
十月に生れ、若年より豪毅清廉特に仁俠
に富み、村民の信望がある。嘗て片倉産
業組合の創立に手腕を發揮して功あり、
後推されて村議となり、非常時局に於け
る村政の伸張産業の發達に専念する外、
貯金組合長、常會司會長等の樞職を兼ね
勉勵日なき現況で、村民尊敬の的とな
つて居る。

家庭は夫人との間に五男四女あり、圓
滿を極めてゐる。

静岡、富士、吉原町

町會議員 野村 貞藏

氏は明治二十一年同町に合併以前の島
田村の篤農家、永次郎氏の長男として出
生した。永次郎氏は永く島田村會に關係
し幾多農村自治の上に功績を遂したが、

就中宗教心厚く、村民の間に奉徳會なる
ものを組織して精進修養に盡力したこと
は特筆さるべきであらう。此の嚴父の遺
志を繼いで貞藏氏も又敬神崇祖の念に富
み、社會公共のためには何物をも抛つて
惜しまぬといふ熱情型でもある。

即ち島田村が隣接せる吉原町との合併
問題が起るや村議たる氏は島田村合併交
渉委員として村民の總意を得べく寧日な
き活躍を續け、遂に一部村民をして、そ
の固執から啓蒙させたのである。斯くて
目出度く合併後は吉原町會議員として氏
は更に町の自治體制強化に飽く事を知ら
ぬ努力を拂つてゐる。

氏は又本町産業組合創立以來理事の要
職にあつて町内産業の振興にあづかり、
郷黨の指導者として全町民敬慕的であ
る。

静岡、富士、吉原町

靴紐艶絲工業組合

電話吉原四六九番

本組合は明治十二年十二月二十四日縣
下業者の總意を以つて設立、業者の福利
増進を圖り、國策線に副ふ事が主眼であ
る。

即ち製紐、艶絲、染色、輸北向靴紐等
の各部に分たれ、就中輸北向靴紐は南北
米、濠州、印度、北歐の各國市場にまで
進出してメイド・イン・ニッポンの商標
を高らかに謳歌してゐる。

歴代組合長は初代遠藤太一郎、二代風
間三千三、三代矢部庄七、四代後藤郷作
の諸氏で、現代主腦部は後藤組合長の下
に常務理事上坂吉次、理事川島泰作、同
土浦岩吉、同小野常次郎氏等が組合運営
に盡力、國內需要に外貨の獲得に鐵壁の
陣を張つてゐる。尙組合事務所には小西
重藏、長倉幸吉渡井利太郎氏等が寧日な
き活動を續けてゐる。

石川、鳳至、本郷村

村會議員 森田 鶴吉

森岡家は當主迄十數代に及ぶ舊家で、
當村の草分と傳へられて居る。氏は先考

甚松氏の長男で、明治十六年生れ、資性
濃厚穎悟大志あり、近隣の人望を得て居
る。日露戰役の際には第三軍乃木將軍の麾
下に活躍して、武功を樹て勳八等を賜は
つた。後推されて本村收入役となり、勤
続十九ヶ年に及び、此間區長の要職も兼
ね其功績見るべきものが多い。現在村會
議員、氏子總代、檀家總代等に當り、圓
滿なる人格は、克く各方面の信頼を博し
て居る。

静岡、富士、大宮町

大宮商工學校

人的資源の開發は刻下の日本にとつて
先決打開を要すべき焦眉の問題である。

此の時代の要求に呼應して昭和十三年創
立を見た大宮商工學校は郷土の大先輩に
依り設立されたもので所謂望月精神に則

り「役に立つ人物」「男」の養成に當り、
 覇氣信念明朗の三位一體による人間育成
 に主力を注ぎ、特にその指導者たる教諭
 には「歡喜奉公」「和衷協同」を鼓吹し、師



前
 第一
 體と
 なれ
 る愛
 情教
 育は
 他に
 見ら
 れざ
 る美
 しい
 もの
 であ

想をシムボライズするものゝ如くして登
 えてゐる。

校長

本校校長相葉繁氏は
 伊勢桑名町に出生
 京都帝大の出身で勞

務者教育の研究者として著名である。勞
 務者教育とは工場或は商業主と之に従事
 する勞務者の中間にある指導で労働と資
 本の協力を完遂せんとする目的である。
 と氏は熱情を以つて語るのである。氏は
 又人格高潔温厚にして身を持する嚴、眞
 に人の師表たるべき典型的教育家で、飽
 くまでも實際に即する「強力産業國士」
 の育成に盡瘁、現在富士郡下所在二十餘
 の工場に關係し優良職工の指導に當つて
 ゐる。

静岡、富士、富士根村

富士根尋常高等小學校

電話大宮五二二番

當校は前縣會議員秋山忠平氏等の盡力

により、昭和十年現校舎を建設した。因
 に當村には第一、第二の兩小學校分立し
 當校は大字小泉、大岩、杉田の學童を收
 容する。當校の特長としては體育研究部
 を設置して、合理的體育方針のもとに指
 導奨励してゐる。

校長

正八位
 小川 威敏

當家は元吉原村に
 代々居をなし、村内
 切つての、舊家であ
 る。



先代浩氏は、村長の要職にあつた自治
 功勞者で
 威敏氏
 はその男
 として明
 治二十八

年三月十八日嗚聲をあげた。

氏は、皇道精神の遵奉と、健全な心身
 の鍛練を教育方針の根基とし児童に對し
 ては、自學自習、一致協力、時局に對す
 る正しい認識を植へつけてゐる。

また氏は校務の傍ら、愛國婦人會、女
 子青年團顧問、青年學校長として成人教
 育に盡力し、大いに軍人精神を強調して
 ゐる。

氏は、嘗て縣より二十ヶ年皆勤の表彰
 を受け、今また高等官七等の待遇を享受
 して、地方教育界の重鎮である。

家庭には、母堂、令妹及び、五人の子
 福者である。末弟洋一氏は今事變に北支
 に勇躍出征奮戦中である。

石川、鳳至、諸岡村

村會議員 坂下 三松

坂下家は由緒古き家系を傳へられる素
 封家で、代々農業及び水産業に努めて令
 名がある。當主は先考孫右衛門氏の長男
 として明治六年に生れた。資性穎悟謙讓
 で義侠心に富み、早くより公共に盡瘁し
 て功多く、就中郡水産組合の創設、村産
 業組合の設立等は、其の著なるものであ
 る。氏は輿望を擔ひ、區長、郡水産組合

特別議員等の樞職を経て、現在村會議員
 納稅組合長、郡水産組合議員、學務委員
 等の要職にある外、縣水産組合顧問をも
 兼ねて、専心村勢の伸張、地方産業の興
 隆に寄與する處があり大方の尊敬を受け
 て居る。尙龔に小學校建築に盡されて功
 あり、縣より金盃を授與された。

静岡、富士、富士根村

村會議員 川原崎光治郎

當家は舊家として知られてゐる。



元來當
 地には製
 紙材料た
 る、極(三
 又)の裁
 培が明治

二十年頃より行はれ、全國一の産額を占
 めてゐた。これに着目した先代宇三郎氏
 は、同三十年頃より製紙原料業を創始し
 多年の研究と、不撓不屈の努力により大

成し、現在は大藏省印刷局使用材料の約
 四割を當家より納入する、代表的地方製
 紙材料商で、その名は全國に周知せられ
 てゐる。

嚴父宇三郎氏の長男たる氏は明治二十
 六年三月十六日、嗚々の聲をあげた。人
 となり重厚篤實、衆望により村會議員に
 擧げられた。

また農村の福利増進のために、率先し
 て野菜類の栽培増殖を指導してゐる。
 氏の家業たる製紙原料業も、氏の經綸
 に依り着々發展の一路を辿り、業界の注
 目をひいてゐる。

因に家庭には嚴父、母堂、令夫人及び
 三男三女あり、長男照男氏は父君を扶け
 て家業に従つてゐる。

静岡、富士、今泉村

左不二製紙工場

電話吉原五一六番

當工場は、昭和十一年頃合資會社とし

て設立されしも、昭和十五年三月、高橋國藏氏が譲受け、同氏の個人經營となり現在に至る。

高橋氏は實踐躬行をモットーとし工場に於ても自ら陣頭に立ち元氣潑刺として經營に當つてゐる。

今や其の販路は内地各地方に涉り、その將來は愈々囑望されてゐる。

高橋氏は、一面温情家として知られ、數年前同業者の苦境に苦しむを見るや默視するに忍びず物心兩面に於いて援助を續け、遂に製紙家として立ち直るを得せしめたなど、衆知の處にて、氏の行爲を徳として尊敬する者多しときく。

氏は又子福長者にて、二男五女あり、母堂、夫人を加へての家庭は實に和氣霽々たるものがあり、事業に於ける手腕と恵まれたる家庭を持つ氏こそ、祝福されたる人物と云ふべきである。

石川、珠洲、西海村

村會議員 中尾 秀藏

當工場は昭和四年創業、齋藤徳次氏の經營にかゝる。

従業員七十名、年産百二十萬圓と云へば、言を俟つまでもなくその業績を窺ひ得やう。

氏は大正五年、駿富製紙に入り、同十一年同工場解散により退社、大正十二年一月獨立、保科商會を買収し、逐次躍進を重ね、昭和四年に至りて、現工場を新設す。

氏はまた、吉永村に碎木工場及び新生纖維工場を經營し、その隆々たる繁榮振りは、同地方業界の第一人者である。

氏の敏腕は往くとして、可ならざるはなく、その多忙裡に於て、富士郡紙業工業組合専務理事を兼ねてゐる。

今や未曾有の經濟難にあたり、業界又原料不足を數じてゐる折柄、氏はバルブによる新纖維製品の産出により停頓せる製紙業界を打開しつゝある。

また、氏の傍系會社たる、新生纖維工業株式會社では年産四十五萬貫に達し、

中尾家は代々篤農の譽れある當地切つての舊家である。先代榮松氏は、實直の人で、農産改良に幾多の功績を遺して居る。

氏は榮松氏の男として明治二十三年九月十八日に生れた。資性濃厚篤實、而も奉公の念篤く、村民の信望を一身に聚めて居る。嘗て衛生兵として入隊中にも、精勵勉勵、克くその本分を盡して推賞された曩に推されて村議となるや、一意専心農村問題の解決に励めて倦む所を知らず、氏の努力に依つて、輝かしき明日の西海村の出現を洽く期待されて居る。

静岡、富士、原田村

大川 製紙所

當製紙所は昭和十二年四月三日の創立なり。

經營者漆畑和作、同字作兩氏の不屈の努力は今や業界の新鋭として、當製紙所新鮮な活氣に満ちてゐる。

和作氏はもと、六進舎を、丸菱製紙の岸本氏外四五名の技術者を以て經營せしも、かの大災害に會ひ、これを機に興津町所在の岸本製紙に勤務せり、後轉じて大昭和製紙の前身たる、昭和製紙に勤務す。

氏が今日大川製紙所を設立するまでの足跡は、實に多難であつた。然し氏はよく困難に堪え、辛苦艱難業界の難コースを切りぬけて、現在に至つたのである。氏は、その心境と抱負を靜かな口調にて語つた。

「先づ國策に副ひ、資本家氣質を脱し、大局的見地より事業に當り、常に公益優先を念として、將來如何なる困苦にも耐へられる所の精神の涵養に努め、以て業界の一翼を擔ひたいものである」と。以てその信念の深く強き事知るべきである。

静岡、富士、須津村

合資會社 江尾製紙工場

石川、珠洲、三崎村

警防團長 櫻井 次作
正七位 七等 勳



縣教育界の長老として、その在職正に

三十有餘年、而かも本郡の各學校長だけでも二十五年

に及ぶ輝やかしき功績を遺して居る。今や事變下に、その老練なる手腕を囑望され、警防團長として活躍し、郷黨の師表として敬仰されて居る。元來櫻井家は代々農漁を業とし、自治に功勞ある家柄で先考歳太郎氏も其功勞者として知られて居る。氏は此歳太郎氏の長男として明治二十年一月十日に生れ、幼より聰明俊英

の聞えあり、長じて金澤師範に學び、前述の經歷を閲し、其功に依り正七位勳七等を賜はつた。

家庭は夫人との間に一女あり、夫人も以前教職にあり、その一女も教職に就き一家擧げて育英に従へるは又偉とすべきである。

静岡、富士、今泉村

東和紙業株式會社

電話吉原二四二・四一〇番

當社は同地業界の一大存在にして、常に積極的に業界をリードし、その革新的經營は、よく時運に一步先んじ隆々たる繁昌振りは、その有する工場系統をみても窺ひ知られる。即ち静岡製紙、大丸紙業、沼津製紙、松野工場、東靜加工、清水加工場、静岡トイレット加工所等の各工場を總轄し販賣、總務一切を處理し社内にある協永商會は専ら原料の仕入を擔當してゐる。

當社の重要製品は塵紙、陸軍御用紙、織テープ、トイレット紙、撚紐、テープ、敷化材料、機關紙等にして、その製産量は今や同地業界に歴然たる地歩を占めてゐる。

本社重役の顔觸れは、社長に後藤庸視氏をいただき、取締役平田孫一氏、同後藤孝氏、工場長惟村新次郎氏を以て、協力一意業界の進展に邁進してゐる。

社長

後藤 庸視

康視氏は現に大昭和製紙會長たる齋藤知一郎氏の甥にあたり、氏の實弟も同社附近に鶴田製紙を經營し一門皆よく業界の第一線にあるわけである。

静岡、富士、原田村

原田製紙株式會社

縣同業界にその名を轟はれる原田製紙株式會社は、明治二十七年一月創立と云ふ古き歴史を有し、當地方切つての一大

製紙會社である。

現在資本金三十萬圓にして、恐らく郡下最古の會社と云へやう。

當工場はその古き歴史と共に、益々發展伸張し、今や業界の中堅と云はんより正に斯界の重鎮と呼んで差聞へない。

而して當工場より輩出せる技師、事業家は枚舉に暇なく同地業界の士は殆ど同工場に於て製紙の技術を體得せるものと云つても過言ではない。

社長佐野熊次郎氏は、明治大學商科出身にして、其の鋭敏なる頭腦と秀拔なる手腕は刮目して待つべきものがあり、常務取締役川島省吾氏又よく社長を助け、業界に於ける地歩はいよゝゝ不動なものである。佐野氏の先代熊次郎氏は地方切つての名望家で、縣會議員に當選する事三回にして、名實共に業界の第一人者を誇る家柄でもある。

石川、珠洲、三崎村

村會議員 伏見谷 健造

氏は明治三十五年八月十七日生れ、先



代由太郎 氏の養嗣子となつた人、資性明敏和順、夙に

當地方にて有名なる梅田ダン熱工業株式會社治工場の支配人となり、その卓越せる經綸は、衆望の的となつて居る。曩に推されて村會議員となるや、忠實熱誠、克く村政の改善、産業の開發に努力して寧日なき有様で、洽く村民に感謝され、關達明敏なる手腕に、多大の期待をかけられて居る。

家庭は夫人との間に一男あり、頗る圓滿で美望されて居る。

静岡、富士、原田村

村會議員 小澤 廣吉

先考源七氏は篤農家として知られ、農

事改良に努め、産業發展に貢献した。



氏はその長男として明治九年十二月五日出生、人と

爲り濃厚篤實、公共精神に富み、富士中學校を卒へ、推されて區長代理、消防組頭等の公職を歴任して、村治に寄與する所多大であつた。

現在村會議員を勤め、道路改修問題、村飲用水道設備に奔走し、村民の衛生保健、福利増進に努力してゐる。

なほ氏は、事業家としての才能に恵まれ、富士郡今泉村に福興製紙工場を經營し、慧眼はよく事業界の動向を察知して方針を誤まらず、その事業の基礎を確立し、時局下多難な業界にあつて、洋々たる前途を有つてゐる。

氏は釣魚、庭木についての造詣が深くまた常に讀書をなし、世界の動靜に明る

く、その該博なる知識は、氏の活動の上

に活用されてゐる。家庭には、長男一雄氏、その若夫人とも子さん令孫二人あり、圓滿なる家風をなしてゐる。

静岡、富士、傳法村

米山製紙所

こゝ傳法村の一角に聳立する、米山製作所は、昭和十三年六月二十一日の創立になり、資本金五萬圓、米山説郎氏が代表である。

氏は當年三十七歳の新鋭にして、明治三十七年三月十日呱呱の聲をあげた。

年少、希望に燃えた氏は、遙々と笈を負ふて上京、勉學にいそしみ、大正十三年早稲田商工電氣部を卒業するや、直に東京電燈株式會社に入社し、其の後吉原町東電出張所々長として敏腕を振ひつゝ、ありしも昭和十年に至り、製紙業界の多望に志を寄せ、敢然として、現工場を設

立、爾來專意紙業に盡力しつゝあり、其の販路も今や清水市より東京間に擴張し現従業員三十五名を擁し、製品又優良との定評あり。

氏の圓滿なる人格と、不撓の意氣は日月と共に進展しゆくものとして、その前途を囑されてゐる。

石川、珠洲、若山村

村會議員 向井 儀作

當家は當村屈指の舊家向井家の分家で代々篤農家として名がある。先代も村民の信望厚く、永年區長として功勞があつた人で今もその風格を敬仰されて居る。

氏はこの嚴父に薫育され、資性堅實和順、二十五歳にして山陰工業株式會社に入社し、精勵恪勤克く二十年を勤續、後ち工務主任に累進し、社の樞機にも參與して功勞があつた。圓熟せる人格と老練の手腕は村民の信賴する所となり、曩に推されて區長となり數期を勤め、現在

村議を二期勤める傍ら軍友會評議員を兼ね、又氏子總代檀家總代にも擧げられて鋭意不斷の活躍を續けて居る。家庭には四男二女あり、圓滿である。

静岡、富士、傳法村

厚生紙業所

電話吉原四七五番

漆畑雅治氏、同房太郎氏の經營による厚生紙業所と云へば、今更喋々とするまでもなく、本業界に於けるホープたる資格を失はぬ。

今や資本金十萬圓、美はしい兄弟愛によつて共營される、當工場の前途こそ、祝福されたものといへやう。

その製品は主として、大倉洋紙を得意先として、東京、大阪、名古屋に涉り、年産額實に二十四萬圓といはれる。

雅治氏は、本業界の第一歩に於ては、大昭和製紙の前身昭和製紙工場に技師として永年敏腕を揮ひ、その間九州大分製

紙にも勤務し、専ら技術の錬磨に努め、多年の經驗を基礎に昭和十二年工場の前身たる、富士見製紙を買収し、機械の改善を計り、令兄房太郎氏と協力、現在に至るものである。

大正工業に勤務し、其の頃より、氏の手腕は、將來を暗示するものであつた。其の後氏は同所に於て、現在の潤井川製紙所を新設し、奮闘努力よく時難を乗り切り、原料入手難の今日泰然たる態度を維持しつゝ、一意工場の進展を計りつゝある。

静岡、富士、傳法村

合資 潤井川製紙所

電話吉原三三一番

爲田孝一の個人經營にして製品は主として、塵紙、半紙なり。

氏の確實なる經營法は、着々として實を結び、今や業界に於ける錚々たる製紙家である。

當工場の従業員は目下四十名を數へ、氏の着實なる指導により、家族的協力のもとに、一路進展を辿りつゝある。

氏は同郡鷹岡町の出身にして、往年、

氏は又温情家として知られ、その圓滿なる性格は衆庶の信望する處、當年四十三才の男盛り、氏の此後の活躍こそ矚目するものがあらう。

石川、珠洲、若山村

村會議員 島 中 廣

當家は當地切つての舊家として知られ代々農を業とし、篤農の譽ある家柄、明治十三年先代佐平氏より、現業の醸造業に轉じ、拮据經營、業績次第に擧がり、當主の代となり益々繁榮隆昌を見る。

銘酒「若山」「珠洲榮」の名は近郷に高く聞え噴々たる好評を博して居る。先代佐

平氏は非凡の商才を有すると同時に奉公の義心篤く、深く村民に信賴され、數多の公名譽職に歴任して功勞あり、今尙その風格を慕はれて居る。當主は佐平氏の



標商の「山若」酒銘

男で 明治 三十 七年 生れ 俊敏 明七 七尾 中學 卒、 北國 新聞

記者として敏腕を揮つた。歸村後家業に精勵する傍推されて村議となり、幾多貢獻する所あり。少壯氣鋭の智識人として將來を期待されて居る。



静岡、富士、原田村
村會議員 竹田 乙藏

本家は世々農耕を業とした。

先代春吉氏は篤農家として譽れ高く、公共事業に功

勞のあつた人である。

氏はその長男として、明治五年五月の出生、日清、日露の兩戰役には、從軍して各地に勇戰奮闘、勳功に依り勳八等を賜はつた。

氏は稟性、温厚村民の輿望を負うて、村會議員に擧げられた。

氏は更に學務委員、郷社氏子總代、副區長として村政の刷新向上、村民の福利増進、或は育英のために盡瘁してゐる、嘗て家屋稅調査に當つて當局から表彰さ

れたことがある。

なほ氏は多忙なる公職家業の傍ら、原田製紙工場にも勤務してゐる。家庭には夫人えいさんの外に三女あり平和な家庭である。

静岡、富士、富士根村

村會議員 佐野 茂三郎



當家は農耕をもつて家業とし、代々篤農家として知られた。當村は佐野姓の總本家にして、

村内指折りの舊家である。現主茂三郎氏は先代故茂平氏の長男として明治十六年三月四日の誕生。人となり温厚篤實、公共精神に厚く、人望極めて高い人物である。

嘗ては養蠶實行組合幹事として村内産

業界のため盡力し、今また、村民に推され村會議員に當選すること二期、學務委員を兼ね、村政、教育界に重責を果しつつある。

家庭には夫人との間に三女あり、養嗣子福太郎氏を迎へ孫四人あり、圓滿なる家庭をなしてゐる。

静岡、富士、大淵村

農事實行委員 木内 清作

當家は代々農を業とし、當主清作氏に



長男 木内 清作 氏
於て四百年の家歴を有する村内屈指の舊

先代福太郎氏は、村會議員に七期連続して當選し、その他村内各種の公、名譽職を歴任し、多年自治に盡力した功勞者

家である。

で、當局よりその功を表彰されたことがあつた。

現在清作氏は資性温厚篤實、日夜家業に精勵する傍ら、農事實行委員、日本赤十字社社員としての公職に盡力してゐる。嘗ては國勢調査員に推された。

氏は卒先村民を指導して、當地特産物たる茶の製産、販賣の刷新向上に盡力しまた敬神の念厚く、毎月一日、十五日の兩日、國防婦人會を指導して神社、佛閣の清掃に當つてゐる。その他敬神貯金として村民に貯蓄を奨励し、出征兵士遺家族の慰問を缺かさず、銃後村民の一致團結に努力してゐる。

多忙な中にも趣味を忘れぬ氏は、趣味の人として、園藝に深き造詣を持つてゐる。

静岡、富士、富士根村

區長 清 彦 藏

清家は代々農を以て立つ舊家である。

彦藏氏は明治八年十月七日出生、家業



に精勵する傍ら、公共事業に盡瘁し村民の福利増進に

與つて力あつた 天性温厚にして、清廉よく村民を指導し、郷黨の元老として、敬慕されてゐる。

嘗つて、村會議員、區長、産業組合評議員等の要職にあり、現在は、區長、氏子總代として、高齡にも拘はらず、村政のため、努力を捧げてゐる。

家庭には令室きんさん、長男親義氏及びその夫人令孫等あり楽しい平和な日々を送つてゐる。

静岡、富士、吉永村

清光製紙工場

電話富士四二四番

當工場は昭和十三年十二月十四日の創立なり。

代表者石井清作氏は明治九年の缶降にして、同村村政に盡力する事多年、村會議員、産業組合監事等を歴任せしも、其の後實弟富久兵及び丸菱の川口、岸本兩氏の擁立により、當清光製紙工場を創立す。

現在では令息光氏と共に自ら第一線に立ち業界に寄與しつゝあり、光氏の手腕又俊敏を驅はれ、新人に期待する處多く今後の活躍が期待されてゐる。

殊に同氏等一門の紙業に對する熱意と抱負は夙に業界の矚目する處にして、業界成功美談と迄謳はれ、同氏等兄弟の融和せる態度は郷人の羨む處である。年産二十萬圓、従業員三十名を數へその販路又愈々と擴張され年と共に進展しつゝある。

石川、珠洲、若山村

村會議員 莚 田 榮

榮

當製紙所は昭和八年二月の創立により岸本恵作氏の個人經營なり、而してその

電話吉原三〇番

丸菱製紙所

静岡、富士、吉永村

當家は上正力の舊家として知られる篤農家で、代々自治産業に貢獻せる名望家である。氏は明治三十三年生れ、夙にこの家風を繼承して、常に村政に多大の關心を寄せ、種々肝膽を砕て居る。曩に村會議員として立候補するや、最高點を以て當選せる事實に見てもその人格を窺ひ知ることが出来る。資性俊敏而かも寛仁大度先見の明あり。産業の改善と貯蓄の奨励に力を致し、専ら經濟更生を唱へてその功績顯著なるものがある。又信仰心にも富み推されて、檀家總代ともなつて居る。

家庭は夫人との間に七人の子あり頗る圓滿である。

主要製品は、焼紙並びに塵紙等にして、年産二十五萬圓をあげてゐる。

氏は同地業界切つての信望家にして、幾多の要職を兼ねてゐる。

氏の今日までの經歷を述べるなら立派な立志奮闘傳が出来上るであらう。氏が今日の地位を得たのは、決して偶然でない事を知る人ぞ知るのである。

國家正に多難にして、製紙原料入手難の折、その泰然たる營業振りは實に氏の折、その豊富な經驗の賜である。

丸菱製紙所の前身は、吉永製紙なりしも氏によりて、新たに丸菱製紙と命名され、今や氏の經驗と、精神力は當工場に集注され、躍進の一路を辿つてゐる。同氏の此後の活動こそ、業界のひとしく刮目する處である。

静岡、富士、吉永村

株式會社 比奈製紙所

電話吉原一一〇番

當社は昭和十二年十二月十五日、今岡顯氏によつて創業さる。

氏は明治四十一年、藏前高等工業應用化學科出身の英才にして、當年五十一才の渾厚なる紳士なり。

氏は最初、著述に専念し、その著「製紙の學理及び實際」があり、富山房より出版されてゐる。

大正五年當時、本業界の覇者、藤原銀次郎氏の王子製紙にありて、その技術を練磨し藤原氏の寵愛を受けしものなり。

氏が今日の大をなしたるは實に學理と實驗の賜である。

當製紙業の將來につき、氏の熱心に語りし處を要約すれば、各種機構の當事者が先づ深い認識を以て、責任ある仕事をなす事。而して此後の需要に鑑み其の原料資源を殖民地に求めるべき等々で、氏の抱負と體驗は將來に期待すべきものである。

資性俊敏而かも寛仁大度先見の明ある氏は、いたく村民より敬仰されてゐる。

静岡、富士、大淵村

村會議員 藤田 靜一



氏は先代好太郎氏の長男にして、明治二十六年三月一日に出生した。

先代は篤農家に於て人の世話をよくなし、村民の信望を集めてゐた。

當家は代々農を営み、現主靜一氏に至る。三百有餘年の家歴を有する地方切つての舊家である。

氏は郷校を卒へ、豊橋輜重兵第十五大隊に入營して、國家の干城としての責めを果した。

家に歸りて家督を繼ぐや、渾厚篤實の性を以てよく家業を勵み、出でては衆庶に推されて、村會議員、區長、檀徒總代

等として、至誠よく村勢興隆に寄與貢獻して、衆望をあつめてゐる。
なほ家庭には、母堂とも刀自（六十八歳）を始め、令閨ことさんとの間に三男あり、長男馨氏父を扶けて家事に従ひ、圓滿多幸な家風をなしてゐる。

高知市城見町

高知製造元 松本 幸意



元來松本家は安藝郡土居村の出身にて由緒ある士族である。現主幸意氏の尊父貞喜氏の代に至り藩政廢止のため高知市に出で蒞商を営むのである。

幸意氏はその長男、大正六年大阪に至り大阪住友伸銅所に勤務したが、同十三年歸郷して先代の後を受け繼ぎ、一途家

業に精勵して今日に至つたものである。

氏は人格高潔、古武士の面影を有し同業者の福利増進のため盡瘁し、仁俠に富んだ多くの美談を持つてゐる。現在土佐蒞蒞卸商業組合専務理事として業界に貢獻多い。

氏は又家業の傍、家傳の灸術治療を行ひ、その免許を有し、耳、鼻、婦人病等の疾患に效能著しく近在より來りて治療を受ける者多い。趣味は撞球、家庭には母堂マサ刀自健在で、愛妻福緒さんとの間に三男一女がある。

静岡、富士、大淵村

村 學校 醫師 後藤 荒之助

電話一二番

後藤家は代々農耕を営み、現主荒之助氏に於て約五百年の家系を保つ家柄である。

氏は嚴父糸八氏の次男として、明治十三年五月二十五日誕生。のち後藤家に迎

へられて養子となつた。

先代故末次郎氏は、政治的手腕に勝れ



村長、村會議員、各種委員等を歴任して、地方自治に於ける功績顯著、村民の信賴を集めてゐた。

當主荒之助氏は早くより、醫療報國に志し、濟生學舎に醫學を、明治三十六年當地に開業をなした。往時木だ衛生思想の發達せざる地方にあつて、仁術身を以て實踐し、村民の體位向上、健康増進に大いなる寄與をなした。

現在は學校醫、村醫の公職にあつて、縣衛生課と協力して、銃後村民の衛生に萬遺憾なきを期して、粉骨碎心の努力をなしてゐる。

家庭には一男二女あり、二女は既に他家に嫁して圓滿なる家庭をなし、長男幸

次郎氏は目下、東京航空局に勤務してゐる。

静岡、富士、鷹岡町

富士共和製紙所

當製紙所は昭和五年一月創立され、現在資本金五萬圓也。

經營者井出寅次郎氏は元王子製紙電氣部に勤務せり。

現在は子息不二男氏が工場經營にあたり、銳意新業に盡瘁しつゝある。以下は不二男氏の烈々たる信念の言葉である。

「最近兎角の評ある紙業界に於て、正當の取引をなし、業者の猛省を促し、以て業界の明朗淨化を計り、相互の福利増進を得ると共に國策的公益に副ひ、機構の改善を計り、よく自肅自戒銃後の國民として、その本分を盡したい。」

因に氏は、静岡縣立富士中學校の出身にして前途を囑望されてゐる。

高知市棧橋通り

谷村鐵工場

電話二二八番

同工場は明治四十五年十一月創業せる



上村支配人

車、規格バルブ、窯業、高級合金鑄造等多角經營に専心し、頃來では百パーセント國策線に添つて全生産能力を擧げつゝある。

同工場の製作品はその規格の嚴密なると、合理的生産に依る價格の低廉なる點に於て中央に於ける大工場の製品に比し何等の遜色もなく各方面より好評噴々たるものである。

現工場主谷村久壽太郎氏は創立者長吉

郎氏の實子、慶應義塾を卒へ目下在京昭和銀行に勤務してゐるので實際工場の運營者は同氏から一切を委任されてゐる工場長上村豊實氏である。

工場長

村上 豊實

氏は長岡郡東豊永村出身、大正二年谷村鐵工場に入り、爾來先代長吉郎氏の片腕として日夜を分たす精勵して來た努力家である。

人格圓滿渾厚篤實の人で、現在高知縣鐵工業組合聯合會理事、高知縣鐵工機械器具工業組合專務理事等の要職にあり、業界のために奔走する傍、同工場の職工職員の修養機關たる谷村青年學校の校長として谷村精神の鼓吹と業界有爲の人材育成に盡力してゐる。

静岡、富士、鷹岡町

松榮製紙株式會社

昭和十二年六月創立になる、當會社は現在資本八萬圓。

昭和十二年丸八製紙株式會社新橋工場主任を辭したる鈴木直方氏が業界の氣運を察し同志を募つて設立せるものなり。

鈴木氏は、設立後間もなく退社し、現在各重役は次の通りである。

專務取締役山川忠一、取締役佐野武治氏、同寺田芳郎氏、同山川嘉一氏、同川口柳作氏、同田林眞一氏。

監査役福澤繁藏氏、同寺田達三氏。以上役員によりても知らるゝ如く、同業界の有力者を得て、其の營業成績は年と共に伸びゆくであらう。尙其の主要製品は、紙紐原紙、コッピ紙、紙布用紙等である。

静岡、富士、鷹岡町

瀧戸製紙所

當製紙所は、小林清作氏の個人經營にて、昭和十二年二月十五日の創立なり。主要製品は塵紙、焼紙にて、其の販路は日を逐うて擴張しつゝあり。

將來を有望視されてゐる。

當製紙所の前身は丸藤製紙所なるも、



小林清作氏

これを買収し資本の増加、機械の改善を

計り、遂に現在の瀧戸製紙所となる。

その間に於ける、經營者小林清作氏の努力奮闘は特筆に値するものがある。

宜なる哉、氏は今や衆庶の推挽により町會議員として町政の向上に參與し、傍ら學務委員を兼ね、その地位と濃厚なる性格とは、町民の均しく尊敬する處である。

今や業界多端の折、氏の如き人格者により、積弊の淨化、更新がなされ、以て明朗新鮮な氣運が齎されん事を、熱誠ある業界人の常に期待してゐる處である。氏の趣味は讀書、家庭は頗る圓滿を極めてゐる。

富山市牛島町

富山電氣鐵道株式會社

當鐵道は富山市を起點として新川三那の中央を縦貫し、本縣主要都市を結び、當地方産業興隆の原動力文化向上の源泉である。延長約五十軒、連繫他線を併せ約百軒に及んでゐる。

その沿線に全國に有名な大岩不動日石寺、天然記念物、螢鳥賊、奇觀蜃氣樓等あり、遊覽觀光に資する所少くない。大江卓治支配人を擁し萬古ゆるがざる堅固な社礎を築いてゐる。

社長

佐伯 宗義

氏は佐伯宗則氏の四男にして明治二十七年四月出生、大正十五年嚴父隱退の後を承け家督を相續した。本社の外、富岩鐵道株式會社々長、富南鐵道代表取締役、日本海共同運輸、越中鐵道、福島電氣各重役として地方運輸業界の巨人として知られてゐる。又富

山商工會議所議員として活躍名噴々たるものがある。また氏を補佐し、當社の基礎をして不動確固たらしめてゐる支配人大江卓治氏は大分縣の出身、大正三年早大電氣科卒、直に芝浦電氣製作所に入社、技師として精勵し、後昭和七年同社に聘せられた人で社業興隆に盡瘁してゐる。

静岡、富士、今泉村

小林製紙株式會社

電話吉原一三八・四二五番

當會社は先代松太郎氏の個人經營により創立されたもので、三十有餘年の歴史を有してゐる。昭和九年十一月資本金二十萬圓の株式組織に改め、爾來社運隆々として今日に至つてゐる。

事業は主として、靴紐の製造であるが最近の販路は遠く中南米、南洋、パタピヤ方面にまで及び、年産額は約七十萬圓に達してゐる。

従つて、製品の販賣繁忙のため別に岳南商事株式會社を設立し、本社を神戸市に置き、専ら販路の擴張に努めてゐるが一方又、國策の線に沿ふ餘力の蓄積に努め、他日の事業擴大に具へてゐる。

社長

先考松太郎氏を襲名し、昭和九年の改組に當り社長に就任した人で、敏腕を以て業界に鳴る縣下事業界の雄である。

静岡、富士、大宮町

遠藤製紙所

電話大宮五一三番

當製紙所は昭和十三年三月遠藤行作氏の手により創立されたもので最新式の機械を設備して事業の發展を期してゐる。當所の主要製品たる塵紙は既に定評を得て主に東都方面を販路としてゐる。文化の進展と共に、紙の需要は愈々増大し、吾國重要産業の一に數へられるに至つてゐる。

正八年大宮町警察署長に榮進した。氏は當時より當町の發展に意を注ぎ、種々なる障礙を除去し、犯罪は勿論或は思想方面に或は衛生に又は交通等に萬全を期する一方工業の勃興に依る町勢の進展に貢獻するところ多く名署長の名を忝にした。

後同署長より同郡吉原町署長に轉勤を命ぜられたが、間もなく後進に道を譲つて官界を辭し、大宮町北神田一三四八番地に居住し、町會議員に推されて町政及び自治産業發展に盡瘁してゐる。現在町會副議長の重職に推され全町より絶對的信賴をうけてゐる。

静岡、富士、今泉村

井出製紙株式會社

井出製紙株式會社

當社は合資會社井出製紙所と、日本製紙とが合併し、昭和十二年四月、資本金十一萬五千圓を以つて株式會社に組織を變更したものである。

つてゐるが、現下の業界は種々困難なる状態に於かれてゐる。然し遠藤氏の慧眼と敏腕とは必ず業界今日の難局を突破し當社は愈々堅實なる發展に邁進するであらう。

經營主

遠藤行作

氏は温厚篤實な人格者として知られ、現在四九歳の働盛り永年精米業を經營し、現在當製紙所を兼營してゐる。なほ子息儀得(二十八歳)氏は滿洲事變及び日支事變に参加し勳八等を賜つた勇士にして、現在嚴父の事業を扶け經營參劃してゐる。

高知市城見町

井關瓦斯電業工所

井關 中五郎

電話一九六四番

瓦斯銲接、切斷及電氣銲接専門にて著名な井關瓦斯電氣工所主井關中五郎氏は明治三十八年出生、郷里にて小學校を卒業するや野望を抱いて大阪に至り、此花

區櫻島大阪鐵工所に見習職工として勤め具に世の辛酸をなめつゝ、銲接技術を修得し、後野村工作所に轉勤し銲接部主任たり、此の間にあつて、氏はガンリン機關車並に船舶の銲接技術を専門的に研鑽した。

斯くて昭和九年四月半生の奮闘が酬ひられて遂に獨立、現在の銲工所を創立したのであつた。

今日井關瓦斯電氣銲接所の繁榮は、その獨自にして高度な技術を確保し、堅實無比なる方針によるものである。

氏の趣味は釣、家庭には今年六十八歳の母堂、糟糠の妻美子夫人との間に長男幹男、次男正泰、三男武男君がある。

静岡、富士、大宮町

町會議員 正木 來造

電話大宮五一〇番

正木氏は静岡縣警察官として永年精勵格勤し、當地方治安の爲に貢獻多く、大

主要製品は、マニラ塵紙、京花紙、白塵紙、ゴロス塵紙等であり、マニラ塵紙及び京花紙は第一工場に於いて生産し、白塵紙及びゴロス塵紙は第二工場が生産に當つてゐる。

販路は全國に普く、生産高は四〇〇、五〇〇貫に上り、年額五六六、六〇〇圓の収益を挙げ縣下業界に君臨してゐる。

社長

井出富次郎

人格圓滿、剛毅果斷の人で、その才腕は恰く知られ、當社の堅實なる發展は各方面より刮目されてゐる。

静岡、富士、原田村

福富製紙株式會社

電話吉原一四七番

當社は昭和五年十月十五日の創立にして、爾來十年の歴史を閲し年と共に繁榮絶大なる信用と聲價を博してゐる。

製品種目はマニラボール、模造紙、防

空紙、障子紙、滑皮紙等でその品質の優秀なることは普く一般業者に知られてゐるところである。東京、名古屋、大阪方面に販路を持ち、尙近時海外にも輸出し我國貿易のため少からざる貢獻をなしてゐる。

工場は第一、第二に分れ、第一工場では和紙を、第二工場では洋紙を製造してゐる。

役員は左の諸氏である。取締役社長久保田春吉氏、取締役梅原又次郎氏、同大井徳雄氏、同一松森次郎氏、監査役久保田逸松氏。

社長

久保田春吉

氏は人格高潔、事業界に對する識見高く、時局下多難なる製紙界に在つて、克くその敏腕を揮ひ、業績顯著なるものがあり、當會社の前途は益々洋々たるものがある。

氏の一家は信仰心極めて厚く、平和にして圓滿な家庭である。而して笑聲の絶ゆることがない。

静岡、富士、大宮町

酒醸造業 中屋本店

電話大宮八・二一七番

本店は天保時代の創業にして、縣下屈指の酒造店である。永い歴史と傳統に依り、異常の發展隆昌を來し、その醸造に係る清酒高砂、焼酎は品質良好として知られてゐる。

昭和五年六月三日長くも天覽の榮を賜り一家その光榮に感泣した。

販路は富士郡下一圓に及んで居り、本店の他、富士郡今泉村、富士町、大宮町東町の三ヶ町に支店を持ち益々發展の一路を邁つてゐる。

尙清酒醸造の傍ら味噌も造り、品質優良、縣下の珍味とされて居る。

經營者

山中 正吉

氏は明治三十四年十月一日先代正吉氏の長男として呱呱をあげた。人となり温厚篤實、幼にして英

名を誦はれ、郷校を卒へるや、京都同志社大學に學び優秀なる成績を以て卒業。家に歸りては家業を繼ぎ、經營の合理化、醸造品種の改良等を企て着々その成果をあげ、一層需要家の信用を博して居る。

静岡、富士、傳法村

村會議員 鈴木 信太郎



當家は代々農を營み、現主にて八代を算へる舊家である。先代故磯太郎氏は篤農家として知られた人、信太郎氏は明治二十五年十一月十日生、先考磯太郎氏の長男、郷校卒業後、家にありて、よく父君を輔け、現在丸新製茶工場を經營してゐる。資性穎悟、辯舌爽快、夙に人望を聚め

農會部長、青年支部長、傳法村鷹岡町用水路委員、工業調査委員等を歴任し、現在は村會議員、富士郡茶業委員、常設委員、産業組合評定委員等を兼任して、不斷の活動をして居るが、特に青少年の指導誘掖に功勞あり、青年團より表彰をうけた。家宗は日蓮宗で、信仰心があつた。家庭には令閨はるさん(四七)との間に一男一女があり。

静岡、富士、富士根村

富士根村役場

本村は大宮町と鷹岡町との中間に位し朝に夕に富岳を仰ぎ、雄大なる裾野の一部にある村である。

村内には、縣社淺間神社、權現神社、寺院には久遠寺、安養寺、淨蓮院、大乘寺、代立寺、妙圓寺、妙泉寺等がありて敬神崇祖の信仰心盛んである。富士身延鐵道富士驛があり、なほ富士

驛大宮町間バスの便があり、交通は至便である。村内は小泉、栗倉、村山、大岩、杉田の五區に分れてゐる。

村長

後藤 忠男

當家は富士郡内の素封家として知られてゐる。

氏は先代萬作氏の長男で、明治三十二年六月二十五日生れ。

資性穎悟、縣立中泉農學校を卒業した夙に事業經營の才あり、現在天間製紙株式會社社長、豊岡産金株式會社社長として手腕を發揮し、先には准されて村會議員に擧げられ、現在は村長、銃後奉公會長、富士製紙工業組合理事、富士根信用組合監事、日赤特別社員を兼任し、諸方面に多大の貢獻をなしつつある。

静岡、富士、富士根村

村會議員 後藤 國太郎

當家は代々富士根村に居住せる舊家で

先代安平氏迄は農業に従事してゐた。



故安平氏は人民總代等をつとめ、自治方面に貢獻少な

からざるものがあつたが、又信仰家として有名で、富士山日照教の世話人を十五ヶ年間つとめ、信徒村民の間に人望が厚かつた。

氏はその長男として、明治七年九月十八日出生、郷校卒業後、鷹岡村階鴨舎に於て二ヶ年の修業をつんだ。

穎悟明敏、次第に人望をあつめ、方面委員、區長、國勢調査員を歴任し、村會議員としては永年村政自治に協力し、寄與貢獻多大なるものがあるが、現在では更に、氏子總代、日赤正社員を兼任、大童の活躍をつづけてゐる。

氏は讀書を趣味とし、日蓮宗に歸依してゐる。

令閨しんさん(六四)との間に、五男三女あり。

石川、金澤市中町

富士屋 横江 健介

電話四三九九番



氏は富山市西三番丁の出身、明治三十八年、横江鶴次郎氏を父として呱呱の聲をあげた。氏は富山商業學校を卒業するや、雄志を抱いて遠く滿洲に渡り、各地を視察したる後中支那漢口にとどまること數年、同地日本人俱樂部書記長の重任を負はされるに至つた。

軍納入品たる罐詰、酒類、その他一般食料品をはじめ、各種木材、建築材料等の販賣斡旋に努力し、下半年二百萬圓と

いふ驚異的貿易をなすに至つた。

蓄積したる資金を懐中に日本に歸り、現住所を選んで、富士屋騰寫機店を開いた。時に昭和八年である。翌九年頃より積極的に販路擴張に乗り出した。富士騰寫機の最も特徴とする點は従来の鏡面の「ガラ／＼」を改良し、滑かなる運筆と能率のなる所であり、圖案や地圖など、最も困難とされるものが、本品の使用によつて楽に仕上げることが出来る。色刷では四度刷、五度刷が容易であるに至つては驚嘆の外なく「本當に良い印刷機」と好評を喧傳され、賞讃を博して各地より續々注文の來るのも當然である。諸會社銀行一般商店等全國的に顧客を有し、東京及び大阪には工場を所有し、名古屋市昭和區幸樂町並に大防市西區本田町通にはそれ／＼營業所が置かれる。

静岡、富士、須津村

元村長 後藤 恒太郎
村會議員



當家は當主で二百七十年を経た舊家で代々農業に従事して來た。先代故和三郎氏は篤農家

として知られて居たが、又社會公共にも貢獻する所があり、初代戸長、村會議員助役等を歴任し、村内自治制改革者として、其の功績顯著なるものがあつた。當主は故和三郎氏の長男、明治十三年十月二十九日生れ、名古屋騎兵第三聯隊に入隊し、騎兵軍曹に進んだ。資性穎悟聰明、夙に製紙業に關係し、昭和製紙專務取締役として活躍、現在は岳南製紙專務取締役として老練の手腕を揮ふ傍ら公共の爲めにも盡瘁して居る。又先には村長に推され、隨で郡會議員、収入役、各組合長等の樞職を経て、現在村會議員、學務委員等を兼任し、老來靜かに村政に専念して居る。



氏は先代竹四郎氏の長男で、明治十六年の出生、第三十四聯隊に入り、成績優秀の故を以て下士適任證を受けた。日露戰役には歩兵上等兵として出征、大陸の野に赫々たる歩動を樹て功により勳八等を賜つた。資性穎悟聰明、夙に人望あり、消防組頭、在郷軍人副分會長、材木商同業組合

静岡、富士、傳法村

山崎家は代々材木商を營んで來たが、現在は今

の令弟が經營の衝に當り、氏は之に協力して

静岡、富士、柚野村

區長 篠原 淳介



當家は當主淳介氏に於て八代の家系を誇る舊家で代々農業を業として居る。先代權次郎氏は

精勵恪勤の篤農家として知られた人。現主淳介氏は先考の長男として明治二十八年八月五日の出生、郷校を卒へ十七歳の若冠にして家督を繼いだ。人となり濃厚篤實、人格高潔、村民に推されて、先に農會總代副區長に就任し、現在は區長、縣農地調査員、養蠶部落實行組合長、農産物保險調査委員、檀徒總代、氏子總代等多數の公職にあつて、村民を指導して村内の融和を圖り、自治の圓滑なる進展農産物の増産等に専念して居る。

村長

渡邊久太郎



氏は明治二十二年四月二十日生れ、先考安吉氏の長男、縣

立大宮農學校の出身、資性剛毅瀟灑、夙に人望あり、昭和四年より引續き村長に就任し、また縣會議員、縣參事會員として、縣政に寄與すること多年に及び、現在は北山村長たるほか、統後奉公會長、産業組合長、警防團長、富士郡煙草耕作組合聯合會長、郡農會副會長、郡養蠶業組合副組合長、村會議員等を兼任してゐる。而して氏の一家は圓滿を極めてゐる。

評議員、青年團支部長、國勢調査員等を

選任して令名あり、現在では上三日市區長、納稅組合長、産組評定委員、日赤終身社員等を兼任し、大童の活躍をつゞけてゐる。

因に氏は曩に國勢調査員として表彰され、在郷軍人分會より表彰をうけ、又縣より消防功勞章、同十ヶ年勤績賞をうけたる外、杉山陸相より恤兵感謝狀を贈られた。

家庭には令閨ひこさん(五二)との間に三男一女あり。

静岡、富士、北山村

北山村役場

北山村は富士山の西南麓に位し、雄大な裾野の中心をなしてゐる。

大宮町との間に縣道が通じ、バスの便がある。村内は北山、山宮の二區に分れてゐる。

村内の名所としては、富士の裾野の大

氏は嘗て郡青年團より功勞者として表彰された。
尙家庭には夫人はるのさんとの間に四男あり。

静岡、富士、柚野村

區長 佐藤 傳吾郎

當家は農を以て家業とし、現在傳吾郎



氏に於て十餘代の家系を誇る舊家である。

先代惣太郎氏は篤農家として知られた人で、農事改良に盡すところ大であつたが、惜しくも早世された。

當主傳吾郎氏は先考の長男として明治二十二年八月七日の出生、人となり濃厚篤實、責任觀念極めて篤く、郷校を卒へ同四十二年豊橋野砲二十一聯隊に入隊、

歸村後家業に従ふ一方、農會總代、金保有調査委員の公職を勤め、現在村民に推されて區長、經濟更生委員、養蠶實行組合長、警防團分團長、日本赤十字社正社員、檀徒總代等を兼ね、獻身的努力を捧げてゐるが、當村は山間部落であるため林道の開設を急務とし、特にこの方面に力を入れてゐる。

十六年十一月九日呱呱をあげた。人となり濃厚篤實、清廉潔白の士で、大宮縣立農學校出身、推されて先には農會總代、青年團幹事、消防小頭等の公職を歴任し現在區長、經濟更生委員、金保有調査委員、檀徒總代、氏子總代等多數の要職にあつて、村内の融和、一致協力農産物の改良等に鋭意努力して居る。

尙家庭には夫人りるさんとの間に一男三女あり。

静岡、富士、柚野村

區長 城内 順一

城內家の祖先是日蓮上人の高弟たる大内氏にして、當主順一氏は十代目の後裔である。

先代儀一氏は篤農家として近郷に聞えたる勤直の士であつたが、不幸にして早世された。

當主順一氏は先考の長男として明治三十

二年十一月六日呱呱をあげた。人となり

静岡、富士、芝富村

警防團長 望月 保太郎

電話芝富一九番

當家は代々農を以て家業とする村內屈郷の舊家である。

現主保太郎氏に至つて土木請負業を始めたが、先代米藏氏は専ら家業に従ひ、篤農家として近郷に聞えた人であつた。

保太郎氏は米藏氏の長男として明治十

濃厚篤實、清廉潔白にして、早くより自治公共の



ことに深き關心を抱き、たゞめに先に區長、

家屋税調査委員等の公職に推され、銳意村政の刷新向上、村民の福利増進に努め顯著なる功績をあげ、現在は芝富村警防團長、日本赤十字特別社員の任にあり、特に警防團長としては、氏の一死奉公の至誠は、團員に深き感銘を與へ、富士郡隨一の規律正しき警防團たらしめた。

又氏はその家業たる土木請負業に於ても比ひなき敏腕を發揮し、當村土木事業に残した功績は顯著なるものがある。

家庭には夫人ゆらさんとの間に一男保一氏あり。

静岡、富士、大淵村

前産業組合 長 鈴木 健三

當家は父祖累代農を家業とする、健三



氏は分家されたもので村内切つての舊家名門である。

先代清左衛門氏は篤農家として讃へられた精勵謹直な人物であつた。

當主健三氏は清左衛門氏の三男として明治十六年一月二日呱呱をあげ、郷校を卒へて、明治三十七年歩兵三十四聯隊に入隊、日露戰爭勃發するや勇躍出征、力戰奮闘功に依り従軍記章を賜はつた。

歸村後推されて産業組合部長、農會部長長等を経て、農業生産の改善向上保健衛生の充實、配給機構の整備進展等に寄與する所あり、村民の感謝を集めてゐる。

家庭には夫人きしさんとの間に四男五女あり。

静岡、富士、柚野村

區長 七 等 深澤 信吉

深澤家は代々農を營み、屈指の舊家である。

先代巨藏氏は篤農家として知られ、又早くより組長其他の公職に推され村自治に種々功績を遺して居る。

當主信吉氏は新三氏の三男で明治四十四年五月十二日呱呱をあげ、巨藏氏の養子となつた。資性濃厚篤實、長じて静岡三十四聯隊に入隊、日露戰爭の際出征して功に依り勳七等を賜ひ、陸軍歩兵伍長に昇進した。

歸村後軍人分會理事(八ヶ年)、防護團長等に推され、現在は區長(八ヶ年)、經濟更生特別助成委員、檀家總代、氏子總代等、多數の要職に擧げられ、その高潔なる人格によつて着々實績をあげつゝある。

石川、金澤市松ヶ枝町

生 絲 商 池 田 久 男



氏は大正元年、金澤市鹽屋町に呱呱の聲をあげた。縣立金澤第一中學校卒業後、赤座染工場

に勤務し、更に津幡町西川商店に轉じて昭和十年これを辭し、この間、商賣の妙機と織維産業の研究をとげ、勇敢にも獨立生絲商を開店し、臨機應變の商略に、忽ちにして隆昌の榮譽を得た。
その姓池田は、母方の姓で、元宮城久男と稱したが、都合により母方の家を繼ぐ。資性溫和にして敬神崇祖の念篤く、親孝行としても有名である。
生絲商として春秋に富む氏は、同業者の大同團結組合の結成を要望し、これが

實現に努力を拂つてゐる。因に當家の取引先は、能登方面を主とするが、京都の小泉、山仁石勘商店等にも取引あり、今後の繁榮が期待される。

静岡、富士、柚野村

區 長 篠 原 隆 次



氏 勝 男 長
村 内 有
數 の 名
門 で あ

當家は代々柚野村に居をなし、農を以て家業とする。舊家で村内有數の名門である。
先代桂作氏は篤農家として知られたが早世され、先々代清十郎氏は早くより自治公共に盡力し、區長等を歴任し、功勞があつた。
現主隆次氏は望月彌作氏の次男として明治二十四年七月二十二日呱呱をあげ、

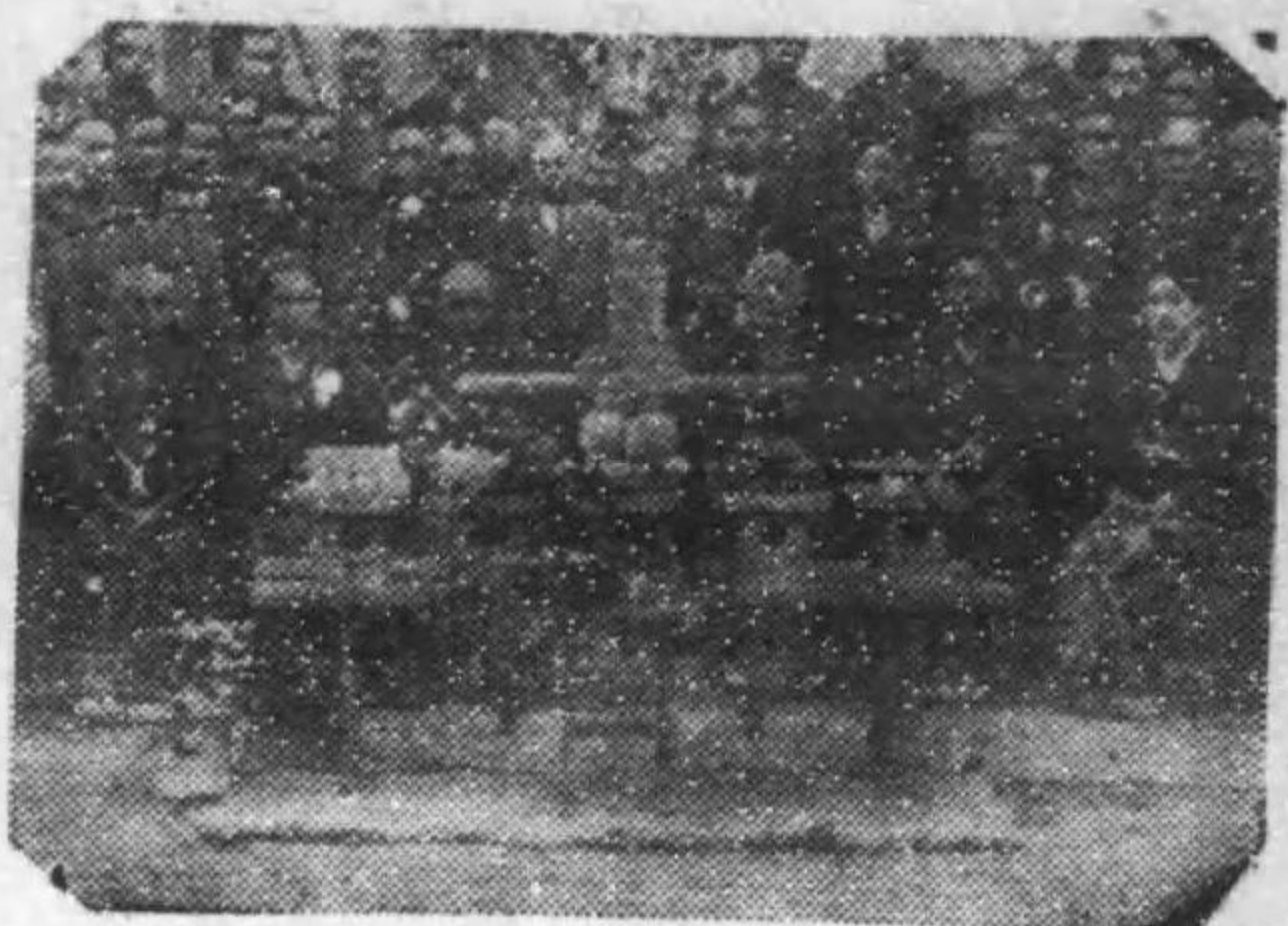
長じて篠原家の養子となつた人、資性濃厚篤實、清廉の士で、先には推されて防護團長、區長を歴任し、現在は區長、經濟更生委員、農會總代、金保有調査委員、養蠶實行組合長等の多數の公名譽職にあげられ、夙夜精勵恪勤村政の刷新向上、村民の福利増進に意を用ひてゐる。
嘗て氏は金の保有に關し、縣當局より表彰されたことがある。
家庭は母堂せきさん健在にて、夫人まきさんとの間に三男二女あり。

静岡、富士、須津村

村 會 議 員 松 下 豐 吉

當家は村内での舊家で、代々篤農家として知られてゐるが先代喜一郎氏は村會議員、區長、各委員等を歴任した名譽の人である。
氏は先代喜一郎氏の長男で、明治十一年三月十五日生れ、資性穎悟、人望あり推されて、曩には區長として盡瘁したが

現在は村會議員に擧げられ、又土木委員



をも兼任して村治に農の改良に大の活躍をなしてゐる。

家庭には嚴父喜一郎氏(九一)、母堂ぬきさん(九〇)健在で、當主と令閨まつさん(六〇)の間に二男四女があり、長男貞氏(三〇)は富士郡傳法村小學校に主席訓導として奉職し、夫人があり。
實に當家は三夫婦の芽出度き家庭であると共に、常に和氣の霽々たるものがあり、近隣より羨まれてゐる。

静岡、富士、傳法村

區 納 稅 組 合 長 宮 川 峯 吉



宮川家は以前富士町に在つた舊家である。當主 峯吉氏は 元吉原村の出身で 宮川家の 養子とな

り、當村に移住して商業を営む様になつた。氏は明治二十三年六月二十五日の生れである。
築地工學院を卒業し、現在は電氣、ラヂオ商を經營してゐる。資性濃厚篤實、推されて區長、村納稅組合長となり、更に商工會委員、富士街道統制電氣ラヂオ組合理事長をも兼ね、多大の貢獻をなしつゝあるが、殊に西日吉區のために鋭意盡力し相當の實績をあげて居る。
家宗は日蓮宗。令閨よねさん(五〇)と

の間に六男一女があり、長男久芳君(二四)は目下東京工大二年在學中の逸材である。

静岡、富士、傳法村

醫 師 松 山 喜 作



當家の祖先は大阪夏の陣の功により徳川家の直臣となり 爾來明治維新に至るまで徳川氏に仕

へ、先代長秀氏の時に當村に來住し、製茶方面に活躍し、同地方製茶業隆盛の基礎を築き、その功は今尙追慕の的となつてゐる。
氏は先代長秀氏の長男で、明治十年五月七日生れ、濟生學舎の出身で、醫師檢定試験に合格し、明治三十五年の開業した。内科及産科の専門で、その手腕と學

殖は名國手として多大の信望を聚め、推されて村會議員を五期二十年の永きに互つて励め大いに村政に寄與し、自治功勞者として先年表彰された。

尙氏は村醫たる外小學校醫、青年學校醫、郡醫師會理事として地方刀圭界に活躍し、更に青年團長、方面委員、産業組合理事、區長、民政黨支部長、郡士族會同洞會總代等を兼任し、當地方の重鎮となつて居る。因に先代長秀氏は曩に故十六代徳川家達公より、公の寫眞及慶喜公の遺影等を賜はり、家寶として秘藏してゐる。

又氏は出征道家族、貧困家庭には奉仕診療を行ひ一般より感謝をうけて居る。家庭には令闈との間に二男四女あり。

静岡、富士、傳法村

村會議員 山崎 釘一

宗家の山崎家は村内屈指の舊家であるが、當主釘一氏は分家して、一家を創立

した。先代故竹四郎氏は村會議員、各委員等を歴任し、村政自治に功勞のあつた人である。

釘一氏は先考竹四郎氏の四男、明治三十年一月三日生れ、吉原町實業學校を卒業後、豊橋騎兵二十六聯隊に入營し、伍長勤務上等兵に累進した。

現在は令兄清氏(四八)と相協力し、村木業を営み、業績は益々隆盛に赴きつゝある。

夙に人望あり、區長、區長代理、國勢調査委員を二回、農事調査委員等を歴任し、現在では村會議員、警防團副分團長として、村政及統後治安に大重の活躍をなしつゝある。

氏は人となり温厚篤實、信仰心厚く、讀書、盆栽、庭木等を趣味としてゐる。令闈ふじえさん(三四)との間に二男一女あり。

静岡、賀茂、松崎町

町會議員 杉山 文策

當家は祖父哲氏の代に静岡縣掛川町より當松崎



町に轉住したものである。哲氏は郡書記、

警察署の劍道師範小學校教員等を勤めた徳望家であつた。また先考徳次郎氏は船員として海外に雄飛した人である。

氏はその長男として明治三十八年十二月十五日に呱呱の聲をあげた。

夙に町内の自治に関心が深く、殊に初等教育に就いては卓見を有し、科目に重點を置かず、兒童の人的教育を主眼として、教育するやうにするを理想としてゐる。

現在は町會議員を始め、會計検査立會人、勞務動態調査員、銃後奉公會評議員、家屋税調査員等を兼ねて活躍してゐる。資性温厚であるが事に當つて敏活、趣味は劍道、音楽等である。支、淨土宗の

信仰が厚い。

家庭には、母堂ていさん健在、令室義子さん(一九歳)との間には二男二女がある。

静岡、賀茂、下田町

町會議員 山下 國松



當家は代々魚商を經營し、當主にて五代に至り當町の同業者の間に重きをなしてゐる。先代

千代之助氏は夙に町勢の發展に深く思ひを致し、區長等を務めて貢獻する所あつたが、今は八十歳を越える高齡にして、夫人八十刀自と共に、悠々自適の生活を送つてゐる。

國松氏は千代之助氏の長男にして、明治十六年十一月二十日に呱呱の聲をあげ

た。日露戰役の時には特務兵として従軍し、赫々たる武勳により勳八等に叙せられ、青色桐葉章を賜はつた。

氏も亦父君の血を享け、町勢の發展に心を致し、夙に區長の職にあり、現在なほ町會議員として盡瘁するところ多い。

或はまた下田魚市場重役として、また下田魚類製造組合長として、ひたすら町の産業振興に奔命してゐる。就中當町常設水道の完備を計り、之を漁業者に無料提供して、業界に貢獻するところ多大である。

富山、東礪波、南般若村

元 村 長 吉田 吉郎平

氏は慶應元年三月六日の生誕にして眞摯、恭儉の人、また識見高く高邁なる人格者である。

早くより村治に携り功績多く、遂に推されて村長の任に就き爾來村勢の發達のため獻身的な努力を續けその治績、枚擧

に達なき程である。

現在總べての全名譽職から引退して悠々自適



氏 雄一 風月を友としてゐるが尙當村の長

老として重きをなし、全村の敬仰敬慕を一身にあつめてゐる。

なほ氏の長治惟彦氏は廣島高等學校出身の秀才にして長野、大阪、鹿児島等の各中學校に教鞭をとり後歐米諸國に巡遊し、現在福井中學校長として在職中である。

謹嚴、温厚、眞摯なる人格者で教育界の偉材として名校長の名をうたはれてゐる。

又惟彦氏の長男一雄氏も亦京都帝大出身の俊才で福井縣廳農林課に勤務前途を囑望されてゐるが目下應召して仙臺聯隊にあつて軍務に精勵中である。

その令閨及び令息吉彦(三歳)君と共に祖父吉郎平氏の許にあり、一家圓滿である。

静岡、駿東、小山町

町會議員 大庭 寅之助



當家の開祖は不詳であるが、二十五代に及ぶ舊家である
代々農業に従事し來つたが先代傳三

郎氏は養子で、信仰心が篤く宗教方面で知られてゐた。

氏は先代故傳三郎氏の長男として明治十九年八月十九日生をこの世に享けた。郷校を卒業後、現在では新聞販賣事業に關係してゐる。

夙に人望あり、自治實行組合長を二期つとめたが、現在では町會議員に推され

て町政に盡瘁し、湯船温泉設立委員、警防團警防部長、土木委員、漁業組合副會長等の各要職を兼任し、社會上、産業上に大量の活躍をなしてゐる。

氏は、特に湯船原の開発に力を入れ、温泉を開き文化施設を完備して、その發展を招来すべく運動してゐる。

趣味は園芸と讀書。家宗は曹洞宗、令閨うめさん(四〇)との間に四男二女あり平和な一家である。

静岡、賀茂、城東村

來宮山 東泉院

當山は城田村字白田にあり、曹洞宗に屬し、御本尊は役の小角の作にかゝる聖觀世音菩薩を安置してある。

開基は金指筑後守、開山は笑山精真和尚にて抑も當山建立の由緒は、小田原北條氏の外臣金指氏勢州より豆州當白田に漂泊し來り、命を此處に終つたが、纒かに精靈寄託の小庵を結んで、永く末葉まで



住 職 金田 一來

師は當村高橋留藏氏の三男として、大正五年六月二十四日に生れ、昭和二年得度して沙門に入り、中大見村

最勝院僧堂に於て住職淺井大仙師に就き修學した。昭和十年九月金田眞觀氏の息女照子さんと養子縁組した。昭和十二年十月普應寺の住職となり、次で十三年十二月當寺の法燈を繼いで住職となつた。

師は城東小學校卒業、補習學校に學んだ人で、佛道に入つて現在當村に於いて布教専ら怠りなく、信望頗る厚い。

静岡、賀茂、田子村

福田山 珠泉寺

當寺は臨濟宗圓覺寺派に屬し、釋迦牟尼佛を御本尊として安置してある。開基は藤井彌左衛門にして、寛永十五年當村正法院二世藤井春景和尚の開山にかゝる正法院はその末寺である。

境内には本堂、庫裡、辨天堂あり、田畑、山林の財産がある。當寺の社會的事業としては、寺院聯合會あり、方面事業に力を注ぎ、出征軍人遺家族のため、托鉢して慰問金募集に當つてゐる。

大田子一圓を檀家範圍とし、その數五十戸あり、内田六次郎、佐藤軍平、磯谷園吉の諸氏が檀徒總代の職にある。

住 職 鈴木 存庸

師は中川村字仲の出身にして、明治四十年一月一日に呱呱

の聲を擧げた。大正八年得度して、田子村正法院



に入り、昭和六年當寺の住職となり更に十二年

年正法院住職を兼務する事になつた。

師は田子小學校卒業し、禪宗專門道場にあつて、深く佛道の教義を修めた。常に研學修業に怠りなく、明徳の僧にして村民の教化指導に當り、衆望頗る高い。

富山、西礪波、西野尻村

農 會 長 荒 永 豊

當家は始祖以來實に拾數代を數へ、當村切つての舊家にして、また篤農の聞え高き名望の素封家である。

當主豊氏は先考與次郎氏の長男として明治三十八年三月三日の出生、幼にして頭腦明晰群童を抜くものがあつた。長じ

て農村經濟更生問題に没頭し、學理と實際的兩方面から研究して問題の解決に當るべく努力してゐる。

眞面目にして沈着な人であるが、一度決すれば如何なる障害と雖も押しつけ突破して進む熱情の持主でもある。

曩に農會副會長を勤め會長を輔佐し種々功績あり、庶民の信頼を深めた。遂に會長に推舉され、現時その職にある。爾來、その思想抱負を實現すべく、區總代檀徒總代等の要職を兼任して活躍してゐる。

その知識と手腕と人格等から推して今後の活躍は萬人の等しく期待して止まざる處である。

農村更生の叫ばれる秋、氏の如き熱誠なる壯年農會長を有することは當村の幸福である。

家庭は温良をもつて聞える富子夫人との仲に一子私君あり、靜謐にして露々の模範家庭を營み、近隣羨望の的となつてゐる。

静岡、賀茂、松崎町

青年團長 望月 菊藏



松崎町青年團長として、衆望を擔ひ、
銃後青年の精神作興の指導に任じつゝある望月氏こそ

當町稀に見る人材と云ふべきであらう。氏の天與の才氣と明敏は、年と共にその輝きを發揮して、常に愛郷的精神に富み、公共の事に當つては率先して獻身奉公の誠を至してゐる。

青年團長に推されたのは、蓋し適材を得たるものと云ふべく、同青年團の活動は全町の模範となつてゐる。

家業としては自動車運輸業を經營してゐるが、常に名利に走らず公利公益を旨とし、平生人に接して眞に温容である。

氏の如き人材を有するは實に松崎町の誇りと言ふも過言ではない。

静岡、賀茂、下田町

方面委員 持月 政吉



電話三四五番

先考重太郎氏は大阪住友伸銅所に技師として三

十ヶ年間

勤続した

人で、當

代政吉氏

は明治三

十三年七月十四日、その長男として生れた。下田小學校卒業後、吳服商見習の爲年期奉公を勤め、孜々として努力を續け研鑽を積み、大正十二年現在の所に獨立し、吳服商を開業した。爾來誠心誠意以て商務に當り、大いに信用を高め、近隣は元より當町に於ける有数の吳服店にまなつた、眞に立志傳中の人である。單

に商賣上のみならず、稀に見る人格者で

方面委員、産業奉仕委員、下田軍人遺家

族世話係、賀茂郡吳服太物小賣商組合常

務理事、下田商業組合常務理事、帝國在

郷軍人會名譽會員等の要職を兼ね、銃後

の強化に努めてゐる。従つて、個人軍事

功勞者として表彰され、閑院宮春仁王妃

殿下に拜謁を仰せつけられるの無上の光

榮に浴した。

責性誠實なる反面潑刺明朗な人として

人々から敬慕されてゐる。

家庭は淑徳の譽高い令夫人との間に二

男三女があり、長男博行君は豆陽中學校

在學中である。

石川、羽咋、邑知町

青年團長 前田 次吉

當家は代々農耕をもつて業として副業として菓工品を製作してゐる。本村屈指の舊家にして、嚴父榮吉氏は現在なほ矍鑠たる元氣で若山産業組合理事、農會總

代等の要職にあり目下若山産業組合酒類



販賣業を營んでゐる。

次吉氏

はその長

男として

大正四年五月五日に生れた。まだ二十五歳の新進氣鋭の青年であるが剛毅豁達なる人で昭和十四年四月一日、二十四歳にして青年團長に推された。其の眞摯にして烈々たる氣魄は青年層より絶對信望を受けてゐる。

同團は本年の木炭不足に當つては團員百三十四名が文餘の積雪を越へて木炭の増産を計り村民より絶大なる賞讃を受けた。

尙劍道、其他の體育競技等にも優れ郡内での模範青年團となつてゐる。

家族は母堂イヌさん、夫人ツヨノさんがあり共に婦人團體幹部として活躍してゐる。

静岡、賀茂、稻生澤村

本郷製材株式會社社長 警防團長 村山 要

電話下田一四〇番



當村山家は現在六代の家系と云はれ代々篤農家

として村

内に於て

信望を集

めてゐた

製材業は

嚴父清吉氏の創業に係るもので、爾來發

展の一途に進み、株式組織となつて當主

要氏はその社長の席にありて斯業の發展

に奔命してゐる。氏の明敏なる識見と手

腕は今後なほ大なる期待を以つて見らる

べきであらう。氏はまた傍ら土木建築請

負を兼營し極めて多忙なる日常である。

しかも公共事業にも深き關心を有し、

會つては消防組頭として現在では警防團

長に、或は村會議員に、その他土木委員

賀茂郡材木同業組合會計、製箱同業組合

理事、賀茂郡土木建築請負業組合副組合

長等を兼任し名聲噴々たるものがある。

特に警防團長としては義勇奉公の熱誠を

傾けて之に當り、よくその責に任じて本

分を果し、村民より模範的團長として尊

敬を受けてゐる。

氏は東京主計學校出身でその識見と人

格は夙に村民の信望する所であり、常に

讀書を趣味とし、家庭には尊父清吉氏、

母堂リヨさん共に矍鑠として健在であり

夫人トミさんとの間に三男一女があつて

極めて圓滿である。

静岡、志太、瀬戸谷村

信用販賣 購買利用 組合

電話瀬戸谷一二番

當村は古く組合の設立ありしも事業不振にして解散となり、のち昭和十二年十月十三日保證責任として本組合が創立し現在に及んでゐる。組合員數は四〇二名

にして、出資一口の金額は二〇圓、をもつて逐次好成績を収めてゐる。

購買事業は本組合の最も力を注ぎたる事業にして肥料、農業薬品をはじめとし米穀、肥料等漸次取扱範圍を擴大し、日用雜貨、榮養品にまで及び、また、販賣事業は筍、繩、柑橘の三品目にして、今後はこの事業に力を致す計畫である。利用事業は精穀、製粉、製麵、三輪車の四種である。

組合長は佐野彌助氏にして、理事は勝治保元、渡邊平助、大塚平一、清水新太郎、渡邊平治、山本良吉、臼井謙市、平口郁太郎、澤口兵太郎の諸氏にして、監事は渡邊繁、向島定吉、柄本文治、森元與一郎、中村源治の五氏である。

組合長 氏は明治二年の誕生にして、老齢なほ豊饒として組合長の要職にありて壯者を凌ぐ覇氣をもつて執掌し、村民の絶大な信頼を得てゐる。曩には郵便局長として

て永きに互る勞を致し、現在なほ村長、村農會長等を兼ねて村政の進展に、産業の向上に幾多の業績を擧げると共に村内の重鎮としてその令名を謳はれてゐる。なほ氏の長男は目下郵便局長の任にあり、通信事業に日夜寧日なき努力を致してゐる。

静岡、賀茂、稻梓村

在郷軍人 分會長 鈴木 武男



當家は連綿二十五代目にあたる村内有数の舊家にし、代々農業をもつて、舊業とした先祖は足利氏にして、屋敷は茶丸の居城であつた。

先代喜一郎氏は、稻梓村長を始め其他の名譽職を歴任して、村政自治に甚だ貢獻した。

氏はその長男として明治三十五年一月十五日に出生。大正八年豆陽中學を卒業のち同十三年静岡歩兵第三十四聯隊に一年志願兵として入營、陸軍歩兵少尉に昇進し、正八位に叙せられた。

稟性温厚にして敏活、村民の信頼厚く推されて在郷軍人分會長、郡聯合分會副會長、青年學校生徒指導員、青年團長等に就任して、村青年の教育指導に努力盡瘁した。

功勞に依り、帝國在郷軍人會長より功勞章及び青年學校指導員として陸軍大臣章を授與されて表彰された。

家庭には尊父喜一郎氏(六十三歳)、母堂あひさん(六十一歳)、及び夫人との間に長男修君ほか一男五女がある。

尙、長女洋子さんは女子青年補習學校在學中の才媛であり、一家は常に笑聲の絶ゆることなき圓滿振りを示してゐる。

静岡、賀茂、城東村

村會議員 勳八等 前田 角太郎



當前田家は當村切つての舊家と云はれ代々戸長等を務めた家柄で當村に於ける名門として知られてゐる。

角太郎氏は先考徳治氏の三男として明治十五年九月三日に呱呱の聲を擧げ、城東尋常小學校を卒業した。明治三十五年名古屋工兵隊に入營したが、偶々日露役勃發するや勇躍これに出征し、各地に於て轉戦し、赫々たる武功をたて、凱旋、その功により勳八等に叙せられた。氏は夙に父祖以來の材木業を繼いでますます精勵努力し、家業を繁榮に導き、今日製材業界の重鎮として、賀茂郡製函

工業組合理事、賀茂郡材木同業組合評議員、材木同業組合東賀支部長等の要職にある。

又當村の自治産業の振興にも盡瘁し、曩には區長、氏子總代として、現在では村會議員の公職にあつて、日夜村のため忙殺されつゝある。當村落の發展には道路改修を必須なりとは氏の常に主張するところで、日頃その努力を盡してゐる。

温厚篤實なる事業家にして、村民信望尊敬厚く、曹洞宗に歸依し、家庭にはヨシ夫人、長男理氏、外三人の子女あり、和氣霽々たるものがある。

富山、西礪波、津澤町

農會會長 勳七・功七 栖原 壯一

累代農を生業とし、連綿として實に數百年の舊き家系を傳へる名家である。代々農事に就いて深く研究を積み、その傍ら村治或は産業の發達にも大なる功勞のあつた家柄である。

當主壯一氏は自治功勞者として、その圓滿な人格は、いたく庶民間に敬仰されてゐる。先代故幸農氏の長男として明治九年の出生、夙に明治三十七、八年の日露役には第三軍麾下部隊に従軍し、勇戦奮闘、赫々の武功を樹て、その功に依り勳七等功七級の恩賞を賜り、歩兵軍曹に累進した勇士である。

資性温厚篤實にして、勤勉眞摯、農村稀れに見る卓越、識見の人であり、曩に町會議員四期、軍友會長、養輪産業組合長等の公、名譽職を歴任して甚大なる功績を遺した。

殊に前記養輪産業組合並びに軍友會は氏の率先、提唱に依り創立されたもので今や町内中樞機關として、ますます發展その重きをなしてゐる。氏の功績は實に筆舌に盡し難きものがあり、今や當村代表的人物として重きをなしてゐる。現在農會長として四期目、その任にあり、軍友會長、學務委員を兼任して誠心盡瘁されてゐる。

家庭は圓滿和合を極め、貞淑内助の聞え高きしげ子夫人との間に子實に恵まれ長男準氏は縣下育英界に在りて盡瘁貢獻してゐる。

静岡、駿東、金岡村

元村長 鈴木 邦雄

當家は金岡村に於ける舊家で、世々農業を以つて生業となし來つた。當主は十六代目である



祖先是戸長、名主等を勤めた當村切つての名望家で、先代亮平氏永らく町政に寄與し、村助役、村長を歴任して功勞があつた。また、當家は農耕のほか養蠶を行ひ當村稀れに見る素封家である。
氏は明治元年十月十九日先考亮平氏の長男として生れた。

明治二十六年同志社大學を卒業した。氏もまた父君の名に背かず、助役を経て村長に推舉せられて自治行政の中心人物として活躍し、那農會評議員、那會議員、那參事會員等を歴任し、現在は日赤終身社員、氏子總代、禮徒總代、方面委員として、公共のために力を盡してゐる。
氏は資性濃厚篤實、讀書、書畫を趣味とする思想圓滿な士である。
宗旨は禪宗、家庭には、令闈ていさん(六七)との間に三男三女がある。
長男平吉氏(三四)は慶應大學を卒業して目下三井銀行日本橋支店に勤務中、夫人まさ子さん(二三)との間に令孫忠彦君(三歳)が誕生してゐる。

静岡、田方、伊豆長岡町

温泉旅館 甲州家旅館

電話二二・一〇八番

當館は大正五年の創業に係り、その堂々たる威容と、各種の近代的設備を以て



知られてゐる。現在客室二三室あり、縣廳の指定旅館となつてゐる。浴室は大浴場のほか、婦人風呂、貸切風呂等あり、風雅の數寄を凝らして浴客の靜

養に遺憾なきを期してゐる。

經營者 神尾 利一

氏は嚴父直八氏の男として明治二十八年八月一日に生れ、のち神尾家に入籍し、本館の經營を繼承するに至つた。

氏は消防組に三十年勤続し、その功勞により内務大臣から表彰された。現時、本町旅館組合



幹事、警防團本部附消防部長等の公、名譽職を兼務して盡瘁してゐる。

静岡、志太、稻葉村

助 宗 信用販賣 組合

當組合は大正八年五月八日有限責任助宗信販生産組合として設立し、昭和十年保證責任に組織變更して現在に及び、組合員一同は協力一致し、組合精神を深く理解して、順調なる發展をつとけてゐる。

販賣事業は柑橘、筍、茶等にして、購買事業は肥料、雜貨、利用部は精米を主としてゐる。今後は共同製茶をなす計畫

が着々進められてゐる。當組合は組合長を初め、諸役員にその人材を得て、ますます盛大を極めてゐる。

歴代組合長は大塚藤吉、大塚春吉、大塚重吉の三氏にして、現組合長は岸庄五郎氏であり、なほ前専務理事は大塚七太郎氏、現在は大塚七五郎氏その任に當りその他理事六名、監事二名がある事務員岸茂登藏氏昭和九年より勤務してゐる。

組 合 長 岸 庄 五 郎

氏は明治八年の誕生、老齡なほ壯者を凌ぐ元氣がある、曩に區長の職にありしが、昭和十四年再度組合長に推され、農村更生を双肩に負つて盡瘁し、村内重鎮として敬仰の的となつてゐる。

専務理事 大塚 七 五 郎

氏は明治十八年の生れにして、夙に村政に干與し、組合監事、村會議員等の要職を歴任し、その功績頗る顯著なるものがある。昭和十四年専務理事に推され、卓拔せる手腕を以て

聞え、當村の支柱となつてゐる。

富山、東礪波、太田村

村 會議員 宮脇 外次郎



當家は代々自治産業に貢獻多く、又篤農家として知られる村内有數の舊家である
先代故常次郎氏は清廉高潔なる人格者として、村民信賴厚く村議に推されその任にある事三期に及び、その間種々なる公名譽職にも歴任し、功勞頗る大なるものがあつた。

氏はその長男として明治十一年三月颯々の聲をあげた。

濃厚篤實の人格者で明敏俊英の頭腦をもち早くより村治、産業に貢獻し現在村會議員として第二期目にあり、眞に村政

村治の發展に盡し、村民の尊敬を一身にあつめてゐる。

又氏の長男恭彦氏も産業組合に勤務中で傍ら軍人分會長の重任を負ひ活動中である。今事變に應召され赫々の勳功を樹立され陸軍歩兵軍曹に累進凱旋した勇士で、年少氣鋭本村中堅層として重きをなしてゐる。

又國勢調査員としても表彰されてゐる一家團欒、模範的な家庭である。

静岡、駿東、小山町

町會議員 勳八等 岩田 芳忠



當家は代々農業に従事し、連綿として六百年に及ぶ町内隨一の舊家である先代故太忠氏は、篤農家として知られた人であるが、當主

芳忠氏はその長男として明治十六年六月二十八日生をこの世に享けた。静岡歩兵聯隊に入り、日露戰爭勃發するや、勇躍出征し大陸の野に赫々たる武勳を樹て、その功績により勳八等を叙賜された勇士である。

資性穎悟聰明、夙に人望あり、衆人に推されて町會議員となり、町政に盡瘁しまた軍友會長、足柄三保線道路委員等を歴任し、社會公共のため寄與する所少なからざるものがある。

氏は、殊に湯船原、高原の温泉開發に頗る意を田ひ、その促進運動に努めて居る。狩獵、讀書を趣味とする。明朝にして、濃厚篤實な人であり、家宗は曹洞宗である。

家庭には令室らくさん(六〇)との間に三女に恵まれ皆健在であり、長女つね子さん(四〇)には夫君庄一郎氏(四六)を迎へた。若夫妻の間も至極圓滿で、令孫五人が賑やかな、睦じい家庭である。嗣子庄一郎氏も頗る人望あり、富士紡

績に勤むる傍ら、衆望を擔つて町會議員になること二期に及び、學務委員をも兼任して居り、大いに將來を期待されてゐる。

静岡、賀茂、上河津村

村會議員 山田 高次郎



當家は當村に於ける由緒ある舊家である。當村初代村長として、多大なる治績をあげ、又那會議員を二期務める等、幾多の功勞を殘した衆望厚き人であつた。

高次郎氏はその次男にして明治七年十月二十三日に呱呱の聲をあげた。尊父に劣らず愛村の念厚く、長じて村長として村政を司ること二期、其他助役、區長學務委員産業組合理事、農地委員に歴任し

大いに村勢の發展に寄與貢獻した。現在なほ村會議員、學務委員、氏子總代、檀徒總代、日本赤十字社終身社員、金錢債務測定委員等の要職に就き日夜ひたすら



長男 中村 昌男 氏

村の發展のため命努力して、村民こそぞつての感謝を受けてゐる。なほまた加茂蠶種製造販賣組合理事、蠶種同業組合理事として、當地方蠶業の振興發達にも盡してゐる。

趣味として釣魚を楽しみ、ハツ夫人との間には二男二女があり、家庭至つて平和である。

静岡、駿東、原里村

村會議員 芹澤 源次郎

電話御殿場一四六番

氏は明治二十一年十一月四日の生れで



二十七年 前當村に來住して製菓業を創業した爾來幾多

の辛苦を重ねつつ著々と今日の家運を築いた、立志傳中の人である。

資性頗る穎悟、嘗つて産業組合監事、商業共榮會々長、區長、消防組小頭等の要職を歴任して、人望を集め、現在は村會議員、御殿場商工會の監事等を兼任し地方自治に、或は産業界に大奮の活躍をなしてゐる。

氏は旅行を趣味とする穩健な人柄であるが、一面果斷の氣性に富み、事に當つて實行する力をもつてゐる。氏は對人關係及び思想共に圓滿であり、曩に消防組に貢獻せる功績により、表彰をうけたことは一般に知られてゐる。宗旨は淨土宗を信仰してゐる。

家庭には令閨としさんとの間琴瑟相和し、長男博氏は沼津商業學校の出身である。

静岡、賀茂、南崎村

村會議員 勳八等 平山 佐之吉



故善吉氏の養子に懇望されて入籍したもので

ある。由來平山家は南崎村に於ける舊家で、佐之吉氏を以つて十二代目に當つて居り、代々農を家業としてゐるが、かたわら漁業をも併せ營んでゐた。

氏は温厚なる人格者として村民の信望厚く、村の自治や産業の發展に常に留意して、曩には當村下流消防組部長となり或は下流區長、下流議員總代等に推され

大いに手腕を振ひ、現在なほ村會議員に推舉せられて、日夜寢食を忘れ、専ら村勢の伸展のために盡瘁しつゝある。

氏は郷校を卒業後名古屋第三師團第八補助輜重隊第九分隊に入營、明治三十七年日露戦役に従軍し、大いに奮闘努力しその功により、勳八等白色桐葉章、一時賜金壹百圓を下賜された。

讀書を趣味とし、浄土宗を信仰すること厚く、家庭には、養母かいさんの外、二男二女あり、幸福平和な家庭を營んでゐる。

富山、東礪波、中田町

軍人分會長 寶泉寺住職 林 尋 禪

氏は明治卅九年一月一日に生れ、幼時より穎悟の聞え高く、夙に宗教界に志を立て、和歌山縣高野山中學、京都東山中學等に學び、研鑽に努めた。大正拾五年金澤輜重兵聯隊に入營除隊後、昭和五年中田町眞言宗古義派の名刹寶泉寺住職に

任命された。

資性温厚篤實、謙讓にして寛仁人情に



篤く高潔の人である。常に研學に勵み、布教に努め公

共に寄與し、又社會教化に盡瘁し、當地方民の長敬信望厚い。なほ氏は今次の事變に應召され勇戦奮闘赫々たる功を樹て輜重兵軍曹に累進歸還した勇士で、後昭和拾四年遂に推されて在郷軍人分會長の要職に就いた。

而して身を持するに嚴格をきはめ、至誠を以てその青年訓練或は指導は町風淳化に多大の治績を擧げ名分會長として縣下に知られてゐる。

本年とつて三十五歳新進氣鋭の人で人格識見共に傑れ今や當村の中堅的人物として重きをなし、且その將來に期待される事頗る甚大なるものがある。

家庭は静温を極め、キク江夫人との間に三男がある。キク江夫人は常に農繁期には自ら率先、託兒所の世話をして町民感謝の的となつてゐる。

静岡、賀茂、竹麻村

村會議員 從七位勳六等海軍主計 特務少尉 板橋 磐彦

氏は千葉縣香取郡の出身にて、明治二十六年六月二日に生れ、當地に移つたのは大正十四年十一月である。

東京市立富士見小學校を卒業後、英支兩國語を學び、是を修得熟練するに至つた。明治四十年十二月舞鶴海兵團に入團し、同四十三年三月練習生として海軍經理學校に入學、同四十四年三月筆記適任證書を授與され、其の後大正三十四年の世界大戰に参加、赫々たる武功を樹て、勳七等白色桐葉章を拜受した。大正四年乃至九年の戦役に參戰の功に依り、青色桐葉章及び一時賜金三百圓を再び拜受の榮

譽を有してゐる。

大正十年、今上陛下東宮に在せし時、御回航の砌り御召艦香取の掌經理長を拜して隨行の光榮に浴し、依つて木盃一組を賜はつた。同十二年勳六等瑞寶章を拜受し、同十五年從七位に叙せられ、昭和二年主計特務少尉となり後備役に編入されて現在に至つてゐる。

爾來、村治に關與し、幾多の貢獻をなし現在は村會議員、賀茂郡聯合分會海軍部長、大日本傷痍軍人會静岡支部相談役等の要職にある。

氏は大日本青年黨員として活躍し、讀書、テニスを趣味としてゐる。又、敬神の念が厚い。

家庭は、令夫人アキ子さんとの間に四男三女あり、長男照彦君は豆陽中學校在學中である。

静岡、濱名、新居町

新居山 隣海院

當院は薬師如來を本尊とする曹洞宗の名刹で、開山は外能通和尚である。永享二年三月十三日の開基で眞達和尚が草創されたのである。其の後祝融の災に遭ひ惜しくも古記録一切を焼失した。

當寺の本寺は新福寺である。約千坪の廣大なる境内に本堂、庫裡、位牌堂、鐘樓、觀音堂等の堂塔が立並び、古木巨樹の静寂の中に立體美を誇つてゐる。寶物として狩野英玉筆の釋迦如來像が秘藏されてゐる。

本寺の行事としては、七月十四日の施餓鬼が知られ、盛大に嚴修され近郷の善男善女の參詣で賑はふ。檀家は二百五十戸を算する。

住 職

見崎 義英

師は明治三十七年十二月七日の誕生。駒澤大學を優秀な成績で卒業し、昭和二年當寺十八世の住職を襲うた。

現在は豊橋高等家政女學校の教諭として子女の薫育にあたり、そのほか日曜學

校を經營し、また濱名紡績會社に請はれて毎月修養講話を行つて社會教育に寄與貢獻して令名



噴々として徳望高き善智識である。

静岡、濱名、伊佐見村

伊左地 郵便局

當局は、明治三十七年十二月十六日無集配三等郵便局として、村長、その他村有志の主唱によつて開局されたものである。

野島龜藏氏が初代局長となり、爲替、貯金、郵便等の諸事務を統轄し、明治四十三年三月、集配事務を開始し、昭和七年九月内國電信事務を開始した。電話は昭和四年開通された。二代局長は倉田嘉一郎氏にして、現局

長は日山規矩治氏である。

昭和十三年五月十八日現金出納事務及び保険年金等の成績優秀をもつて遠江局長より表彰され、また地方通信局長より表彰されたこともある。

従業員は局長のほか、十四人である。野島賢作氏が局長代理を勤めてゐる。

局 長

氏は先代新藏氏の男として、明治三十七年に誕生した。新

藏氏は昭和七年一月より十一年一月まで村長の要職にあり、現在學務委員の任にあつて執筆し、自治に功勞頗る大なるものがある。

現矩治氏は濱松師範學校の卒業にして教職にあること實に十年、現局長として五年を経過し、優秀なる成績を示し、濃厚にして英敏なる氏の才腕は村民から將來を期待されてゐる。

静岡、賀茂、南崎村

村會議員 熊澤 傳吉

當熊澤家は南崎村草分けの舊家として



開え、現代まで二十代を經る舊家である。代々農を以つて業とし、傍ら漁業をも營んでゐた。古くより庄屋名主を勤めた名望高き家柄である。

氏は明治十三年四月十一日に呱呱の聲を擧げた。長じて明治三十三年横須賀海兵團に入團、偶々三十七年日露の役に出征し、赫々たる武勳をたて、その功により勳八等白色桐葉章並に金壹百圓下賜の榮譽に浴し、海軍三兵曹に任ぜられた。爾來當村にあつて、村の自治並に産業の振興發展に深く意を用ひ、推されて長澤呂區長、長澤呂區漁業組合理事等に任じ、現在では當村々會議員の要職にあつて盡瘁しつゝある。濃厚篤實にして、清廉實直の人格者と

して兼望高く非常時農村の産業振興は刻

下の急務とし、日夜寢食を忘れて奔命しつゝあり、又當村の恵れたる氣候を利用し、高級園藝に花卉栽培により、土地の發展策を劃してゐる。

趣味は讀書にして、臨濟宗に歸依して厚い。はつ夫人との間には三男一女あつて、家庭は頗る圓滿である。

静岡、庵原、由比町

今宿漁業協同組合

電話由比一四二番

當組合は由比正雪の出生地として知られ、東海の景勝として名高い由比町の驛前にあり、昭和十三年十一月の創業である。

當地はさくらえび魚獲の地として昔なく知られ、當組合はこの漁撈の合理化を目指して設立されたもので、主唱發起人として功勞のあつたのは望月平吉、渡邊岩吉の兩氏である。

創立以來日は浅いが組合員の協力によつて内容の充實した模範組合として知られてゐる。

現任の役員は組合長熊谷澤次郎氏、副組合長専務理事佐野寅雄氏の外理事は望月丑太郎、渡邊岩吉の兩氏、監事は和田龜吉、鈴木金平、岩邊銀作の諸氏がその任にあり、業務に盡瘁してゐる。

専務理事

氏は副組合長として現任中であるが、

佐野 寅雄

當組合の實際的業務の一切を切盛りする業界の權威で、資性頗る潤達人格高邁の人である。

静岡、志太、徳山村

徳山勤儉 信用販賣 購買利用 組合

當組合は、大正十二年七月有限責任徳山勤儉信販購利組合として創立し、昭和八年保證責任に變更して現在に至つてゐる。

販賣事業は主として製茶、木炭等を取

扱ひ、購買事業は肥料、雜貨等、利用部に於ては農具の貸付を行つてゐる。

組合員一同は協力一致、よく組合精神を體し、その發展に盡力して、年と共に鞏固なる基礎を築き、盛大なる繁榮を來しつゝある。

歴代組合長は鈴木条藏、長島儀一郎の二氏にして、現組合長は鈴木保郎氏である。鈴木氏は當年三十八歳にして、學務委員を兼ねて、村産業の進展に盡瘁してゐる。

専務理事は鈴木壽雄氏にして、書記は小野田萬平氏である。

理事は長島儀太郎、久保己作、的場正作、鈴木幸作、長島廣次郎の諸氏で、監事は長島牛次郎、高木儀作、長島熊三郎の三氏である。

専務理事

鈴木 壽雄

氏は明治二十年の誕生、曩には區長として自治、公共の事業に精勵し、現在村會議員を兼任して、農村經濟を双肩に擔つて寧日なき努力を

致してゐる。

石川、河北、津幡町

町會議員 橋 安長

當家は地方屈指の舊家代々大地主として知られてゐる。

氏はその當主として明治十七年十月の出生、夙に縣立金澤第一中學校に學ぶ。先代安二郎氏は町政に盡瘁し、その發展に貢獻し、徳望高く、縣會議員を始めとし、郡會議員、町長等に歴任、大なる足跡を残した。安長氏また先考の志をつぎ町會議員として四期を重ね、郡社會教育委員長、郡自治會長等を兼職し、公共事業への盡瘁に寧日なき有様である。

氏はまた書畫骨董に趣味を有し、その鑑賞に於ても立派な見識を有してゐる。家族は母堂のぶさん、夫人千里さんに六男一女あり、長男安友氏は金澤醫科大學を卒へ引續き研究中。二男安信氏は東京獸醫學校を卒へ目下、北海道に開業中

なり。尙其外の令息は家庭にありてそれ
く勉學中。まことに恵まれたる家庭で
ある。

静岡、志太、朝比奈村

朝比奈村役場

本村は志太郡の中央に位し、東は中藪
科村に連り、西は瀬戸谷村に隣接して
る。

部落としては羽佐間、野田澤、殿、新
船、玉取、青羽根等があり、大方山地に
して山林が非常に多い。

而して産業の主なるものは、農産、畜
産、林産、水産、工業等にして、産物は
米、繭、茶が多量に輸出されてゐる。

村内には寺院最も多く、喜雲寺、玉傳
寺、西樂寺、特殊院、清甲寺、善能寺、
總善寺、梅窓寺、芙蓉院、萬年寺等に
して悉く曹洞宗に屬してゐる。

當村は岡部町へ約一里にして、それよ
り鐵道にて藤枝町に通じてゐる。

村長 寺坂 貞次

氏は明治十七年五
月二十二日の生れに
して、區長、學務委
員、産業組合長、警防團長に歴任して、
昭和十二年三月村長に推舉され、爾來村
政の改革に盡瘁すると共に、農村産業の
發展に獻身的努力を捧げ、その圓滿なる
人格は各方面から稱讃を得てゐる。

静岡、志太、大長村

大長西 信用販賣 組合

當組合は大正十一年五月十七日有限責
任大長西信販賣組合として設立され、
昭和八年保證責任に變更、主として肥料
共同購入、金融機關として設立されたる
もので、組合員数は三七三名を有してゐ
る。

當組合は、特に當村の産物たる小麦、
大麦、製茶、刈落茶、柑橘、木炭、蒟蒻
玉等の販賣統制に鋭意専念してゐる。
購買事業は國策に順應するやう圓滑且

低廉なる配給に全力を傾注したる結果肥
料、飼料に於て前年度に比し、それぞれ
數千圓の配給増加を示した。

利用事業は精米部、三輪車運搬部、耕
転機ともその成績を挙げ、醫療利用事業
はその設備を保證責任醫療組合聯合會共
生病院に委嘱して日に、月に業務の伸展
を遂げ縣下優秀組合の一つに數へられて
ゐる。

現組合長中澤太郎氏は明治十二年の出
生にして、曩に収入役、助役、村長等に
歴任し、現に村會議員、區長を兼ねて村
産業の發展に盡力してゐる。

専務理事は田中清吉氏、理事は天野勘
次、松浦幸太郎、柴田米藏、權田辰治郎
池ヶ谷熊太郎の諸氏。監事は北川千代治
鈴木幸藏、龜山秀一、大石昇、松下賢一
山田源吾、中野惣吉の諸氏である。

専務理事 田中 清吉

氏は明治二十三年
の生れにして、夙に
助役として村政に干
與して貢獻し、組合創立以來理事に就任

昭和六年専務理事となり、村會議員、區
長、村農會副會長、方面委員、駿東醫療
組合理事、志太、榛原木炭組合監事、志
太郡茶業組合常議員、縣製茶業組合志太
郡副會長等各方面の公職を兼任して、私
事を捨てて努力し、多大なる業績をあげ
てゐる。

また書記北川英一、山田宇作兩氏は創
立以來就任して精勵恪勤、村民の信頼頗
る厚い。

富山、西礪波、戸出町

海雲山 永安寺

當寺は今より五百年前瑞雲英俊を開山
とし川今又右衛門を開基とす。

本寺は著名なる自得寺であり末寺に前
年寺あり。山内總面積實に二千餘坪當地
方の名刹である。

住 職

金山 透開

氏は明治拾五年の
誕生夙に南照寺住職
として卅二年間昭和

十四年以降富山に來り住職となる。

明德達識にして、在住日尙淺けれど信
徒より深く敬仰されてゐる。

静岡、田方、小室村

川奈浦 漁業 組合

電話川奈九番

當組合は明治三十六年の創立にかかり
その歴史は極めて古く、縣下有數の優良
組合として名高い。

現在の組合員数は三〇六名にして、川
奈一圓を區域とし、一口金額は五〇圓で
ある。

役員及び組合員は組合精神を理解し、
その發展に協力一致して、用意周到、健
實明朗の經營方針の下に、年と共に繁榮
を來し、組合員の今日の福利増進を齎し
たのである。

現任組合長は上原富勇氏、専務理事は
上原常雄氏、理事は山本初太郎氏其の他
監事は福西安太郎、上原七二郎兩氏が就

任して活動してゐる。

組 合 長 上原 富勇

氏は明治二十七年
の誕生にして、村民
の信頼頗る厚く、組
合長の重責を負うて、當村産業の發展に
獻身的努力を捧げて、功績著しく、村民
から感謝されてゐる。

専務理事 上原 常雄

氏は明治二十八年
三月十五日に呱呱の
聲をあげた。村經濟
の重責を双肩に擔ひ、日夜寢食を忘れて
精勵し、輝やかしき治績をあげ、人格者
として村民から畏敬されてゐる。

静岡、濱名、積志村

濱松樂器製造所

電話二一六番

當濱松樂器製造所は昭和十年十一月、
濱名郡積志村西ヶ崎に創立されたもので
あり、その經營者は積志村の馬淵眞藏氏
篠原村の鈴木吉次氏、積志村の馬淵丑太

郎氏、北庄内村堀江の倉田勇氏等にして



主任は馬淵真藏氏である。ピアノオルガン等の製造販賣を主とし、大阪、神戸、東京方面に多くの販路を有し、その需要に應じてゐる。

創立以來日なほ淺きも、着々その基礎は固められ、製品の優秀さはすでに定評を博せられ、急速の繁榮を遂げた。今後益々當製造所の發展は當地方の注目の的となつてゐる。

静岡、濱名、鷺津町

鷺津町 役場

當町は濱名湖に沿ふた町にして、先に吉津村と稱せしを、昭和四年四月一日鷺津町と改稱した。東海道線鷺津驛鷺津港

より濱名湖巡航路、また、三日町へバスの便があり、海陸共に交通至便である。

而して當町の主なる産物は農産物、畜産物、水産物、繭、生絲、織物類等である。

社寺としては光明坊、光明坊、玉葉坊正覺坊、正住寺、長勝院、東光坊、本興寺、本壽寺、妙源寺、養仙坊、妙立寺等があり、本興寺は鷺津驛の西約十町、濱名湖西岸の丘陵景勝の地にある日蓮宗の巨刹にして、本堂のほかに鬼子母神堂大黒堂並に坊舎堂宇等を並べその結構壯大なるものがある。

殊に織機の發明をもつて著名な豊田佐吉氏は本町の出身である。また當町から静岡時報が発行されてゐる。

町長 豊田 吾吉

氏は明治四年の出生にして、夙に町政に參與し、永年に互り町會議員として盡瘁せしが、昭和十四年八月町長に推選されて就任現在に至つてゐる。

氏は温厚にして俊敏、その職責を全うして、絶大なる町民の信望を贏ち得てゐる。

助役 河合 金作

氏は明治十八年に誕生し、昭和三年當役場書記に就任して精勵、庶民の信望を深めて助役に推舉せられた。爾來村政發展によく町長を輔佐して多大なる功績をあげてゐる。氏の才腕は今後大いに期待されてゐるものがある。

石川、羽咋、北大海村

村會議員 米谷 太三郎

氏は故久松氏の長男として明治十六年呱呱の聲をあげた。當家は近村有数の舊家にて代々篤農をもつて知られてゐる。

氏は青年時代より温厚なる性格を有し年と共に村民の信望を博し、遂に推されて村會議員となり、その他養蠶實行組合

長、學校組會議員等に歴任し、その地方



自治、産業振興への貢獻は他比肩するものなしと言は

れてゐる。又氏は日露役に従軍乃木第三軍に従ひ赫々たる武功を樹て遂に名譽の負傷し、その勳功により功七級を拜受した勇士で長男太一氏もまた北支派遣軍として出征足部に名譽の戦傷を受け目下療養中、次男米吉氏も志願兵として北支に活躍中、武門に輝く一家である。

静岡、賀茂、竹麻村

農會長 山田 四郎

氏は當郡下河津村在住の鈴木藤吉氏の四男として、明治三十一年七月五日に生れ、大正十三年に山田家の養嗣子となつ

た。

山田家は當主にて既に十五代を経てゐる有数の舊家であり、養母の實家は往昔名主を勤めた名家である。又養父梅吉氏も村治の功勞大きく當村の助役を拜命した。

氏は郷土小學校を卒業後、海軍を志願し、青島戦争に参加し、一等看護兵曹となつた。退役後、専ら村治に努め、農會長、區會議員の要職にある。氏は深く農村問題を研究し、其れを實行し、村民の尊敬の的になつてゐる。

氏の趣味は讀書と旅行で、信仰は曹洞宗に深い。

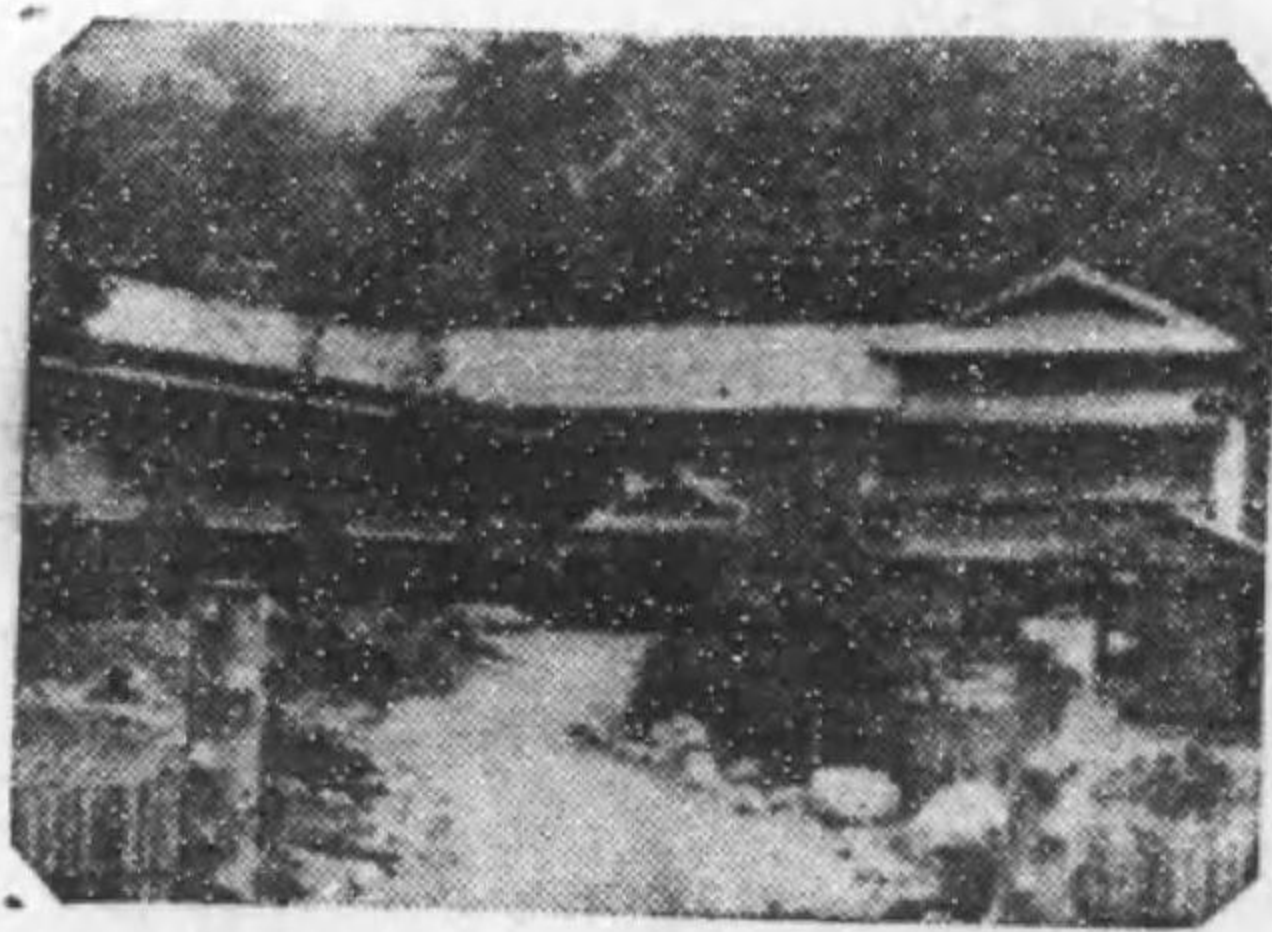
家庭には、養父梅吉氏壯健にて、令夫人ふみ江さんは教職にある淑徳高き人である。一男三女があり、長男は豆陽中學校に在學中である。

静岡、賀茂、南中村

株式會社 下賀茂温泉ホテル

伊古 奈

電話三四番・三〇番



ホテル全景

備し、大廣間、浴室、温泉プール等があり、他の娛樂機關等もあらゆるものを完備してゐる。メロン温室等も附屬してゐる。當ホテルの根本方針は家族主義を主

當温泉ホテルは昭和十二年四月十六日に開業にて、未だ日が淺いが、經營の宜しきを得て、既に隆盛の頂に達せんとしてゐる。敷地一萬五千坪、全館千餘坪三十餘室

何れも次間付で、各室各様の奇を凝らして調度は悉く完

眼としてゐるので、此の點にあらゆる注意が拂はれ、宿泊者の快的な氣分を尊重してゐる。

専務取締役

吉田 定治

社長は安田與一氏であるが吉田専務が一切の業務を掌握してゐる。



氏は埼玉縣在住の農家熊太郎氏の長男として、明治十一年七月二十八日に生れた。慶應義塾

大學理財科を卒業し、直ちに銀行界に入り、東海銀行、第一銀行等に勤務、二十八ヶ年の長期間を銀行界に在り、大いに其の經營上の手腕を認められた。氏が一度當ホテルの經營に着手するや驚異的躍進振りを示し、當ホテルは近代的設備萬點伊豆地方に有數なるものとなつたのである。

氏の趣味は園藝、釣魚等で、ホテル經營の餘暇を、南伊豆の家にて、暖國の幸福なる生活を満喫してゐる。

警防團長 土屋 幸吉

當家は稻梓村に於ける有數の舊家として名望高き家柄で、代々農を以つて家業とし、夙に篤農家として知られてゐる。先代千代藏氏は人望厚く、氏子總代、檀徒總代等を勤めてゐた人であつた。幸吉氏は千代藏氏の養子入籍した人で土屋家六代目の當主に當つてゐる。明治二十三年九月一日に呱呱の聲を擧げ、静岡縣立濱名農學學校を卒業後静岡縣蠶業取締所取締吏員として、十五ヶ年四ヶ月の永きに互つて勤務し、更に下田支所取締吏員に轉任し、昭和七年に辭職したが當地方蠶業の振興に寄與する所、甚大なるものがあつた。次で昭和九年四月當村役場收入役を拜命し、四ヶ年精勵勤務し

當村勢の伸展に貢獻した。現在では當村警防團長として、警防思想の普及に當つては大いに盡瘁し、その温厚篤實にして、勤嚴實直なる人格と共に村民の信望絶大である。夫人もとさんとの間には、長男恒哉氏を儲け、氏は目下出征中で、中支にあつて武勳をたてつゝある。

川 尻 信用販賣組合

當組合は村内經濟更生を目的として明治四十三年十月二十日有限責任川尻信用購買組合として設立された。大正三年に至り販賣、利用の事業も開始し、更に昭和三年川尻購買販賣組合を合併し、保證責任組織たる現名稱の組合に改め今日に至つたものである。區域は村一圓で、販賣(米外三品)、購買(肥料、雜貨)、利用(精米、製粉)等の事業も良好な成績を収めてゐる。其の他

報國貯金、興國貯金等も設けられてゐる。現役員は組合長理事久保田恭氏のほか、専務理事久保田徹作氏、理事横田市右衛門、増田眞吉、大石利一郎、内田政次郎、増田芳太郎、横田清一、久保田清一の諸氏、監事は時田幸四郎、久保田勇吉、横田喜一、葦科寅吉、田代伊作、大石字作の六氏である。

組合長理事 久保田 恭

氏は大正十二年以來現職の重任に就き組合の福利増進に盡瘁するところ多く、現在なほ榛原自動車株式會社社長、榛原銀行重役、川尻魚田購販組合長、村會議員、區長等の要職にありて社會公共事業に盡瘁してゐる。人となり、温厚篤實、村民の信望を一心に集めてゐる。

専務理事 久保田 徹作

氏は明治三十八年静岡縣師範學校卒業し、爾來教育界に貢獻するところ多く、その功により勳七等を授けられた。昭和

十三年教育界を退き、同十四年現職に推され組合發展のため、獻身的努力を續けてゐる。

富山市總曲輪

富山藥劑株式會社



社長 安達 氏

抑富山賣藥は二百五十餘年前富山藩二代主前田正甫公が家臣領民を救済せんがため名醫萬代

淨閑をして研究調製せしめたもので、これ富山賣藥の濫觴である。當社は縣下最古の賣藥會社で今日内地は勿論、滿洲、支那、南洋諸島に迄販路を擴き天下の名藥の名を恣にしてゐる。安達敬直氏が明治時代より經營する振聲堂を株式會社に組織變更したもので明治三十二年十一月の創立にかゝはる。

静岡、賀茂、田子村

静岡、賀茂、田子村

その重役には有力なる株主を擧げ安達敬直氏取締役社長として、取締役には吉本理八郎、中島善三郎、黒崎直次郎、鹽井幸次郎氏等あり、監査役には柿澤政治郎、上田秋次郎、村田直義の三氏就任し社員従業員共に家族的に共同活躍するを特長としてゐる。なほ製藥顧問として藥學博士小野瓢郎氏を始め富山藥專校長、及教授或は著名開業醫を推戴し主任藥學士は寧白なき研究を續けずでにその優秀製品は縣處方研究會に毎回優良賞を受領し、各地博覽會共進會に表彰せらるゝ事數拾回を算してゐる。因に同社製品は解熱劑、鎮咳劑、健胃整腸劑、驅蟲劑、鎮靜劑、治眼劑、皮膚劑、清涼劑、強心劑等に分別全數二百數拾種に及んでゐる。因に本社は富山市總曲輪一九六番である。

當社は田子村合之浦にあり、積羽八重事代主命、哆胡若宮命の二柱の神を合祀し、相殿に廣幡八幡大神を祀つてある。

當社は延喜式内神社にして、創立年代は詳かでないが、今より千年以前より祭祀せられてゐると云ふ。初め大田子に鎮座してゐたが、明治十四年現在の地に遷座したものである。

境内は四百坪あり、財産として豊百圓を有してゐる。敬神婦人會を組織して、會員六十名に及び毎月一日、十五日に來集して敬神の念を鼓吹してゐる。氏子は八百戸あり、田子全村をその範圍としてゐる。氏子總代は山本忠助、森惣兵衛、鈴木佐吉、山本佐五兵衛の諸氏である。

社 掌

眞野 扨 氏は當村眞野新右衛門氏の三男にして明治三十八年に生れた。大正八年當家の養子となり、大正十三年神職を奉ずる事となつた。現在當村の天神社、神明社に兼務してゐる。氏は十七歳の時小學校教員檢定試験に

合格し、大正十四年まで教職にあること四年、更に役場書記として四年勤めた。

静岡、駿東、高根村

輿槲地藏尊 東岳院

當寺は、神變不思議大菩薩として知られた。役の行者小角の開基と稱せられてゐるが、古記録類は兵燹のために焼失し惜しくもこれが詳細を知ることが出来得ない。

然しながら口碑によれば、當時院外北方に挾川と稱する河川あり、その下流に大きな深淵があつた。水底には體長幾十丈なるを知らざる蒼龍が潛み、往來の土民を屢々脅かしたといふことが傳記されてゐる。

當寺は、輿槲地藏を本尊とする禪宗の名刹で、子育、安産に靈驗あり、衆人の信仰を集めてゐるが、近時は武運長久の祈願者が多い。本寺は鎌倉の建長寺、末寺には青龍寺

がある。寶物としては本尊の像、その他が秘藏されてゐる。

毎月二十四日に縁日の法要があり、信徒は數五百を超へる賑やかさである。古來富士登山に際しては、當院に參詣して安全を祈願しなければ、災厄があると云ひ傳へられ、登山者の參拜するものが絶えない。

住 職

加藤 玄良 師は明治十年八月二十日、愛知縣瀬戸市に生れた。若くして佛道に志し、明治三十六年當地に來住し、當院に入りて佛弟子となつた。日夜佛敎の研鑽を怠らず、大正二年先住の後を襲うて住職に就任し、今日に及んだ。師は圓滿温厚なる善知識で近郷衆庶の敬仰の的となつ



師は明治十年八月二十日、愛知縣瀬戸市に生れた。若くして佛道に志し、明治三十六年當地に來住し、當院に入りて佛弟子となつた。日夜佛敎の研鑽を怠らず、大正二年先住の後を襲うて住職に就任し、今日に及んだ。師は圓滿温厚なる善知識で近郷衆庶の敬仰の的となつ

てゐる。

静岡、賀茂、下河津村

今 井 莊

當温泉は今井の濱にある。當地は天城電話五三番



新興温泉地である。當今井莊は明朗なる温泉旅館の誇を有

連山を背に東に南に展開して海に臨み風光絶佳氣候温暖なる

し、近代的設備、懇切なる奉仕と共に旅館情緒の満喫できる所である。家庭の延長である事をモットーとして、一般従業員にも訓育が徹底してゐる。知名人士の宿泊も多く、嘗て李王殿下御立寄の光榮に浴した。

經 營 者

小川 勝馬

氏は昭和十二年三月より今井莊の經營をはじめ今日に至つてゐる。



岐阜縣士族にして、先代達次郎氏より東京に在住し、氏はその次男として明治三十九年二月に呱呱の聲をあげた。早稻田實業學校卒業後、中央大學専門部に學び、三菱保險會社に勤務、或は小菅刑務所看守手等となり、社會各方面に豊かな經驗を有してゐる。

趣味は運動競技で、明朗なる紳士である。

信仰は眞宗に深く、家庭は、淑徳の譽高い令夫人ヨシ子さんとの間に一男あり和樂に溢れてゐる。

静岡、賀茂、城東村

村會議員 吉間 増吉

吉間家は代々篤農家として、また城東村に於ける舊家として知られてゐる。増吉氏の祖父増藏氏は曾つて戸長を勤め、人格者として村民の敬仰頗る厚き人であつた。

増吉氏は先代豊平氏の長男として、明治二十一年七月三十日に呱呱の聲を擧げた。

夙に當村の自治並に産業の振興發達に深く意を用ひ白田區長として盡瘁したるを始めとし、國勢調査委員等として、誠實以つてその職に當り、更に村民の要望により村會議員となり大いに村政村治に

貢献してゐる。なほ氏はなほ日本赤十字社正社員である。

人格圓滿高潔、温厚篤實にして、重厚謹嚴の士である。その職務に當つては、私事をも顧みず寢食を忘れて、日夜奔命盡瘁して、當村の今日に發展に種々盡力し、當村に於ける重要な人物である。又養蠶に柑橘の栽培に盡力し、村産業振興に盡瘁してゐる。

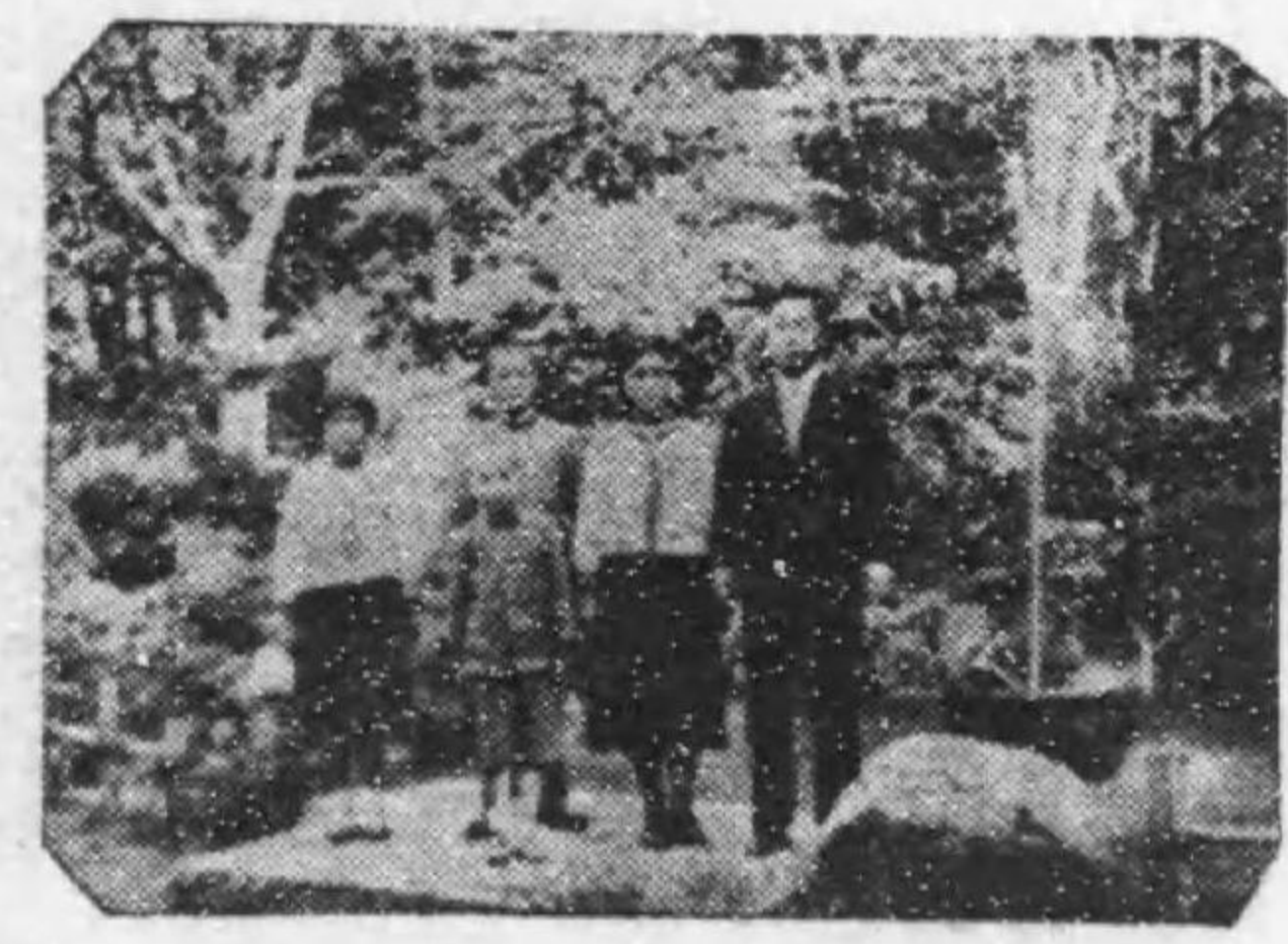
趣味は花卉園藝で、また讀書家である。氏の長男義定氏は目下東京にあり、家庭きく夫人と二人で極めて圓滿である。

石川、羽咋、邑地町

町會議員 盛田 喜作

電話飯山三七番

機業地、邑地町にある資本金拾萬圓(金額拂込済)の合資會社盛田機工場主として同業間に雄飛する盛田喜作氏は、現在一五〇名の男女工を驅使し人絹織物年額五十萬圓輸出をみせてゐる。



氏は亡彌八郎氏の長男として呱呱の聲

のでその工場の福利施設等も縣下有數の完備を誇るものであり、全従業員共々一大家族の如き感がある。尙氏は前記町議外、幾多の重職にあり殆ど餘暇なきが如く活動をされてゐる。家庭にありて夫人との間は男四人女三人の子福者であり長男は目下在京遊學中にして、長女並二女共當地女學校を卒へ

目下家事習業中なりと尙氏の令弟喜三郎氏は歩兵伍長として出征中名譽の戦死を遂げられた輝く武勳の家である。

静岡、濱名、河輪村

實業家 増谷 安太郎

當家は八代を開する家柄にして、今より十年前天龍川改修の折、當村に移住し來り今日に至つた。先代安太郎氏は實業家として勤勉力行徳望高き人として村民より尊敬された人格者である。

當主は明治三十年生れ、尊父の志を嗣ぎ襲名し、恭儉實實を旨とし、産を治め以て家運の隆盛を圖つてゐる。事業の概要は米穀、生薑等を近在より買収し、米穀は濱松附近に販賣し、生薑は遠く印度、支那方面迄販賣してゐる。貿易は主として神戸、名古屋の兩港で行はれ、當地方有數の貿易商として聞えてゐる。なほ氏は業務のため、國內各地に出張

し、席暖るに過なく日夜の別なく、刻苦勉勵してゐる。資性温厚篤實にして快活なる人格は信望頗る厚いものがあり、嘗て全國産業博覽會に生薑を出品して感謝状をうけるなど、産業報國の赤誠を竭してゐる。

静岡、庵原、富士川町

富士川町 役場

當町は富士を頭上にあはぐ富士川口西岸にあり、東海道線岩淵の驛の在處として知られ、芝川興津までバスの便が通じてゐる。工業を主要産業とし等覺寺、宗清寺、等日蓮宗と曹洞宗の寺院が多い。なほ本町には田中光顯伯の古荘といふ別邸があり、豪壯な建築と、廣大なる庭園とは文人徳富蘇峰氏をして「實に人間至樂の境」と言はしめてゐる。

町長 勝呂 重作

氏は静岡縣勝呂平右衛門の三男寛一氏の叔父にして明治十

三年二月呱呱の聲をあげた。資性温厚なる人格者にして富士川町町長であると同時に勝呂組理事、岩淵合同身延合同、富士川産業組合の各理事を兼任してゐる。元縣會議員として縣政界に活躍したこともあり、當地方に隠然たる勢力を持つてゐる。

静岡、榛原、萩間村

龍門山 大興寺

當寺は大徹宗令大和尚の開山にして、文殊菩薩を本尊とし、曹洞宗に屬する名利である。開基は聚祥院殿一信中興大禪定門にして、中興開山は四世大梁慶弘大和尚である。

明治十一年祝融の災に遭ひ、大正三年二十六世巨學祥海和尚の時代本堂を再興し、二十八世古山道琳師に至り諸堂伽藍全部完成した。寶物は火災により焼失して特記すべき



景 全 一日 忌日 七月 十四 日施 餓鬼 稻荷 大祭 十月 二十 五日 鎮座 祭等

住職 若菜 益男

にして檀家は八百五十戸を有してゐる。師は總持寺に於て修業し、昭和五年十月當寺住職として就任、資性清廉潔白の人格者にして、檀家

ものはない。

本寺は總持寺にして、末寺は般若寺、長興寺、興嶽院、觀音寺等である。行事は一月二十五日の開山忌、二月十

の信望頗る厚く、師の徳望は冷く近縣に及んでゐる。

石川、珠洲、三崎村

村會議員 田保 正義



當家は農を以て本業とし、代々村政に與かり功績ありし名門である。氏は本年村會議員に當選し益々その將來を期待されてゐる。

氏は本年四十歳

の働き盛り、嘗て道路委員、區長等の公職にあつて幾多の功績を挙げ、現に産業組合評定委員を務め、當村産業の發展に寄與し、また本年村會議員に當選し益々その將來を期待されてゐる。

目下栗津——大屋間の道路改修工事が村内焦眉の的となつてゐるが、氏は過去に於いて道路委員として當問題に關與した經驗があり、いまや村議として道路改

修にあたる氏の手腕は期して待つべきものがあり、村民の期待を一身にあびてゐる。

靜岡、賀茂、下田町

村上興行部 村上 嘉吉



氏は當郡稻取町在住の先考又吉氏の三男として明治二十一年十月に生れ後父母に伴はれて神奈川縣横須賀市に移つた。

横須賀市汎入尋常小學校卒業後、父君の逝去に遇ふや奔然として興行界に身を投じ、各地を轉々として修練を積み今より十年以前に現住所に來たものである。現在では、賀茂郡の興行界に覇を唱へ、觀光下田に於いて一異彩を放つてゐる。浪曲、輕演劇を主として興行し、是を支

配してゐる。

氏は興行界に入つてから幾多の辛酸を経て、今日の殷盛にまで築きあげた人であるだけに信念の強固さは人後に落ちない。夙に演劇報國を念願とし、あらゆる機會をとらへて國恩に報いる事を常としてゐる。陸海軍病院にて傷病兵の慰問興行を屢々演じ感謝状を多數受けてゐる。又當下田町の戦死者の英靈を慰める爲、全部の戦死者の肖像畫の製作を志し、是を神前に納めんと志し、日夜潔齋精進を續けてゐる等、當地方民の賞讃してゐる所である。

又演劇等に純後思想の高揚、國體の明徴等を盛り、觀客をして知らず知らずの中に、其れ等を體得せしむるのを念願とし、氏はあくまでも報國の熱意に燃えてゐる。

氏の信仰は日蓮宗にて、家庭は、令室ソメ子さんとの間に一男三女あり。

長男嘉孝君は目下東京にて勉學中である。

靜岡、賀茂、城東村

温泉旅館 福島 屋

電話五・二八番

當旅館は明治四十一年九月の創業にかゝるもので、以來信用ある第一流旅館としての名聲を保つてゐる。

大小取混せて二十七の客室あり、別に別館一棟が附隨してゐる。收容人員は百四十名を算へ、四季を通じて滞在客多く繁榮を極めてゐる。温泉は鐵泉、硫黄泉、鹽類泉の三種が豊富に湧出し、一ヶ所に一分間三石以上の驚異的の湧出量がある。

官能性神經疾患、中樞及び末梢性麻痺等總ての疾病に卓効がある。

當温泉への順路は、陸路を選べば、伊東驛、或は修善寺驛より東海バスの便があり、水路ならば汽船により下田まで、下田からはバス又は貸切車が一日中走つてゐて樂に來館出来る。

經營者 勲八等

木村 彌吉



當家は代々農を本業としてゐたが、偶熱川温泉の湧出盛んなるを機に、福島屋なる屋號を以て開業、その後經營の宜しきを得て今日の隆盛を見たものである。氏は明治十七年九月に生れ、明治三十八年日露戰爭に従軍し、歩兵勲八等白色桐葉章一時賜

金六十圓を拜受した。

城東村旅館組合長たりしことあり、誠實にして正義觀強き人格者である。旅館經營方針として、あくまでも家庭の延長を主眼として、健全なる湯治を歓迎し、徒らに逸樂を貪る客は之を排してゐる。

氏は釣魚其の他を趣味とす、家宗は曹洞宗にして、家庭には、令室サト子さんと間に四男があり、近隣も羨むほど圓滿

和樂な生活を營んでゐる。

靜岡、賀茂、城東村

村會議員 横山 鶴吉



氏は明治四年三月二十四日、故田村孫三郎氏の三男として呱呱の聲を擧げた。田村家は賀茂

那稻取町に於ける名家として知られてゐる。氏は二十三歳の時、當横山家よりその勤勉實直なる人物を懇望されて、同家の養子嗣となつたものである。

爾來農務の傍ら、養蠶を研究し、大正六年大字白田養蠶組合の創設に際して、大いに盡瘁し、その創立と共に同組合長の席に就いた。養蠶研究の造詣深く當地方斯界の伸展に盡力し、今日當地蠶業の發達は氏の獻身的活躍に負ふ所が多い。

又城東村第一耕地整理組合を設置し、河川改修問題等に、顯著なる功績を残した。氏の識見才腕は洽く衆望を得る所となり、村會議員に推され、今日に至つてゐる。

尙氏は農村の福利増進のため、産業組合の設置に意を用ひ、城東村信用組合設立と同時に理事に推され、同幹事、同評議員等に就任して今日までに至り、同組合の發展に盡してゐる。

家庭には令室の間に四男七女があり、甚だ子福者にて、長男薫君は父業を繼いで農事に、次男漢君は二等兵曹に、三男直君は東京に在任し、四男厚君は一等水兵に、皆それ／＼活動してゐる。

石川、羽咋、末森村

村會議員 近岡 七次郎

氏は當村舊家たる近岡家に次男として明治十三年に生れた。高等小學校を卒業後、海軍志願兵とな

り、日露役には「日清」に乗組んで活躍した海軍一等兵曹であ



長男 忍氏

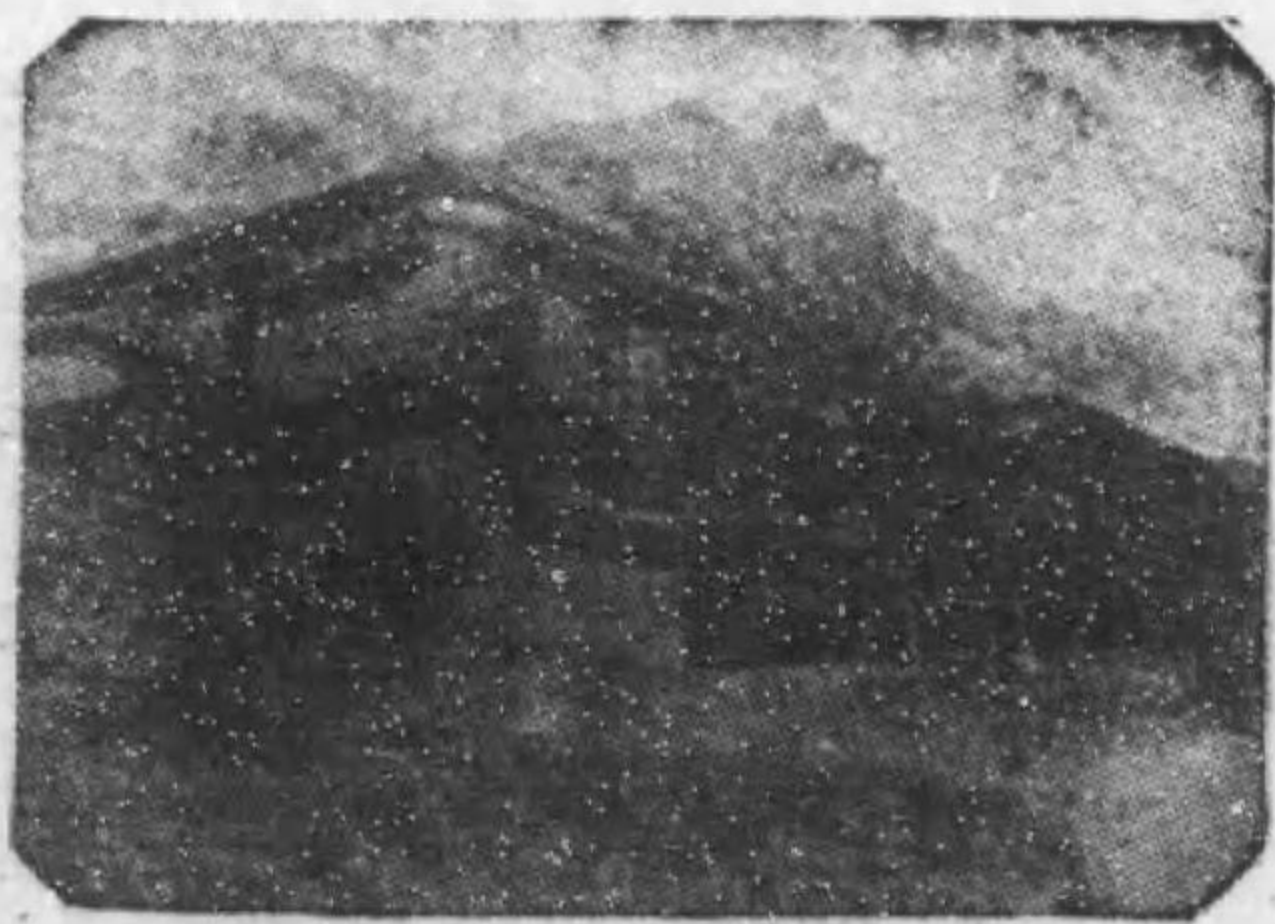
除隊後は朝鮮

鮮に渡つて、農事經營に従事し、幾多の辛酸を嘗め、不屈不撓の努力は遂に酬いられ、滿洲國紋帯に近岡産業合資會社を設立し、現在其の社長である。目下、令息忍氏に會社事務を委ね夫人を伴つて歸郷し、當村にあつて産業組合理事として又、村會議員として、自治産業の發展に盡してゐる。因みに長男忍氏は早大法科の出身で現在近岡産業合資會社の副社長として活躍し、外に二男一女がありそれ／＼勉學の途上にある。

静岡、賀茂、城東村

海濱館

電話二四番



當館全景

すの聲を聞く、南國情緒豊かな片瀬温泉は野趣に富める樂園である。當海濱館は海岸の南端に沿ひ、通風採光共によく、冬温く夏涼しく、階上階下ともに眺望を恣にしてゐる。又當館の温

當館は南伊豆の仙境片瀬温泉海岸にあり、東南の海上には遙か大島の噴煙を見伊豆七島は眼前に夢の如く、西北には重疊たる天城連峰の聳えるのを望むことが出来る。黒潮に洗はれて極寒已に梅に笑ひ初夏にはほととぎすの聲を聞く、南國情緒豊かな片瀬温泉は野趣に富める樂園である。當海濱館は海岸の南端に沿ひ、通風採光共によく、冬温く夏涼しく、階上階下ともに眺望を恣にしてゐる。又當館の温

泉は當地稀有の良泉にて、清麗なる大浴場に湧出する靈泉は、諸病疾患に適應し官能性神経疾患(ヒステリー、神経衰弱)中樞及末梢麻痺(半身不隨、小兒麻痺)、外復諸障、慢性筋及関節痲痺質新、慢性濕疹その他諸病に卓効がある。當館は昭和十年十一月の開業にて、客室十一間あり、療養を本位とし、すべて實質的なるを旨として、純後國民の體位向上に留意して、保健衛生に盡しつゝある。

當温泉への順路として、陸路では熱海驛・網代及修善寺驛より列車到着毎に連絡運輸の東海自動車會社の便があり、海路では東京芝浦より大島經由下田着、下田より當地への自動車の便もある。

館主 森田吉太郎

森田家は當地にあつて代々篤農家として聞えて居り、當主にて三代目に當り、氏は明治九年九月七日の生れにて、城東小學校卒業し、久しく海員生活に這入つてゐたが、當地温泉

旅館の經營を思ひ立ち、昭和十年に之を開業して、鋭意經營につとめ今日清遊に療養に投宿する客で殷賑を極めてゐる。氏は會つて方面委員として自治に盡し現在では熱川温泉組合役員である。家族は江い夫人との間に三男二女あり、曹洞宗に歸依すること厚く、温厚篤實の人格者として、信望高きものがある。

静岡、賀茂、城東村

村會議員 秋永 貞次郎



初太郎氏は農業の傍ら製材業を創め

當家は代々農業を營み、當地に開えた舊家である。先代

貞次郎氏は初太郎氏の長男として明治十九年十一月二十七日に呱呱の聲を擧げた。小學校卒業後は父の業を襲うて、農業並に製材業に専心従事し、その縦横の活躍は家業大いに繁榮を來してゐる。氏は又家業繁忙の傍ら、當村自治産業の發展、並に公共事業方面にも盡瘁する事多年に亙り、城東村字奈良本區長となり、次いで昭和六年村會議員に推され、爾來引續き村會議員たること三期に及んでゐる。

令室との間には一男三女をなし、長男伴義氏は大正二年十月九日の出生にて、稻取實業學校卒業後は専ら父君を扶けて家業に従事し、なほ推されて當村青年團長の要職にあり、純後青年團員の本分を全からしめる等、氏の將來は大に囑望されてゐる。

静岡、駿東、清水村

八幡區長 平出 元吉

氏は明治六年四月八日、田方郡葦山村



の舊家、多田半兵衛氏の次男として呱呱の聲をあげた

二十五歳の時、當平出家に迎へられて養嗣子となつた。

先考房次郎氏は篤農家として知られ、養蠶及び米麥等の改良増産に盡力すること少なからず、村及び縣より再三表彰されて、令名の高い人であつた。

當家は三島町六反田の本家より、先代故房次郎氏の時代に分家して、一家を創立したものである。

氏は曩に、家屋税調査員、國勢調査員消防組頭、村會議員等を歴任したが、現

在八幡區長として部落のために盡瘁してゐるほか、日本赤十字社正社員、信用組合世話係、家屋税調査員等の要職を兼任して、社會上經濟上に貢獻渺なからざるものがある。

氏は稟性温厚篤實、區民の信望極めて厚いものがある。

先年消防組役員を勤続の功勞により、縣警察部長及び沼津警察署長より表彰をうけた。家宗は淨土宗を信仰してゐる。

家庭には養母あさ刀自が八十一歳の高齡をもつて髮髻として健在である。夫人は惜しくも長逝せられたが、一男三女があり、長男脱夫氏(三十八歳)は目下清水村役場書記として恪勤し、將來を矚目されてゐる。

静岡、駿東、原町

昌源寺

電話三番

當寺は原町大字原にありて、日蓮宗に屬し、日蓮上人を御本尊としてゐる由緒

ある名刹である。

承應元年の頃、大仙院日耀の開山にかり、明治二十三年、武井日妙師の當時惜しくも焼失したが同二十六年、現住職豊納通如師によつて再建せられたものである。

なほ當寺は、紀州公の愛妾お萬の方が街道通過の折、現在の場所に本寺を建立したゆへにあらはれて、いま尚紀州家の紋章を使つてゐる。

境内には、本堂、七面堂、稻荷堂、庫裡等が整然として並び立ち、靈域をなしてゐる。寺財としては、田畑三反二畝餘が有る。また毎年、施餓鬼等の行事が行はれ、近郷近在からは老若の善男善女の参詣があつて、賑ひを呈してゐる。

檀家は一五〇戸を有し、總代は庄司一雄、渡邦源吾、望月安太郎の三氏である。

住職

豊納 通如

師は明治六年十二月十二日、嚴父宗平氏の次男として生誕

した。生家は伊豆の舊家にして、宗平氏



の代まで農耕を營んでゐた師は静岡市第二區檀林に

學び、明治二十三年頃、佛識を得て當寺の法燈を繼ぐに至つた。思想圓滿にして温厚篤實を以て庶民に知られ、ますます佛敎の普及につとめてゐる。

曩に宗務院より佛敎界の功勞者として表彰された。讀書、茶、生花を趣味としてゐる。

家庭はゆう子夫人と和樂圓滿の日常をなしてゐる。

静岡、賀茂、下田町

村 社 八幡神社

當神社は後柏原院の御宇、永正四年霜月領主朝比奈六郎知明、同兵庫助の創建

にかゝり、譽田別命を祭神として、神徳顯著なるものあり、往昔より雨乞、疾疫の封じに祈願すれば、必らず靈驗あらたかであると傳へられる。

攝社は八雲神社、神明神社、末社は天満宮、鹿島神社を算へ、本殿、幣殿、拜殿等の建造物並び立ち、神域一千五百四十一坪に亘り、山林六百餘畝を所有してゐる。寶物鯉口、金子重輔碑等があり、例祭は八月十五日神輿渡御等、全町は賑を極める。

氏は下田町一圓に亘り、千六百戸を數へ、總代は鈴木忠吉、原嘉吉、鈴木芳藏、小木曾四郎、鈴木貞雄等の諸氏で、諸事幹旋に盡瘁してゐる。

社 掌

碓氷 邦男

碓氷家は當町に於ける門閥にして、約六百年以上代を累ねた稀に見る舊家にて、世々八幡神社々掌として奉仕を續けて來た。

氏は父君眞太郎氏の三男にして、明治二十三年五月十日に生れた。郷校を出て

獨逸協會中學校を卒業し、醫業に志し、名古屋、千葉等を歴遊してゐたが、家兄



次兄相接いで他界する不幸に遇ひ、父祖累代の神職を

繼ぐべく皇典講究所に入つた。次いで大正九年に家督を繼いで、今日に至つてゐる。

現在は當神社々掌の他、賀茂郡神職會長、氏子總代會長、賀茂奉仕組合會長、司法保護委員等の要職を兼ねて盡瘁してゐる。

趣味は圍碁、短歌等で、家庭には令夫人ヨネ子さん及び二男一女があり、圓滿なる和樂に溢れてゐる。

石川、羽咋、北大海村

村會議員 脇坂 安太郎



當家は開祖以來拾數代を経たる舊家である。代々農を以て主業とし傍ら、養蠶をも營んでゐる。

氏は明治十七年の出生にして日露戦役には鴨綠江軍として各地に轉戦し、赫々たる武勳を樹て勳八等を賜はつた。村にあつては森本區に森本農事實行組



合に於いて低利資金貸出の管理に當り一般小作人の利用にあて、自給肥料の充實を圖つて功あり、模範區として帝國農會より表彰されてゐる。

氏は現在村議たるの外産業組合監事及

び森本農事實行組合理事として鋭意村政に参劃し、また在郷軍人會の組織に功あり、目下道路擴張に大重の活動を續けてゐる。

静岡、駿東、片濱村

醸造元 渡邊 本家

電話沼津一〇七一番

銘酒「田子の富士」の名をもつて遠近に聞える醸造元渡邊本家は古くより新業に従事し、當地方切つての老舗である。

而して現在益々盛大の途にあり、その販賣先も縣下一圓は勿論のこと東京方面にまで及び、その移出も莫大な額にのぼつてゐる。尙その特徴とするところは家庭むきであること、芳醇甘美なるをもつて知られ、優良銘酒としては言ふまでもなく各地共進會並びに品評會等に於て表彰されたるを見ても明らかである。

當主渡邊四郎氏は明治六年八月の生れで資性温厚篤實、常に村民の信望を受



銘酒の「田子の富士」酒銘

名譽職に在りて夙夜を盡す。功績顯著、大なる功績ある。尚

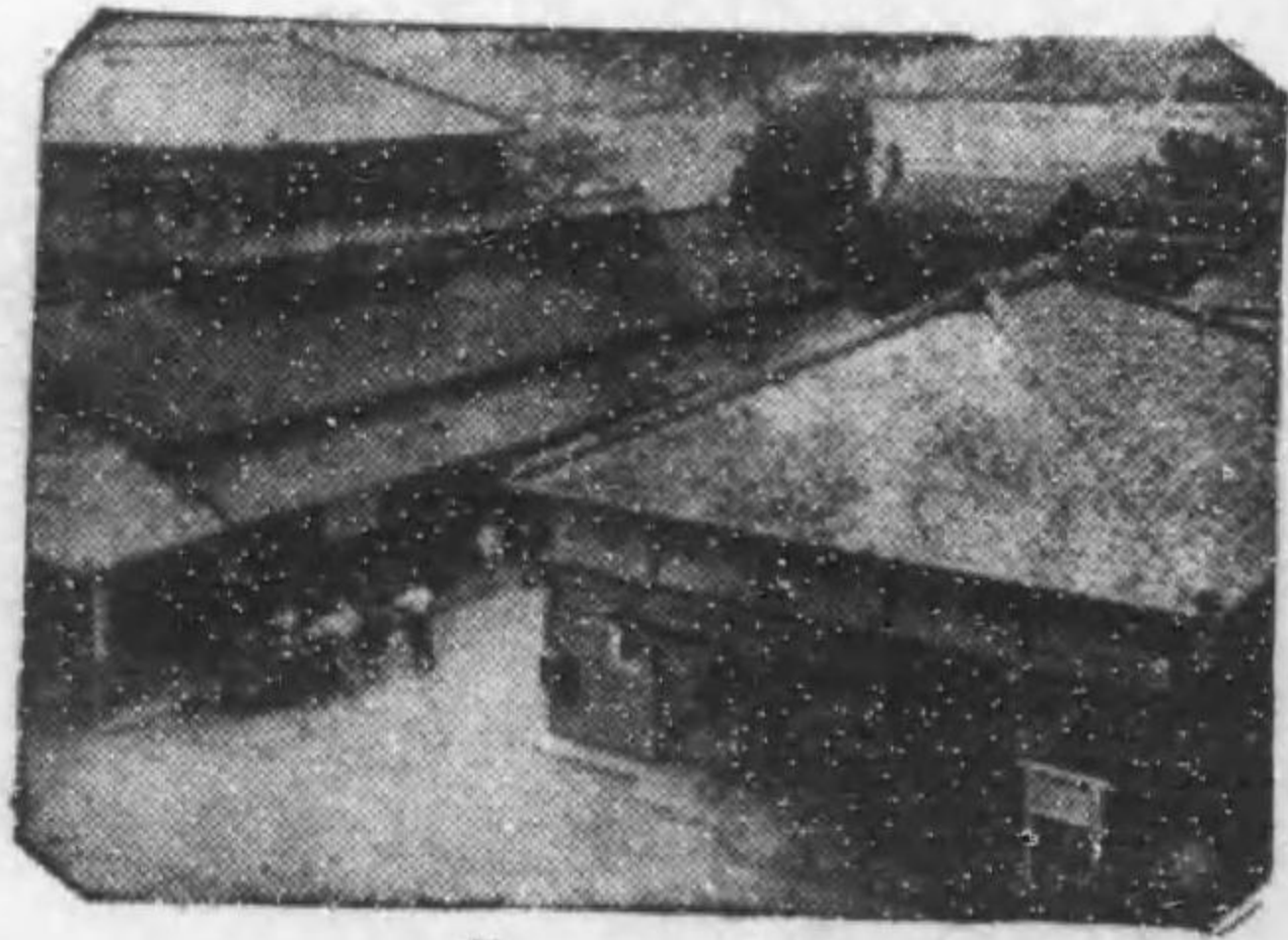
静岡、志太、東益澤村

丸 益 信用販賣 組合

電話二〇三番

當組合は大正三年有限責任東益澤信販

角太郎の七氏である。



監事 原田 金作 佐藤 喜作 大棟 好平 勝山 猪尾 松尾 光太郎

購利組合として設立されしが、昭和十二年九月解散となり、改めて當組合が同年設立せられ今日に至つてゐる。現在組合員数は三三一一名を有し、保證責任組織である。

信用部に於ては組合員の理解により貯金は漸次増加し、販賣部は米の共同販賣が大半を占め、また、柑橘の委託販賣は村内生産額の三分の一を取扱つてゐる。

組合長は鹽澤與助氏にして、専務理事は松本竹治郎氏である。理事は鹽谷建治、新村成一、原川丈吉、伊藤録、石川廣吉、山下角太郎、池田案山子の諸氏にして、監事は橋本廣作、鹽澤平十郎、久保山清、松村安平の諸氏である。組合長鹽澤與助氏は現在村長、農會長等の重職を兼ねて村民の福利増進に献身的努力を捧げてゐる。資性温厚なる人格者として村民から崇敬されてゐる。

専務理事

松本竹治郎

氏は明治十九年の生れにして、解散以前の組合當時より盡

静岡、安倍、中葉科村

中 葉 信用販賣 組合

當組合は信用部のみにて、明治二年に創立し、昭和七年に保證責任に組織を變更したものである。

現在組合員は四〇六名にして四種兼營となし、乃ち販賣部、購買部、利用部を設けそれぞれ所期の成績をあげてゐる。

歴代理事長は永野寅一、渡邊兵吉、藤田粧平の諸氏にして、現合長は望月兼吉氏である。専務理事は田中格太郎氏にして、理事は藤田粧平、森和吉、渡邊宗助、勝山繁太郎、山本常三、原田清市、渡邊

組合長

望月 兼吉

當家は大原に於ける有数の舊家にして代々農業をもつて家業となし、本村自治産業に貢献せる家柄である。氏は本組合創立以來の功勞者にして、村會議員を兼ね村中堅人物として人望高く手腕を謳はれてゐる。

専務理事
田中格太郎

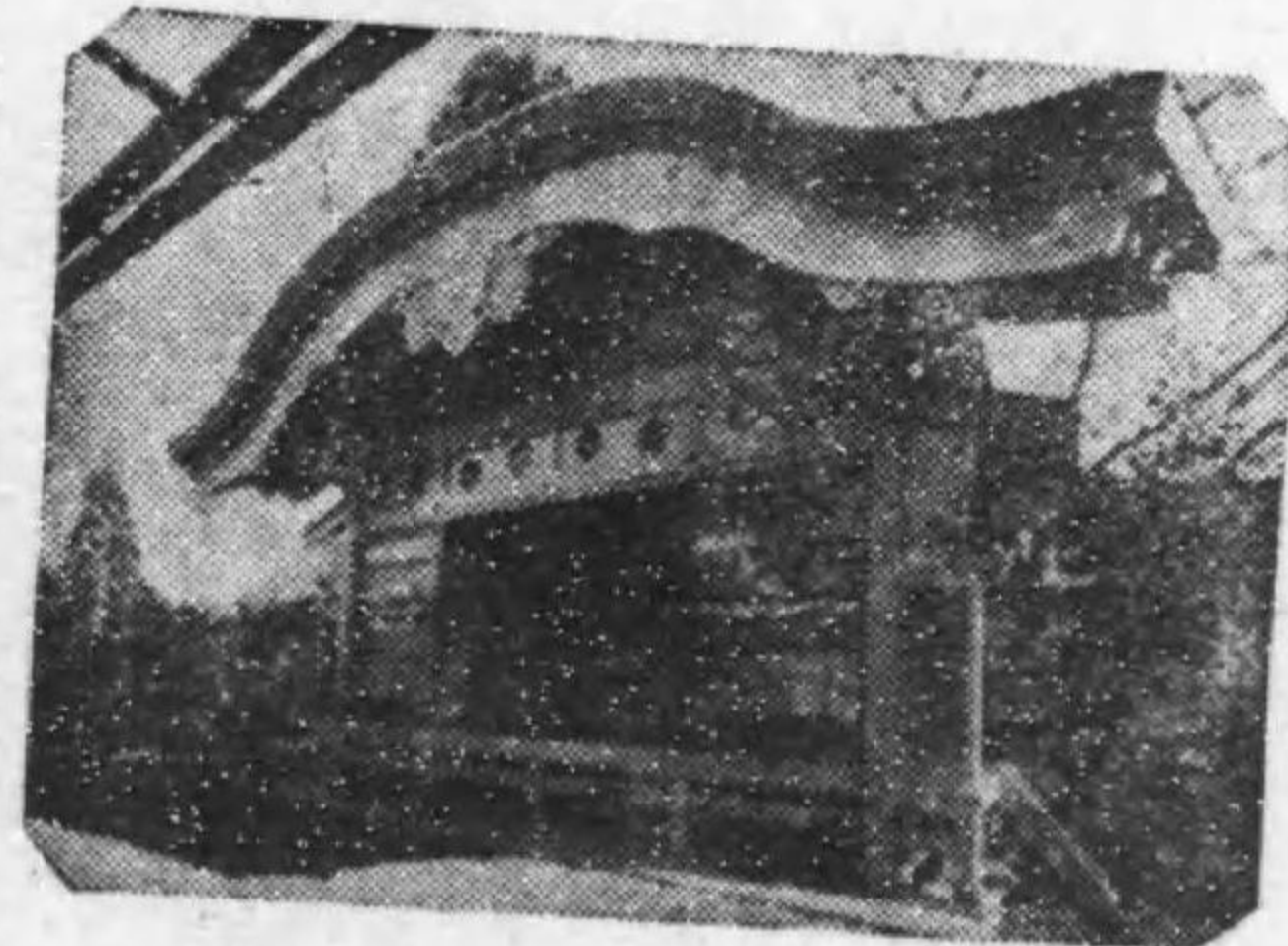
氏は幼少より艱難辛苦を具に嘗め遂に今日を築きあげた人材である。數年前より當組合専務理事として信望頗る厚く、その手腕は各方面から期待されてゐる。

静岡、賀茂、下田町
平野屋旅館

電話六・七番

當旅館は當町黒船通りにあり。明治四十二年四月開業に成り、古き傳統を誇るもので、近縣有數の一流旅館である。客室は大小取混ぜて二十餘室、百五十名餘を收容し得る。他に大廣間、娛樂機關等が完備してゐる。

當旅館への順路は、伊東、修善寺より東海バス、或は東東灣汽船に依る海路等交通は至便である。鐵道省、静岡縣廳の指定旅館で、伏見若宮殿下の御立寄りの光榮に浴してゐる。



旅館の一部

ら了仙寺を眺望できる。

經營者
町會議員
農學士
鈴木 貞雄
當家は下田町に於ける舊家にして二十一代を闊してゐる。祖父久七氏は初代町長として活躍し、父君久七氏も亦、自治に功勞があつた。現

其の他、著名人士の宿泊多く、山階侯、安保、大隅兩大將、大倉喜七郎男其他知名の士が來泊してゐる。近に附る名勝は數限りなく當旅館か

在の住宅及び平野屋旅館其の他は、黒船到來當時日米外交史上に因縁のあるもので由緒が深い。氏は父君久七氏の長男として明治三十三年一月に生れ、豆陽中學卒業後東京農業大學に學



び、大正九年より昭和四年まで同大學の講師を勤めてゐたが、父君逝去に遇ひ辭して歸郷し、家業に精勵し現在に至つてゐる。家業の傍、當町自治に關與し助役を始めとし、下田町旅館組合長、その他各種公職を歴任貢獻し、現在も町會議員、日本赤十字社特別委員、氏子總代、檀家惣代、銚後奉公會評議員等の要職を兼ね貢獻するところ多大である。氏は又、卓球の選手で第八回極東オリムピック大會には日本主將として闘ひ、

現在、全國卓球聯盟顧問である。家庭には、母堂千代さん益々壯健を誇り、令夫人とめ子さんとの間には三女がある。

静岡、志太、東益津村

高草山 林叟院

當山は文明年間榮禪師の創建にかゝり



(境内の一部)

聖觀音菩薩を本尊としてゐる曹洞宗の巨刹である。

往昔長谷川次郎左衛門即ち法永長者深く禪師に歸依し、庵を小川村の海邊に禪師のために建立し、林雙院と稱せしが即

ち現在の林叟院である。禪師はこの地に住すること二十七年にして本寺は石雲院、末寺は現在心岳寺外二十四寺あり、境内は擴大にして諸堂輪奐の美を極めてゐる。

檀家範圍は、東益津村一圓にして、常に善男善女の參詣は絶えまがない。尙行事として六月二十四日及び十月二十四日の會忌がある。

住 職
鈴木 俊隆
師は明治三十七年の誕生にして、昭和五年駒澤大學を卒業し、鈴木祖淵師を師と仰いで修業した。



職に就任、修養會、壯行團團長等を兼任して村民の指導啓發にあたり、識徳高き名僧として敬仰されてゐる。

周知郡 天方村藏 雲院住職 を経て、昭和十一年當寺住

静岡、安倍、有度村

縣 社 草薙神社

當社は、延喜式神名帳に草薙神社の名あり、御祭神は景行天皇第二皇子日本武尊に



日本武尊東征御遺所

景行天皇の五年三月十日の創建に於て

その由緒を見るに、日本武尊東征の時天叢雲の劍を自ら抜きて草を薙ぎ野火の御難を免れさせ、賊徒を焼亡せし舊跡に

して、天皇御親ら鎮祭し給ひしところである。等である。

清和天皇の御宇從二位を授けられ、建武年中今川範國公社殿の再建をなし、天正十七年には徳川家康社殿を悉く再建し以來幕府に於て營善の費を附支し、明治六年に至り郷社に列し、同十二年七月縣社に昇格した。



境内 清司 氏は二十有餘町を有し大楠の老樹は

尊東征の當時より繁茂せしものと傳へられ、高さ一丈八尺、周曲八丈餘、幹は殆んど汚損してゐるが枝葉今なほ繁茂し、他樹木と共に眞に人をして心清く爽かならしめるものがある。

神域内外の舊跡地は天皇原、東護森、首塚森、御座松の森、御犬ヶ森、柳ヶ澤駒ヶ原、鞍下ヶ谷、日本平、御手水ヶ谷

社 司

氏は明治二十七年十二月十五日に呱呱の聲をあげた、當社

三十九代目の社司の重責を擔ひ、清廉潔白、學徳秀で、地方神職界に貢獻するところ多く、衆庶の敬仰をあつめてゐる。

石川、鳳至、劍地村

村會議員 山本 吉三郎

氏は本郡本郷村の舊家辻家に明治拾三年呱呱の聲を擧げ



た。幼少山本家の先考喜作氏に懇望

されて家督を相続す。

資性温厚にして責任感強く早くより村民に推輓されて區長數期、農會代議員、小作調停委員等に歴任し、功績少なから

す、

現に村會議員として第二期に在り眞摯村治村政に邁進してゐる。

氏は又敬神崇祖の念篤く氏子總代、檀徒總代も勤め今後の活躍が期待されてゐる。

尙先考喜作氏は村議その他に歴任し、昭和十二年八拾四歳の高齡をもつて永逝されたが今にその徳を畏慕されてゐる。

現在家庭は夫人ヒデさんが愛國國防兩婦人會幹事として、家事を守る傍、銃後奉公に努力し、長男武夫氏は往年天津事變に従軍名譽の戦死をとげた。

静岡、賀茂、岩科村

郷社 淺間神社

當社は岩科村雲見にあり、御祭神として富士淺間神社御祭神の御姉に當る磐長姫命が鎮座ましまして居り、壽命長久の神として、近隣の崇敬をあつめてゐる。由來當社は現社司高橋金助氏の遠祖、

北條時宗の時代に建立せしものにて、文献記録の散逸せるため詳記することが出来ないが、既に當時より自己所有山林中に社殿を造營せるものと云ふ。當雲見の邊りは野猿數百頭群をなし、神殿の氣満ちたる土地である。

社 司

從 七 位

高 橋 金 助



高橋家は當村に於ける屈指の舊家で、遠祖は北條時代此地に居を構へ、地頭職として當地の自治の要職にあり、當主に

至るまで二十數代に互つて當村に重きをなしてゐた。先代忠吉氏は當社司の傍ら、庄屋又は戸長として、父祖の遺業を繼承し、村政の振興に寄與すること多く、村民の信望をあつめた人である。

金助氏は忠吉氏の長男にして、明治十

八年十一月一日の出生で、參浦小學校、豆陽中學校を経て、國學院大學に學んで神道を研鑽し、卒業後は長崎市開明中學校に教鞭を取ること二年、その後明治四十二年周知郡秋葉神社社掌、伊豆山神社社司等となり後、再び秋葉神社社司として赴任し、昭和十四年十月二十日岩科村淺間神社々司として茲に父祖の後を繼いだ譯である。現在大日本神職會評議員、縣神職會參事である。

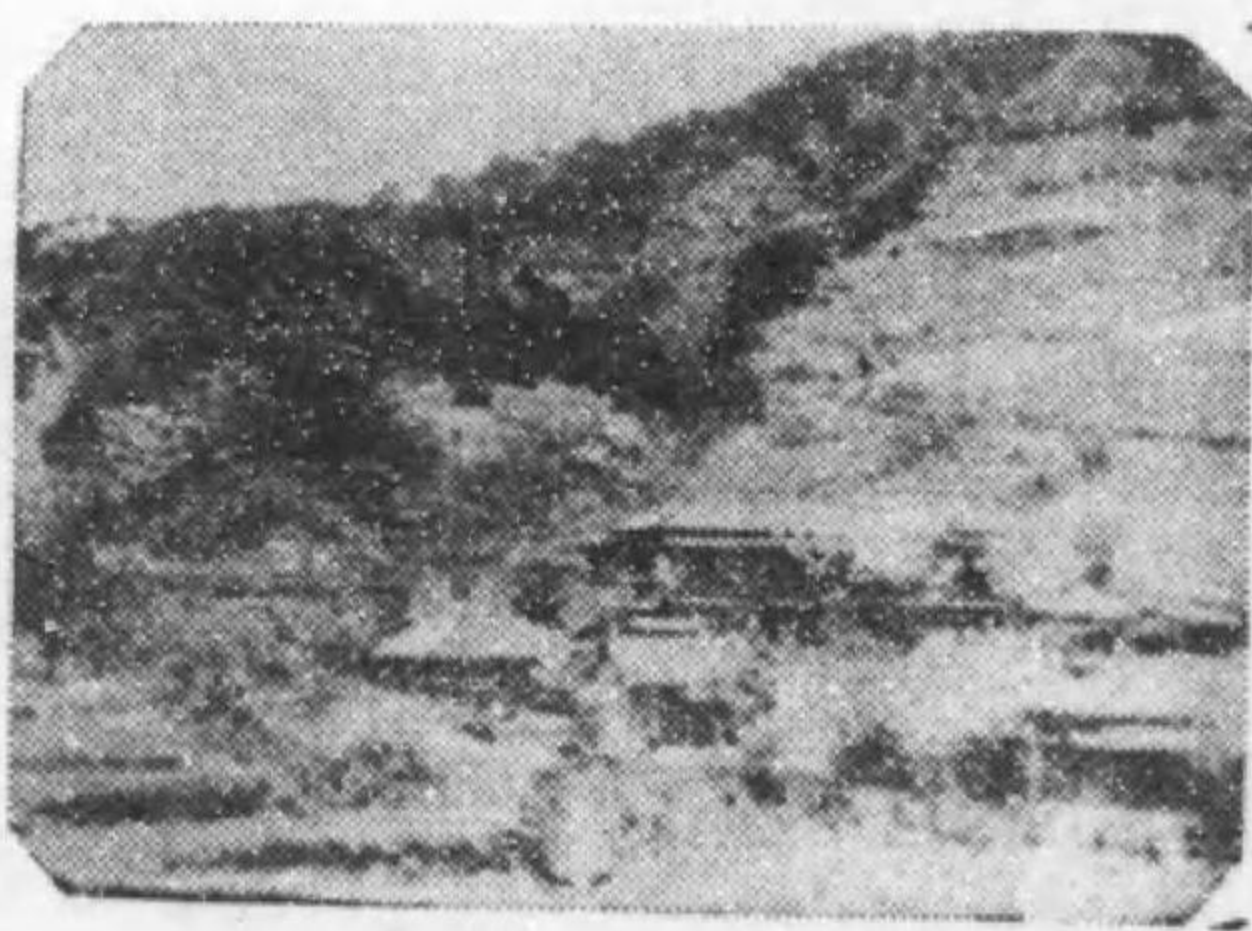
氏は常に讀書を趣味とし、人格の陶冶に心掛けてゐる。夫人貞さんとの間に二男三女をなし、長男左近氏は名古屋醫科大學出身、次男清氏は静岡師範學校卒業後、現在沼津第三小學校に教鞭をとつてゐて、共に秀才の聲が高い。

静岡、賀茂、城東村

温泉旅館 偕 樂 園

電話一八番

當館は昭和十二年七月に開業して未だ



當館の遠望

川温 泉へ 順の 路は 陸路 なら ば、 伊東 驛よ りバ ス或 は貨

切車、又は修善寺驛からのコースがあり海路では、東京灣汽船に依り下田まで、又沼津からも汽船の便がある。當館は、館名の示す如く偕樂をモット

1として、家族連の來館を大いに觀迎しあくまでも家庭延長主義である。鐵道省ツーリスト・ビュローの指定旅館にして著名人士の滞在するものが多い。

經營者

氏は田方郡小室村出身にして、先考萬藏氏の次男として明治十七年十一月十六日に生れた。小室尋常小學校を卒業、長じて海員生活に入り三十年の永きに亙り、あらゆる海を踏破した剛勇の人である。其の間、大阪商船會社の船長を勤めた事もある。

家庭には、令室モト子さんとの間に一女あり、長女悦子さんは大仁高等女學校を出身、現在は東京市芝區戸板女學校研究科に在學中の才媛である。

静岡、駿東、原里村

村會議員 産組理事 米山 正行

米山家は約二五〇年に及ぶ舊家であつて、世々農業に従事し、先代吉藏氏は八

十三歳の長齡をもつて他界した。氏はその三男として、明治二十四年三月二十五日生を享けたが、分家して一家



を創立し今日に至つた。

勵中、不幸公傷を受け、傷痍軍人として兵役を免除され、恩給を賜はつた。

資性穎悟聰明、夙に人望あり、村會議員として村政に盡瘁しつゝ、今日に至つたが夙に養豚組合長、組長等の閱歷を有し、現在は産業組合理事として農村經濟の振興に努め、其他公職を兼任してゐる。

氏は部落殊に板妻區の状況には深く意を用ひ貢獻淺からざるものがあり。村内での模範區として知られてゐる。

増産計畫に關しては堆肥を奨勵し、當區では米、麥には、殊に加里酸を使用してゐる。養豚は肥料の自給自足の建前か

ら良策であり、養蠶も將來有利なものとして共に奨勵してゐる。

氏は産業報國運動、貯蓄奨勵及び青少年の教育に深甚の關心と識見を有してゐる。氏は研究旅行、讀書を趣味とし活潑果斷の氣象に富んだ努力家である。

家宗は禪宗。家庭には令室しま子さん(四五)との間に五男二女あり、長男愛一氏(二六)若夫人つぎ子さん(二六)夫妻があつて、次男愛作君(二四)は中支に出征活躍中である。

富山、西礪波、國吉村

村會議員 山崎 助造

當家は十數代に亙る村内屈指の舊家にして代々農耕を業としてゐる篤農家である。

先考は永年に亙り村會議員に歴任、自治産業の發展に寄與貢獻するところ極めて大にして、いま尙村民に追慕されてゐる。

氏は先考伊佐次郎氏の長男として、明治二十年



に呱呱の聲を擧げた。金澤三十五聯隊に入隊

四年間の軍務に服した後、家業に従事してゐる。

資性温厚にして高潔實踐明行の人として村民に尊敬せられ、村會議員に當選し、その卓越せる手腕は内外に名聲高く、且養蠶に經驗深く、その一端として當地方の水田に恵れざるを遺憾とし、村發展の爲に養蠶等の振興を計りたる等その功績は大である。

また當村に於ける婦人の副業として菅笠を製造、好成績をあげてゐるのも實に氏の盡力に依るところである。

其の外役場の新築、圖書館の充實等を主張し村治に當り、且村民一般の文化的向上に多大なる貢獻努力をなしてゐる。

家宗は眞宗を信奉し、敬神崇祖の念極めて篤く、家庭には貞淑なる夫人の外二

令息があり、長男良正さんは小學校に通學中である。

静岡、駿東、小山町

旅館 まさごや

電話小山一〇三番

當館は昭和六年五月の創業で、御殿場線駿河驛に下車し、約一丁のところにある。驛前からは、山麓バス及び松田バスがあり交通至便である。

客室は十室を算し、收容人員は五十名である。娯樂機關としては、ラヂオ、圍碁、將棋、麻雀等が完備してゐる。

一般の來客に對しては、家庭延長主義を以つて迎へ、親切な待遇で知られてゐる。

鐵道省、逓信省、静岡縣廳の指定旅館で、朝野知名の人士の投宿するもの少なからず、その名が遠近に聞えてゐる。

從業員は男女共七名を使用してゐる。

經營者

氏は明治二十六年三月十日、駿東郡靜浦村に生れた。實家は



は現在も靜浦村にあり、漁業に従事してゐる。氏は、

昭和六年頃より、現在の旅館を創立經營し、銳意努力の結果、今日の如き隆盛をもたらし

家庭は恒に和氣霽々として、近隣の羨望の的となつてゐる。

山梨、南巨摩、五關村

元村長 依田 悦太郎

當家は五關村屈指の舊家で、また素封

家として知られる家柄である。



良太郎氏 先代故

は生前に自治産業その他社會公共に參與し即ち戸長、村會議員等との要職をつとめ甚大なる功績を遺した人である。

當主悦太郎氏はその長男として明治六年七月一日の岳降であり、郷土小學校卒業後、長じて入隊し日清日露の兩役に出征拔群の功名をたて、歩兵上等兵に昇進勳八等功七級に叙せられるところがあつた。なほ、氏も早くより自治その他に關與し、村民の信望厚く、村會議員、箱原産業組合理事、郡養蠶業組合代議員並び

に評議員、箱原養蠶實行組合長、軍友會副會長等の公名譽職にある。また、大正六年村長に推舉せられ多大なる貢獻を村政史上に遺してゐる。今や非常時局の秋にあたり、此の元老の活躍は益々各方面から期待されてゐる。

石川、羽咋、末森村

末森村 近岡 耕三

當家の祖先は河北郡近岡村出身で、後



當地に移轉居住した村内屈指の素封家として知られて

る。

亡祖父九郎平氏は夙に村會議員に推され、當時當地に於ける郵便事業の不全を嘆き郵便局設置に盡瘁し、遂に創設に至らしめ、初代局長となり功勞多かつ



は今に村に偲ばれてゐる。現在の家の業で醤油醸造

業も又先代の創業に係はるものである。因に當局は明治三十六年の創立、集配事務開始は同三十八年、電信事務は同四十三年、電話は大正元年の開始である。當主はその長男として大正四年七月三

十日に出生、當年二十六歳の少壯氣鋭の青年である。

氏は羽咋中學校を優秀なる成績で卒業後嚴父なき後の郵便局を守り激務に碎勵し、青年局長として又醸造業主として寧日なき活動を続け、傍ら早拔指導委員として、村民の指態に努力してゐる。資性濃厚、高邁なる人格を有し、各方面よりその敏腕を激賞崇敬されてゐる。

當家は紀元二千六百年記念事業として隣村寶達山の植林を計畫中である。家系として眞宗を信奉してゐる。

静岡、賀茂、城東村

大川山 龍豊院

往昔天城山石神の岩庵に行者あり、石神社と對峙して住良の安樂土を築かんと祈願し、衆望が厚かつたが、其の後、弘治元年に笑山精眞和尚此の地に來り、専ら曹洞教化に身を盡したが、隆峯和尚に至り、寺院を建立し、大川山龍豊院と

號し、爾來、法蓮愈々昌んになつて來たものであり、曹洞宗の名刹として知られてゐる。聖觀世音菩薩を御本尊として靈驗顯著なるものがある。檀家範圍は大川一圓にて、總代は木村一郎、稻葉勝次、稻葉清藏の諸氏で諸事の幹旋に盡力してゐる。

住職

浅井 賢隆

師は賀茂郡下河津村淺井浪江氏の次男として、明治八年十一月十二日に生れ、同二十一年四月得度



十九年田方郡田島村の清月院の住職になり、

明治四十三年十月轉じて當寺院の住職となり現在に至る。

氏は又、静岡師範學校に修學し、明治三十七年十月小學校本科正教員となり、昭和五年三月まで教職に在つて初等教育

に盡瘁し、其の間静岡縣教區長にまで任ぜられた功勞者である。

當龍豊院十八世の住職となつた氏は、佛道の研鑽深く、學識も高いので人望頗る高く、益々法燈燦然たるものがある。

静岡、賀茂、下田町

町會議員 鈴木 芳藏

當鈴木家は下田町に於ける舊家として聞えて居り、當主にて八代目に當つてゐる。先代治作氏は當地にて瀬戸物商をはじめ、之が經營に精勵助力し、大いに家業の繁榮を致したが、尙下田町新田區長等を勤め、町勢發展の爲めに盡瘁して功勞あつた人で、深く町民の畏敬を受けてゐる。

芳藏氏は明治二十六年九月廿九日の出生にて、鈴木家に養子入籍した人、愛知縣渥美郡高市村の出身である。養家の瀬戸物業を繼いで營々として精勵し、遂に當町屈指の豪商としたのである。

氏は資性濃厚篤實にして、謹嚴實直なる人格者であつて信望あり、夙に下田新田區長に推されて盡瘁してゐたが、現在では、町會議員の要職を始め、下田町水道委員、氏子總代、小學校造築委員、職業紹介所連絡委員、新興委員、國勢調査員、土地賃借價格調査員等各方面の要職に關與し、町勢の伸展に寧白なき努力を致し、その貢獻するところ多大である。

當下田町は豆州隨一の良港で、古く江戸よりの海路の要衝として知られてゐるが、更に鐵道施設の完備並びに水産漁獲法の改良は、町の産業發展の根源をなすものとして、氏の努力は眞に寧白なき有様である。

夫人とよさんとの間には、一男六女あつて、至極圓滿の聞えが高い。

静岡、賀茂、松崎町

在郷軍人
分會長 藤池 茂

當家は累代篤農家として知られ、現主



氏は資性濃厚にして責任感強く清廉なる人格者で青年精神教育に力をそそぎ、現下農村更生の叫ばれてゐる折柄その手腕が期待されてゐる。

吉氏は名望家として人望厚く、町會議員二期、區長二期、現在も伏倉の區長として區民の人望が厚い。

氏は尊父彌吉氏の長男として、明治三十六年二月五日に生れた。長じて豆陽中學校を大正九年三月に出身し、一年志願兵として静岡三十四聯隊に入營し、陸軍歩兵少尉に任ぜられた。

當町の主義綱領に基づき、一致協力して當町分會の爲に盛す覺悟を有し、未教育補充兵に對し月一回乃至二回に互つて教練指導に盡力をなし、時局に對して確固たる信念を有してゐる。氏は青少年訓育に熱意を有し、以前に青年團長であつた。

氏は全く典型的軍人であつて、動作俊敏、明快なる態度を有してゐる。趣味は釣、讀書等で、信仰は臨濟宗である。家庭には、嚴父彌吉氏及び氏の令夫人まするさんとの間には二男一女があり、圓滿明朗なる團樂振りである。

富山、西礪波、藪波村

藪波 信用販賣 購買利用組合

當組合は明治四拾年の創立にして、頭初より四種兼營であり、郡内屈指の古い歴史と傳統を誇る組合である。

而してその事業概要を見るに組合員約三百戸出資一口金額貳拾圓でその基礎次第に鞏固を加へ、幹部には有爲の人材をあつめ、組合員の理解自覺を深め逐年良好なる成績を擧げ、順調なる發展を示しつつあり前途誠に有望である。

現在理事組合長吉岡太郎平氏の元理事七人、幹事三人ありて氏を補佐し組合員協力一致して各自その最善を盡くしてゐる。

組合長 吉岡太郎平

吉岡家は西野尻村の舊家として知られ代々篤農家なり。

殊に先々代仲平氏は縣會議員として地方政界に重きをなし、又先代良作氏も明治卅三年以來昭和七年迄卅年に亘り當村々長として歴任し、その功勞多く今尙村



民の記憶に新たなものがあ

當主

太郎平氏はその男として明治廿六年の出生である。幼にして聰明若くして村治に參與し、就中消防組頭としての在任期間實に拾有餘年、いまや警防團と改編されるや引續きその長として、今尙在任中なり。又農會長第三期目、産業組合長、青年佛教會委員長、有畜農業組合長等、村自治へ貢獻し村民に敬慕されてゐる。

氏は資性濃厚にして責任感強く清廉なる人格者で青年精神教育に力をそそぎ、現下農村更生の叫ばれてゐる折柄その手腕が期待されてゐる。

静岡、賀茂、城東村

方面委員 原田 三男雄



三男として明治十四年九月十四日に呱聲をあげた。父

君は廢藩後、福井縣養蠶教師、福井區長等を歴任し、七十四歳にして逝去した。氏は明治三十三年福井中學校卒業後、上京して濟生學舎に學び、其の後、東京監獄に看守として入り、日露戰役に出征勳八等を賜はる。凱旋するや再び刑務所に奉職し、看守部長にまで榮進した。同

所を辭職し直ちに當時東京市の大久保町役場に奉職、庶務課長として十ヶ年間精勵し、大正十五年杉並町役場に總務課長となり、昭和七年東京市に合併されるに及び杉並區役所の稅務主任に就任した。後、向島區役所社會保護主任に轉じ、昭和十年六月退職して當地に移住し現在に至つてゐる。

石川、江沼、那谷村

絹織物工場 經營主 柿澤 勝治

當家は當村屈指の素封家で機業は祖父

の代から營んでゐる。

先考八十松氏は嘗て那谷村々會議員及び區長等を勤めた自治功勞者であつた。氏は本年四十一歳の壯年で、機業法には卓越せる技術と識見とを有し、年と共に益々斯業に情進してゐる。

現在四十臺の織機を有し、多數の村内子女を使用してゐるが、氏は之に依つて村に對する福利増進を願つてゐる。

資性温厚にして村民に慕はれ、事業への熱心を斯業界の人々から誦はれてゐる。なほ夫人との間に一男一女があり、長女は目下小松高等女學校に在學中であらう。

静岡、濱名、村柳村

村柳信用販賣購買利用組合

當組合は村内有志の主唱發起によりて創立せられ、頭初は信用部のみであつた。兩來年と共に、進展の一路を辿り、内容組織等幾多の變革が加へられ、現在では當地方優秀なる組合として鞏固なる基礎

を固めるに至つた。

組合員數は約四百五十名にして、よく組合精神を認識し、村内に、家の光會等を組織し、事務主任杉浦佐重氏が會長としてこの指導に當つてゐる。

組合長藤田八郎氏、理事田中林次郎、杉田甚作、鈴木長一、細井喜代作、中西松四郎、監事徳増八郎、中村數吉、藤田筆吉の諸氏が鋭意努力に當つて居る。

組合長 藤田八郎

氏は明治十八年の生れにして、曩に消防組頭として活躍し

現在村會議員、共同炊事組合長等を兼任して、自治公共に貢獻するところ多大でその圓滿高潔なる人格と共に衆庶の信望をあつめてゐる。

専務主任 杉浦佐重

明治二十年の生れにして、現遠洲銀行の當時銀行界に入り、精勵すること實に十三年の永きに亘つた。また消防組頭として活躍、同村消防組は共同浴場、酒、

醬油、專賣所等を經營し、他村とその趣



きを異にして發展成績舉り優秀なる廉によつて静岡警

察當局より表彰された。

氏は本組合主任となつて十四年を勤続して顯著なものあり、一昨年二月個人表彰の榮を得た。

静岡、濱名、和田村

長光山 妙恩寺

當寺は御本尊十界大曼荼羅で、日蓮宗に屬する名刹である。

開基は當地蒲ノ莊一萬八千石金原法橋で自邸の一部をもつて寺となし、慶長元年日像上人を開山として創立し、日像上人の姉妙恩尼を第二祖としたのである。總本山は身延久遠寺にして、末寺十二ヶ

寺を有する中本山である。

寶物としては日蓮上人眞筆曼荼羅、日像上人本尊、日享上人本尊、白陰和尚首頭、運慶作四天王等が秘藏されてゐる。



堂 本

行 事は 四月五日より 三日 間法 華經 千部 會が あり 十月 十二

日より二日間宗祖御會式を行ふ。村雲日淨貌下、本縣知事、金原明善氏等知名の士の參詣がある。

檀家範圍は和田村、飯田村、中ノ町村濱松市に亘り、現住職は權僧正北原祝朗

師にして、總代は金原亨、加藤政治、齋藤藤一郎、平野醇一、磯部元一、金原長一郎の諸氏である。

静岡、小笠、相草村

龍昌山 安興寺

當寺は釋迦牟尼佛を本尊とする、曹洞



師喜道中田事執

宗の名 刹で、 開山雪 窓鳳積 禪師は 奥州の

人で、清和天皇の末裔であつた。性凡に非ず俗に處するの意なく、松島の瑞巖寺にて受戒、のち諸國を遍歴して、江州にて廓和尚の坐下に機縁熟し、廓然として省悟した。櫻木村飛鳥に永江院を興し、また永正十一年安興寺を開いて始祖となつた。當時は、この永江院を本寺とす。寺内に青年佛教修養會を開き、村の中

堅青年の修養道場にして、社會教化に盡力してゐる。

檀家は當村赤土、平田村、川野村及び相良町に亘り二〇〇戸を算し、赤堀朝雄赤堀竹次郎、袴田春平の諸氏が總代である。

現住職は、岩清水眞孝師は先住伊藤金鳳和尚の後、第二十五世を嗣ぎ、また磐田郡井通村一言智恩齋住職を兼務し、安興寺には留守居僧として實際の寺務を執れる人に田中道喜師がある。師は故田中鍋吉氏の長男として大正四年九月二十二日生をこの世に享けた。川野村の郷校を経て掛川中學校を卒業した俊穎である。

石川、羽咋、中莊村

村會議員 田中 喜三次

開祖四代に及ぶ舊家にして、代々農を專業とし、先考佐太郎氏は區長二期を歴任した自治功勞者である。

氏は家業に専念する傍ら永らく被害調

査員、産業統計調査委員、産業組合監事



等を務めた。その圓滿なる人格は村民の衆望を

擔ふに至り、村會議員に推され、村政、最近の業績に桐苗の配布により記念樹の植樹を成さしめたる事があるが、氏は又、小學校の改築を叫び、隣村小學校との合併を策してゐる。

静岡、濱名、笠井町

泰龍山 法永寺

當寺は淨土宗に屬し、泰龍山笠井院法永寺と稱し、正中元年臨濟宗覺源大和尚により創立され、安部備中守守英の菩提所であつた。天正五年七世開山存公和尚觀智國師の時淨土宗に改め、東京芝の大

本山増上寺の直末となつた。徳川家光公より御朱印を賜はり、上人號を補任された。

一千坪の廣大な境内には、本堂、庫裡山門、位牌堂、鐘樓、弘法堂、金毘羅堂等の堂塔伽藍が立並んでゐる。この金毘羅宮は寛永十一年三月町民の懇望に依り、二世感公上人が創立勸請したものである。現在の堂宇は大正十一年五月に再建されたものである。なほ當寺には寶物として、渡邊華山の十六羅漢が祕藏されてゐる。

静岡、駿東、原里村

原里村 役場

當村は駿東郡の北部に位し、東は御殿場町に隣し、北は玉穂村、西は印野村、南は須山及び富士岡の兩村に接する。

高原地帯にして北方が高く、南方に向つて緩い傾斜をなしてゐる。

村内に陸軍演習場があり、字は川島田保士澤、杉名澤、永塚、板妻、神場の五區に分れてゐる。學校、役場、駐在所、信用組合は村の中央にあり、東海道線御



氏は又町振興評議員、日本佛教會幹事、教育評議員

住 職 水野 源瑞

師は名古屋の人、明治五年一月の生れで、大正大學を卒業し、三重縣龜山町、九州筑後等に歴任し朝鮮龍山に大念寺を建立した功勞者にして、大正十年當寺十六世の住職となつて

殿場驛から約一里、バスの便がある。

本村神場區には村社山神社があり、祭神は大山祇命にして古來より神場の神様といつて靈驗あらたかなるため郷人の崇敬深く、遠甲相豆の四國より参詣者多く境内は幽邃閑雅にして殊に御神木といはれる藤樹多く、五月の花の盛りには紫白その美を競ひて盛觀である。

永原は本村川島田にあり、箱根の裏街道であり、又駿甲をつなぐ交通上の要衝で十數町の間老杉亭々と並木がつゞき富士を背景にして風景雄大である。

村 長

芹澤 英夫



當家は村内切つての素封家で、先代故十四雄氏は、曾つて村長を勤め、また、信用組合設立の功勞者として

若山村 役場

石川、珠洲、若山村

本村の始源は極めて古く、記録の殘存するもの少く詳にすることを得ないが、上古時代より中世期は、朝廷の直轄に屬し、鎌倉幕府時代は能登の地頭長谷部氏或は能登の守護昌山氏に屬したと傳へ、黒峰の城主阿部判官の領有時には上杉謙信の部將に政略されて由井淨定の領有と

なつてゐる。

又徳川時代に入りては加賀藩に屬し、その後二百五十年を経て金澤藩の手に移つた。明治の廢藩置縣に珠洲郡役所の管轄に移り、次いで明治二十二年町村制の施行せられて初めて、東西兩西山村となつたのであるが、その後、兩村合併して現在に及んでゐる。

村 長 兼 森 之 孝

氏代々農を主業とする舊家に生れ、實父金藏氏は嘗て村會議員として、村政に盡瘁した。



氏も又父の志を繼ぎ永く助役を勤めてゐた努力の人で、昭和十四年以來、村長となり、傍ら篤實なる人格者として村民から親しく慕はれてゐる。

静岡、駿東、御殿場町

御殿場信用販賣組合

電話一六六番

當組合大正十二年三月の創業で、當初は農村金融の合理化を圖る中樞機關として設立されたが、時勢の進むと共に四種兼營となり、現在販賣部は、米、小麥、木炭、甘藷を取扱ひ、購買部は肥料及び日常生活必需品の合理的な配給に全力をあげ、利用部は農業倉庫一棟、寒天工場三棟の施設があり共同の利用に供してゐる。

信用部では組合員一同協心戮力、百億貯蓄の國策に協力し、著々と好成績をあげてゐる。

現任役員は組合長鈴木文作氏、理事は高橋、勝俣、芹澤(淳)、渡邊、野木、稻葉、勝又、横山、杉山、齋藤の十一氏、監事は伴野(泰)、佐藤、芹澤(正)、伴野(國)、田代、伊倉の六氏が在任それぞれ

組合の發展に盡力してゐる。

組合長 鈴木文作

當家の始祖は深澤城主の家臣であつたので當家は通稱「城」とよばれ、屈指の舊家で素封家として知られ、先代故甚右衛門氏は永らく町政に寄與し、町會議員を歴任して頗る名望があつた。

氏はその男とし、明治十九年十二月十六日に生れ、縣立田方農林學校を卒業し夙に人望あり、町會議員、學務委員、國勢調査員を歴任し、公共に盡瘁したが、現在は本組合長として活躍してゐる。

氏は、資性温厚篤實の人、宗旨は曹洞宗。家庭は令閨との間に四男四女あり、長男一氏(三〇)は菰山中學出身の秀才である。

静岡、駿東、大岡村

大岡村役場

當村は沼津市の東にあり、狩野川が東

方を貫流してゐる。往古黄瀬川といひその宿址が残つてゐる。往時は石田と此の驛との間を貫流してゐたのであるが、いつの頃からか、東方に轉じ、この驛もまた水災にかゝつて遂に亡びた。その廢墟も今は大岡の城内に入つてゐる。この狩野川は往昔源頼朝と義經の兄弟が對面したところとして史上に知られてゐる。

沼津市約半里の間バスの便があり、村民は古來人情淳朴にして農耕に従事してゐる。

村内には村社二、無格社八、潮音寺、大光寺、西園寺、耕安寺、觀法寺等の神社佛閣が多く、そのほか、丸山教會、天理教會、基督教會等がある。

また、機關紙として中央觀光新聞が發行されてゐる。

村長 關八郎

當家の先祖は北條氏康の家臣であつたが、今より約三百七十年前、農に歸し當主は十八代目である。先代故與右衛門氏

は大岡村の初代村長、郡會議員をつとめた。



自治制五十周年記念に際し自治功勞者として表彰された。

氏は明治十三年九月十七日先考の長男に生れた。都文館中學の出身で、そのうち、三島忠洲の塾に入つて修業した篤學の士である。殊に農村振興問題に就いて大いに貢獻し、静岡聯隊に入り、明治三十七、八年戰役には武勳により勳八等に敘せられた。

氏もまた、早くより自治に干與し、夙に選ばれて郡會議員、村會議員(三期)、村農會長等を歴任し、現在大岡村長として村内自治政の中心人物たるのほか、銃後奉公會長、沼津市外七ヶ町村の常設委員及議員、沼津市外十一ヶ町村を包含する菰山組合議員及常設委員、大岡村警

防團長、日本修身社員、沼津市駿東郡養蠶組合議員、氏子總代等を兼任し、縦横無盡の大活躍をなしてゐる。

因に家庭は令閨ちゑさん(五一)との間に三男がある。

石川、江沼、西谷村

軍人分會長 勳七等 畦地 與三郎

當家は西谷村切つての舊家にして、先代與三郎氏は若冠にして區長を勤め爾來四十餘年、村會議員、郡會議員、村長等幾多の公名譽職を歴任して、村治村政に裨益する處頗る多く、また自治産業方面に於ても治績少なからず、いま尙村民の語り草となつてゐる。

氏は先代の次男として明治十六年三月の出生、克く父の名を辱かしめず、日露戰役には騎兵曹長として出征、赫赫たる勇名を轟かし、勳七等旭日章を下賜されまた軍人分會長として、その任にある事實に十數年、精勵恪勤の奉仕振りは郷土

の齊しく認める處、加ふるに温厚篤實な性格は、いよゝその信望を増し、村内の重鎮として自他共に許す存在である。氏は現に大聖寺電軌株式會社に勤務したつ子夫人との間に養嗣子彌一君を迎えて、靜閑な生活を樂しんでゐる。因に彌一君は目下大阪高等工業學校に在學の秀才である。

静岡、磐田、袋井町

中遠促成園藝組合

電話袋井一三番

當組合は大正十年九月塚本菊太郎、永井虎三、村松捨三郎三氏の共同經營により温室の建設をなし、胡瓜の栽培に成功し、農業の副業として有利なることの確信を得、翌年十一月には各々獨立經營をした。大正十三年に至り大庭治平、鈴木一市等前記三氏と相謀り、木促成組合を結成し、一方小林熊一、寺澤菊次郎外數氏と、中遠温室組合を成して居たが、大

正十五年十一月二十一日兩組合合併の申合せをなし、一口金額一百圓、出資總額七千圓として、茲に本組合の誕生を見るに至つた。

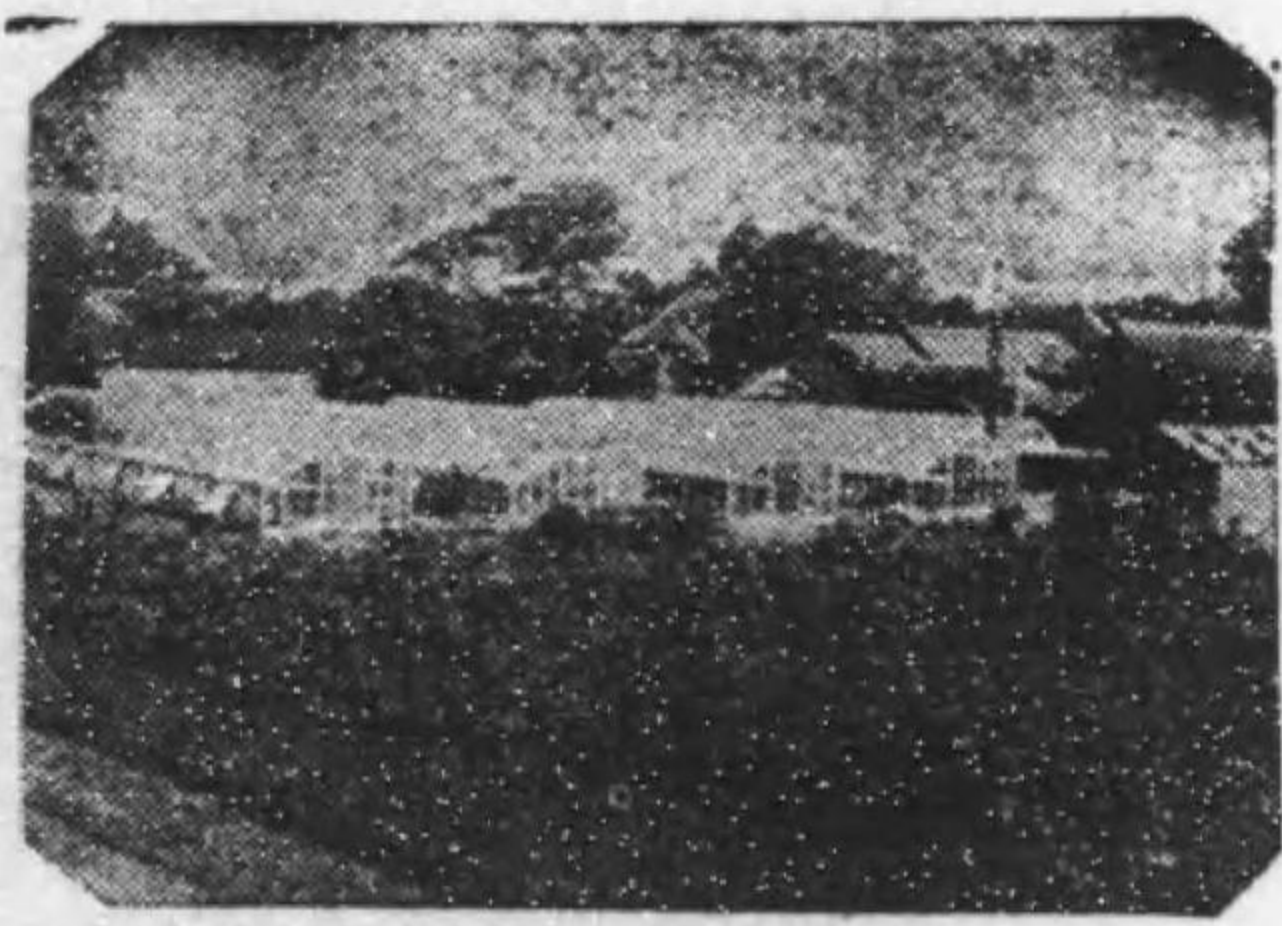


事務所

組合と名稱し、事務所を袋井町農會内に置き鋭意組合の發達と組合員相互の福利増進とを圖り、昭和五年一月には商工大臣より優良出荷組合として助成金を交付され益々順調な發達をなした。

昭和三年前組合長鈴木長造氏、力に依り中速促成

その後組合員増加し、事務所を袋井運送株式會社内に移轉し、温室一五六棟、總面積三千餘坪、組合員七十名を有し、三郡十四ヶ町村に亘る廣範なる地域を包



小林組長の圃場

及び配給とは次第に好成績を收め、昭和九年に於ては、販賣額七萬餘圓、購買額二萬二千餘圓を突破してゐるの盛況である。

昭和十一年十一月十八日帝國農會長伯

爵酒井忠正氏より全國優秀果物品評會賞状を授與された。
現組合長小林熊一氏、副組合長鈴木一市氏、監事塚本金二郎、高會根長吉、名倉桂、評議員永井虎三、山内喜三郎、塚本朝一、村松直吉、中根銀藏、小池芳三郎、鈴木連平の諸氏である。

興津信用販賣購買利用組合

本組合は昭和八年九月設立されたが、その前身は丸興出荷組合、丸清出荷組合、丸昭出荷組合でこの三者を合同して一丸としたものである。
販賣部では柑橘、蔬菜、蕪、蜜柑はその主要な部分を占め、縣下隨一を誇つてゐる。

購買部では肥料、雜貨を取扱ひ、利用部では各所に作業場を設置し成績をあげてゐる。
信用部では貸付金よりも貯金が巨額に

達し、時局認識の徹底と國策協力への努力ぶりを如實に反映してゐる。
本組合は第一、第二、第三の出張所を有し、理事は組合長加藤治作氏、専務塚



密柑の商標

一郎、市川正作、山梨仙吉、柳澤友次郎、青木榮作、青木佳太郎、青木庄作、内藤宣夫、深澤清、市川興八、高山兼作の諸氏が現任してゐる。
監事は内藤茂作、塚口吉藏、青木多三

口國

次郎

氏

常務

小長

谷與

一郎

氏

石川

萬作

氏

外青

木喜

郎、市川忠次郎、小沼次郎、米澤民五郎の諸氏がその任に當つてゐる。

組合長 加藤 和作

氏は本組合創立以來組合長として創業の苦を嘗めた功勞者で頗る人望高く、庵原郡柑橘同業組合長庵原郡養蠶組合長を兼任し、又町會議員として町治に協力してゐる。

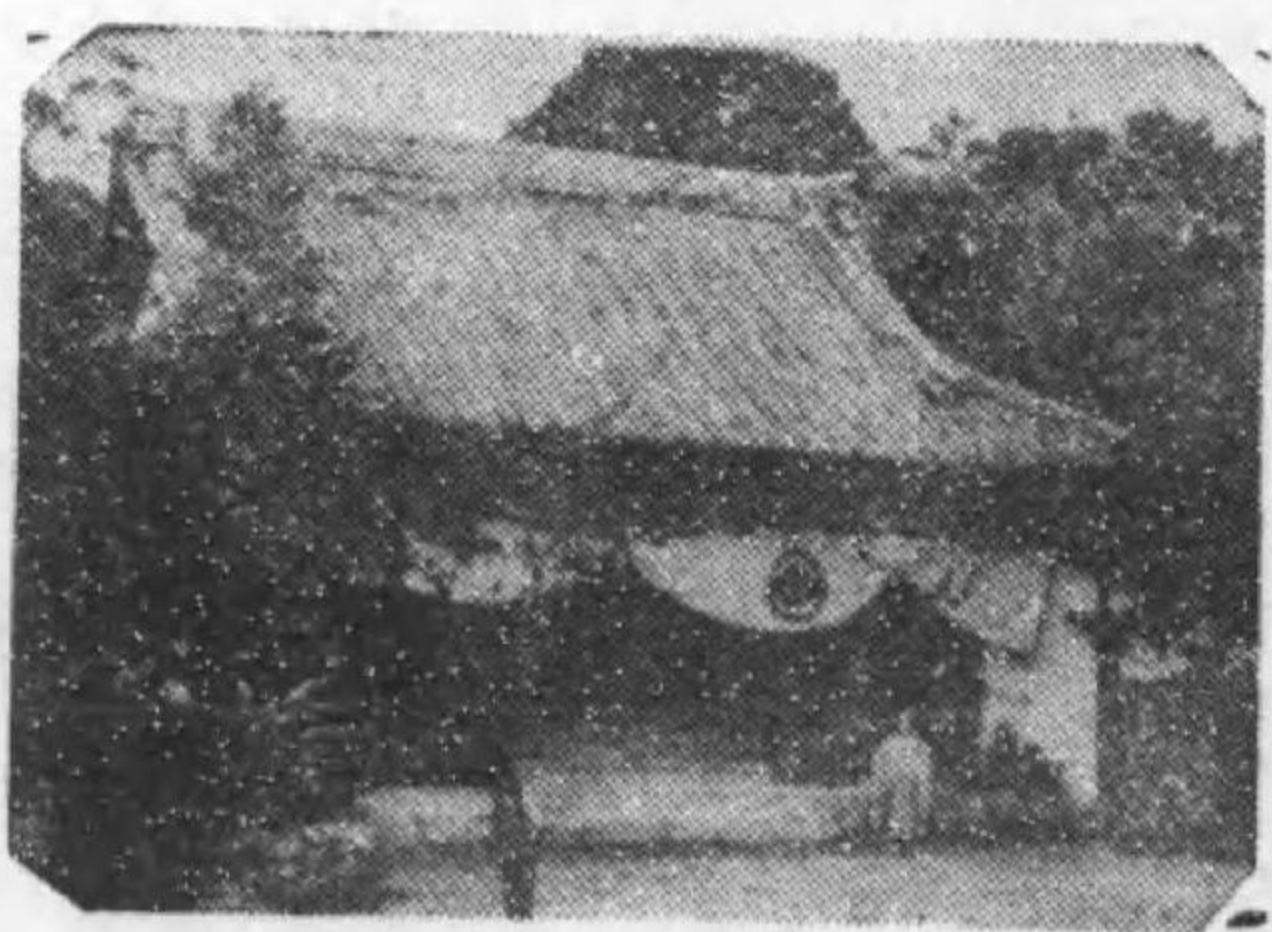
常務理事 石川 萬平

氏は明治二十五年生れ、以前には町會議員として町政に貢獻したが、現在は本組合常務たる外、庵原郡柑橘業組合評議員、學務委員を兼任し、後者は四期に及んでゐる。

静岡、濱名、入野村

寶藏山 宗源院

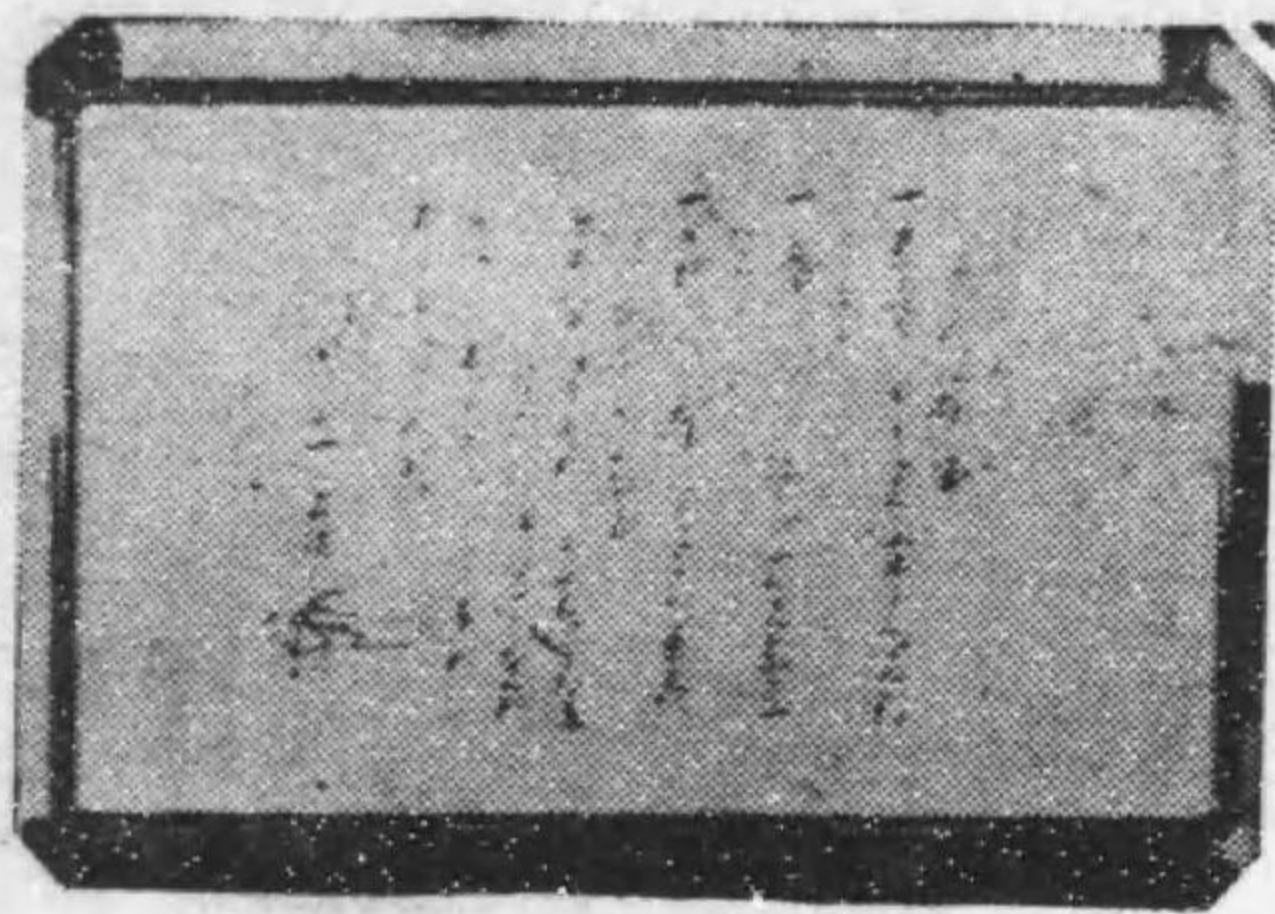
當寺は曹洞宗に屬してゐる。今より凡そ五百年前蜷塚の一部は一大湖沼で、怪物魚が棲息し、中にも大鱸が居りて、人畜を殺害せしため、時の將軍吉良直義こ



本堂

した。開基を吉良公（法號拓華院殿通山正弘大居士）開山は在天和尚とした。在天和尚は名を弘雲と稱し、普濟寺眞開山佛德梅寒禪師華藏義曇大和尚の十三人目の逸足である。

當寺は普濟寺直末にして末寺は五ヶ寺あり、ほかに二町歩餘の田地を有してゐる。寶物は數度の火災に罹りしため、著



今川義元の書

師は當寺に傳はる寺籍明細帳を苦心研究したるに、當寺の開基たる戰國時代の武將今川義之父子の御判物あるを推定するに至り、寺寶整理の結果、弘治二年九月二日付の曹源院に寺領を與へる旨の御判物が發見され、次いで上總介の御判物も見出され、氏の功績や多大である。師は現在西遠曹洞宗兒童聯合會幹事、濱松佛教青年會聯盟理事の任にあり、公共のために活躍してゐる。

石川、鹿島、高階村

區長 片山 吉太郎
村會議員

靜岡、濱名、積志村

北斗閣 大應寺

て寶日曜學校、寶青年會、寶婦人會、證道會等が設けられ、それ／＼公共のため活躍してゐる。

住職 加藤 覺心

師は明治十九年の出生にして當寺二十世の住職である。

片山家は約二十代を數ふる、當村草わけの舊家にして、篤農家として聞え、代々戸長、庄屋を勤めて來た名家である。氏は明治十一年三月、呱呱の聲を擧げた。資性渾厚にして、淳朴、克く祖先の業を繼いで營々今日の大をなすに至る。農として、まことに模範たり。従つて村民の信望極めて厚く、推され

當寺は、その昔眞言宗派の寺院にして備中の國天巖和尚の開山にかゝるものであるが、火災に罹り一切を灰燼に歸せめた爲め、當時の寺院山號は不明である。花園天皇の御代より曹洞宗に屬し、吉慶山大應寺と改めた。古寺院として令名高く、近村併せて末寺十三ヶ寺を有してゐる。

寺院境内總面積は一町餘歩にして、古代よりの大木鬱蒼として茂り、晝尙暗く自ら靈氣を帯ぶる感がある。山門、本堂庫裡、開山堂等の堂宇藝を並べ聳立してゐる。行事は十月十七日に開山忌、四月八日に三佛忌、二月十五日佛忌、十二月八日釋迦尊忌が何れも盛大に行はれてゐる。

なほ當寺は宗教救濟事業の凡てのものに關係し、曹洞宗日曜學校、濱松職業紹介所等にも活躍してゐる。檀家總代は六名である。

住職 北野 卓宗

師は明治二十六年の誕生にして、幼少より宗門に入り、現



部卒業後本山にて宗務に勤めて佛事百般

寺院に修學し、濱松一中より、東洋大學に學び、同學

を極めた。のち、現地に來りて本寺住職となり、末寺東漸寺、東昌寺の他二ヶ寺の住職を兼職してゐる。また曩に日曜學校聯合會主事、靜岡縣連絡委員等に就任して精勵したが、大正十一年より曹洞宗軍人布教師に推舉され高潔圓滿なる人格者として村民から敬慕されてゐる。

靜岡、濱名、赤佐村

龍宮山 岩水寺

當山は聖武天皇の御宇釋行基此地に巡錫し、自ら藥師如來尊像を彫刻し一の堂宇を建立せしを開創とされてゐる。

延暦年間田村將軍東征の歸路領田二百餘町を寄附し、爾來一山繁榮し、本尊藥師佛の十二大願を表示して、山を十二に區分、數十の僧院をその間に配置した。天長年間、一山雷火のため火災に罹り殿堂僧院概ね灰燼に歸せしも、時の學頭坊覺仁僧都刻苦奮勵漸く舊に復し、延喜以



降は興廢數次に及んだが、寶治年間平時賴僧徒の奢美を憎み寺領を剝落した、然し當寺は古刹たるの故をもつて尙四十三石を附與された。而して元龜天正の頃まで七の僧院ありしが甲州軍の兵燹に罹り、舊來の寶器古文書等すべて烏有に歸したが、本尊薩埵及び古佛兩三體は殘存することを得た。徳川治世の始め舊に依て四十三石の寺領を賜ひ且つ數院を合して一寺とし是が即ち岩水寺である。

當寺は眞言宗に屬し、三町歩に亙る境内には本堂、庫裡、山門、鎮守堂、藥師堂等の堂宇、臺を並べて聳立してゐる。

當寺の内佛本尊子安地藏菩薩は田村將軍の一子俊光公がその御母公の姿を模像し、安置せらるゝところの本尊にして、靈驗殊に著しく女人安産子孫長久の祈願をこむるもの常に絶ゆることない。

住 職

師は明治十四年四月二十四日の愛知縣に生れた。幼時にして當寺の弟子となり、高野山の學窓に學



び佛事的一切を研鑽した。明治四十二年法燈を嗣ぎ今日に至つてゐる。

曩に宗務支所長等數期に互つて盡瘁し顯著なる功績を遺してゐる。清廉潔白にして柔和寛仁の名僧として各方面の稱讚

を得てゐる。

静岡、濱名、神久呂村

神ヶ谷 信用販賣組合

當組合は大正元年一月有限責任神ヶ谷信用購買組合として設立した。當時は肥料の共同購入のみを目的としたる組合であつたが、昭和八年に保證責任となり、信販購組合と變更し、更に昭和十一年には利用部を設け、確實なる基礎を固めるに至つた。

組合員は一九六名を數へ、販賣事業としては小麦、米、鶏卵等を主として取扱ひ、また、購買事業は肥料、雜貨等、また利用事業としては精穀一切をなし、他に倉庫作業場等を設備してゐる。

なほ、近時事業の擴張著しきものあり神久呂村字神田に出張所を新設する計畫がある。その他共同製茶場、農業倉庫等も新設の計畫があり、着々發展の一路を進んでゐる。

前組合長は吉山新吉氏にして、現在原田甲子藏氏がその重責を擔つてゐる。理事は吉山新吉、原田縫次郎、池谷榮三郎、池谷良一郎の諸氏にして、監事は加藤伊代作、原田徳重、須山隆太郎の諸氏である。役員は毎月六日に座談會を開き對策を常に研究し、村産業發展のために盡力してゐる。

組合 長

氏は明治十九年九月一日の出生、曩に神久呂株式會社に奉職して組合創立當時の功勞者であり、理事に就任して活躍し、村民の信頼厚く、のち組合長に推され、數期に互つて精勵し、現在村會議員、村農會副會長等を兼任して自治公共のために盡瘁貢獻してゐる。當村切つての人格者なると共に重鎮としていたく尊敬されてゐる。

静岡、田方、伊東町

東海自動車株式會社

電話四〇一番

當社の創業は古く、既に二十數年を経過し、昭和十五年二月一日を以つて第四十五期の營業期を迎へた。

伊豆半島は、各所に湧出する温泉、明媚なる風光、溫暖なる氣候に恵まれ、之れに配するに日蓮、頼朝等の史上の人物に關係した舊蹟多く、帝都に遠からぬ保養地、或ひは遊覽地として次第にその意義を増しつゝある。この地の交通の利便は當地方發展の基礎をなすものである。然るに伊豆半島は、概して山骨稜々、幾多の天險が横たはつてゐて道路も完全といへぬ。この悪條件下にあつて當社は唯營業的利潤のみを追求することなく、鋭意運輸交通の衝に當り、地方文化産業開發の任務を遂行しつゝある。

この種の交通事業は、國營を以つて當地方の運送運輸業を行ふことが理想であり、鐵道の未發達な今日、省線バスとして國營移管が翹望されてゐる。

當社は資本金百十六萬五千圓（内拂込済七十二萬八千圓餘）に上る大企業で伊

豆一圓の自動車運輸及び運送一般を業務としてゐる。

主要路線は、東海岸熱海驛——下田線 西海岸沼津——修善寺線、三峰——古奈線、修善寺——土肥——松崎——下田線 修善寺——下田線、修善寺——伊東線、修善寺——三島——沼津線、沼津——箱根線、下田南線の各線があり、従業員は八百名の多數に上つてゐる。

初代社長は故中村長五郎氏で、現在は川添清男氏が才腕を振ひ、副社長は鈴木忠吉氏、専務取締役は吉田謙藏氏、常務取締役は井上賢二氏、取締役は佐藤吉兵衛、本宿家全、小川菊造、近藤公平、石川朝秀の諸氏。監査役は脇田信吾、荒井彦宗氏、飯田好巳、勝田要作の諸氏が現任して活躍してゐる。姉妹會社として平井哲之助氏を社長とする網代町の東海通運株式會社がある。

静岡、周智、久努西村

秋葉總本殿 可 睡 齋



遠州に聞えた當寺は、今より五百有餘年前、應永年間慈仲天間禪師の開山にか

り開基は久能城主である。聖觀世菩薩を本尊とする曹洞宗屈指の由緒ある禪刹である。

當山十一世仙麟等膳和尚は會つて駿府に在り、今川義元の許に人質たりし竹千代（徳川家康）を救ひ、岡崎城に歸らしめた。後年家康は其恩儀に酬ひ、駿遠豆三の四ヶ國の總祿所となし、十萬石の禮遇を賜つた。又慶應四年、有栖川家御祈願所となり、護國殿の篇額を賜はつた。明治

六年末寺秋葉寺廢寺となり、爲めに後桃
園天皇以來、勅願の火防三尺大権現の御
本體を當齋へ遷座され、明治十九年有栖
川宮熾仁親王殿下より秋葉總本殿の御額
を下賜された。又明治四十四年當四十八
世日置默仙禪師、久我侯爵、其他陸海將星



朝野名士の發願により戰役記念、護國塔
を建設し長くも宮内省より御下賜金の恩
典に浴した。

三尺坊大権現は失火延焼の難を救ふを
以て第一誓願とし、其靈驗の顯著なるは
世人周知のところ、鶴見總持寺の直末に

して齋の直末は實に七十六寺に及ぶ。

寶物としては紅葉狩の名刀、加藤清正
征韓軍旗、道元禪師筆、沈南浦筆魚籃觀
音、顏輝筆達磨、其他古文書多數が秘藏
されてゐる。

また牡丹とつゝじの名所として知られ
築山洞窟は徳川家康の隠れ穴として名高
く、皇族、華族朝野の諸名士の參詣多く
檀家又一千戸に及ぶといふ。寺勢の盛ん
なること推して知るべきである。

静岡市沓谷町

産業組合長 井上 董一郎
市會議員

静岡市大字千代田は元安倍郡千代田村
と稱し、同村に信用組合があり、貸付の
回收不能等の事から大正八年解散の悲運
に立至つた。當時同村の有力者悉く之に
關係してゐたが、井上氏の嚴父もその發
起人の一人であつた。

其後同村には何らの組合組織もなく、
氏は農村經濟の振興のため是非とも産業

組合を必要とすることを痛感し、發起人
となりて村長時代早くも設立運動に著手
したが、前回の失敗から交易に有力者の
賛同をえられず頗る苦心を重ねた。井上
氏は組合の設立存置を最も必要とするに
は經濟力に貧しい村民であることを察知
し、ひたすら資産家の組合たらざること
に努め、一般村民を説いて一人一口主義
で加入せしめ、遂に昭和三年貧富の別な
く一口の割でその設立に成功した。

其後組合のため、或ひは私財を投じ、
或ひは更に借財をなし盡力した結果、逐
年隆盛に赴き、昭和六年に購買部を増設
した。貸付に際しても借主とよく談合指
導し、又肥料購入には最初有力者の危惧
を押切つて個人的に損失補償の契約をな
す等、氏の独自の見解による經營方針が
今日の大をなすに至つたものである。
この千代田産業組合は他の組合と全く
その趣を異にし大に出資者はなく、一人
一口主義を採用し僅かに氏外二三の人が
五口位を保有する現狀で、而かも新加入

者にはそれを分け口數の増加をとめてゐ
る。當組合は又専務制を施かず役員も資
産家に限らず、一切は事務員が業務に當
つてゐる。かくの如く有力者の専制を防
いだため當組合の發展は即ち當村民の發
展となり全く組合員の組合たる實績をあ
げてゐる。

氏は當地土著の人で當家に三代前より
酒造等を營み一時は東京附近に販賣した
が現在は市附近に出してゐる。

静岡、駿東、清水村

村山福太郎商店

電話三島二八六番

當店は、大正十年當主福太郎氏によつ
て創業されたもので味噌、甘酒、罐詰、
佃煮、鯛でんぶ等の製造卸業を營んでゐ
る。

東京、東北の一部、名古屋、大阪等を
主要販路とし、駿東郡一圓各地温泉等を
近接販路とし各地で好評を博してゐる。

殊に製品中金山寺味噌は有名で、一年
の金産額實に三萬圓に達してゐる。
製品の優秀なるは言を俟たず日本罐詰
協會、全國殖産産業博覽會等より數回に
互り賞牌を受領した。

當店は陸軍關係及び滿洲方面に大量の
得意先があり、常に薄利主義を經營方針
とし、村民には奉仕的に販賣し報徳味噌
の別名が生れてゐる。東京市荏原區戸越
町に村山屋といふ支店がある。

經營者

勲八等
村山福太郎

當家は三代目に分
家して一家を創立し
た、先代故源次郎氏
は農を業とし、傍ら

社會公共に盡し殊に消防に大なる貢獻が
あつた。



息として生れた。明治三十七、

氏は明
治十六年
三月十五
日故遠藤
嘉平氏の
八年日露

戰役には勇躍出征し、武勳をあらはして
勲八等を賜はつた。請はれて村山家に入
籍すると共に醸造方面に、志を抱いて進
出し、大いに繁榮、よく一家を隆盛に導
いた。現時村會議員、箱根山、北方山林
組合會々議員、家屋稅調査委員、静岡縣
東部味噌工業組合幹事等を兼任し、公共
に盡して人望を集めてゐる。



氏一卓男次

氏は
信仰心
厚く、
和歌を
趣味と
する温

厚篤實な士である。

家庭には養母いさ刀自(七十二歳)、令
闈れんさん(五三)との間に、二男二女あ
り、次男卓一氏は日支事變勃發後應召、
戰陣を馳驅して大いに武功を立てたが、
昭和十三年八月四日、北支山西省沁水附
近の戰鬪で名譽の戦死を遂げ、正八位陸
軍輜重兵中尉に進級し、家門の譽れとな

つた。長男周作氏(三三)は沼津農林學校の出身で夫人和子さん(二八)との間に三女に恵れ、琴瑟相和し家庭の圓満よりは近隣の羨望の的となつてゐる。

石川、珠洲、若山村

村會議員 寺地 吉松

當家は平定廣郷の末裔たる寺地家より



分家したるもので既に拾數代の家系を誇る舊家である

代々農を主業とし先代平五郎氏は區長其他の公職にあつたと云ふ。

氏は金澤の聯隊を除隊後、分會評議員其の他の公職にあつたが、今次事變に召され、上海、南京、漢口と第一線に活躍し、決死隊中に加はり、重傷を負つたが傷癒ゆるや、再び第一線に活躍した武勳

甲の勇士である。

現在、村會議員、分會評議員、農事實行組合長等を兼務してゐる。殊に農事實行組合長として功あり縣より二回に互つて表彰されてゐる。

なほ警防團第一分團長として銃後治安に當る等枚舉に遑がなく、青年村議として氏の上にかはられてゐる村民の期待は大きい。

静岡、濱名、中瀬村

中瀬村 信用販賣 購買利用 組合

電話二俣三七番

當組合は大正九年四月十二日の創立にして、主唱發起人中の功勞者は清水徳重氏、大橋卓氏、河合慎太郎氏の三氏で、大正十二年四月事務所を新築、大正十四年作業場を新設、同十五年肥料配合所を増築、漸次その陣容を整へ來つたが、更に蠶種部を創設し、製絲部も相當の成績をあげてゐる。昭和四年鶏卵の販賣を始

め、同八年四月には蠶種共同飼育所が落成、斯業の合理化をはかつてゐる。今や組合員六三七名を數へ、國策への協力振りを大いに示してゐる。



同 一 員 役

而して昭和八年十月六日その成績優良なるに依り、縣支

會より表彰をうけた。

現任の役員は頼綱を見るに、組合長の河合豊平氏は現在村長の要職を兼任し活躍してゐる。専務理事は大橋卓氏、理事には大橋恒友(製絲部長)、大城猪平治常

務)河合浮太郎、大原龜太郎、河合半、河合英三の諸氏、監事には岩崎喜一郎、岩崎兼三郎、木下吉左衛門、大城才市、河合武夫の諸氏が在任し、それぞれ組合の發展に寄與してゐる。

専務理事

大橋 卓

氏は明治二十七年生誕、永く役場に奉職し、大正十二年組合創立と同時に専務となり組合の創業に際し大いに盡力し、昭和四年より十二年迄は縣聯に奉職したが、昭和十三年より、再度専務理事として重任し、組合員の福利増進、組合發展のため貢献してゐる。

静岡、榛原、上川根村

上川根村 信用販賣 購買利用 組合

同組合は昭和十三年九月に創立に係り販賣事業は木炭、椎茸、蒟蒻玉、小麦が主要で、購買事業は米穀、肥料、雜貨等で利用事業は精米、精麥の事業をなして

ゐる。

購買品中米はその主位を占め、價格も諸物價に連れ、高價となつたが、仕入等に注意し系統機關を利用し政府米等をも有利に購買し、本村の米價は公平なる價格を維持した。その他雜貨は創業淺き爲め多數品を取扱ふ域には未だ達せざるも主として配給品の取扱をなし、利用部も開始以來多忙である。

組 合 長

松岡 嘉平

氏は當年三十八歳の壯年で、其他村會議員として斯界に貢献多く將來多望の人物である。

専務理事

鈴木 秀雄

氏は同組合の中堅として活躍すると同時に村會議員をも兼任してゐる。

書記會我良氏は明治四十二年生れ、本組合創業以來の功勞者である。

理事には松岡、鈴木(秀)氏の外、中村惣平、井澤醇一、鈴木京一、瀧波彌三郎、大村新平、上田正次、瀧口銀藏、望月經

一、大野利明の諸氏、監事には中村多平、榎田卓二、中村鐵藏の三氏が夫々就任し同組合經營進展の樞務に参劃してゐる。

静岡、賀茂、竹麻村

村會議員 學務委員 石井 榮次郎

石井家は村内屈指の舊家で、累代戸長等の職にあつて、村の繁榮に寄與した名望の家柄である。先代長次郎氏も、また戸長、村會議員、學務委員等の名譽職に就いて村政に盡瘁し、頌る人望高き人であつた。

榮次郎氏は當村に於ける篤農家として知られた、故高橋長右衛門氏の三男として、慶應二年十月十九日に生れ、石井家へ養嗣子として入籍したものである。當村自治に身を捧げ村會議員たること三期を始め、學務委員、國勢調査員として大いに貢献をなし、現に村會議員、學務委員等の要職に就いて、現下非常時農村の經濟振興に、村民の精神作興に、村治の

圓滿なる發展を期して、銃後國民たるの
 本分を完ふしてゐる。
 資性濃厚篤實にして、高格高潔なる人
 格は村民の信望をいよ／＼高め、常に書
 を好んで人格の注養に努め、又曹洞宗に
 深く歸依してゐる。
 サキ子夫人との間に子女多く幸福なる
 家庭である。

石川、珠洲、若山村

村會議員 樋本 政信

當家は代々農を主業とする舊家で南山
 區に中心的勢力を有してゐる。
 實父平次郎氏は明治元年生れの高齡者
 であるが未だ健在し、田に山に若者以上
 の働きを成して、村内の尊崇を集めてゐ
 る。

政信氏は明治三十年の生れにて、未だ
 春秋に富むとは云へ、區長たること數期
 の經驗を有し、現に、村會議員として活
 躍してゐる。即ち、農事實行組合の活潑

なる發展を策し、又若山村小學校の設備
 改善、山間地の道路改修及び産業の發展
 等幾多の抱負を實現すべく、大重の活躍
 をなしてゐる。

静岡、賀茂、南中村

警防團長 鈴木 芳次郎

電話南中一〇番



氏は三十年以前鈴木家の女婦に懇望さ
 れ入籍し
 たもので
 生家は當
 村上加茂
 の篤農家
 として知
 れてる小針家にて、氏は故助次郎氏の次
 男として、明治十八年に呱呱の聲を擧げ
 た。

養父は夙に戸長その他の要職に歴任し
 當村自治の發展に力を致したる人で、そ
 の聲望頗る高きものがある。氏専ら農事に

精勵しつゝあつたが、その後土木請負業
 を起し、粉骨碎身して家業の興隆につと
 め、而して現在静岡縣土木建築請負業下
 田支部代議員として、斯業關係の間にあ
 つて重きをなしてゐる。

氏は業務多忙の傍ら、當村の自治發展
 に意を用ふる事厚く、曾ては區長、南中村
 下加茂部長の要職にあり、現在では南中
 村警防團長を始め、氏子總代、權徒總代、
 負債整理組合長、村整理委員等各方面に
 互る職務に兼任し寧日なき有様である。

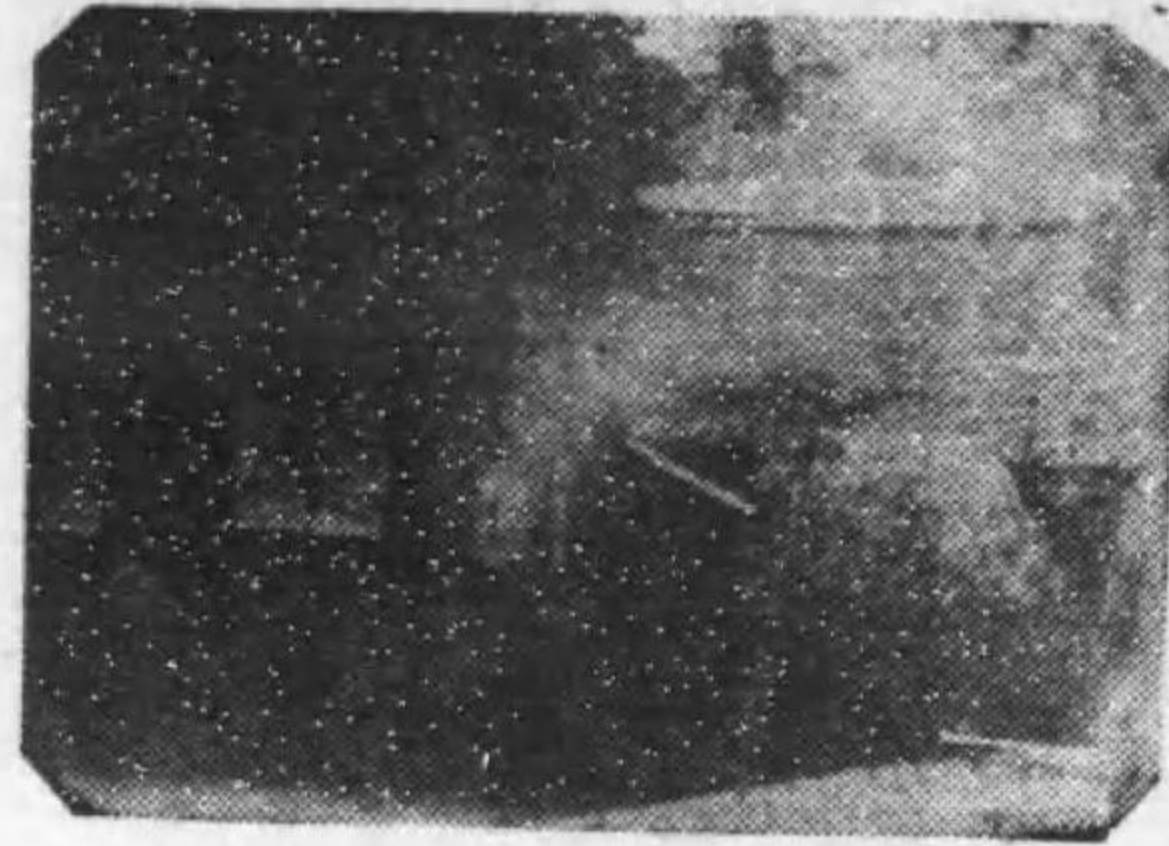
氏は警防團長としてその衝に當るや、
 誠心以つて職責に任じ、警防業務の完壁
 を期し、隨時團員を招集して警防精神の
 普及を計り模範的警防團長として、銃後
 の本分を果しつゝある。

警道に精進し、家庭には二男四女あり
 ツル夫人は、淑徳の聞え高き賢夫人であ
 る。

静岡、賀茂、稻梓村

三 玄 寺

當寺は龍翁和尚の開基にかゝり、慶長
 年間僅本兼親その寓せし山間の要塞を移
 轉の爲め、三根金原城主笹原豊後守の菩
 提所たる栖足寺に寄進せるに、龍海和尚



本堂

是れを禪院と
 なし林院
 庵と號せ
 るに本
 尊に觀世
 音菩薩を安置し、臨濟宗建長寺派に屬す、
 栖足寺はその末寺である。
 本堂は建坪六十四坪の木造にして、田
 地、畑、山林、原野を財産として有して
 ゐる。

住 職
 千葉 正言



當家は果代當寺の
 住職たり、正言師は
 十八代目の法燈を繼
 いだ人で、先代疎禪師は建長寺派の宗會
 議員、又
 副取締役
 等に職に
 つき、大
 いに宗風
 の發揚に
 力を致した。

正言師は疎禪師の長男にして、明治二
 十七年呱呱の聲を擧げ、大正二年豆陽中
 學校を卒業、建長寺派専門道場に入り、
 一宗の教義の研究に刻苦精勵して大正八
 年業了へのち静岡聯隊に入營、衛生上
 等兵である。師は當寺にあつて布教に努
 める傍ら、公共の事業に關與し、曩に當
 村在郷軍人分會長と盡瘁し、縣聯合分會
 長より表彰された事あり。現在當村の方
 面委員として活動し、村内一同の尊敬の
 的となつてゐる。家庭にはきみ夫人あり

濃厚圓滿にして、學徳並びなき高僧であ
 る。

静岡、賀茂、仁科村

中區長代理
 勲八等

須田 高治郎



當家の祖先是須田對島守久盛と云ひ、
 決安城に
 居住して
 いた。現
 在城址は
 當地にあ
 り、檀墓

は仁科中延命寺にある。
 氏は先代政友太郎氏の次男として、明
 治十六年九月二十日に生れた。長じて朝
 鮮京城憲兵隊に勤務中、日露戰に従軍し
 て、勲八等白色桐葉章、一時賜金貳百圓
 を授けられた。

氏は先に村會議員を始め、消防組頭、
 區長、國勢調査には二回、農會副會長等
 の職に就いて、大いに努力貢獻する所あ

現在仁科村中區長代理、産業組合理事、農會評議員、負債整理組合評議員、養蠶實行組合副組合長等、村の自治産業兩方面に互つて活躍し、一身を捧げつゝある。養蠶試験場施設は、氏が多年の抱負とする所であつて、當部落産業發展に寄與する事多大なるものがあらう。

當家には母堂しげ刀自米壽を超える高齡にて、こと夫人との間には六男一女をなし、長男誠一氏はその夫人さよ子さんとの間に二男あり、誠一氏は教員養成所出身、實業方面に活躍し、次男庸哉氏は横須高等工業學校出身、現在砲兵中尉にて、名古屋熱田工廠に勤務中、又三男齊氏は豆陽中學校出身、竹麻小學校代用教員奉職中、皆それ／＼有爲の青年として一般の美望する所である。

尙一家より多數兵役服務者を出した廉により、昭和六年賞勳局より表彰されるに至つた。

武門の家として誇つてゐる。

静岡、賀茂、下田町

海善寺



當寺は下田町殿小路にあり、淨土宗に

屬し阿彌陀如来を御本尊としてゐる。嘉永七年米使ベリと日米修交條約を結んだ時、幕府使節林大學頭の寓としたのも海善寺であつた。又文久三年十四代將軍家茂公海路上洛の際暴風雨に逢ひ、海善寺を旅館したが、その時の御手植の松と呼ぶのが庭前にある。

其の後同所は鑛山開堀の爲め、稻生村本郷字天氣院に移り、更に天正十八年舊幕吏戸田三郎九郎三州田原へ轉居したのでその跡地へ和州廣瀬郡竹村九郎左衛門菩提寺のために、寄進したので現地に移つた。安永五年焼失後、十八世淨譽玄明上人再建し、明治三十七年に至つて二十五世承舉大保上人が大修理を行つた。

由來當寺は史蹟に富み、下田城主戸田忠次海善寺の地に居館を營み、晩年致任して此處に住してゐた。嘉永七年米使ベリと日米修交條約を結んだ時、幕府使節林大學頭の寓としたのも海善寺であつた。又文久三年十四代將軍家茂公海路上洛の際暴風雨に逢ひ、海善寺を旅館したが、その時の御手植の松と呼ぶのが庭前にある。

住職 安藤 辨眞

師は名古屋市中區の本重町故榮次郎氏の五男にして、明治三十九年の出生で、十歳にして東京青山南町梅窓院にて得度した。大正十四年芝

中學校を卒業、昭和五年大正大學英文科



を卒業して昭和八年九月現任職として法燈を繼いだ。

爾來常に研學布教に努め、未だ若冠ながら、大成の器である。令室鈴枝さんとの間に一男一女をなし、極めて平和な家庭を營んでゐる。

石川、珠洲、西海村

從七位 南與八郎

氏は縣立松任農學校の前身小松農學校の出身である。日露戰爭に出征、第四軍に従軍して武勳を建て、從七位勳六等を賜つた名譽ある衛生中尉である。

氏は曩に村長を一期、郡會議員を二期に互つて務め、明治四十四年より昭和十二年に至るまで都合二十數年間村會議

員として永らく村政に參與した功勞者である。



現在馬織産業組合長として組合の發展にあ

たつてゐる。當組合は大正十五年に創立され、最初有限責任であつたが、時勢の推移に應じて之を保證責任となし、信販購利の四種兼營とし理事五名幹事三名を置き逐年發展の路を辿り今や不動の基礎を作るに至つた。

氏は當時自治五十周年記念に村長として表彰された。

静岡、賀茂、田子村

方面委員 鈴木 清吉

鈴木家は代々篤農家として、當地方に聞えてゐるが、先代故若松氏の時、鈴木平吉氏方より分家したもので、若松氏は

夙に區長、産業組合監事等を勤め、當村の自治産業の振興發達に資する所多く、村民敬仰の人であつた。

清吉氏は當村藤井熊造氏の次男で、明治十九年三月一日に生れ、二十四歳の折若松氏の女、うし子さんと養子縁組したものである。爾來家運の繁榮に努力し、また村政方面にも深く意を用ひ、曩には村會議員を二期、國勢調査員を二回、消防部長、區長等を歴任し、才腕明識を以つて盡瘁した。現在では非常時局下にあつて方面事業の重大なる痛感し、方面委員の要職に獻身的に努力し、その業績頗る擧つてゐる。尙現在農産信用組合理事養蠶組合顧問、檀徒總代、氏子總代等を兼任活躍してゐる。

資性濃厚正義の念に厚く、識見才腕と共に衆望を聚めて居り、又會つて消防部長として二十年勤続の廉により、消防協會より表彰を受けたこともある。

家庭にはうし夫人との間に九女をなし長女さくらさんと養子梅作氏の間には一

男一女がある。梅作氏は現在公共の事に活躍してゐる。

静岡、賀茂、仁科村

正島山 法眼寺

當寺は仁科村大字濱の地にあり、御本尊に釋迦如來を安置し、臨齋宗建長寺派に屬してゐる。

當寺は元法眼庵と稱し、字安城山麓にあつた小院なりしが、海波の爲めに遂に荒廢する所となつた。時に永享年間幽巖大和尚巡錫の砌り、此の地に來つて二院の荒廢せる儘なるを嘆じ、茲に二院を合して正島山法眼寺と改稱し、爾來法統相繼ぎ、當代に至つてゐるものである。

三百九十一坪の境内には本堂、庫裡あり寺財として田畑、山林を有してゐる。

又村内佛教會、出征遺家族の慰問、或は託兒所の開設等、當寺の社會的活動は多忙である。檀徒範圍は當村濱一圓に及び頼葉西蔵、須田政五郎、渡邊比呂枝、須

田清藏の諸氏が檀徒總代を勤めてゐる。住 職 師は當村藤井重次郎氏の二男にして、

藤井 守範

明治三十六年の生れである。十六歳にして得度し、昭和八年



城福寺の住職となり、十二年當寺の法燈を繼ぐことと

なつた。

師は當村小學校卒業後、花園專修學院にあつて佛道の教義を修むる所あつた。爾來研學布教怠りなく、信徒の教化啓發に力を盡し、村民の敬仰の的となつてゐる。

静岡、賀茂、城東村

産業組合 高羽 末吉

當家は近村切つての舊家と云はれてゐる



祖より累代戸長等を勤め、村の自治に寄與する事多く

名望ある家柄として近隣に聞えてゐる。氏は先考徳太郎氏の男として、明治二十四年十二月二十二日に呱呱の聲を擧げた。

氏は自治、産業にその全力を傾けて盡率し、軍人分會長十二年、副會長四年或は村會議員に、或は村農會長に、山葵業組合長に、又役場書記として七ヶ年奉職する等、その盡率振りはあまねく村民の敬仰の的となつてゐる。曾つて山葵業組合長時代には、山葵の栽培法の改良を試み、今日山葵澤の發展は實に氏の力に負ふと云ふも過言ではない。又軍人分會長時代には忠魂碑の建設に奔命盡力し、或は村青年に對しては軍人精神の普及指導

に當つて、よく之が徹底に努め、その結果當時入營者は悉く上級の地位に昇進して歸郷したと云はれてゐる。又農會長時代には柑橋、莢豌豆の増産を奨励し、産業の發展に盡した。

今日では産業組合監事、白田漁業組合理事、軍友會支部長を兼職し、産業組合の統制、漁業組合の發展に盡力し、以て福利増進に寄與しつゝある。

夫人サダさんとの間に長男一氏（當時一二）は今事變に出征し、昭和十二年九月十三日支那江蘇省蕪湖に於て東洋平和の礎となつて名譽の戦死を遂げ、その功により歩兵軍曹、勳七等功六級に叙せられた。

静岡、賀茂、下田町

在郷軍人分會長 長谷川 佐一

當家は元田方郡葦山村中條にあり、先祖以來代々農を以つて家業をなしてゐる舊家であつたが、先代故徳松氏が當下田

町に移住し來つたものである。

佐一氏は明治三十三年一月二十五日の



生れ、先考徳松氏の次男である。葦山小學校を卒業し

静岡聯隊に入隊、滿洲守備の爲め、鐵嶺に派遣された。又昭和三年濟南事變に際し、召集されて留守隊に勤務した。

資性濃厚篤實にして、明敏活達の人で夙に町政に與り、幾多の功績を残してゐるが、現在下田町在郷軍人分會長を始め町會議員、下田町振興委員、下田町三業組合理事、國勢調査員、下田町警防團本部長、下田町防空委員、下田町青年學校役員等の要職に就いて居り、町政伸展のために、晝夜の別なく、その才腕と識見を發揮しつゝある。

氏が當所に於ける郷軍分會の主要なる方針とする所のは、時局の認識を強

調すると共に、未教育兵の教導に重點を置き、應召兵の慰問、遺家族の援護、在郷兵の訓練等に努力してゐる。分會長としての功績は枝舉に遑ないが、特に帝國在郷軍人會より、又賀茂郡聯合分會より功勞賞を授與された事等は特記すべきである。

家庭にはみつ夫人との間に長女美佐子さんがあり、和氣霽々たる團樂振りである。

静岡、濱松市田町

静岡縣撚絲工業組合

電話三七一八番

本組合は昭和十二年二月二十五日の認可にかり、静岡縣一圓を區域とし、棉絲、人造絹絲、ステープル・ファイバ、生絲（玉絲を含む）、亞製絹絲、麻絲、毛絲、ガラ紡絲、更生生絲撚絲等の製造者を以て組織されてゐる。

主唱發起人に馬塚一平、杉本芳太郎、

田中五郎七等の諸氏があり、前理事長に馬塚一平氏現理事長は高杉勝治郎氏である。

専務理事に田中五郎七、熊澤勘一、佐藤眞一。

理事に丸山隆司、太田林平、坂本浩。監事に須永長平、中井和吉、山田三太郎の諸氏が現任して、それぞれ業務に碎勵してゐる。

組合長

高杉勝治郎



氏は明治二十二年十二月七日の出生で、創立濱松商業学校を卒業後、東京市一ツ橋支那語学校に支那語を學ぶのち父と共に捻糸業に心血をそそぎ、斯業の發展を招來するに至つてゐる。

組合理事、濱松商工會議所議員等の公職を兼任してゐる。現住所は當市菅原町(電話二二・二八五番)である。



氏川山長記書

靜岡、濱松市傳馬町

濱松市商品陳列所

電話二六一二番

當陳列所は明治三十四年物産陳列館として創設されたが、經營困難のため同四十三年遂に廢館の已むなきに至つた。その後、舊商業會議所(現商工會議所)の手によつて濱松驛待合室に商品標本を陳列することとなり、更に大正七年に至つて同所附屬商品標本陳列所を設置し、昭和四年濱松警察署移轉と共にその利用することとなり、同年十一月三日明治節の佳

辰をトして現在の發展をなすに至つた。爾來、本市商工業の改善發展を目指して活潑な業務を遂行しつゝあり、その實績極めて良好にして、關係者の滿腔の支援を得るに至つてゐる。因に當所事業内容を概説すれば、(一)商品の見本及び參考品の陳列展覽、(二)商品の試賣、(三)商品に關する各種の調査、(四)商取引に關する各種の紹介、(五)商工業に關する圖書その他刊行物の發行蒐集及び展覽、(六)その他商品の改良及び販路擴張に必要な事項、等である。

石川、羽咋、北大海村

農會長 岡部 佐助

當家は地方切つての名門で家には傳來の名刀兜等を藏してゐる。傳ふるところに依れば、祖先是源氏の流れを汲む舊家で、現在の佐助氏は三十代目の末孫であると云ふ。

氏は日露戰爭に従軍し赫々たる武功を樹てた勇士で勳八等を賜つてゐる。

氏は曩に村長として村政の樞機にあり現在は村農會長、産業組合理事、村會議員、森林組合理事、石川縣苗木囑託等數多の要職を兼ね、公務多忙にも係らず、肥料問題等農事改良に志し、副業の獎勵にも大いに盡瘁し、現在では副業として獎勵した「チョマ」の栽培に成功し莫大な收入を擧げてゐる。

家庭は貞淑なるマツ江夫人との間に二男二女があり、長男佐門氏は金澤第二中を卒業して滿鐵に勤め、長女信子嬢も海軍中佐徳生氏に嫁す等至極圓滿で近隣に羨望されてゐる。

靜岡、田方、西浦村

久連區協業同組合

本村漁業家の種々なる便益を圖つて、斯業の發展伸張に邁進してゐる。當組合現下はの時局をよく認識して、組合役員

及び組合員は一致協力、以て業務の圓滿なる遂行に努めてをり、貯金の如き一、四七一圓に達してゐる。

歴代理事長は、山田繁信、渡邊春太郎(現)の兩氏、現任役員に理事稻木君俊、久保田孝作、監事山田繁信、關野爲之輔の諸氏がある。

組合長

渡邊春太郎



長、消防

組第一部長、氏子總代等を勤め、現時本組合長の任にあるほか、産業組合理事、共榮會長等の公名譽職を兼任してゐる。政治的には嚴正中立、趣味は圍碁で、家庭に嚴父市太郎氏、母堂キクさん、令

關みすゑさん、長男壽康君ほか一男一女がある。

濱松市、三島町

遠州板紙株式會社

電話九〇三番

當會社は紙類の製造、販賣及び加工、石炭その他燃料の販賣等を營業種目、昭和五年二月二十一日に創立された。資本金は三〇萬圓、社長中村藤吉氏、常務取締役山本吉章氏、取締役掛下徳兵衛、中村信、監査役木村圭吉、竹田歌次、營業主任伊藤繼三郎、庶務主任兒玉承太郎等の諸氏である。

社長

中村 藤吉

氏は明治十二年五月二十六日の出生。棒屋と稱し小間物商を經營し、又濱松商工會議所議員、濱松木材、中村氷糖、三立製菓、三龍運送の各株式會社の社長、帝國製帽、遠州電氣鐵道、濱松鐵道、濱松委託等の取締役、

その他業界の重役を兼ねてゐる。
また、遠江商業學校を創立し、功により昭和二年紺綬褒章を賜はる。
家庭は令閨信さん（和歌山縣の掛下徳兵衛氏の三女）との間に嗣子精助氏、ふじさん（東京女子大學在學）、きよさん（濱松高女在學）、やすさん（同上）、美代さん（同上）、波奈さん等の子福者である。

静岡、小笠、佐東村

佐東 信用販賣組合

電話五番

明治二十九年頃製茶の出荷組合が存在したが、同二十四年産業組合法の實施と共に、翌年有限責任佐東販賣組合に改組専ら製茶の共同販賣を業務とした。
而して同四十一年購買事業を附加、大正八年利用事業、翌年信用部を併置四種兼營、保證責任に變更されたのである。
本組合は明治四十年頃より業況頗る不振となり、四十三年頃には不況もその頂

點に達したが、時の専務理事角貝桂太郎氏は乾坤一擲の努力に依り、再び軌道に乗り、昭和三年には佐東銀行を合併し、愈々伸張發展した。

販賣事業は米、藥種、菓工品、購買部は肥料、日用雜貨品等の仕入れをなし、利用事業は、精米、精麥、肥料配合を取扱ひ、農業倉庫部も亦、逐年良好な成績を示してゐる。

なほ本組合の最も異色ある點は、負債整理組合の設置で、現組合長鶴藤氏の提唱に依り昭和十一年度より事業を開始好成绩を収めつつある。

組合長

氏は前組合長角貝桂太郎氏の後任を承

継いだ敏腕家で、産組運動に關して深き造詣を有し、曩には助役を勤めて功勞あり、現在は組合長のほか村農會長、部會理事等を兼任してゐる。

因に氏は五十七歳、稟性剛毅豁達にして稔々たる氣宇を有つ人物である。

石川、羽咋、富永村

富永村 信用販賣組合

當組合は昭和十年現在の名稱の下に、初代組合長高橋菊松氏の手依つて創始され、次いで二代の組合長上井永造氏を経て、愈々富永村一圓に、繁忙を極めるに至り、現在馬場平三氏の引き續ぐ所となつてゐる。現在、理事としては、藤岡他三次、松本久造、紙谷久次郎、中田宇太郎、上井永造、澤田豊吉、監事に藤田正吉、田中勇太郎、賣田伊平等の諸氏がゐる。

組合長

氏はもと區長村議

を永く勤めた人で日吉神社の建設は氏の努力に負ふ所が非常に多く、先代以來、村治に功勞のあつた名望家で開祖六代を教へる。

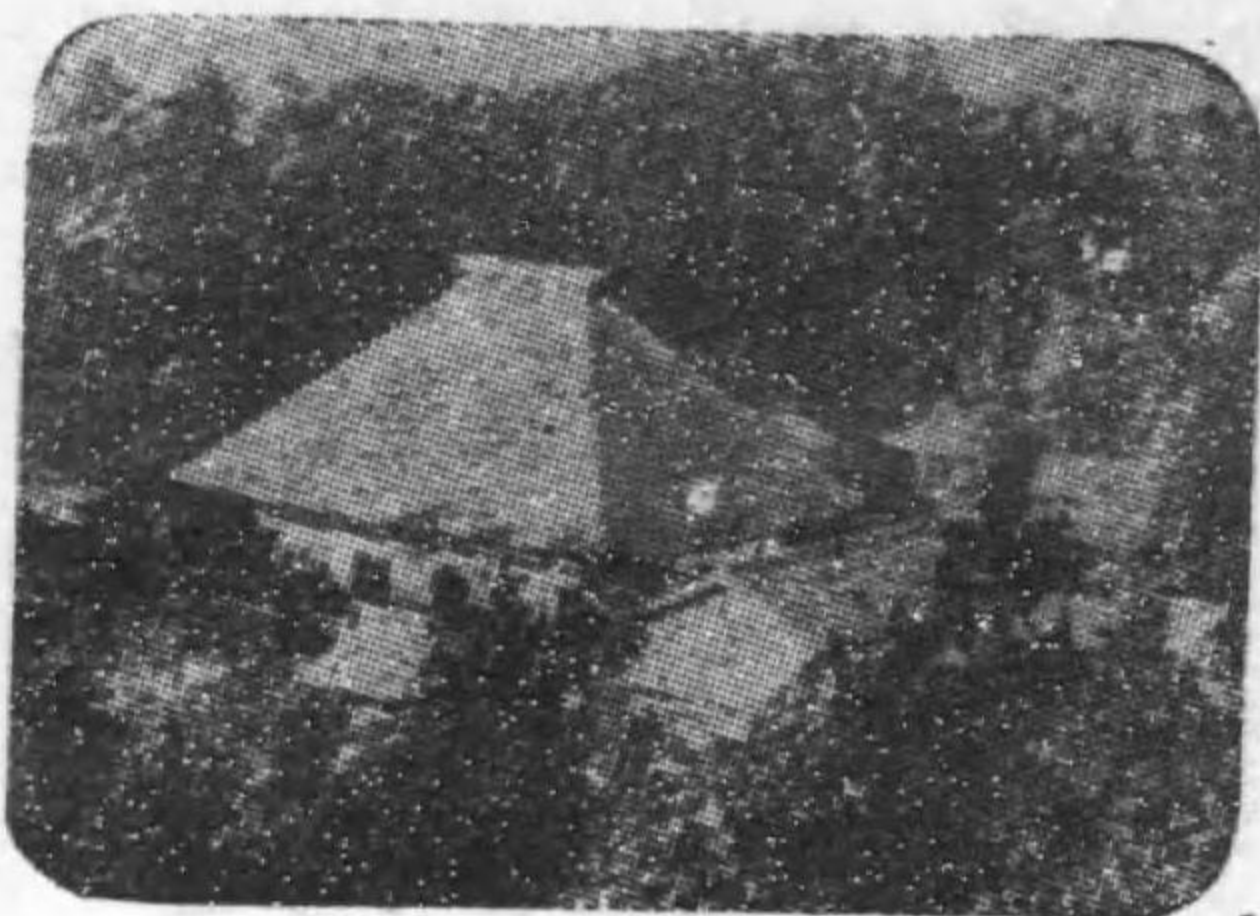
氏は先考の長男として明治二十九年の出生。資性濃厚にして村民の信望厚く賣

洞宗を信じ、男女五名の子福に恵れ、至極圓滿なる家庭を營んでゐる。

静岡、小笠、南山村

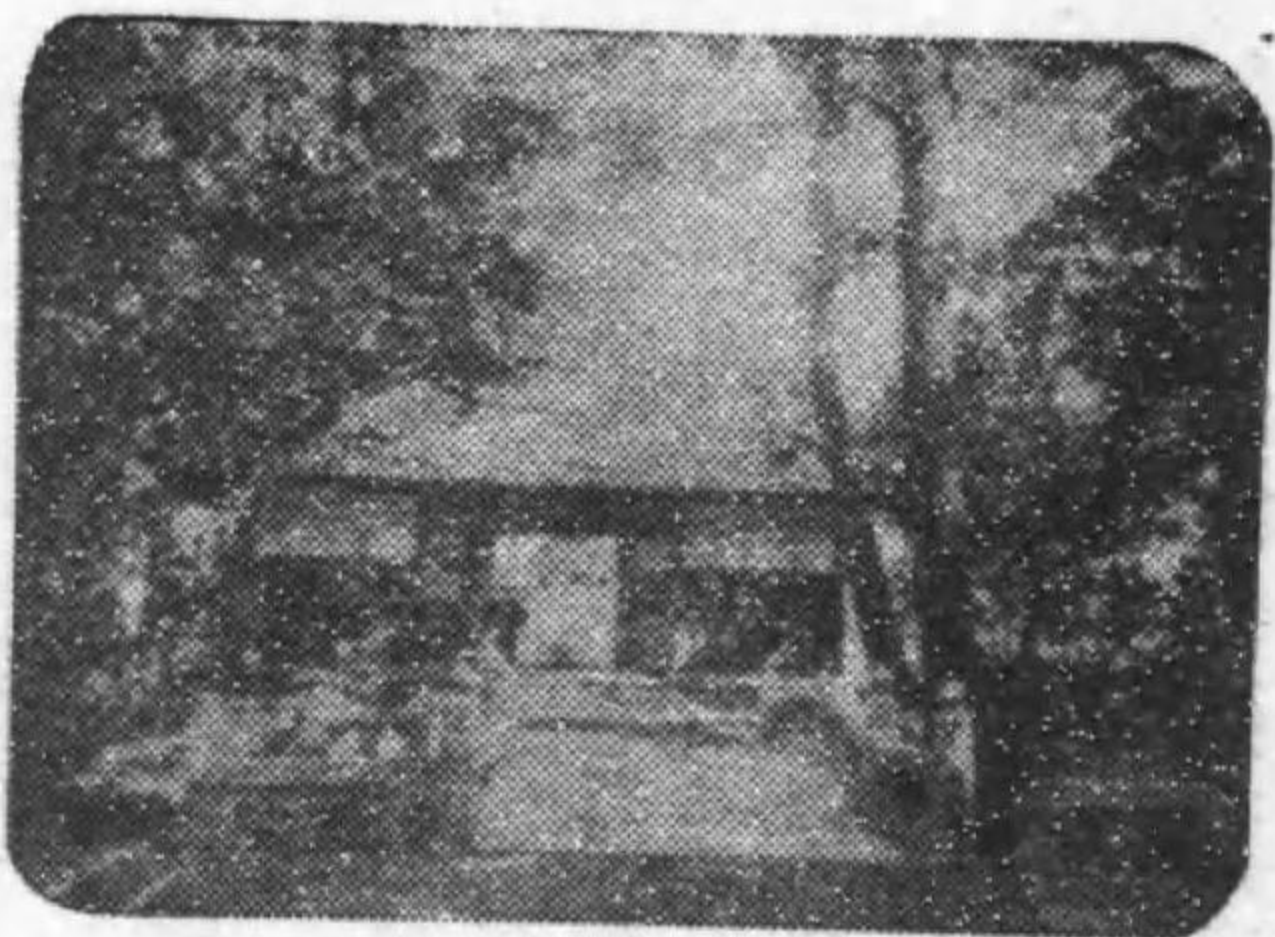
國源山 正林寺

本寺は十一面觀世音菩薩を本尊し、曹洞宗に屬す。



約五百年前今川義忠の開基で同家菩提寺として篤く尊崇された、黒印五百町歩を賜はり、のち徳

川家より朱印十石を賜はつた。



林寺を本とし、成田寺、人相寺、大藏寺等

が末寺である。

なほ本寺は遠江國三十三番札所のうち二十九番に當つてゐる。

住職

田中 靈鑑

第二十六世の師は明治八年十二月の出生で長じて東洋大學に學び昭和三年本寺住職に就任し、爾來教區長、方面委員、管内布教師、司法保

護委員等を兼任して社會のたあ精勵してゐる。



また南山正林教會所、託兒所等の經營に當

ると共に、時折修養會などを催して村青年子女の修養陶冶に力を致してゐる。師はまた南山村主婦會々長として、國民貯蓄獎勵に關し、優良なる成績をあげ過般國民貯蓄獎勵局長官大野龍太氏より表彰状を授與された。因に本主婦會は四百七十二名の會員を擁し、毎月一口金十錢以上の貯金を勵行して遂に滿十年を経て約一〇、四〇〇圓に達したのである。

濱松市、馬込町

静岡縣 細物工業組合

電話一九七四番

昭和十二年十月の設立、爾來、國策の

線に耐うて配給統制に盡力すると共に、生産第一、輸出振興を標榜して業務の伸張を圖りつつある。

區域は縣下一圓、而して取扱製品の主なるものは、綿テープ、インサイド・ベルト、リボン等にして、そのうち綿テープは七〇%を占め、就中絶縁電用テープの生産は約五〇%に及び、遠洲テープとして特異な存在を示し、全國第一の生産高を有す。

主唱發起人に北脇享太郎、横田忠夫、内田鎮太郎、石塚重之等の諸氏があり、現任役員は、理事長北脇享太郎、副理事長鈴木繁治、常務理事横田忠夫、理事酒井鑿之介、須部欣一、松田新太郎、長澤爲三郎、大塚和四郎、柿田勇市、監事山口庄太郎、鈴木兼三郎、原田六郎、深澤重治、袴田博、書記長石塚重之の諸氏である。

組合長 北脇享太郎

氏は本組合の結成に率先して盡力した功勞者で、爾來引續

き組合長の要職に推されて敏腕を揮つてゐる。また氏は日本纖維雜品工業組合聯合會事務理事を兼任し、目下同會の理事長代理を勤めてゐる。

静岡、小笠、上内田村

福壽山 龍登院

安永年間再度の祝融に罹り、開基の由来を詳かにし得ない。

永正年間の頃、飛鳥村龍穴庵二世慶言和尚の室に入つた支那和尚は、本山草創時代寺門の隆昌を圖り、法燈極めて旺であつた。その後、天明八年、十一世快壽和尚は回祿に荒廢した寺門の再興に努めて諸堂を建立した。

永江院が本寺に當り、龍谷寺、福田寺寶任寺等は當山の末寺である。本尊は觀世音菩薩、宗派は曹洞宗に屬してゐる。

なほ當寺は青年團修養會、日曜學校等を開設して本村の教化事業に太く寄與貢獻してゐる。

住職 松原 榮之

師は明治二十二年八月の出生にして、佛道の研鑽修練を積むこと多年、初め神奈川縣下の吉祥院に



住職を勤め、大正十五年七月當寺に二十一世の法燈を

静岡、小笠、六郷村

靈松山 極樂寺

明應二年九月悅照和尚の開基で、師は時の高僧花翁洞岳の下で嗣法し、遊歴行脚の途次當地に止錫し、一庵を結んで喜堂を建立極樂寺と稱し、師僧を請ひて開山となしたのである。

その後、回祿の厄に遭つて一切を烏有に歸し、寛永五年に至つて十一世州山師及び十三世宗瑞師がこれを復興した。

かくて寺門隆々として繁榮し、掛川城主北條氏の參禪するところとなり、また公儀に上申して朱印七百餘石を下賜されるに至つた。爾來今日まで三十四世、連綿として法燈を傳へ、上下の尊崇極めて篤きものがある。

本尊として地藏菩薩を安置し、寶物に「偉駄天」、繪旨、方丈、徳川家朱切等が保存されてゐる。

一月二十四日に施餓鬼を行ひ、年二回修養會を開催する。

なほ、洞松寺は本寺に當り、末寺に妙照寺、龍淵寺、東漸寺、蓮花寺、林昌寺等がある。檀家總數二五〇戸。

住職 植村 南能

師は明治十四年十一月の誕生で、曩々住職を十ヶ年勤め、大正四年本寺三十四世を繼承した。師は衆生に善道を説いて寂光淨土を明かにし、自らは夙夜佛道に精進して自己の修練に努めてゐる。方面委員を兼任するほか、農繁期は託兒所を開設して村民の便益を圖つてゐる。

石川、羽咋、末森村

村會議員 越後 末吉

當家は先代以來、半農半漁の家で先考四右衛門氏は海員として永く遠洋漁業に従事した。

氏は郷土の小學校を卒業するや、北海道小樽に渡り、某商船會社に勤務し、海員生活は實に三十年に及び、遂に船長となり、樺太、カムチャツカ等に活躍し、又、日露戰爭當時には軍屬となつて運送船に乗り組み大いに活躍したものであつ

た。

當村にあつては、初め區長として、村の爲めを圖り、現在は産業組合評議員、社會教育委員、村會議員の要職にあつて村治産業發展に寄與し、殊に道路の擴張を主張し、その完成に奔走してゐる。

因みに夫人との間に三男があり、長男は家業に次男三男は既に中學校、師範學校を卒業して、それ／＼有爲な職に在り、まことに恵まれた家庭である。

静岡、小笠、掛川町

遠州小笠 榛原薬工品同業組合

電話二六〇番

本同業組合は大正十五年一月の成立にかかり、當初遠州薬工品改良組合と稱し「遠州繩」「遠州苧」等の生産指導と品質の改良向上を圖つた。その後、重要物産同業組合法に依る薬工業品同業組合を成立同年八月より事業を開始、生産検査及び移出検査をなして粗製濫造の取締り、品

質の統一取引の改善を圖つた爲め、舊來の面目を一新し、農家を潤す唯一の副業となつたのである。

かくて昭和十年新に榛原郡内の十ヶ村を加せしめて地區を擴大し、現在の盛況を見るに至つた。

長くも昭和五年 聖上陛下本縣下御巡幸の砌、當組合より薬工品を天覽に供し奉るの光榮に浴した。

現在組合員一三、〇〇〇名、生産検査、移出検査、研究調査、品評會、講習會の開催、視察、表彰、違約者取締、産額調査統計作製等を事業の内容とし、生産品は關東、東北、關西、北海道その他各地に仕向けられ、最近一ヶ年の發送噸數は約三百萬噸に及んでゐる。

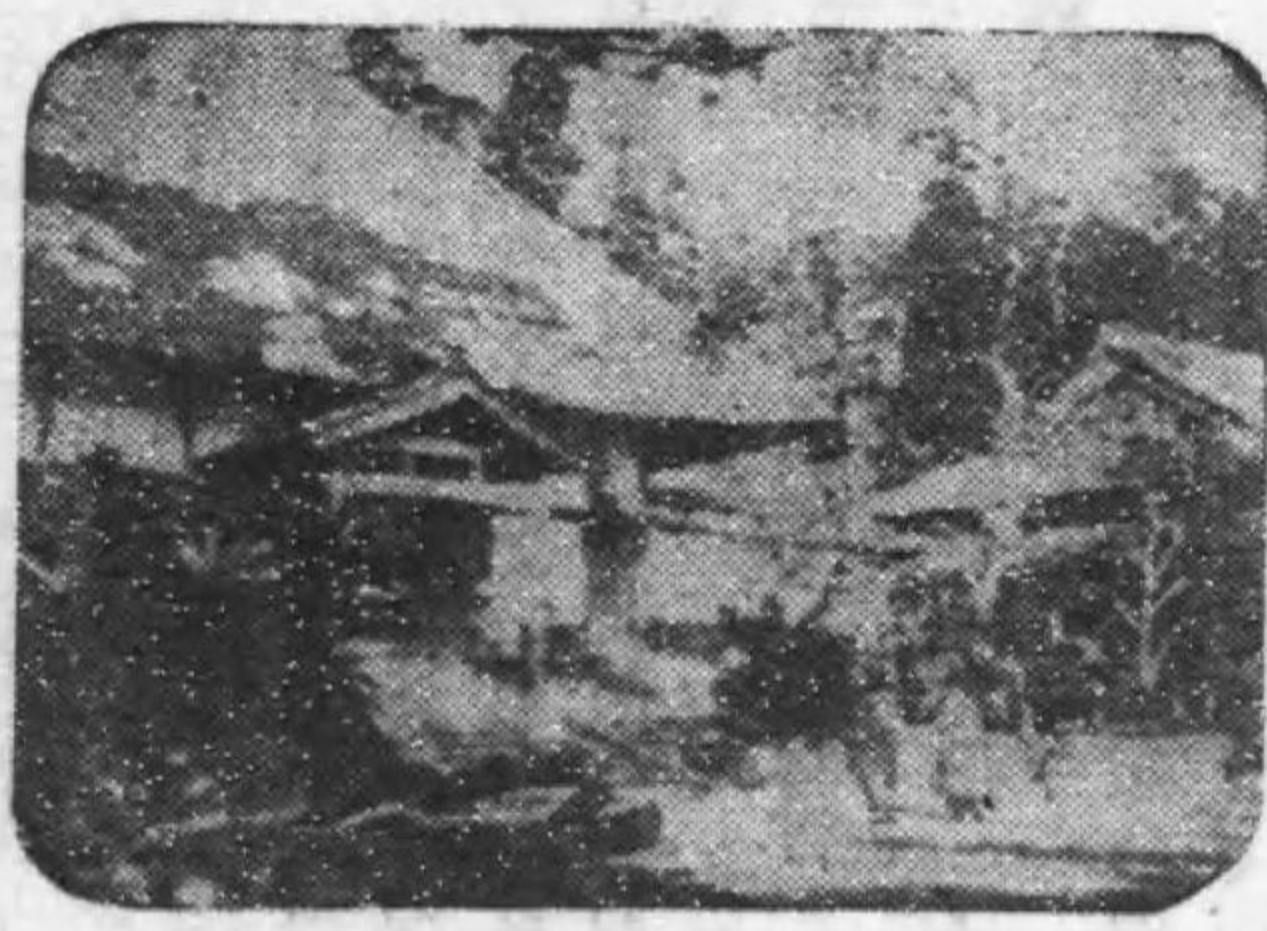
なほ現在の役員には組長榛葉忠藏、副組長村松彌作、理事鈴木正一、評議員岡田信太郎、清水操一、名波清太郎、沖野兼作、鈴木仙三郎、横山正平、木野敦平山下平吉、鈴木象次、門倉森、技手兼書記赤堀猪太郎の諸氏があり、戮力協心、

以て事變下國策の線に沿うて業務の伸張に盡瘁してゐる。

静岡、小笠、横須賀町

金谷山 妙龍寺

當寺は本尊として釋迦、多寶、四菩薩



本堂全景

正十一年四月の開創であるが、安永四年十月回祿の災に遭ひて一切の古記録を烏

有に歸し、その由來沿革を詳かにし得ない。
京都市上京區本隆寺の末寺に當つてゐる。
寺寶に十界曼陀羅、釋尊龍像等が藏藏され、行事は七月十四日の施餓鬼のほか十月十二日に御會式が盛大に行はれ、常に參詣するものが多い。

住職 當山二十一世たる

野崎 惠才 惠才師は明治三十三年十月二十日の誕生

で専心勉學し、立正大學專門部を卒業、その後濱

名郡北濱村、妙朝寺の住職となり、

昭和九年

三月本寺の法燈を繼いだ。稟性濃厚眞摯また寛仁大度の人物にて善道を極めること深く、大悟徹底せる善知識である。

夙夜布教に盡瘁する傍ら、幼稚園を経

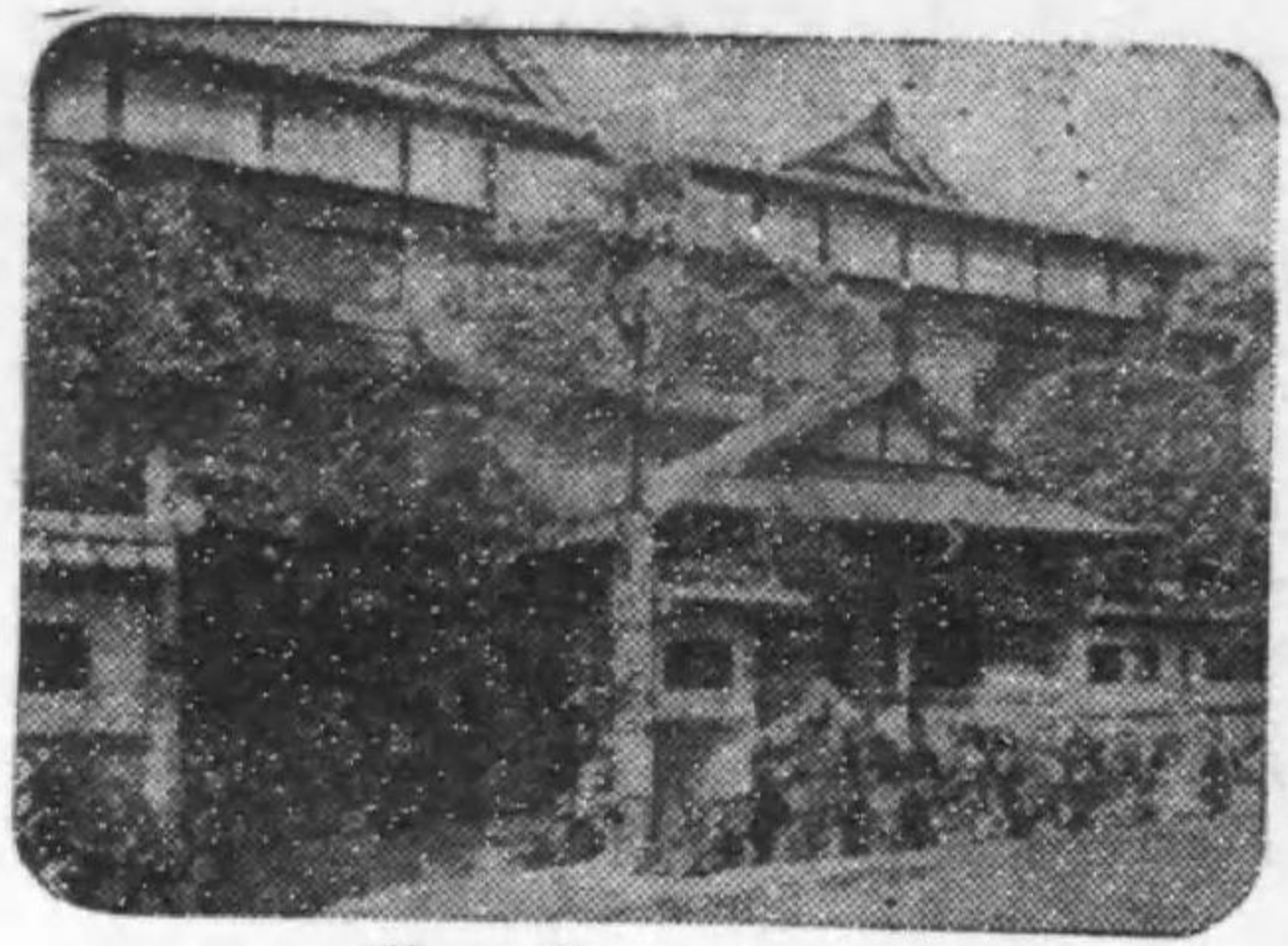


營して衆庶よりいたく感謝されてゐる。

静岡、田方、伊豆長岡町

温泉旅館 小川屋

電話二〇・三九番



本館西面

長岡温泉は伊豆長岡驛或ひは沼津驛より自動車の便があるが、東京方面や關西方面の都人、面々の都人の來遊

する者が頗る多い。明治四十年の舊き歴史を有つ當館は温

泉中央に位し本館と別館に分れてゐるが階段及び廊下を以て接続し、往來出入は自由である。殊に別館は高臺を占め、長岡町を一望の下に俯瞰してゐる。

作家久米正雄は嘗て當館に滞在して、春の夜の湯壺を占めて吾ひとり

と詠じたが、清楚にして然も壯麗なる浴場に顧客は湯治氣分を満喫することが出来る。

附近にはまた、最明寺時頼之墓、大黒堂の松、古代石棺、三津海岸、稚兒ヶ淵、菰山城址、反射爐、江川邸、蛭ヶ小島等の名勝舊蹟である。

經營者

杉山 勝美

氏は先考龜太郎氏の長男として明治四十年二月九日に誕生した。御殿場農學校を卒へて、更に遞信經理教習所に學んだ逸材である。同所を卒業後、昭和六年まで遞信省に奉職し精勵働した。

その後家業を繼承し關東温泉旅館組合聯合會理事、伊豆箱根温泉旅館組合理事

等を勤め、現時は伊豆長岡旅館組合副組

合長、縣旅館組合聯合會理事等を兼ねて、業界のため



家庭には令閨靜江さんとの間に一男一女あり、長男一夫君は十一歳である。

石川、羽咋、堀松村

淨蓮寺

當寺は正應二己酉年の創建で、當時、曼陀羅寺と呼び眞言宗を奉じてゐたが、永正七辰年眞宗に歸依し淨蓮寺と改稱した。開山は乘蓮上僧で熊谷蓮性の末孫なり。

本堂、庫裡、鐘樓等完備せる大寺院で本堂は日露戰爭當時改築したもので、御本尊には惠心作の阿彌陀如來の立像(二)

尺)が安置されてゐる外、覺如上人の御自畫、阿彌陀如來繪像、蓮如上人御影等が藏されてゐる。

住 職

氏は教導職試補として精勵され、明治八年五月當寺住職となられたもので、現在は教導職、本年六十七の碩學の高僧で地方民一般の長敬の標である。

静岡、小笠、賀茂村

加 茂 信用販賣 組合

本組合は大正十二年十一月九日の創立で、白松佐平氏の主唱發起による。

爾來十有八年幾多の盛衰があつたが、組合員の熱心なる協力に依つて障碍を打破し、經濟界の動向に即應し、成績を著すに至つた。

販賣部は米、鶏卵、生葉、薬工品、細類等を取扱ひ、購買部は肥料、飼料、日用雜貨品等を買入れ、利用部にあつては

大豆粕、魚肥、精米、麥、製麵等を取扱つてゐる。

現任役員は組合理事清水寛氏、専務理事織部五良、理事内藤昌一、白松半重、

金文作、黒田市良、黒田藤市、平川順次郎、清水榮太郎、八木春平、監事内藤孝一、八木徳太郎、八木幸平、八木太助、黒田忠平の諸氏で、それぞれ組合の發展擴充に努力してゐる。

組合長 氏は常に識見抱負を傾け、座談會を開き、或ひは種々なる計畫を樹立、これが實行を語り、その活躍振りは目覚ましいものがある。現に村長の要職を兼ね村政の向上發展にも挺身してゐる。

専務理事

織部 五良

氏は明治二十四年の出生で、組合事業の實際に明く、その統轄總攬に専心して實績をあげてゐるほか、村會議員、農會副會長に選ばれて盡瘁してゐる。

石川、羽咋、羽咋町

村會議員 中谷 秀一

當家は數十代の舊家で、代々農を主業としてゐる。

氏は日露戰爭に出征して赫々の武功を樹て勳七等を賜つた勇士である。その後上熊野村々會議員及び産業組合長を務めて現在に及んでゐる。三十年前能登鐵道株式會社を創立し社長として、創業當時の經營困難なる時代より専心、事業の發展に盡し、私財の大部分を投じ、遂に今日の大をなすに至つた功勞者である。

因みに當社役員の顔振れは取締役社長の中谷秀一、専務取締役谷内忠寸計、同高澤源四郎、取締役山本九左衛門、同村田吉三郎、同中野直房、同堀金松、同南長八、同鹽田有造、同横山宗一、監査役宮城吉太郎、同山口弘一、同石下孝平、同中谷正好の諸氏である。現在庶務課長兼經理課長の小野木之茂

氏の協力を得て自ら社務の監督に當つてゐる。

小野木氏は元滿鐵にあり、後神戸鈴木商店に勤務した事のある人で、當年四十九歳の働き盛り、長男和之君は目下金澤高等工業學校在學中の秀才である。

静岡、小笠、掛川町

小笠郡茶業組合

當組合の創立は明治十七年三月にかゝり以來役員及び組合員の一致協力の努力により順調なる發展を遂げ、今日の如き隆昌を見るに至つた。

主なる事業としては補助金を交付し、模範茶園の設置、茶葉生産小組合、移出業組合の設立、製茶法研究會(技術者の養成)、紅茶研究會等の發會、青年學校生徒に對し夏期茶業學校の創設等を獎勵補助するにある。

組合員數は一、三三九名にして、製造戸數は三、七四〇名である。

煎茶販賣金額は二、一二四、〇一三圓、紅茶販賣額は三八一、三六二圓、刈落番茶は二、七五三、八一九圓の高額を示してゐる。

組合長は宮本雄一郎氏、副組合長は石川知至郎氏、理事は松浦昂氏で、技師は山本靜馬氏である。

組 合 長

宮本雄一郎

氏は小野伊九郎氏の長男として明治十九年九月出生。のち先代庄平氏の養嗣子となつた人である。本縣選出の代議士で當選三回に及び、國政に參與して功績多く、また朝比奈村長として、郷黨のために盡瘁し、なほ縣茶業聯合會議所理事、郡農會長、畜産組合長等の要職にあつて、寧日なき活躍を續けてゐる。また氏は堀之内軌道運輸會社取締役、松下工場監査役として實業方面でも大いにその卓腕を振つてゐる。

静岡、賀茂、白濱村

村會議員 土屋 作平

當家は代々農耕に従ひし舊き家柄で、當主作平氏は五代目にあた



先代 吉氏は白濱村の天草關係の役員をつとめ、甚だ徳望の高い人物であつたが、作平氏はその長男として、明治二十一年九月四日、生をこの世に享けた。

資性穎悟、父の子たるにそむかず、夙に村人の間に信望あり、昭和九年五月白濱村々會議員に推舉された同十三年五月に至り任期満了して辭任したが、眞摯なる態度と堅實なる手腕はいよゝゝ人望を高め、再び村會議員に再選され、目下在任精勵中である。

氏は村政、就中村税及び農林負債に就いて深い關心を抱き、これが妥當適切なる解決こそ、當村發展の基礎となることを強調して多大の努力を致してゐる。

政黨關係にあつては、嘗て政友會に所屬し、釣及び讀書を趣味とする。宗旨は曹洞宗である。家庭には母堂をん刀自があり、既に喜壽に近い高齡なるが、益々健在であり、令闈たき夫人との間に一男二女を儲け、長男齊氏、及びその夫人初江さんとの間には愛孫修身君が生れ、一家鍾愛の的である。

静岡、駿東、足柄村

村會議員 岩田 重太郎



岩田家は代々農業を営み、奮い家柄として當地の方に聞えてゐる。先代儀三郎氏は村人の間に名望あり村内自治に重きをなした人である。

氏は明治十一年五月九日その男として生をこの世に享けた。早にして分家し、一家を創立した。御殿場實業學校を卒業し、父君に劣らず夙に人望あり、區長、國勢調査委員、金錢債務調停委員、植林委員等を歴任し、現在在業に推されて村會議員となり、養蠶實行組合長を十數年の永きに互りて勤め、そのほか日赤社員大日本飛行協會正社員、氏子總代、檀徒總代等を兼任し、社會公共のため八面六臂の活動をつゞけ、村人の感謝をかかつてゐる。

氏は讀書、園藝を趣味としてゐる。言語明らかな感じのいゝ温厚の人で、宗旨は曹洞宗。

家庭には令闈さんとさん(五五)との間に長男確郎氏(四〇)があり、家庭にあつてよく父君を扶けてゐる。若夫人つな子さん(三六)との仲琴瑟相和し、二男五女の子實に恵まれ、家内は常に春風の如き和氣につつまれ、近隣の羨望の的となつてゐる。

静岡、小笠、笠原村

笠原 信用販賣 組合

電話九番

昭和三年一月九日有限責任笠原信用組合として設立され、昭和八年保證責任制度を採用し、又販賣部、購買部、利用部を増設して、時勢の進展に即應しつゝある。

販賣事業は、米、菓工品、蔬菜、鶏卵を主要品目とし、購買事業は、肥料及び日用必需品の配給を、利用部は農業倉庫、精米、精麥、養鶏場等の共同施設を設置し、オート三輪車を用ひて運搬にあて、農業倉庫は昭和十二年の新築である。

昭和十三年、産業組合中央會静岡縣支會會長仁田大八郎氏から表彰をうけた。附帯事業として組合内に、笠原振興會があり、農村經濟の振興、事變國策に沿つた貯蓄奨励を目的として設立され、統後産業組合の模範として誇るに足る好成績

績をあげてゐる。

現任役員は、組合長丸尾長治郎氏、理事芝田佐平治、村松五郎作、山下友吉、青木次五平、芝田竹三郎、山田桃一郎の諸氏が就任し、監事には大石政雄、戸田利平、土谷幸吉、鈴木圓次郎、松本竹治の諸氏である。

事務員は戸塚喜作、荻原豊、大石政美安間純、堀江平人の諸君が盡力してゐる。

組合長 丸尾長治郎

氏は當年六十才であるが、前村長として永く村政に寄與するところが、現在も村會議員、方面委員、農會長等を兼任し、公共のため大いに盡瘁し、當組合の發展に獻身的努力を續けてゐる。

専務理事 青木次五平

氏は明治十四年の出生、夙に村長として村政に盡したが、尙現在も村會議員、その他の公職をつとめ、公共に奉仕してゐる。氏は温厚篤實村民より敬慕されてゐる。

石川、羽咋、羽咋町

機業家 石黒 榮太郎

電話羽咋五九番

當家は數代にわたつて製菓業を営んで來た當地方の老舗である。昭和七年羽咋織物工場を創立し、富士絹を主製品として好評を博した。代表社員は松島榮吉氏であるが、經營は主として石黒氏が行つてゐる。

創立以來、年々好成績を挙げ、創立當時より既に三回の増築をなし、益々發展の路を辿つてゐる。

かつて町會議員として町政に盡し、現在羽咋町學務委員にあげられ、學校増築の希望を有し、大いに奔走してゐる。石黒一家は眞宗を信仰する平和な家庭である。

長男は七尾商業、長女は金澤女子職業學校にそれぞれ通學中にて村内に評判が高い。

静岡、小笠、池新田村

池新田村役場

東海道線堀の内驛より岐れて軌道があり、その終點が池新田村であり、附近一帶の砂濱で遠州灘に面した漁村である。

村内には有名なる櫻ヶ池あり、正一位池宮神社として叡山の阿闍梨皇圓を祀つてゐる。皇圓はもと法然上人の師匠で扶桑路記の著者である。彌勒の出現をまつためには、變化となつて長壽を保たなくてはならぬと考へ、池底にひそんだといふ。

當村の住民は悉く、農耕をもつて、生業とし、また、水産も副業として旺んに行はれてゐる。

村内には縣社高松神社をはじめ、寺院に、東泉寺、長永寺、高眼寺等の臨濟、曹洞の禪刹が多い。

現任の役場吏員は村長松本佐平氏、助役尾川愛吉氏、村會議員には、野川、松

下、尾川、宮本、酒井、山下、中山、伊藤、石川、長島、丸尾、栗林、小田、本間、松本、丸尾(春)、長島(正)、長尾の諸氏が目下在任して、村政に寄與貢獻しつゝある。

學務委員は石川、松本、沖、長島、野川、宮本、丸尾(安)、尾川の諸氏である。

區長には赤堀氏(池新田)、鈴木氏(門屋)、酒井氏(鹽原)、増田氏(合戸)が擧げられてゐる。

學校長は岡本阪雄氏(第一校)、齋藤豐氏(第二校)である。

農會長及産業組合長が本間清一氏で、軍人分會長は、尾川愛吉氏が在任中である。

静岡、賀茂、宇久須村

村會議員 鈴木 計吉

電話 七番

氏は磐田郡長野村字草崎の舊家山内長吉氏の四男として明治二十二年十月九日

に誕生、九歳にして鈴木重助氏の養子となり、其の後、更に鈴木藤太郎氏の養嗣子となり、四



代目を相續した。代々漁業をもつて家業となしてゐる。岳父藤太郎氏は漁業組合役員、及び區議員等に精勵し、温厚にして篤實なる性格は村民に敬慕せられた。氏は郷校卒後、静岡聯隊に入隊した。日獨戦争には應召し、従軍徽章を授與せられた。

氏は漁業組合長、國勢調査員、消防組部長(二十八年間)、在郷軍人分會支部長等、各方面の要職を兼任したが、現在では産業組合理事、區長、警防團分團長、村會議員、日本赤十字社正社員等の要職を兼ねて活躍し、漁業に於ても將來は株式組織となし、漁業の擴張を希望し、また紀元二千六百年記念事業として、部落

民に貯金の奨励をなし、なほ漁業の傍ら農耕に従事せしむべく、氏は植林を計畫してゐる。

二十五年消防組に盡せる功勞により、縣聯合會より表彰せられ、また大日本消防協會より消防功勞章を授與せられた。家庭には父藤太郎氏七十七歳の高齡にて健在し、令室トミ夫人との間に四男二女あり、長男は不幸夭折し、次男久夫氏は横須賀海兵團に入團中、長女しげさんは東京大妻女學校に在學中、養子喜久雄氏は昭和十二年應召され、同十四年十月目出度く歸還した。また三男茂君は目下高等小學校在學中の秀才にして、縣育榮會に入學生として當小學校より選拔された。

静岡、小笠、西山口村

西山口村役場

當村は、掛川町と堀の内町の中間にあ

農産を主とする村で、村役場は字成瀧に在り、役場より掛川町へ約半里の間バスが通じ至つて便である。

山口は佐野(さや)の中山の意味である。成瀧部落には、昔から高御堂と呼ぶところあり、高階氏の領地で其の一族の子孫には、高師直が知られてゐる。師直が逆賊の名をうけて討たれる時、一族の中に山口新左衛門、山口入道などの名があるのは恐らく當地方の豪族であらうといはれてゐる。

村長は勳八等前田長太郎氏、助役に若森英雄氏が在任して公共のために盡瘁し、村政自治に當つてゐる。

収入役は梅田耕一氏、書記には守川、山本の兩氏がある。學校長には谷雄治氏農會長には牧野市太郎氏、警防團長には山内教平氏、軍人分會長は梅田金平氏、青年團長は牧野貞次氏、産業組合長は前田長太郎氏が夫々その地位にあつて活躍してゐる。

村會議員には、牧野(市)、鹽崎、山内

石川、江沼、河南村

機業家 市川 始

(文)、山内(喜)、榛葉、松浦、村松、鈴木、弓家田、山内(熊)、中村、山本の諸氏が在任中であり、そのうち學務委員には牧野(由)、山内(文)、中村、弓家田の諸氏が兼任してゐる。

村内には阿彌陀寺、満水寺、正福寺、印徳寺、安養寺等の曹洞宗の寺多くの神社も約八社ある。

當村の字は、成瀧、葛川、菌ヶ谷、印内、宮脇、安養寺の六つに分れてゐる。

當家は山形縣山形市の出身である。先祖はもと遠州に居住し、代々農を主業としてゐたのであるが、徳川家に功あつて市川の姓を賜はり、爾來水野藩士となつて代々山形にあり、氏を以て、八代目を數ふる家柄である。

氏は米澤高等工業學校を卒業した英才で、紀州和歌山紡織工場主任たること十

九ヶ年に及び、その後當村は日本絹織二天工場に勤務し、充分なる實施經驗を経て昭和十二年機業家として獨立したるものである。

氏は明治二十一年の生れ、目下働き盛りであり、専門の學識を有する機業界の中堅人物であり、資性温厚と相俟つて業者間の信望も厚く、今後の活躍こそ、刮目して待つべきものがあらう。

なほ氏には三男二女があり圓滿なる家庭を營んでゐる。

静岡、小笠、東山口村

東山口村役場

當村は掛川町の東北、小夜の中山として知られた、日坂村の西にある。

「此の山口をしばらく登れば、左も深谷右も溪谷、長き道はつゝみの上にも似たり。兩谷の梢を眼下に見て群鳥の轉を足の下に聞き、谷の兩道は高く、又山の間をよぎれば中山なり」と往昔の山口の

里の光景は、かく海道記に書いてあるより察するに、すこぶる要害を極めたものと想はれる。

當村の住民は主として農耕に従事し、現下非常時局下、農村國民としての責をよく果してゐる。

縣社八幡神社は坂上田村麿の建營にかゝるといふ。村社には、諏訪神社及潮乃神社がある。寺院には、慶雲寺、光養庵觀泉寺、心性寺、龍松寺、深川寺等の曹洞宗の禪刹である。

村内には稚子淵、淨水井、權現森等の名勝が多い。

字は伊達方、千羽、逆川、小原子、八坂本所の六區に分れてゐる。

現任の役員は、村長竹嶋善雄氏、助役落合金二郎氏、収入役加藤博氏、書記は伊藤氏、齋藤氏の外數名の人々が活躍中であり、村會議員には、落合、今取、伊藤、岡田、鈴木、渡邊、八木、鳥居、榛葉(雄)、大石、榛葉(和)の諸氏である。學務委員には鳥居、岡田、渡邊、八木、

山崎の諸氏が推されてゐる。

學校長は山崎伊十氏、農會長鈴木正一氏、警防團長は岡本市平氏、軍人分會長は鈴木正孝氏、青年團長は伊藤儀彌太氏である。

村長

竹嶋 善雄

氏は明治二十六年七月十日の生れ、明治四十五年靜岡師範を卒業し、永らく縣教育界に盡瘁したが歸村後は、村治に協力し、農會長、村會議員をつとめ頗る人望あり、推されて遂に村長に就任した。既に三期をつとめ當村に於ては押しもおされぬ地位を築いた。

氏はまた、産業組合長として經濟振興に多大の貢獻を拂ひつゝある。

靜岡、安倍、井川村

井川 信用販賣 組合

昭和四年の創立にかゝり、頭初より保證責任四種兼營の組合にして、一口金額

は三十圓である。

信用部に於ける貯金は定期、當座、報國團體月掛、家庭納税(月掛又は日掛)等を行ひ、貸付は日歩三錢位である。

販賣部は昭和十年頃より木炭、椎茸、製茶、山葵等を取扱ひ、購買部は、肥料及雜貨等にして、利用部は、三輪車ありて運送の便をなしてゐるが、多く販賣に用ひてゐる。

現組合長野澤彌作、事務理事瀧澤久一郎、常務理事長島菊雄。

理事野澤善繼、白鳥正男、望月善重、瀧澤豐作、海野己之吉、望月喜市。

監事は粟山徳太郎、望月鶴吉、栗山鶴吉、長島權八、遠藤一好、長島繁美、望月保市の諸氏である。

組合長

野澤 彌作

氏は本村の自治功勞者にして、村長の重責を二期間に互り精勵し、現在組合長に推され、産業の發展に鋭意努力してゐる村内切つての人望家である。

専務理事

瀧澤久一郎

氏は當組合の創立以來その發展に寄與貢獻し、明治三十五年より二十有餘年役場に勤務し、現在、なほ収入役として精勵し、かゞやかしき治績をあげた。自治五十周年記念に際し縣當局よりその功勞を表彰されるの榮譽に浴した。

常務理事

長島 菊雄

氏は明治三十三年の生れにして、専務理事瀧澤氏と共に組合創立以來盡力し、功績は顯著にして、殊に販賣の品目は氏の就任以來増加し盛大を極めるに至つた。氏の手腕、力量は益々將來を期待されてゐる。

靜岡、小笠、西郷村

西郷村 役場

當村は、掛川の北に續いた村落で、西郷の地名は東郷に對した名ではなく、中世三河國西郷氏の領有せる土地であつた

關係おそらく庄名に近いものであらう。

かつて西郷齋宅なる者、この地に住し、上西郷には、今その古墟あり、構村とよぶ。

字は上西郷、下西郷、五明の三區に分れてゐる。

法泉寺、法壽庵、徳雲寺、栗隣寺、正法寺、觀音寺等、曹洞宗の禪刹が多い。

現任の役場吏員は、村長石山利作氏、助役伊藤寛一郎氏であり、校長には戸田氏、警防團長には戸田(滿)氏、郷軍分會長には石田氏、青年團長には堀田氏がそれぞれ精勵してゐる。

村會議員には、齋藤徳太郎氏、松井兼藏氏、中山金一氏、粕谷友次郎氏、石山佐次平氏、石山善作氏、松浦泰治郎氏、戸塚彌太郎氏、堀井小平氏、島山治作氏、伊藤寛一郎氏、松浦定吉氏の諸氏で、村内自治に盡瘁しつゝある。

學務委員には松浦伊平氏、粕谷友太郎氏、戸塚彌太郎氏、戸田滿三郎の諸氏がその任にあつてゐる。

村長

石山 利作

氏は明治十八年十月二十三日の出生で、夙に人望あり、村會議員を二期、助役を二期つとめて村政に寄與するところあり、昭和十二年六月九日、前村長松浦昂氏の後をうけて村長に就任した。又氏は以前北米に渡り、永らく彼地にてバクテリア應用化學の研究に従事したといふ留學の經驗の持主で農村行政への寄與貢獻すこぶる甚大なるものがある。

靜岡、賀茂、白濱村

青年團長 長

保

當家は白濱村に於ける篤農家で五代目に當る。保氏は故福松氏の次男として、明治四十年十二月呱呱の聲を擧げた。

昭和十四年十一月當村青年團長に推され、爾來同團のため獻身的努力を續けてゐる。又軍人分會審議員としても活躍し眞に當村の中堅人物である。



氏は温厚篤實にして、謹厳廉直、青年指導に當つては常に皇道精神を以つて臨み、減私奉公の念を鼓吹してゐる。家庭には母堂たき刀自、まつ子夫人外二女あり、圓滿を極むる家庭である。

山梨、南巨摩、富川村

産業組合長 村會議員 稲葉 村三

尊父藤十郎氏は、祖父與敬氏が村議として、多年自治に盡瘁したる名門舊家の後を繼いで村内長老としての信望を集め七十一歳の高齡にも拘はらず、まだ健在活動を續けてゐる。

氏は昭和五年助役に就任し、同九年四月村長に榮進して幾多の功績を擧げ、また産業組合の創立さるるや、其の初代組

合長に就任現在に及んでゐる。なほ現に村會議員であり、學務委員等を兼ねてゐる。殊に氏は村内道路の改修完備を提唱し目下、其の方面に奔走努力してゐる。資性圓滿にして穩健村民に慈父の如く慕はれてゐる。家庭は夫人との間に子女なく、親戚より養女を迎へ目下縣立山梨高女に通學せしめてゐる。

静岡、田方、菲山村

區長 本多 辰雄

當家は代々農耕をもつて家業とし、篤



日先考敬司氏の息として誕生し、田方農學校を卒業後、家業に精勵する傍ら、青年團理事或は警防團部長等の要職に推さ

農家として知られてゐる。

氏は明治三十七年十月四年

れ、村青年の指導に全力を注ぎ、また安寧秩序に獻身的努力を捧げて功績頗る大なるものあり、青年團より功勞者として名譽の表彰を受けた。

氏は温良にして篤實、人に驕らず對人關係も極めて圓滿である。

敬神崇祖の念に厚い氏は、また氏子總代、寺院總代等に推舉せられて村内に重きをなし現在では區長に推舉され、區民協力一致もつて圓滿なる發展に盡してゐる。

家庭には淑徳の譽れ高き令夫人との間に一男四女あり平和である。

静岡、駿東、片濱村

片濱 村 役 場

若山牧水をして「幾山河越えさり行かば……」と詠せしめた沼津の干本松原は當村にあり、牧水の歌は今そこに碑になつて刻銘されてゐる。

當村は沼津と原との間の海濱にあり、

沼津市へは約一里、原町へも一里何れもパスの便がある。

明治二十二年東間門、西間門、大諏訪小諏訪、松長、今澤の六ヶ村を合併して片濱村となし今日に至つた。當村の主なる産物としては米、麥、野菜、大根(タワシ漬)、甘藷、養蠶がありまた畜産も副業として旺んに營まれてゐる。

村 長 從七 位 大木宗左久

氏は明治九年六月十三日に先代故六三郎氏の長男として生れた。日露戰役には海軍特務少尉として出征し、從七位勳五



等功七級を授けられた。夙に人望あり、村會議員

今澤區長、國勢調査員その他を歴任したが、現在は村長として村内自治の中心に

なつてゐる。そのほか、銃後奉公會員、

農會長、蠶業組合員、日本赤十字社正社員、金錢債務調停委員、氏子總代、村會議員、檀徒總代等幾多公職を兼任し公共のために盡瘁してゐる。また駿東郡聯合分會海軍部長として郷軍のために貢獻する等その功績は實に甚大である。

助 役 横 郷 作

氏は、富士郡吉永村の出身で、明治十五年三月十九日出

生し、富士郡に於て約十六ヶ年教鞭をとり永く育英界に寄與貢獻をなした。當村に來住して收入役を経て、助役に就任、今日に至つた。又先年自治功勞者として表彰をうけた稀に見る人格者である。

富山、東礪波、井口村

元縣會議員 吉井 嘉一郎

當家は代々農を主業とし開祖以來數十代を誇る舊家である。

氏は現在耕地整理組合長として農村振



興に盡瘁してゐるが、曩に村長、村會議員、郡會議員

縣會議員等を勤めた村内の長老で、産業組合、消防組合等は氏の創始するところであり、現在壹千萬圓の價値を有する有峯山林を、縣議在任中時の知事にはかつて三十萬圓で縣へ買はしめた等は氏の特筆すべき功績の一つである。

又村議たること三十六年の長きに互りその間大小小作争議を一身に引受けて調停し來つてゐる。

氏は青年時代頗る病弱であつたが、食餌の節制に依つて之を癒さんとし一日米二合に大根オロシを以て副食とし、また背部の冷水摩擦を勵行する事に依つて健康を保持し、今日八十歳の長命を保ち、村政に盡瘁した信念の人である。

されば前記公名譽職にあつて、その功績枚舉に遑なく、數十回に亙つて表彰されてゐる。

静岡、濱名、鷺津町

鈴木工業所

電話鷺津二三番

當工業所は昭和十三年二月十一日の創業で、鈴木基竹氏の經營にかゝり、資本金五萬圓である。

專業としてはゴム再製、並びにゴム製品の原料の製造を行ひ、創業以來日なほ淺きに拘はらず、時代に適應する新業は着々堅固なる基礎を固め、その販賣も次第に擴張し、今や大阪、神戸、遠くは滿洲まで取引を行ふに至つてゐる。

經營者

鈴木 基竹

氏は明治三十二年八月五日の出生にして小笠原平田村の出身である。静岡縣立中泉農學校を卒業せるのち、昭和十三年工業所を開設し、爾

來日と共に業績をあげて今日に至り、時局産業の波に乗つて好調を呈してゐる。氏の俊敏なる才腕は今後同業界に矚目されると共に、その發展は期して俟つべきである。

静岡、安倍、有度村

有度信用販賣組合

購買利用組合

本組合は庶民金融機關として村民の便利を圖り、村産業の圓滑なる發展を期すべく大正五年十月設立された。爾來産業組合活動の意義と重要性は漸次村民の間に認識されるに至り、同六年一月有限責任制度の三種兼營となり、昭和六年利用部を設置して四種兼營に變更し、同九年十二月に保證責任となつた。

更に、業務の繁忙に備へて、支所を草薨、吉川に設け、他に出張所を有してゐる。

歴代組合長は大村多作、山本良藏、草ヶ谷芳松、野田萬作、大石芳朗の諸氏に

して、現組合長は戸塚眞作氏である。



事務理事は漆畑彌太郎、大石忠一の二氏にして他に

理事四名、監事二名の役員がある。

組合長

戸塚 眞作

氏は明治二十三年の誕生にして、非常時農村の産業發展に多大なる寄與貢獻をなした。氏の人となりは資性濃厚にして仕事に誠意を有し、村民の信望極めて厚きものがある。

静岡、安倍、大川村

區長 白澤房吉

石川、江沼、大聖寺町

機業家 山本 初吉

氏は英敏なる頭腦を有し、當地有数の經濟通として知られてゐる。

氏の經營にかゝる山初機業合資會社は明治三十一年の創業で、先代時代よりの古き歴史を有してゐるが、合資會社組織となつたのは昭和十二年十一月で最近の事である。

從來、内地向中物を主として生産し、最近に至つて輸出向のものをも織り始め織機数は六十臺に及ぶに至つてゐる。

氏は明治三十二年生れの働き盛りで、今や業界に於ける指導者として今後の活躍が期待されてゐる。言語極めて明瞭にして濃厚篤實な紳士、對人的にも非常に好感が持てる。現時、織物界の活潑なる進展は國家的に大いに要望されてゐるところで、春秋に富む氏の前途こそ、まさに刮目して待つべきである。

石川、羽咋、稗造村

素封家 樋谷 仁作

當家は十數代に亙る當地方の舊家であり。先考



松次郎氏は木材販賣を業として産業界に功勞

の多かつた人である。

仁作氏はその青年時代より夙に村自治或は産業振興に思を馳せ、かつては村會議員その他の公名譽の極職を歴任した。

資性圓滿、その見識と手腕は將來を期待されてゐる。

因に村會議員在任中紀元二千六百年の記念事業として、耕地擴張並に植林事業の計畫にあつては自ら第一線に立つて奔走された。

尙氏は現在も産業組合理事として卓越

せる識見と多年の經驗を以つて、村民を指導し、更に區長、學務委員として幾多の公職を兼務せられ、村治に貢獻しつゝある。

静岡、田方、錦田村

區長 青野 彌重郎

當家は近村切つての舊家なると共に代



先代々篤農家をもつて知られてゐる。

故右馬太郎氏は夙に村議、氏子總代、檀徒總代、各委員等に推されて重きをなした。また、區長は二十九年間勤続し、村より木盃を贈られた功勞者である。

當主彌重郎氏はその長男にして、明治二十二年八月二十四日の出生、家業に精勵する傍ら、曩に村會議員、箱根山三組



長男一右氏

合會議員で推されて活躍し、又、谷田區長、信用組合長、幹事、その他各種委員の要職を兼任し、自治向上に努力を致してゐる。資性濃厚にして讀書、園藝に興味を有し、日蓮宗を信仰してゐる。家庭は子實に恵まれ、極めて圓滿である。

静岡、志太、葉梨村

葉梨信用販賣組合

當組合は明治三十九年十一月、信用購買組合として設立した。のち昭和九年十一月組合法の改正に伴ひ組織を變更し、現在に及ぶ。

組合長以下組合員に至るまでの協力一致にその合理的經營法は他の模範として



密柑の商標

は丸山豊市、海野鐵次郎、長田猪太郎、八木吉次郎、倉澤隆平、小本政市、鈴木仁三郎の諸氏、歴代専務は遠藤憲太郎、長田正路である。

普く縣下に知られ、大正五年には産業組合中央會静岡縣友會の表彰に浴し、大正八年には續いて中央會より表彰の榮譽を擔つた。また社會事業としては葉梨組合裁縫女

組合長 鈴木仁三郎

氏は明治十三年十一月二十日の誕生にして、助役、村長等の重責を擔ひ、なほ村耕地整理組合長、縣農業組合會議員、縣耕地協會評議員、縣製茶業組合志太支部長等各方面の公職を兼務して、村政の發展に顯著なる足跡を遺してゐる。

専務理事 長田正路 氏は明治二十五年の生れ、溫和にして周密なる思慮は村民の信頼を得て、専務理事に推され夙夜精勵、村産業の發展に功績甚大なるものがあり、なほ區長をも兼ねてゐる。

石川、羽咋、稗造村

軍友會長 八等 貝崎 重作

當家は相當由緒ある舊家にして農耕を以て生業としてゐる。

先考久太郎氏は村會議員其他の公職を歴任し、村の發達に日夜を忘れて盡瘁し

人である。

氏は久太郎氏の長男として明治十一年



四月二日 出生、幼にして俊敏、金澤賢坂辻の尾崎忠雄

先生の塾に漢學を修め、歸村後當村小學校に教鞭をとり初等教育に力を注いだ。明治四十一年頃消防施設の不備を嘆き該機關の發展に盡瘁なし、其他郡會議員に當選部落に於ける自治團結に貢獻、また畜産、耕地整理等に寄與し村政發展に努力した。

氏は又、日露戰役に出征勳功に依り勳八等を賜つた勇士である。

家族は夫人との間に男子二人ありて平和な家庭を營んでゐる。

静岡、賀茂、岩科村

村會議員 七等 岩 谷 修



祖先是伊勢より來住せるものと傳へられる。代々農耕

をもつて家業となした。先代六右衛門氏は四期に亘り村會議員に重選せられ、また學務委員、消防組頭等に關與して多大なる功績を遺し、また日露戰役に從軍して偉功を樹て勳七等に叙せられた。

氏は六右衛門氏の次男として、明治三十三年八月十三日に誕生、濱松蠶業學校を卒業した。歸村してより學區會議員、青年團副團長、信用組合専務理事等、産業自治各方面の重任にあつて、一意専心精勵恪勤し、村民の信頼と興望を擔つて活躍し顯著なる足跡を残した。現在は日本赤十字社社員及び村會議員として現下

非常時局に際し、産業の發展を計り、銃後國民の重責を全うせんことを期し、率先

して有畜農業の獎勵をなし組合の向上發展のため益々精進してゐる。

家族は尊父六右衛門氏(七十八歳)、母堂ツネカさん(六十七歳)共に健在し、靜江夫人との間には七男一女の子福者にして、長男六郎氏は豆陽中學校を卒業して後、滿蒙學校に學び、目下通譯として支那派遣軍總司令部、金陵部隊本部に勤務勳勳中である。

静岡、駿東、原町

東京人造絹絲 株式會社 原工場

電話四六番

當工場は昭和十二年に設置せられたもので、その歴史は古くないが新興工場としての躍進は、實に目覚ましいものがある。

工場主任芦川實氏は創立當時より就任して經營の堅實をはかつた。

従業員五十名、資本額七十萬圓に達する地方切つての大工場である。

二硫化炭素を専ら使用する化学工場で、當町に於ける最初の工場として、當地方の工業界で重要な地位を占めてゐる。本社は、東京市日本橋區小傳馬町に在り、工場の當町への誘致には、町會の協力が尠くなく、當町の産業發達に寄與すること甚大である。

工場主任

當家は原町草分け時代よりの舊家で世々農耕に従ひ、先祖

は代々戸長等を歴任して自治に功績があつた。

氏は先考小三郎氏の男として、明治三十三年一月十二日に呱呱の聲をあげた。沼津中學校の出身にして、近衛歩兵聯隊に入營した陸軍歩兵少尉である。曩に在郷軍人分會長、消防組頭、區長等を歴任したが、現在は産業組合理事、町會議員、學務委員等を兼任し、また町在郷軍人分會、消防組等各方面より數次に互り表彰をうけた輝かしき閑歴の所有者である。

家庭には令閨美登さんとの間に長女スミさんを恵まれ目下沼津精華高等女學校在學中の才媛である。

富山、高岡市新横町

高岡藥劑株式會社

電話九九八番

當會社は明治三十九年七月創立せられた。爾來四十五年終始一貫賣藥製造に眞摯なる研究改良につとめ、新道町に事務所を移轉合資會社組織に改組後再び株式會社と組織變更したものである。

其の後躍進發展の一途を辿り、現社長高畑貴一氏の就任と共に低廉にして優秀なる製品は販路も内地一圓に擴大し、年産額も參拾萬圓を超える活況である。尙高畑氏は射水郡塚原町出身にて、嘗ては同町の助役として、町政自治産業の發展確立に盡瘁せられ、その高潔なる人格と共に町民一般より尊敬せられた。尙當社首脳部は左記の諸氏である。

取締役社長高畑貴一、常務取締役米谷米三、取締役川崎傳右衛門、川崎初太郎、宮越治角、監事小田嘉四郎、串田吉次郎、中野正吉の諸氏である。

静岡、賀茂、朝日村

進士金太

當家は今より七代前、朝日村吉佐美の名門、進士正雄家より別家を創立した。從來



農を以て家業とした家柄である。氏は明治二十六年四月八日、故友治氏の三男として誕生。大正元年三月進士家の八代目を相続した。大正二年静岡歩兵聯隊に入隊し、而して、青島戦には陸軍歩兵上等兵として出征して赫々たる武功を樹て、その功に依り勳八等、白色桐葉

静岡、濱名、和地村

素封家 牧田 慶三郎



當家は當地の舊家として聞え、明治十三年より先々代甲平氏によつてはじめて

商業を始めたもので、當主慶三郎氏はその三代目で二代目は小四郎氏である。開業當時より豆腐、蒟蒻等を製造販賣し、その間幾多の難關に遭遇したが、臥薪嘗膽遂に今日の隆盛を築きあげたものである。これ實に當家三代に互る不撓不屈の精神力の賜である。特に當主慶四郎氏の家業に精勵したることは非常なもので、また一家美はしい兄弟愛にめぐまれ氏の實兄鐵太郎氏、小四郎氏の二人は當時ハワイにあり後合衆國に移住したが、

月々實家に送金し、氏はそれをもつて



事業にあて困難時代を克服し、今日の繁榮の基礎を固めたのである。其の後合衆國に排日運動勃發するや、兩氏とも歸國して各々分家して共々家業の發展に盡力してゐる。

令閨との間には四男ありて長男は濱松市に時計商を営み、次男壽氏濱松高等工業を経て工業大學に進める俊才である。三男洋氏は濱松中學校四年に在學中である。

石川、羽咋、上熊野村

田原區長 星野 忠太郎

當家は三百年前より當地に居住し、祖先是由緒ある武家の出にして、邸内には

章並びに一時賜金を下賜された。曩に學區會議員、消防組小頭、在郷軍人分會長青年學校指導員等に歴任して多大の功績をあげた。現在は警防團長、朝日産業組合評定委員、日本赤十字社社員等に就任し、殊に警防團に賜はりたる總裁宮殿下の御令旨を奉戴し學村一致統後の安寧秩序を計り、未曾有の事變に際し、銃後農村民としての本分を盡すべく寧日なき努力を捧げてゐる。氏は家宗曹洞宗に歸依し、趣味は釣魚である。家庭には岳父福次郎氏(七十三歳)、養母シゲさん(七十四歳)共に健在し、令室テルさんとの間には四男二女をあげ、嗣子重春氏は郷校卒業後、父君を扶けて農耕に精勵してゐる。また岳父福次郎氏は村會議員(四期)、收入役、助役、區長、消防組頭に歴任し下田銀行にも勤務して自治、金融界に貢献した人で、減私奉公を唯一の信念としてゐる徳望家である。

静岡、富士、大宮町

縣會議員 渡邊定信

五百年を経ると思はれる巨木老樹鬱蒼とし、當家が如何に舊家であるかを想はせてゐる。代々當村の發展に寄與する處少なからず、特に先代佐兵衛氏は當村自治制施行後、初代村長として村の發達に日夜を忘れて盡瘁した人で、今なほ村民の敬慕をうけてゐる。

當主はその養嗣子となり現在に至るまで二拾年の永きに亘り、區長の要職にあり村内道路の改修、田畑の區劃整理或は福利施設等その功績枚擧にいとまない程である。先年自治功勞者として表彰された。

氏はその資性温厚篤實にして、家庭には夫人との間に三女一男あり、頗る圓滿を極め、常に春風駘蕩たるが如き趣きが溢れてゐる。

静岡、田方、伊東町

温泉旅館 山本屋旅館

電話四一四番



客室の一室

相模の海を臨み、後に天城山、箱根山の支脈を負ひ、三方を山に囲まれ氣候温暖の山本屋旅館は大正六年先代土井カヨさんの創業になるもので、美室多く、浴槽整

ひ、收容能力は五、六十名である。その外、應接室及び廣間の設備があり、ピンポン、ラヂオ其の他の娛樂設備も整つてゐる。

營業方針は療養を主とし、保健清遊の見地から家庭延長主義をとり、京濱方面よりの週末旅行者が陸續として跡を絶たない。

泉質は鹽類泉で諸病に卓効があり、従業員の数また多く旅客に充分の満足を与へてゐる。

經營主 土井 米子

米子さんは土井敏太郎氏の令室で、目下當旅館の經營に當つてゐるが、か弱い女性の身を以てよく發展に努め、多數の従業員を指揮して温泉報國のモットーを徹底させてゐる。

静岡、賀茂、田子村

村會議員 山本佐五兵衛

電話一八番



山本家は當地方に於ける古き由緒を傳ふる舊家で、四代前安永年間の日記には弘化二年下田

に唐船來るとの記録がある。

祖考兼五郎氏は漢學者として地方に有名であつた。祖先是代々農耕をもつて家業としたが、安永年間より漁業を營み、また先考は實業に熱心にして且自治方面には關係するところ多大であつた。

氏は先代故寅吉氏の四男として、明治二十六年六月四日に呱呱の聲をあげた。郷校を卒業後、家業に精勵したが減私奉公の犠牲的精神に富める氏は、村民の崇敬の的となり、推されて漁業組合理事、區長、青年團長、消防組小頭、消防婦人隊長等の名譽職に就任し、幾多の功績を擧げた。

現在では村會議員(十五ヶ年)、漁業組

合監事、産業組合監事、檀徒總代、氏子總代等の要職を兼ね村民の福利増進に獻身的努力を捧げてゐる。

なほ氏の業績として特筆すべきは、村多年に亘る懸案たる火葬場新設問題に關し、古來の迷信を打破して四代の區長が成し得なかつた火葬場新設を斷行した。ここに至る迄の氏の努力奔走は實に並々ならぬものがあつたが、よく幾多の難關を克服して、所期の目的を達したのだ。

而して氏は村民の爲に更に神社昇格に奔走努力してゐる。氏が如何に公共のため私心を去つて奉仕と犠牲となしたか、これを以ても伺ひ知ることが出來よう。

自治制發布五十周年記念には自治功勞者として榮譽ある表彰を享けた。

家族はきん夫人及び養嗣子武氏あり、武氏は東京工科大学を卒業して現在、神戸三菱重工業に勤務中で任地には令孫カヨ子さんがあつて明るい家庭を營んでゐる。

石川、羽咋、下甘田村

元村長 小杉 勇太郎

當家は現在十二代に及ぶ舊家にして代々篤農家として知られてゐる。



先考孫太郎氏は

村會議員、區長等に歴任し、於古川堤防改修に當つては當村の村長福田七郎氏と共に、多大の努力を拂ひこれが完成を遂げたものである。氏はその長男として明治九年に生れ、二十三年の長きに亘つて福井縣廳に奉職、恪勤精勵した。

資性温厚にして謹嚴なる人格者として村民に崇敬され、方面委員、産業組合理事、職業紹介連絡員、人事調停委員、農事改良實行委員、産業組合長、村農會長、村長(三年)の要職を歴任現に村會議員と

しては三期を勤め、村治に盡瘁貢献して
ゐる。

尙氏は紀元二千六百年記念事業として
荒地を開拓、水田擴張を計畫中である。
家宗として眞宗を信奉し、家庭は貞淑
の譽高き夫人との間に二男一女あり、長
男氏は郡養蠶技術員として奉職中、次男
正雄氏は、今事變に出征武漢攻略戦に参
加、先頃歸還せし勇士である。

静岡、濱名、伊佐見村

佐濱 信用販賣組合

電話伊佐見九番

當組合は大正二年四月一日有限責任佐
濱信用販賣購買組合として創立、大正十
二年利用部を附加し、昭和八年保證責任
に改組したものである。組合員数は二四
六名にして出資口數六五九口、伊佐見村
佐濱を全區域とし、右金額は五〇圓で出
資總額は三二、九五〇圓である。農業を
主として漁業を傍ら營む。

區民は組合の發展に協力し、當組合は
部落の産業をして責任を以て經營、指導
して中間商人の出入をゆるさず、故に區
内の産業は圓滿に發達してゐる。最近年
度の事業報告によれば貸出金額八五、二
九六圓、貯金總額一六八、九四五圓、利
益金總額一九、〇九八圓、總損金額一四、
三四二圓、剩餘金四、七五五圓である。

信用部は消費節約と勤儉貯蓄を勵行し
豫期以上の成績をあげ、購買部、販賣部
利用部各部共利用者益々増加し、優秀の
成績をあげてゐる。殊に利用部に於ては
精米、製粉、脱穀、糶摺その他を營み、
また區民に自家用醬油醸造を奨励し、な
ほ區内の鶏卵を共同販賣して便宜を計つ
てゐる。歴代組合長は山下邦太郎、倉田
太吉、池野現村長の諸氏にして、組合長
は、初代組合長山下邦太郎氏の再任であ
る。専務理事は山下滿壽雄氏、書記は古
橋一義氏で、理事は池野紀次郎、倉田俊
重、古橋彦市の諸氏、監事は山下玉吉、
山口利三郎、倉田次之吉、古橋清太郎の

諸氏である。

組合長 山下邦太郎

當家は由緒ある舊
家として閑え、先代
島太郎氏は助役、村
會議員を歴任し村民の信望厚く、村長に
推され日露戦役當時多大の功績をあげた
功勞者であつた。

氏はその男として明治十六年に呱呱の
聲をあげ、嘗ては村内に伊佐見信用株式
會社を設けて村民の金融の圓滑を計つた
が、村内に産業組合設立されるや初代組
合長として盡瘁し、助役、村會議員を歴任
し、大正十三年より昭和三年まで村長に
推されて手腕を揮つた人で、昭和十二年
より産業組合長の要職を負ひ、方面委員
村會議員等を兼ねて意氣正に壯者を凌ぐ
元氣で幾多の業績を遺し、その濃厚にし
て質朴、高潔なる人格を以て村内隨一の
重鎮として畏敬されてゐる。

長男太郎氏は農學校を卒業、後畫家を
志して上京し、その天才は直ちに認めら
れ、若輩すでに一風格をなし、文展に二

度入選の榮譽を擔つてゐる。

石川、鳳至、門前町

門前町 役場

本町は往古楠比郷に屬し維新後楠比村
と稱したが、昭和五年一月町制施行と共
に現稱門前町と改稱し今日に到つた。當
地方は物資の集散地として榮え、米、蕎
等の産額きわめて大である。
全町二十二大字より成り町民の大部分
は農業に従事し、一般に醇朴質實にして
町長代理星野力藏氏以下、一致協力、益
々繁榮の一路を進んでゐる。

町長代理

星野 力藏

星野家は當町屈指
の素封家にして、代
々藥舖を營む。

氏は先考友次郎氏
の長男にして明治廿九年の出生なり。本
縣立七尾中學を経て熊本醫大藥學專門部
に學ぶ。後鐵道省衛生試驗所に勤めたが
昭和二年歸郷以來家業に精勵す。傍ら公

共に關與して、昭和十一年學務委員、同



拾二年助
役に擧げ
られ、町
政の實際
を執掌し
多大なる
功を擧げ、更に同拾四年當町長永逝さる
るや町長代理に任ぜられる。

資性濃厚、篤實にして全町民尊崇的
であり將來を囑望されてゐる。

石川、鳳至、浦上村

慈得山 得藏寺

當山は、往昔眞言宗に屬し大藏院と稱
した。

後眞宗に轉向し大谷派に屬し得藏寺と
改稱し今日に至つた。

御本尊は、阿彌陀如來にして、寺寶と
して聖徳太子の木像があり、當地方の名
刹である。

住職

石田 見肇

石田家は當地方切
つての名門である。
先考寛秀氏は高深
なる人傑にて、村長を勤め道路改修、役
場建築、
その他目
治への貢
獻が大で
あつた。



現主見
肇氏はその男にして京都本山中學を卒へ
て後、札幌眞宗教務所に十ヶ年、昭和十
一年當山住職に任命され爾來日夜布教に
力を致してゐる。氏は資性濃厚にして現
時眞宗能登策六區長として、地方宗教界
に重きをなす傍ら村會議員として村政に
盡してゐる。

富山、西礪波、南谷村

南谷村 役場

當村は郡の西方石川縣との山境界地帯